沖縄県立埋蔵文化財センター調査報告書　第９集

首　里　城　跡

－継世門周辺地区発掘調査報告書－

平成１４年（2002年）３月

沖縄県立埋蔵文化財センター

巻首図版 1　首里城跡（航空写真）

巻首図版２　継世門遠景（古写真）　上：明治中期～後期（伊藤勝一氏蔵）
下：大正末期～昭和初期（沖縄県立芸術大学蔵）

序

本報告書は、平成10年度と12年度に実施した首里城跡継世門周辺地区発掘調査の成果をまとめたものです。発掘調査は沖縄県土木建築部からの分任事業として、平成10年度は沖縄県教育庁文化課、平成12年度からは沖縄県立埋蔵文化財センターが実施し、出土品の整理を行ない、この度、報告書を刊行することなりました。

継世門は、首里城南東側外郭の城門として尚清王代の1546年に創建され、日常は通用門として、城内への生活物資の搬入や城外への搬出などに利用されました。継世の名称は国王が死去した際、世継ぎの王子がこの門から入り、世誇殿で王位継承の儀式を行ったことに由来します。

戦前まではほぼ原型をとどめていましたが、第二次世界大戦やその後の旧琉球大学農学部ビル建築等により、破壊や地形の改変がなされ、往時の面影は失なわれてしまいました。その後、首里城城郭等復元整備事業の一環として整備が進められ在りし日の姿を取り戻しつつあります。

今回発掘調査を行った地区はこれまで未調査の部分であり、継世門前の階段と外周園路の整備のための情報を得る目的でこの度の調査を実施しました。その結果、これまでに確認されていた階段の延長部分がきわめて良好な状態で検出されました。

本報告書が、琉球王国の歴史や文化の中心であった首里城の研究書として、さらに文化財保護の普及や文化財への関心を深める一助としてご活用戴ければ幸いに存じます。

末尾になりましたが、発掘調査および資料整理作業にあたり、ご指導・ご助言を賜りました諸先生方、ならびに事業の実施にあたりご協力を賜りました関係各位に深く感謝申し上げます。

平成14年3月

沖縄県立埋蔵文化財センター
所長　知念　勇

例　言

1. 本書は、1998（平成 10）年度から 2000（平成 12）年度にかけて実施した首里城跡継世門周辺地区の発掘調査の成果をまとめたものである。

2. 発掘調査は県営首里城公園整備事業に伴うもので、沖縄県土木建築部からの分任事業として平成 10 年度から平成 11 年度は沖縄県教育庁文化課、平成 12 年度は沖縄県立埋蔵文化財センターが調査を実施した。

3．本書に掲載した地図は、国土地理院発行の 1 ／ 25,000 地形図を使用した。

4．出土遺物の同定及び分析は下記の諸先生々によるものであります。記して謝意を表します（職名等は当時）。

陶磁器類	大橋　康二（佐賀県立九州陶磁文化館）
	渡辺　芳郎（鹿児島大学法文学部）
獣・魚骨	金子　浩昌（東京国立博物館）

5．本書の編集は又吉純子ほかの協力を得て新垣力が行った。各節の執筆は以下の通りである。

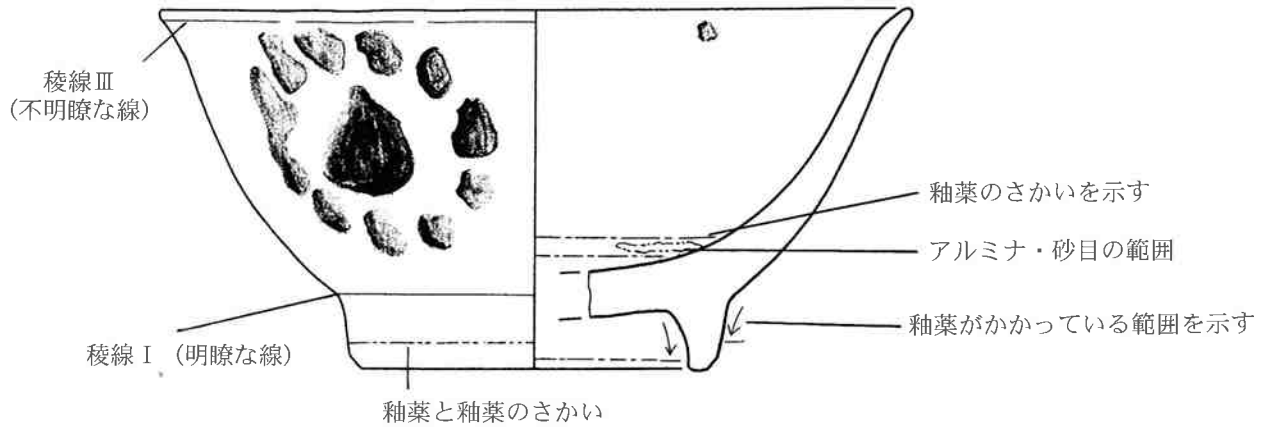
新垣　　力	第Ⅰ章・第Ⅱ章・第Ⅲ章・第Ⅳ章・第Ⅴ章第 1、4 ～ 11、15、26 節・第Ⅵ章
西銘　　章	第Ⅲ章・第Ⅴ章第 19 ～ 24 節
知念　隆博	第Ⅴ章第 2、3、17、25 節
田里　一寿	第Ⅴ章第 12 ～ 14 節
藤崎　　京	第Ⅴ章第 16、18 節

6. 引用・参考文献は末尾に一括して記した。

7. 本書に掲載された出土遺物の撮影及び現像・焼付は宮崎典子・光嶋香（埋文センター賃金職員）が行った。

8. 発掘調査で出土した遺物及び調査の記録は、すべて沖縄県立埋蔵文化財センターにて保管している。

〈凡　例〉



報告書抄録

ふりがな	しゅりじょうせき
書名	首里城跡
副書名	継世門周辺地区発掘調査報告書
巻次	ー
シリーズ名	沖縄県立埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	第9集
編著者名	西銘章・新垣力・知念隆博・藤崎京・田里一寿
編集機関	沖縄県立埋蔵文化財センター
所在地	〒903-0125　沖縄県中頭郡西原町字上原193−7　TEL 098−835−8751・8752
発行年月日	2002年3月29日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積	調査原因
しゅりじょうせき 首里城跡	おきなわけんなはし 沖縄県那覇市 しゅりとうのくらちょう 首里当蔵町 3丁目1番	47201		26° 12′ 46″	127° 43′ 20″	1998.7.27 ～ 2001.3.9	1,900㎡	県営首里城公園整備事業

所収遺跡名	種別	時代	遺構	遺物	特記事項
首里城跡	城跡	中世 近世 近代	方形石組遺構 石階段	中国産陶磁器 タイ産陶磁器 ベトナム産陶磁器 朝鮮産陶磁器 本土産陶磁器 沖縄産陶器 陶質土器 瓦質土器 土器 瓦 円盤状製品 金属製品 銭貨 坩堝 煙管 硯 石製品 貝製品 骨製品 貝類 脊椎動物遺体	

目　次

巻首図版
序
例言
報告書抄録

第Ⅰ章　調査に至る経緯 …… 1
　第１節　調査に至る経緯 …… 1
　第２節　調査体制 …… 1

第Ⅱ章　位置と環境 …… 3
　第１節　地理的環境 …… 3
　第２節　歴史的環境 …… 3

第Ⅲ章　調査経過 …… 6

第Ⅳ章　層序と遺構 …… 7
　第１節　Ⅰ地区 …… 7
　第２節　Ⅱ地区 …… 7
　第３節　Ⅲ地区 …… 7

第Ⅴ章　遺物 …… 14
　第 1 節　青磁……14
　第 2 節　白磁……21
　第 3 節　染付……24
　第 4 節　褐釉陶器……30
　第 5 節　その他の中国産陶磁器……32
　第 6 節　タイ産陶磁器……34
　第 7 節　ベトナム産陶磁器……36
　第 8 節　高麗青磁……36
　第 9 節　本土産陶磁器……37
　第 10 節　沖縄産施釉陶器……46
　第 11 節　沖縄産無釉陶器……60
　第 12 節　陶質土器……67
　第 13 節　瓦質土器……78
　第 14 節　土器……80
　第 15 節　瓦……81
　第 16 節　円盤状製品……82
　第 17 節　銭貨……85
　第 18 節　金属製品……87
　第 19 節　煙管……88
　第 20 節　坩堝……88
　第 21 節　玉……88
　第 22 節　硯・石製品……88
　第 23 節　貝製品……91
　第 24 節　骨製品……91
　第 25 節　貝類遺存体……92
　第 26 節　脊椎動物遺体……92

第Ⅵ章　総括 …… 97

図　表　目　次

図目次

第 1 図　首里城跡の位置及び周辺の遺跡 …… 4
第 2 図　首里城平面図（昭和 6 年頃） …… 5
第 3 図　Ⅲ地区基本層序 …… 9
第 4 図　石階段（平面） …… 10
第 5 図　石階段（蹴上げ立面） …… 11
第 6 図　石階段（側面・縁石立面） …… 13
第 7 図　青磁 1 …… 18
第 8 図　青磁 2 …… 19
第 9 図　青磁 3 …… 20
第 10 図　白磁 …… 23
第 11 図　染付 1 …… 28
第 12 図　染付 2 …… 29
第 13 図　褐釉陶器 …… 31
第 14 図　その他の中国産陶磁器 …… 35
第 15 図　タイ産陶磁器・ベトナム産陶磁器・高麗青磁 … 36
第 16 図　本土産陶磁器 1 …… 42
第 17 図　本土産陶磁器 2 …… 43
第 18 図　本土産陶磁器 3 …… 44
第 19 図　本土産陶磁器 4 …… 45
第 20 図　沖縄産施釉陶器 1 …… 54
第 21 図　沖縄産施釉陶器 2 …… 55
第 22 図　沖縄産施釉陶器 3 …… 56
第 23 図　沖縄産施釉陶器 4 …… 57
第 24 図　沖縄産施釉陶器 5 …… 58
第 25 図　沖縄産施釉陶器 6 …… 59
第 26 図　沖縄産無釉陶器 1 …… 64
第 27 図　沖縄産無釉陶器 2 …… 65
第 28 図　沖縄産無釉陶器 3 …… 66
第 29 図　陶質土器 1 …… 74
第 30 図　陶質土器 2 …… 75
第 31 図　陶質土器 3 …… 76
第 32 図　陶質土器 4 …… 77
第 33 図　瓦質土器 …… 80
第 34 図　円盤状製品 1 …… 83
第 35 図　円盤状製品 2 …… 84
第 36 図　銭貨 …… 86
第 37 図　金属製品・煙管・坩堝・玉 …… 89
第 38 図　硯・石製品 …… 90
第 39 図　貝製品・骨製品 …… 91

図版目次

巻首図版 1　首里城跡（航空写真）
巻首図版 2　継世門遠景（古写真）
上：明治中期～後期（伊藤勝一氏蔵）
下：大正末期～昭和初期
（沖縄県立芸術大学蔵）
図版 1　Ⅰ地区・Ⅱ地区 …… 101
図版 2　Ⅲ地区 1 …… 102
図版 3　Ⅲ地区 2 …… 103
図版 4　Ⅲ地区 3 …… 104
図版 5　上：青磁 1　下：青磁 2 …… 105
図版 6　上：青磁 3　下：白磁 …… 106
図版 7　染付 1 …… 107
図版 8　染付 2 …… 108
図版 9　上：褐釉陶器　下:タイ産陶磁器・ベトナム産陶磁器・高麗青磁 …… 109
図版 10　その他の中国産陶磁器 …… 110
図版 11　本土産陶磁器 1 …… 111
図版 12　本土産陶磁器 2 …… 112
図版 13　本土産陶磁器 3 …… 113
図版 14　本土産陶磁器 4 …… 114
図版 15　沖縄産施釉陶器 1 …… 115
図版 16　沖縄産施釉陶器 2 …… 116
図版 17　沖縄産施釉陶器 3 …… 117
図版 18　沖縄産施釉陶器 4 …… 118
図版 19　沖縄産施釉陶器 5 …… 119
図版 20　沖縄産施釉陶器 6 …… 120
図版 21　上：沖縄産無釉陶器 1　下：沖縄産無釉陶器 2 …… 121
図版 22　上：沖縄産無釉陶器 3　下：陶質土器 1 …… 122
図版 23　上：陶質土器 2　下：陶質土器 3 …… 123
図版 24　上：陶質土器 4　下：瓦質土器 …… 124
図版 25　瓦 …… 125
図版 26　上：円盤状製品 1　下：円盤状製品 2　126
図版 27　銭貨 …… 127
図版 28　金属製品・煙管・坩堝・玉 …… 128
図版 29　上：硯・石製品　下：貝製品・骨製品 … 129
図版 30　貝 1（巻貝） …… 131
図版 31　上：貝 2（二枚貝）　下：骨 1 …… 133
図版 32　骨 2 …… 135
図版 33　骨 3 …… 137

表目次

第 1 表　青磁観察一覧 …… 15
第 2 表　青磁出土状況 …… 17
第 3 表　白磁出土状況 …… 21
第 4 表　白磁観察一覧 …… 22
第 5 表　染付出土状況 …… 25

第 6 表　染付観察一覧 …… 25
第 7 表　褐釉陶器出土状況 …… 30
第 8 表　褐釉陶器観察一覧 …… 30
第 9 表　その他の中国産陶磁器観察一覧 …… 33
第 10 表　その他の中国産陶磁器出土状況 …… 34
第 11 表　タイ産陶磁器出土状況 …… 34
第 12 表　本土産陶磁器観察一覧 …… 39
第 13 表　沖縄産施釉陶器出土状況 …… 49
第 14 表　沖縄産施釉陶器観察一覧 …… 50
第 15 表　沖縄産無釉陶器出土状況 …… 62
第 16 表　沖縄産無釉陶器観察一覧 …… 62
第 17 表　陶質土器観察一覧 …… 69
第 18 表　陶質土器出土状況 …… 73
第 19 表　瓦質土器出土状況 …… 79
第 20 表　瓦質土器観察一覧 …… 79
第 21 表　円盤状製品出土状況 …… 82
第 22 表　円盤状製品観察一覧 …… 83
第 23 表　銭貨出土状況 …… 85
第 24 表　銭貨観察一覧 …… 85
第 25 表　簪観察一覧 …… 87
第 26 表　煙管計測一覧 …… 88
第 27 表　硯・石製品計測一覧 …… 88
第 28 表　貝類出土状況（巻貝） …… 93
第 29 表　貝類出土状況（二枚貝） …… 93
第 30 表　魚類出土量 …… 95
第 31 表　鳥類出土一覧 …… 95
第 32 表　ニワトリ出土一覧 …… 95
第 33 表　イヌ出土一覧 …… 95
第 34 表　イヌ歯・牙出土一覧 …… 95
第 35 表　ネコ出土一覧 …… 95
第 36 表　ウシ出土一覧 …… 95
第 37 表　ウシ歯・牙出土一覧 …… 95
第 38 表　ウシ・ウマ出土一覧 …… 95
第 39 表　ウマ歯・牙出土一覧 …… 95
第 40 表　ブタ出土量 …… 96
第 41 表　ブタ歯・牙出土量 …… 96
第 42 表　ヤギ出土一覧 …… 96
第 43 表　ヤギ歯・牙出土量 …… 96

第Ⅰ章　調査に至る経緯

第１節　調査に至る経緯

首里城跡の復元整備は、沖縄本土復帰の年である 1972（昭和 47）年に実施された戦災文化財復元整備事業により、歓会門と周辺城郭の整備が着手されたことを嚆矢とする。その後も久慶門・玉陵などの復元及び修理工事が進められたが、1967（昭和 42）年から 1982（昭和 57）年に実施された琉球大学の移転に伴い、その跡地利用法として首里城一帯の公園化が有力となったことから、それまでの城門や城郭に加えて、正殿などの城郭内側区域を含めた本格的な復元整備を行う気運が高まった。そして、同年の第二次沖縄振興開発計画の「首里城跡一帯の歴史的風土を生かしつつ、公園としてふさわしい範囲について整備を検討する」との提言を受けて、1984（昭和 59）年に沖縄県が復元整備の指針となる「首里城公園基本計画」を策定し、次いで 1987（昭和 62）年には公園計画区域の城郭内側約 4ha を国営公園として、また国営公園範囲を除く約 14ha を県営公園として、それぞれ復元整備を行うことが決定された。これにより首里城跡の本格的な復元整備が始動し、現在までに城郭内側は正殿・北殿・南殿・二階殿・奉神門などの整備が完了している。ちなみに平成 13 年度には、全長 1,080 m に及ぶ城郭の整備が全て完了する予定である。

県営公園整備事業は 1991（平成 3）年から着手されており、これまでに龍潭エリア・上之毛エリア・首里杜館エリア・南側管理用道路地区などの整備が完了している。今回の調査区である継世門周辺地区には階段及び外周園路の整備が計画されているが、復元整備のための情報収集の一環として事前に発掘調査を行う必要が生じたため、県土木建築部都市計画課からの分任予算を受けた県教育庁文化課が、1998（平成 10）年 7 月より発掘調査を開始した。

第２節　調査体制

発掘調査及び資料整理に係る業務は平成 10 年度から平成 13 年度にかけて実施した。発掘調査は平成 10 年度は沖縄県教育庁文化課が、平成 12 年度は沖縄県立埋蔵文化財センターが主体となって実施した。その体制は下記の通りである。

調査主体
沖縄県教育委員会（平成 10 年度～平成 11 年度）
沖縄県立埋蔵文化財センター（平成 12 年度～平成 13 年度）
安室　　肇（沖縄県教育委員会教育長　平成 10 年度）
翁長　良盛（　〃　平成 11 年度～平成 12 年度）
津嘉山朝祥（　〃　平成 13 年度）
知念　　勇（沖縄県立埋蔵文化財センター所長　平成 12 年度～平成 13 年度）
大城　将保（沖縄県教育庁文化課長　平成 10 年度）
當眞　嗣一（　〃　平成 11 年度～平成 13 年度）
稲嶺　靖子（沖縄県教育庁文化課副参事兼課長補佐　平成 10 年度）
當眞　嗣一（沖縄県教育庁文化課課長補佐　平成 10 年度）
千木良芳範（　〃　〃　平成 11 年度～平成 12 年度）
大城　　慧（　〃　〃　平成 13 年度）

調査事務
稲嶺　靖子（沖縄県教育庁文化課副参事兼課長補佐　平成 10 年度）
名嘉　政修（　〃　課長補佐　平成 11 年度～平成 12 年度）
知念　廣義（沖縄県立埋蔵文化財センター副所長兼庶務課長　平成 12 年度～平成 13 年度）
大浜　　節（沖縄県教育庁文化課管理係主幹兼係長　平成 10 年度～平成 11 年度）
比嘉　　清（　〃　文化係長　平成 12 年度）
砂川　邦子（沖縄県教育庁文化課管理係主査　平成 10 年度～平成 11 年度）

村山　佐代（　　〃　　〃　　平成 10 年度）
當間　正子（　　〃　　文化係主査　平成 12 年度）
當間　清美（　　〃　　管理係副主査　平成 10 年度）
横山さゆり（　　〃　　〃　主任　平成 11 年度）
城間　千賀（沖縄県立埋蔵文化財センター庶務課主事　平成 12 年度～平成 13 年度）
上原　　浩（　　〃　　〃　〃　平成 12 年度～平成 13 年度）

調査総括
上原　　靜（沖縄県教育庁文化課史跡整備係長　平成 10 年度）
盛本　　勲（　　〃　　〃　　平成 11 年度）
島袋　　洋（沖縄県立埋蔵文化財センター調査課長　平成 12 年度～平成 13 年度）

調査担当
西銘　　章（沖縄県教育庁文化課埋蔵文化財係充指導主事　平成 10 年度）
盛本　　勲（　　〃　　史跡整備係主任　平成 10 年度）
上地　　博（　　〃　　〃　　専門員　平成 10 年度～平成 11 年度）
新垣　　力（沖縄県立埋蔵文化財センター調査課臨時的任用専門員　平成 12 年度）
又吉　純子（沖縄県教育庁文化課文化財調査嘱託員　平成 10 年度～平成 11 年度）
藤崎　　京（　　〃　　〃　　平成 10 年度）
矢沢　秀雄（　　〃　　〃　　平成 10 年度）
古屋　聡洋（沖縄県立埋蔵文化財センター文化財調査嘱託員　平成 12 年度）
大島　　誠（　　〃　　〃　　平成 12 年度）
田里　一寿（　　〃　　〃　　平成 12 年度）
仲與根ゆかり（　　〃　　〃　　平成 12 年度）
仲間　留美（　　〃　　〃　　平成 12 年度）
新垣　　力（　　〃　　〃　　平成 13 年度）
藤崎　　京（　　〃　　〃　　平成 13 年度）

発掘調査作業員（五十音順）
安次富マサ子・新垣キク・新垣直美・上間清美・浦崎京子・大城輝子・大城守広・大城安志・大嶺愛子
親川菊江・神田雪枝・喜納初子・宜保章太・宜保仁美・金城一哲・金城さとみ・呉我フジ子・小波津ヨシ子
佐渡山正子・島仲恵子・島袋文子・新城大達・田場直樹・津波古美津江・照屋栄子・照屋タケ・照屋トミ
當間フミ・富山勇・仲宗根スミ子・中塚末子・仲程喜美子・永吉弘子・比嘉清恵・比嘉剛・比嘉洋子
古屋聡洋・真栄城千枝子・嶺井政常・宮国恵子・諸見里幸子・柚木崎末子・与那嶺勢津子

資料整理作業員及び協力者（五十音順）
赤嶺圭子・新垣幸子・新垣裕子・新垣利津代・新川さおり・安和千代子・池原直美・石橋朝子・伊波小百合
伊波和歌子・伊禮利香・上原久・上原美穂子・上良早美・内間美香・請盛智秋・遠藤千恵子・大城直美
大城洋子・大城陽子・大村由美子・岡村綾子・折田衣代・嘉数禮子・我那覇悠子・岸本竹美・金城綾子
金城克子・金城恵子・金城敬子・金城真紀・国吉春美・国吉縁・慶留間愛子・源河秀子・国場のりえ
呉屋広江・崎原美智子・島袋春美・新城さゆり・瑞慶覧尚美・平良貴子・高良三千代・玉城恵美利
玉寄智恵子・照屋利子・天願睦美・友利映子・長田剛・仲井眞美佐枝・中松雪乃・仲村恒子
西銘パトロシニア・比嘉孝子・比嘉登美子・比嘉なおみ・比嘉美和子・備瀬枝美子・譜久村一絵
真榮田聡子・真栄田章子・牧志加代子・又吉純子・宮城利香・山内すず子・吉村綾子・渡邊尚子

第Ⅱ章　位置と環境

第１節　地理的環境

首里城は那覇市の東側、首里当蔵町３丁目１番地に所在する。首里台地と称される第四紀層の琉球石灰岩台地上に築かれており、東西 410 m、南北 273 m、面積 46,167㎡を誇る県下最大規模のグスクである。首里台地は那覇市東方の分水界付近に広がる標高 130 m前後の丘陵地で、南側の城下を流れる金城川（東側ではナゲーラ川と別称）を境に東で南風原町に、西で真地に接する。

また首里台地の下層には、新第三紀の砂岩・泥岩からなる島尻層群が不透水層として広がっており、琉球石灰岩との不整合部分からの湧水が多くみられる。首里城内及び周辺に龍樋や金城大樋川などの湧泉が点在するのはこのためで、水源の確保が容易であったことが首里の発展の要因の一つと考えられる。

今回の調査区である継世門周辺は、琉球石灰岩と島尻層群の境界部分に相当する。この一帯は水量が豊富であり、首里城築城とともに早くから人々が居住した地域でもある。

第２節　歴史的環境

首里城の築城年代については未だ不明な点が多いが、現在までの発掘調査の成果や「安国山樹華木之記碑」の内容などから、尚巴志王代（1422 年～ 1439 年）には王城としての基本的な構造が確立していたと考えられる。そして尚真･尚清王代（1477 年～ 1555 年）には外郭の拡張や周辺の整備が進められ、現在の姿に近づいていったとされている。

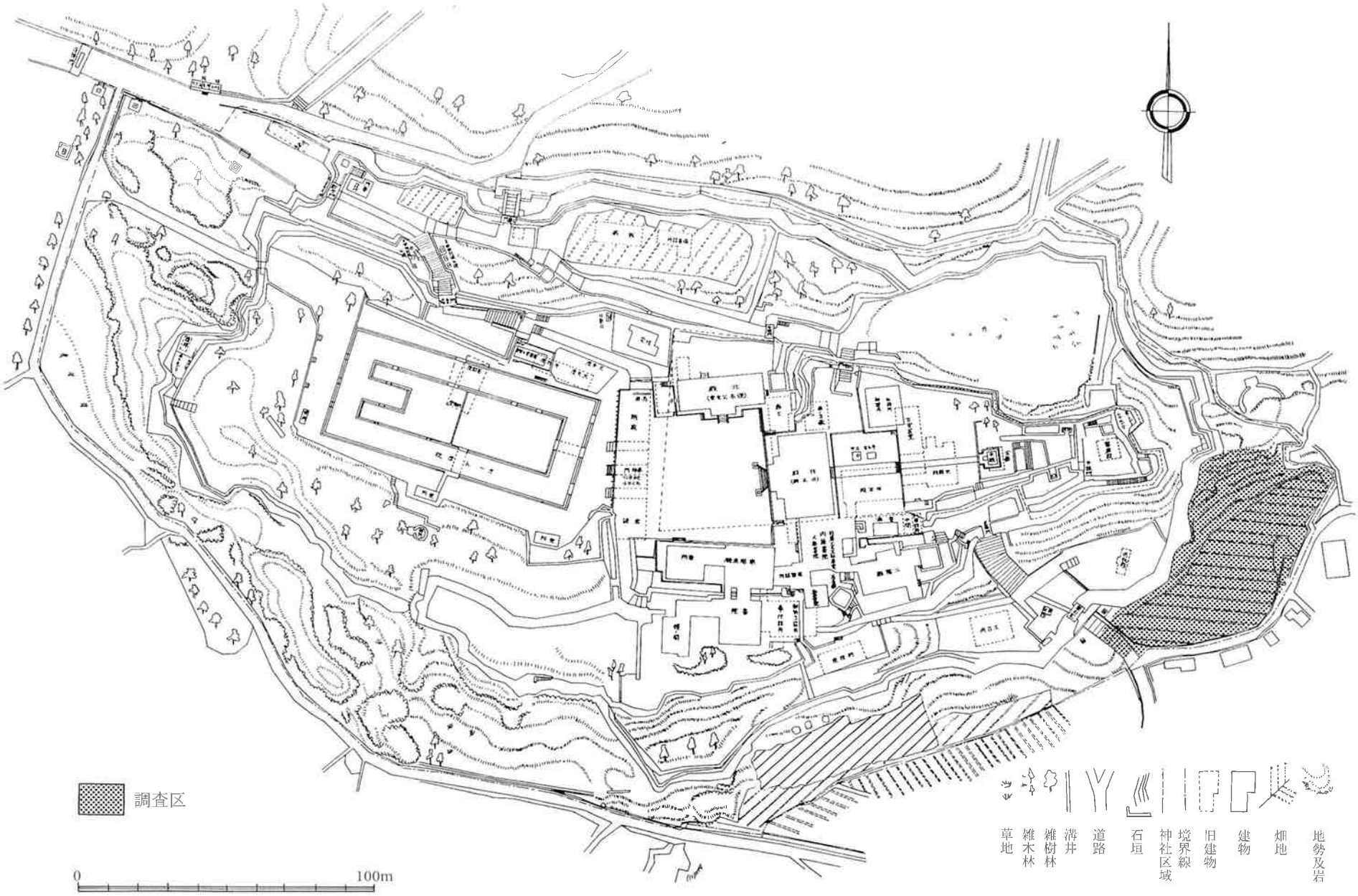
継世門は 1546 年の創建で、防備の薄い南東側の守りを堅固にするために美福門の外側に築造された。櫓門で木造本瓦葺、入母屋造の石造拱門である継世門は、かつては首里城で最も美しい門とされ、また赤田に面しているため赤田御門（アカタウジョウ）とも称された。その後、1846 年と 1851 年に周辺城壁の補修を含めた門の補強が行われたが、昭和初期には櫓が欠落していたことが古写真より判明している。

このような継世門の変遷と同様に、首里城も 1879（明治 12）年の琉球処分後、熊本鎮台沖縄分遣隊の駐屯（1879 年～ 1896 年）や、首里第一尋常高等小学校の校舎としての利用（1896 年～ 1945 年）などにより、施設の改変が各所で行われた。また一時は老朽化が進み解体の危機にも瀕したが、鎌倉芳太郎らの尽力により改修工事が実施され、沖縄戦で焼失するまでは旧国宝としての偉容を誇っていた。

戦後、廃墟と化した首里城の跡地には琉球大学が設置され、残された遺構も地下に埋没してしまった。さらに一部では工事に伴う地形改変も行われ、一帯は旧地形の面影がわずかに偲ばれる状態にまで変貌した。しかし 1972（昭和 47）年の沖縄本土復帰を機に、周辺文化財の復元整備が次々と実施され、1984（昭和 59）年に琉球大学の移転が完了するとともに策定された「首里城公園基本計画」に基づき、首里城及び周辺の歴史的環境の本格的な復元整備が始動した。

継世門周辺地区も旧琉球大学建設の際に大幅な地形改変がなされていたが、平成８・９年度の首里城城郭等復元整備事業により、櫓を戴く石造拱門が復元された。また平成 12 年度からは周辺地域の整備も着手されるなど、徐々にではあるが往時の姿を取り戻しつつある。

第１図　首里城跡の位置及び周辺の遺跡



第２図　首里城平面図（昭和６年頃）

第Ⅲ章　調査経過

継世門周辺整備に係る発掘調査は、平成10年度に教育庁文化課が、平成12年度に沖縄県立埋蔵文化財センターがそれぞれ実施した。

平成10年度は東のアザナから寒水川樋川付近までの一帯を範囲として、7月27日より調査を実施した。同地域にはこれまでの首里城跡の発掘調査等で発生した排土が膨大に集積されており、現状のままでの調査の実施は困難であったことから、沖縄県南部土木事務所に排土の除去及び搬出作業を依頼し、除去作業の折をみて排土中の遺物を採集する作業から開始した。

東のアザナ周辺地域では南側斜面部にトレンチを2本、周辺に土層観察用の小トレンチを2本設定し、人力による掘り下げを実施した。しかし、同地域は戦前から戦後にかけて大規模な撹乱を受けており、遺構や遺物包含層を確認するには至らなかった。また土層中には先の大戦で破壊された城壁の石材が混在しているため、安全上の理由により同地域の調査を終了せざるを得ない結果となった。

寒水川樋川周辺では、まず寒水川北側の平場にＴＰ（テストピット）を3ヶ所設定して掘り下げを行ったが、地表面から3～4m程下に旧琉球大学の建造物の基礎やヒューム管等が残存しており、遺構及び遺物包含層は確認されなかった。対照的に継世門東側城壁の直下に設定したトレンチからは城壁の根石が確認され、さらに根石に擦り付くように方形石組遺構が1基検出された。これらの遺構や土層堆積状況の実測作業及び写真撮影を1月中旬に終了し、平成11年1月31日に全ての現場作業を完了した。

平成12年度は継世門前の階段の検出を目的として、10月10日より調査を実施した。調査はバックホウによる表土の除去作業から開始し、遺構直上の層まで掘り下げた時点でグリッド設定を行った。グリッド設定は継世門の拱門中央を南北に走るラインを基準として、これに直行するように東西のラインを設定し、調査区一帯に4m×4mの方眼枠を組んだ。ラインは東西を算用数字（19～24)、南北をひらがな（そ～な）でそれぞれ表し、南東側の杭を示準してグリッドを呼称した（例：ち－20、ち－21)。

継世門前の階段については、平成9年度の首里城城郭等復元整備事業に伴う発掘調査で一部が検出されているが、同地域は旧琉球大学農学部ビル建設工事により大幅な地形改変がなされた場所であり、今回の調査での遺構確認は困難と思われた。しかし調査の結果、遺構の残存状況が予想以上に良好であることが判明し、往時の姿が窺えるほぼ完全な状態の階段が検出された。また階段の破損部を利用して小トレンチを設定することで、階段の構造や築造方法等も併せて確認することができた。

当該地域も平成10年度調査区と同様に大規模な盛土造成が施されているため、発掘作業は常に安全に配慮しながら慎重に実施していった。このような地形的な制約に加えて、10月から着工された城郭周辺エリアの整備工事や、相次ぐ天候不順等の様々な要因により調査は難航したが、平成13年3月9日に写真測量を含めた実測作業と完掘状況の写真撮影を終了し、平成12年度分の発掘調査業務を完了した。

なお平成10年度調査区（寒水川樋川周辺）と平成12年度調査区は、平成13年度から始まる整備工事に備えて、保護砂による盛土が施されている。

第Ⅳ章　層序と遺構

第１節　Ⅰ地区

平成10年度の調査区は東のアザナ周辺地域から寒水川樋川付近までの広範囲に及ぶため、便宜的に前者（東のアザナ周辺地域）をⅠ地区、後者（寒水川樋川周辺）をⅡ地区と称して説明する。

Ⅰ地区については第Ⅲ章でも述べたように、過去の発掘調査の排土や工事に伴う造成土が膨大に集積している場所である。そのため幾層にも分層することが可能だが、時間の変遷を表す尺度としての層序は下記に示す通りである。以下、今回の調査で確認された堆積層について略述する。

1. 層序

１層－黒褐色土層。本地区に自生していた樹木の腐植土である。20～25cm程堆積している。

２層－灰黄褐色混礫土層。首里城公園工事に伴う造成土や過去の発掘調査の排土で、これに先の大戦で破壊された城郭の石材と思われる大形の石灰岩礫が多数混在する。12～14ｍと非常に厚く堆積している。

３層－青黒色土層で、部分的に紫黒色の灰を含む。戦中から戦後に位置付けられると思われる遺物（沖縄産陶器等）が多数出土している。

４層－緑灰色混礫土層。これも３層と同じく戦中から終戦直後にかけての客土と考えられる。

第２節　Ⅱ地区

Ⅱ地区もⅠ地区と同様に、発掘調査の排土や工事に伴う造成土による地形改変が確認されている。特に寒水川樋川の周辺には旧琉球大学の建物基礎が残存し、往時の姿を推察するには困難な状況にあった。しかし継世門東側城壁付近では城壁の根石及び方形石組遺構が検出されるなど、予想を上回る成果が挙げることができた。また層序に関しては、基本的にⅠ地区と同様の堆積情況を呈するが、様相の異なる部分も見受けられる。以下、本地区で確認された層序及び遺構について略述する。

1. 層序

１層－灰黄褐色混礫土層。過去に実施された公園工事や発掘調査の排土である。Ⅰ地区の２層に相当する。

２層－灰色粘質土層。琉球大学建設時に持ち込まれた造成土の一部と思われる。

３層－青黒色土層で、部分的に紫黒色の灰を含む。Ⅰ地区の３層に対応すると思われる層で、沖縄産陶器等の戦後以降に位置付けられる遺物の集積が確認される。

４層－赤褐色土層。首里地区の東側一帯に広がる石灰岩風化土（マージ）で、無遺物層である。

2. 遺構

Ⅱ地区からは方形石組遺構が１基検出されている。この遺構は長辺110cm×短辺70cmの長方形で、城郭に付随する形で他の三面を相方積みで組み上げている。床面は石敷ではなく直接地山から立ち上げている。この遺構は過去に首里城跡の発掘調査で確認されたもの（註1）と同様の形態を示しているが、現在までの検出例が城郭の内側からであるのに対し、今回は初例となる城外からの検出である。そのため、類例の調査や遺構の性格も含め、今後詳細な検討が必要と考えられる。

第３節　Ⅲ地区

Ⅲ地区も大規模な地形改変が行われた地域である。継世門の拱門部分は先の大戦で多大な被害を受けており、また階段部分も平成９年度に実施した首里城城郭の発掘調査で、旧琉球大学の建物基礎による破壊が確認されている。しかし、建物の範囲から外れた本地区では層的な撹乱を受けてはいたが、予想以上に良好な状態で遺構を検出することができた。以下、本地区で確認された層序及び遺構について簡記する。

1. **層序**（第３図）

１層－終戦直後から現在に至るまでの造成層。上から①灰黄褐色混礫土層、②灰色粘質土層（クチャ層）、③青黒色土層（紫黒色灰含む）の３つに大きく分けられ、①琉球大学移転後から現在まで（過去の発掘調査の排土も含む）の層、②琉球大学建設時の層、③終戦直後から琉球大学建設時までの層、の３つの時期にそれぞれ区分されると考えられる。

２層－緑灰色混礫土層。戦中から終戦直後にかけての客土と思われるもので、１層－③とほぼ対応する。この層より沖縄産陶器の集積が確認される。

３層－暗青灰色混礫土層。２層よりわずかに古い時期（戦前から戦中頃）の客土で、近代に位置付けられる沖縄産陶器や本土産陶磁器などが出土している。

４層－灰褐色混礫土層で炭片を少量含む。地山直上の層で文化層の可能性が考えられる。この層の上に石階段が築かれている。

５層－鈍赤褐色土層。調査区一帯の基盤層に当たる石灰岩風化土（マージ）で、遺物は出土しない。Ⅱ地区の４層に対応する。

2. **遺構**（第４～６図）

検出された遺構は継世門から南東側に伸びる琉球建築の石階段である。この遺構は平成９年度に実施された首里城城郭の発掘調査により、門の基壇を含め１段から５段までが確認されている。よって、今回は平成９年度の調査区に一部重複させる形で、残りの下段部分の検出を試みた。

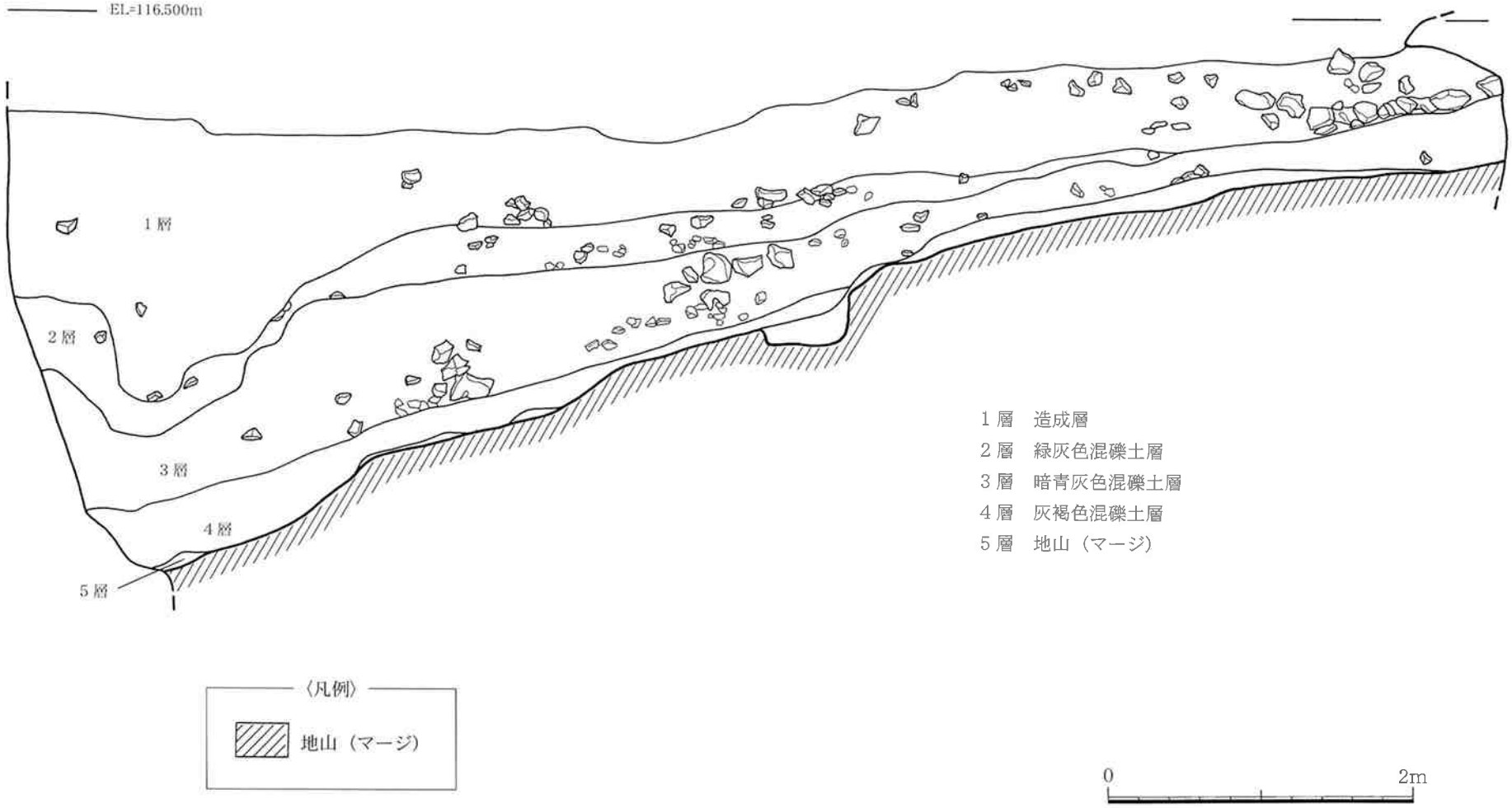
今回検出された遺構は石階段の６段から11段に当たる部分で、６段部分が全壊しているものの全体的な残存状態は非常に良好である。石階段の正確な段数は不明だが、絵図や戦前の古写真等から11～12段（基壇を除く）と推定されるため、今回の調査で石階段のほぼ全体が確認されたことになる。

階段は礫を敷き詰めた上に畳石をはめ込んで踏面を形成しており、踏面の南端（蹴上げ部分）には方形の縁取り石を配している。規格は各段で若干異なるが、平均値を算出すると踏面180cm、蹴上げ25cm、幅員510cm、勾配８°となる。また階段は直線的に伸びるのではなく、８段部分から５°ずつ南西側に方向を転じている。

階段の東側には、排水路として使用されたと考えられる石敷道が敷設される。石敷道は幅員120cm、勾配10°を測るスロープ状の道で、拳大の石を地山に直接敷き詰めて路面を形成する。階段に比して構造は雑である。また石敷道の東側には15～20cmの段差の縁石が取り付けられる。縁石から東側は調査区外のため未検出だが、戦前の古写真から桑畑であったと考えられる。

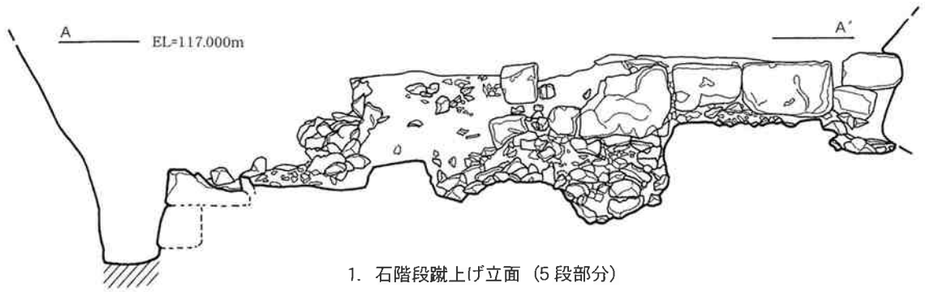
石階段のある場所は北東から南西に下る緩斜面であるため、階段の築造方法としてはまず予定地に切土造成を施し、南西側に相方積みで石積を設け、その内側に裏込めの礫を詰めて、礫の上に畳石を敷き踏面を造るという手順が想定される。

この石階段の類例として、首里城跡及びその周辺では龍潭周辺石積に伴う階段（註２）と、奉神門基壇に伴う階段（註３）が挙げられるが、いずれも石階段のみの検出例である。また石畳道の側方に排水路が敷設する例は識名園（註４）など各所にみられるが、現時点でこのような石階段は初例と考えられる。

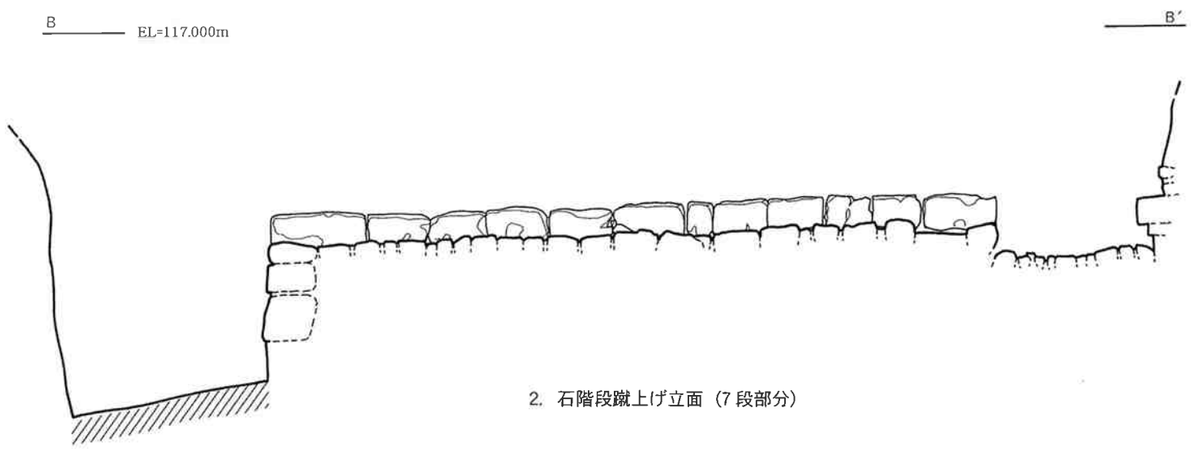

EL=116.500m
1層
2層
3層
4層
5層
1層　造成層
2層　緑灰色混礫土層
3層　暗青灰色混礫土層
4層　灰褐色混礫土層
5層　地山（マージ）
〈凡例〉
地山（マージ）
0
2m

第3図　Ⅲ地区基本層序

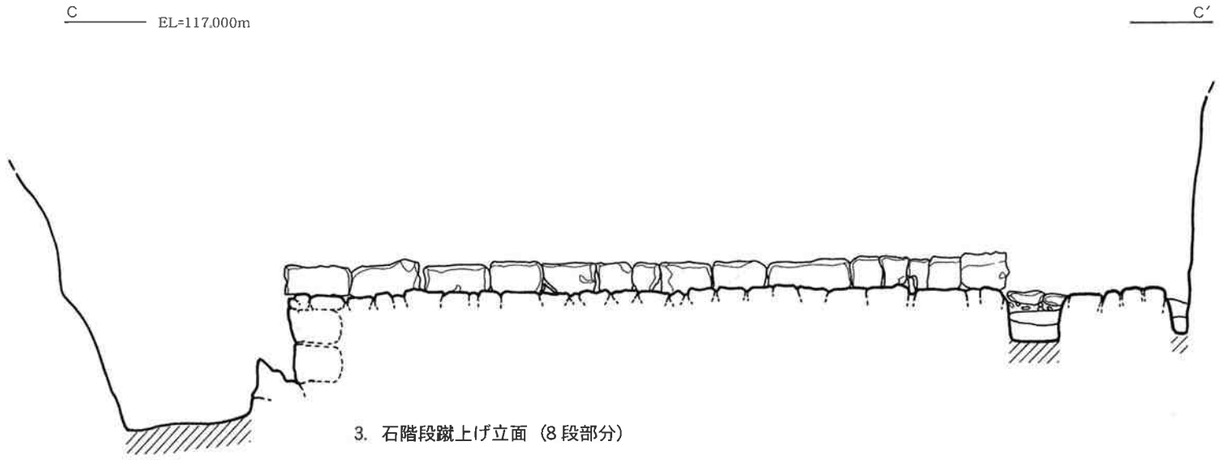
第４図　石階段（平面）



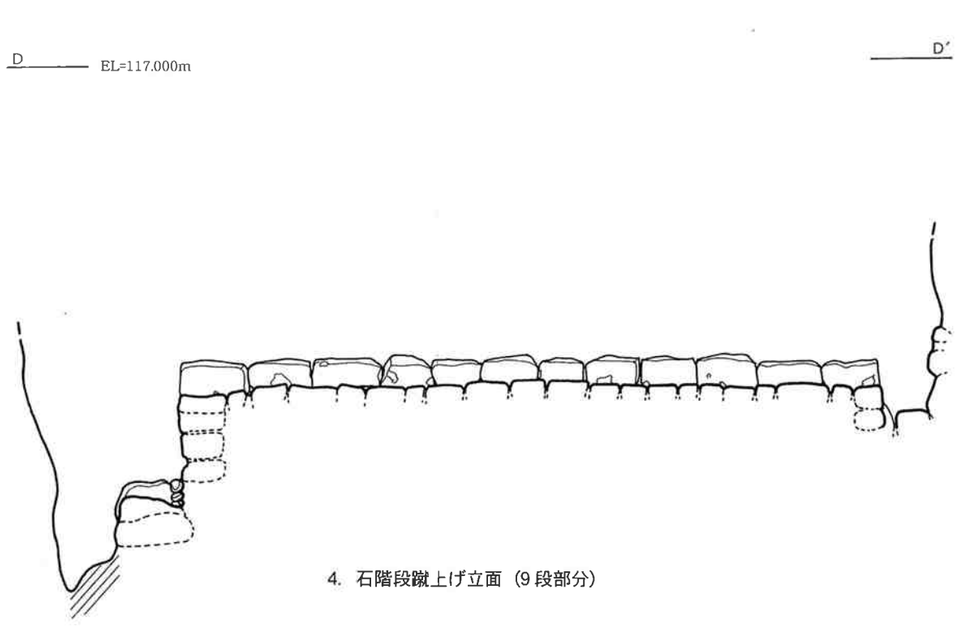
1. 石階段蹴上げ立面（5 段部分）



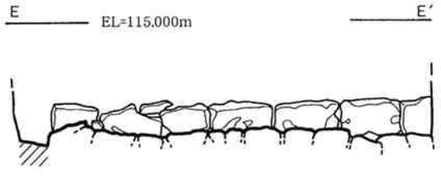
2. 石階段蹴上げ立面（7 段部分）



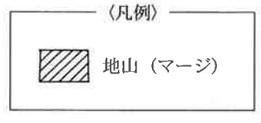
3. 石階段蹴上げ立面（8 段部分）



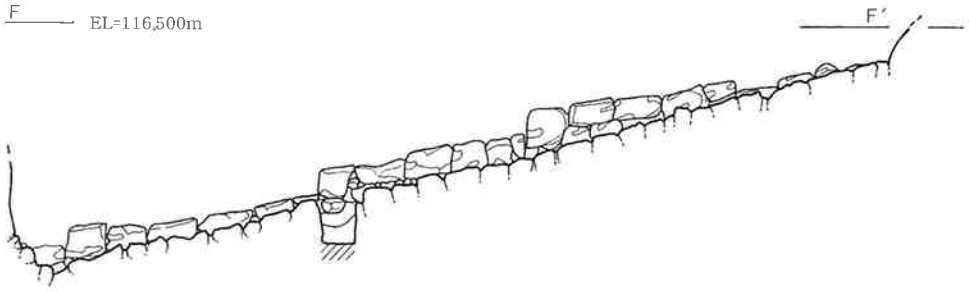
4. 石階段蹴上げ立面（9 段部分）



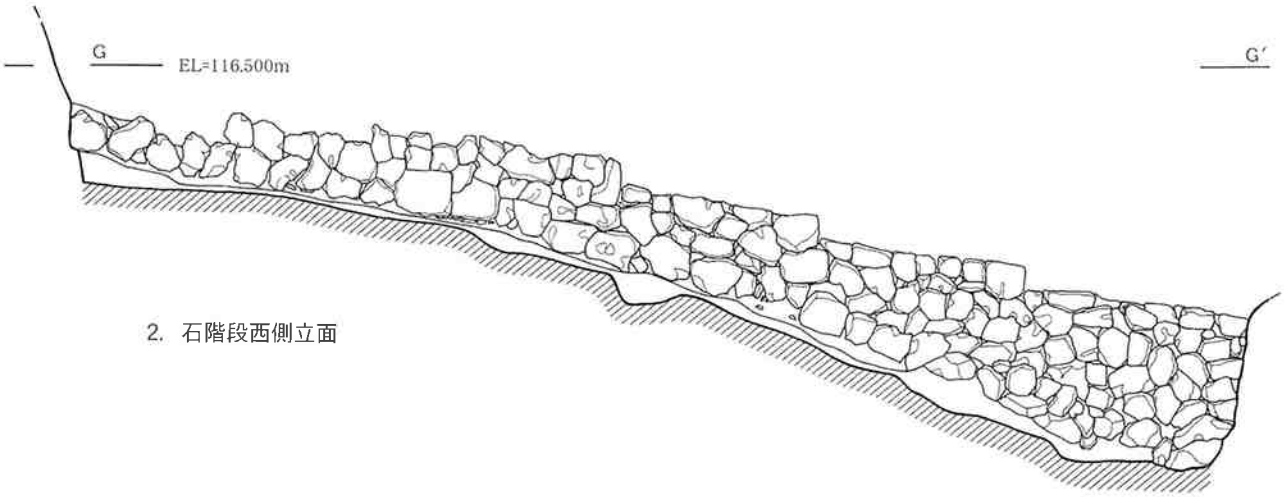
5. 石階段蹴上げ立面（10 段部分）



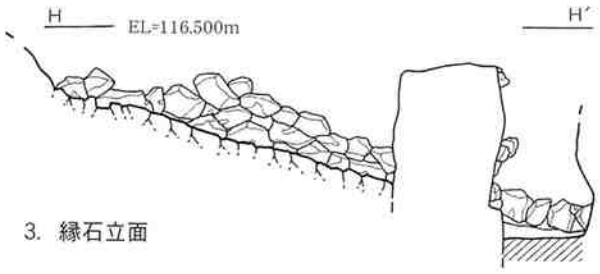
第 5 図　石階段（蹴上げ立面）



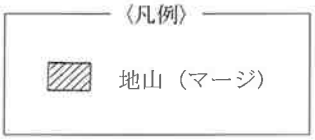
1. 石階段東側立面



2. 石階段西側立面



3. 縁石立面



第６図　石階段（側面・縁石立面）

第Ⅴ章　遺物

今回の調査では、中国産・タイ産・ベトナム産・朝鮮産・本土産・沖縄産などの陶磁器の他、陶質土器・瓦質土器・土器・瓦・円盤状製品・金属製品・銭貨・坩堝・煙管・玉・石製品・貝製品・骨製品・自然遺物などの多様な遺物が得られている。時期的には17世紀以降のものが主体をなすが、継世門の築造時期である16世紀頃に相当するものも出土している。また少量ではあるが、ベトナム産の型物（第15図12）や鍋島産の皿（第16図15）など、注目される遺物も出土している。以下、種類別に報告する。

第1節　青磁

中国産の青磁は総数485点の出土で、時期的には15世紀～16世紀頃のものが多い。器種は碗・皿・盤・鉢・酒会壺・瓶・型物などが確認されている。出土遺物の大半が小破片であり、全形が窺えるような資料は少数だが、特徴的な資料を第7～9図に図示した。ここでは各器種の分類概念を記し、個々の詳細については観察表に譲る（第1表）。

1. 碗（第7図1～18）

碗は器形や文様等の特徴からⅠ類とⅡ類に分類した。この中でさらに細分類が可能なものについてはａ、ｂなどに分類した。

Ⅰ類：口縁部が外反する大振りの碗。文様の有無により2種類に細分される（第7図1～6）。

ａ　内面、外面ともに無文のもの（1、2）。

ｂ　両面に箆描きによるラマ式蓮弁文を施すもの（3）。

Ⅰ類底部：内底に陰圏線と印花文を施すものがある。Ⅰ－ａに対応する底部と思われる（4～6）。

Ⅱ類：直口口縁を呈する碗。文様の種類から4種類に細分される（第7図7～16）。

ａ　外面口縁部に箆描きの雷文帯を巡らせるもの。内面は胴部に箆描きの唐草文を施すもの（7、8）や、型押しの文様を施すもの（9）や、無文のもの（10）がある。

ｂ　外面に箆描きの蓮弁文を施すもの。内面は胴部に箆描きの唐草文を施す（13）。

ｃ　外面に箆描きの細蓮弁文を施すもの。内面は胴部に箆描きの唐草文を施すもの（14）と、無文のもの（15）がある。また、細蓮弁文の弁先部分に波頭文を施すもの（16）もある。

Ⅱ類底部：内底に陰圏線及び印花文を施すもの（11、12）や、圏線のみを巡らせるもの（18）などがある。11と12がⅡ－ａに対応するものと思われる。

2. 皿（第8図19～33）

皿も器形や文様の特徴などからⅠ類からⅣ類に大きく分類した。この中で細分類が可能なものはａ、ｂなどに分類した。

Ⅰ類：口縁部を外側に折り曲げ、口折を呈するもの（19～22）。

Ⅱ類：口縁部が外反するもの。文様の有無により2種類に細分される。

ａ　内面、外面ともに無文のもの（23、24、27、28）。

ｂ　内面有文のもの。胴部に区画文を施すもの（26）や、蓮弁文を施すもの（29）がある。内底には印花文を施すものもある（30）。

Ⅲ類：器形はⅡ類に似るが、口唇部に刻みを入れ稜花口縁を呈するもの。内面に箆描きによるラマ式蓮弁文を施す（25）。

Ⅳ類：直口口縁を呈するもの。口縁部はそのまま直口するもの(31）と、端部をわずかに外反させるもの(32)がある。内面、外面ともに無文。

Ⅴ類：削り出しの底部から内湾状に立ち上がるもので、両面に唐草文を施す（33）。

3. 盤（第8図34、35、第9図36～38）

Ⅰ類：鍔縁口縁を呈するもので、内面に丸彫りの蓮弁文を施す。底部形態は通常の高台を持つもの（35）と、

臥足と呼ばれる削り出し高台を持つもの（36、37）がある。

Ⅱ類：口縁部が玉縁を形成するもので、内面に唐草状の文様を施す。底部形態は不明（38）。

4. 鉢（第9図39）

口折を呈する鉢の口縁部で、内面に篦描きの雷文帯を巡らせる。

5. 酒会壺（第9図40～45）

酒会壺は小破片の資料がほとんどだが、第9図40～45の6点を図示した。40は口縁部で、肩部付近に文様が施されるが詳細は不明である。43は胴部で、外面に牡丹唐草文の一部が確認される。41と42は底部資料で、いずれも外面に丸彫りの蓮弁文が施される。蓋は44と45の2点で、外面に篦描きの牡丹唐草文を施す。

6. 瓶（第9図46～50）

瓶も全形の窺える資料は少量だが、第9図46～50の5点を図示した。46は口縁部で、玉壺春瓶を呈する器形になるものと思われる。47～49が胴部で、48は外面に圏線と篦描きの蓮弁文、49は外面に篦描きの牡丹唐草文を施す。47は両面ともに無文の資料である。50は底部資料で、高台刳りの浅い削り出しの高台を有する。

7. 型物（第9図51）

51は獣の脚を模したもので、その形態から象などの大形動物の脚と考えられる。三足香炉の脚部か、獣形の燭台のいずれかに付随するものと思われる。

第1表a　青磁観察一覧

単位：cm

図	番号	器種	分類	部位	口径	器高	底径	文様・成形等の特徴	素地	釉色・施釉状況等	出土地
第7図（図版5）	1	碗	Ⅰ－a	口縁	15.7	－	－	内面に篦彫りで唐草文？	灰白色の微粒子で緻密。	明緑灰色の釉を両面に施釉。	Ⅲ地区 西トレンチ1層
	2			口縁	15.7	－	－	口縁部を玉縁状に肥厚。	灰白色の細粒子でやや緻密。	灰黄緑色の釉を両面に施釉。	Ⅲ地区 西トレンチ1層
	3		Ⅰ－b	口縁	15.0	－	－	両面に片切り彫りでラマ式蓮弁文。	灰白色の微粒子で緻密。	黄緑灰色の釉を両面に施釉。	Ⅲ地区 1層
	4		Ⅰ	底	－	－	4.8	内底に印花文（牡丹）。	灰色の細粒子でやや緻密。	緑灰色の釉を高台外面まで施釉。	Ⅲ地区 1層
	5			底	－	－	5.5	内底に陰圏線、印花文（牡丹？）。外底に目跡付着。	灰白色の微粒子で緻密。	黄緑灰色の釉を全面施釉後、外底釉剥ぎ。	Ⅲ地区 1層
	6			底	－	－	5.1	内底に陰圏線、印花文（牡丹？）。	灰色の微粒子で緻密。	灰黄緑色の釉を畳付まで施釉後、内底釉剥ぎ。	表採
	7		Ⅱ－a	口縁	15.8	－	－	外面に線彫りで雷文、唐草文。内面に線彫りで唐草文。	灰白色の微粒子で緻密。	灰黄緑色の釉を両面に施釉。	Ⅲ地区 1層
	8			胴	－	－	－	外面に線彫りでラマ式蓮弁文。内面に線彫りで牡丹唐草文？	淡黄色の微粒子で緻密。	黄緑灰色の釉を両面に施釉。	Ⅲ地区 1層
	9			口縁	14.3	－	－	外面に線彫りで雷文。内面に型押しで雷文、草花文？	灰白色の細粒子でやや緻密。	灰黄緑色の釉を両面に施釉。	Ⅲ地区 1層
	10			口縁	10.5	－	－	外面に線彫りで雷文、蓮弁文？	灰白色の微粒子で緻密。	黄緑灰色の釉を両面に施釉。	Ⅰ地区 東トレンチ表採
	11			底	－	－	5.4	外面に丸彫りで蓮弁文。内底に印花文。全面に被熱の跡あり。	灰白色の細粒子でやや緻密。	明緑灰色の釉を全面施釉後、外底釉剥ぎ。	表採
	12			底	－	－	5.4	外面に丸彫りで唐草文。内底に陰圏線、印花文（菊花）。	灰白色の微粒子で緻密。	緑灰色の釉を全面施釉後、外底釉剥ぎ。	Ⅲ地区 1層
	13		Ⅱ－b	口縁	12.5	－	－	外面に片切彫りで蓮弁文。内面に片切彫りで唐草文？	灰白色の微粒子で緻密。	淡黄緑色の釉を両面に施釉。	表採
	14		Ⅱ－c	口縁	17.8	－	－	外面に線刻の細蓮弁文。内面に片切彫りの唐草文。	灰白色の微粒子で緻密。	淡黄緑色の釉を両面に施釉。	表採
	15			口縁	14.7	－	－	外面に線刻の細蓮弁文。両面に貫入あり。	灰色の細粒子でやや緻密。	黄緑灰色の釉を両面に施釉。	Ⅲ地区 1層
	16			口縁	14.1	－	－	外面に線彫りの波頭文、細蓮弁文？	灰白色の細粒子でやや緻密。	黄緑灰色の釉を両面に施釉。	Ⅲ地区 1層
	17		Ⅱ	底	－	－	5.9	内底に印花文。内底に被熱の跡あり。	灰白色の微粒子で緻密。	黄緑灰色の釉を全面施釉後、外底釉剥ぎ。	表採
	18			底	－	－	5.3	内底に印花文。外底に目跡付着。	灰白色の細粒子でやや緻密。	黄緑灰色の釉を高台内面まで施釉。	表採

注：法量の項「－」は測定不可

第１表ｂ　青磁観察一覧

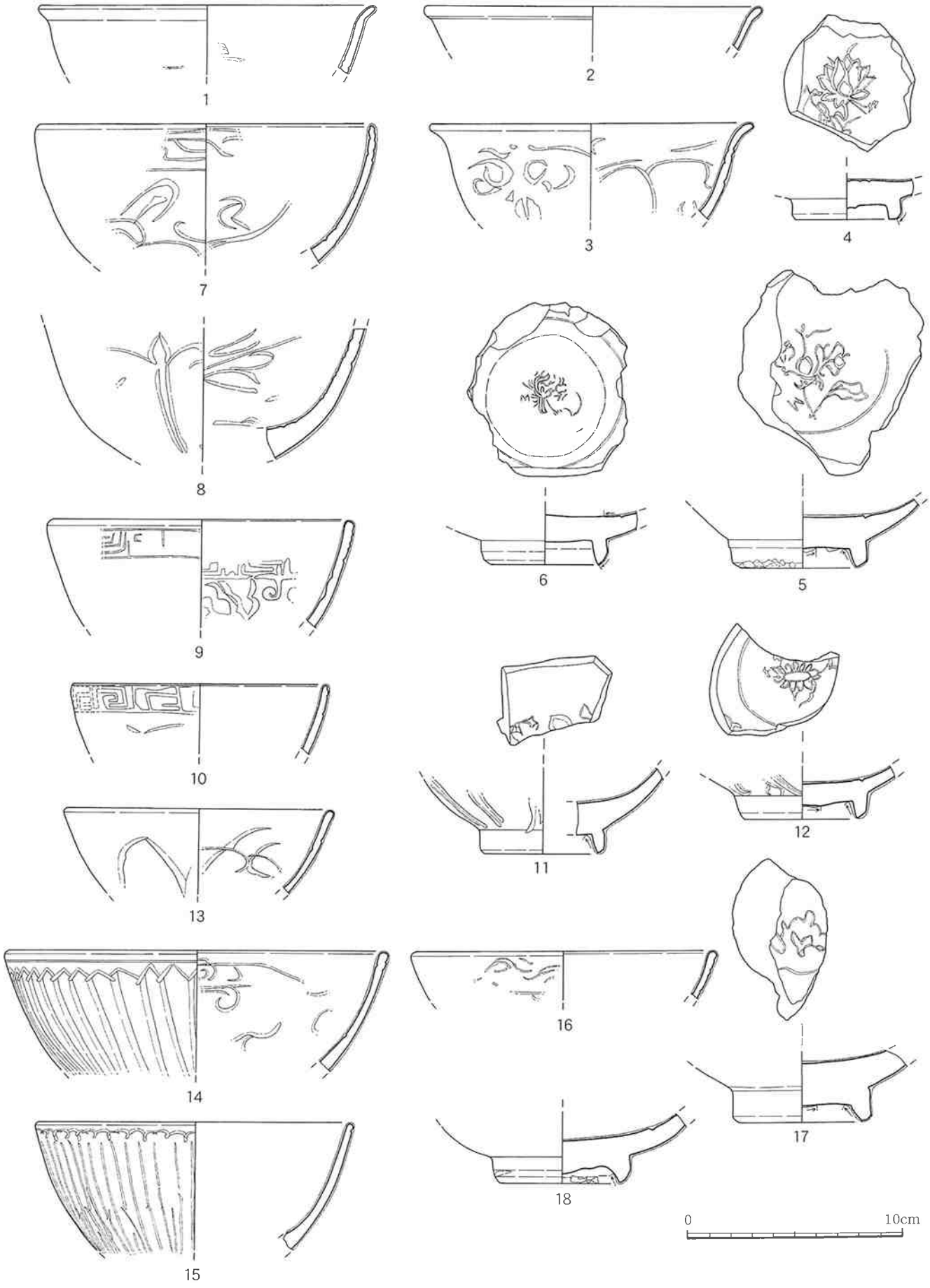
単位：cm

図	番号	器種	分類	部位	口径	器高	底径	文様・成形等の特徴	素地	釉色・施釉状況等	出土地
第8図（図版5）	19	Ⅲ	Ⅰ	口縁	11.0	－	－	外面に箆彫りで蓮弁文。	灰白色の微粒子で緻密。	黄緑灰色の釉を両面に施釉。	Ⅲ地区1層
	20			口縁	12.0	－	－	外面に片切彫りで蓮弁文（弁先は開く）。	灰白色の微粒子で緻密。	明灰緑色の釉を両面に施釉。	Ⅲ地区1層
	21			口縁	12.0	－	－	外面に箆彫りで蓮弁文。内面に箆彫りで波頭文、陰圏線、青海波文。	灰色の微粒子で緻密。	灰黄緑色の釉を両面に施釉。	Ⅲ地区1層
	22			口縁	13.1	－	－	外面に箆彫りで蓮弁文。内面に箆彫りで雷文、唐草文？	灰白色の微粒子で緻密。	明黄緑灰色の釉を両面に施釉。	Ⅲ地区1層
	23		Ⅱ－a	口縁	12.2	－	－	全体に被熱の跡あり。部分的に石灰？が付着。	灰白色の微粒子で緻密。	暗黄緑色の釉を両面に施釉。	表採
	24			口縁	13.0	－	－	外面に陽圏線。両面に貫入あり。	灰白色の細粒子でやや緻密。	明黄緑灰色の釉を両面に施釉。	Ⅲ地区1層
	25		Ⅲ	口縁	－	－	－	内面に箆彫りでラマ式蓮弁文。両面に貫入あり。	灰白色の細粒子でやや緻密。	黄緑灰色の釉を両面に施釉。	表採
	26		Ⅱ－b	胴	－	－	－	内面に片切彫りで刻花文？	白色の微粒子で緻密。	明灰緑色の釉を両面に施釉。	Ⅰ地区東トレンチ表採
	27		Ⅱ－a	底	－	－	5.5	内底に陰圏線。両面に貫入あり。	淡黄色の細粒子でやや緻密。	明緑灰色の釉を畳付まで施釉。	Ⅲ地区1層
	28			底	－	－	5.8	内底に目跡？付着。両面に貫入あり。	灰白色の細粒子でやや緻密。	黄緑灰色の釉を施釉後、内底と外底釉剥ぎ。	表採
	29		Ⅱ－b	底	－	－	6.8	内面に丸彫りで蓮弁文、陰圏線。	灰白色の微粒子で緻密。	緑灰色の釉を高台内面まで施釉。	Ⅲ地区1層
	30			底	－	－	5.4	内底に印花文（吉祥花文？）。両面に貫入あり。	灰白色の細粒子でやや緻密。	黄緑灰色の釉を高台内面まで施釉。	Ⅲ地区1層
	31		Ⅳ	口～底	9.2	2.7	5.4	全体に被熱の跡あり。	灰白色の微粒子で緻密。	淡緑灰色の釉を高台内面まで施釉。	Ⅲ地区1層
	32			口縁	－	－	－	口縁部を玉縁状に肥厚。両面に貫入あり。	灰白色の細粒子でやや緻密。	黄緑灰色の釉を両面に施釉。	Ⅱ地区遺物だまり
	33		Ⅴ	底	－	－	6.8	外面に箆彫りで刻花文。内面に箆彫りで唐草文、陽圏線。	灰白色の微粒子で緻密。	黄緑灰色の釉を両面に施釉（外底露胎？）。	Ⅲ地区1層
	34	盤	Ⅰ	口縁	23.8	－	－	内面に箆彫りで蓮弁文。	灰白色の微粒子で緻密。	黄緑灰色の釉を両面に施釉。	表採
	35			口～底	20.2	9.0	26.6	内面に箆彫りで蓮弁文、陰圏線。	灰白色の微粒子で緻密。	黄緑灰色の釉を両面に施釉（外底露胎？）。	Ⅲ地区1層
第9図（図版6）	36			底	－	－	13.2	両面に貫入あり。	灰白色の微粒子で緻密。	暗黄緑色の釉を全面施釉後、外底釉剥ぎ。	Ⅱ地区遺物だまり
	37			底	－	－	7.3	外底露胎部に墨？が塗布される（畳付は除く）。	白色の微粒子で緻密。	黄緑灰色の釉を外面腰部まで施釉。	表採
	38		Ⅱ	口縁	－	－	－	口縁部を玉縁状に肥厚。内面に箆彫りで陰圏線、牡丹唐草文。	灰白色の微粒子で緻密。	黄緑灰色の釉を両面に施釉。	Ⅲ地区1層
	39	鉢	－	口縁	39.4	－	－	内面に箆彫りで雷文。	灰白色の微粒子で緻密。	明緑灰色の釉を両面に施釉。	Ⅲ地区1層
	40	酒会壺	－	口縁	18.2	－	－	外面に陽刻の圏線、唐草文。両面に貫入あり。	灰白色の微粒子で緻密。	明黄緑色の釉を全面施釉後、口唇部釉剥ぎ。	表採
	41			底	－	－	18.0	外面に箆彫りで蓮弁文。内面に轆轤痕が残る。	灰白色の微粒子で緻密。	黄緑灰色の釉を全面施釉後、畳付釉剥ぎ。	表採
	42			底	－	－	17.0	外面に箆彫りで蓮弁文。大形の花生の可能性あり。	灰白色の細粒子でやや緻密。	明黄緑色の釉を施釉後、内底と外底釉剥ぎ。	表採
	43			胴	－	－	－	外面に陽刻の牡丹唐草文。全体に被熱の跡あり。	灰白色の細粒子でやや緻密。	黄緑灰色の釉を両面に施釉。	Ⅲ地区1層
	44			蓋	－	－	－	外面に陰圏線、櫛描文、片切彫りで牡丹文。	灰白色の微粒子で緻密。	明緑灰色の釉を外面から内面蓋端部まで施釉。	Ⅲ地区1層
	45			蓋	－	－	－	外面に陰圏線。	灰白色の微粒子で緻密。	黄緑灰色の釉を外面から内面蓋端部まで施釉。	表採
	46	瓶	－	口縁	4.4	－	－	両面とも無文。外面口縁部に稜が確認される。	灰白色の細粒子でやや緻密。	灰黄緑色の釉を両面に施釉。	Ⅲ地区西トレンチ1層
	47			胴	－	－	－	外面に陰圏線（？）。全体に被熱の跡あり。	灰白色の微粒子で緻密。	灰緑色の釉を両面に施釉。	表採
	48			胴	－	－	－	外面に片切彫りで牡丹唐草文（？）、陰圏線、蓮弁文。	灰白色の微粒子で緻密。	黄緑灰色の釉を両面に施釉。	表採
	49			胴	－	－	－	外面に陽刻の牡丹唐草文。全体に被熱の跡あり。	灰白色の細粒子でやや緻密。	黄緑灰色の釉を外面に施釉。	表採
	50			底	－	－	8.0	両面に貫入あり。	淡黄色の細粒子でやや緻密。	明緑灰色の釉を外面に施釉後、畳付釉剥ぎ。	Ⅲ地区1層
	51	型物	－	脚	－	－	－	外形は蹄等が成形され獣足形を呈する。全体に被熱の跡あり。	鈍黄色の細粒子でやや緻密。	黄緑灰色の釉を両面に施釉。	Ⅲ地区西トレンチ3層

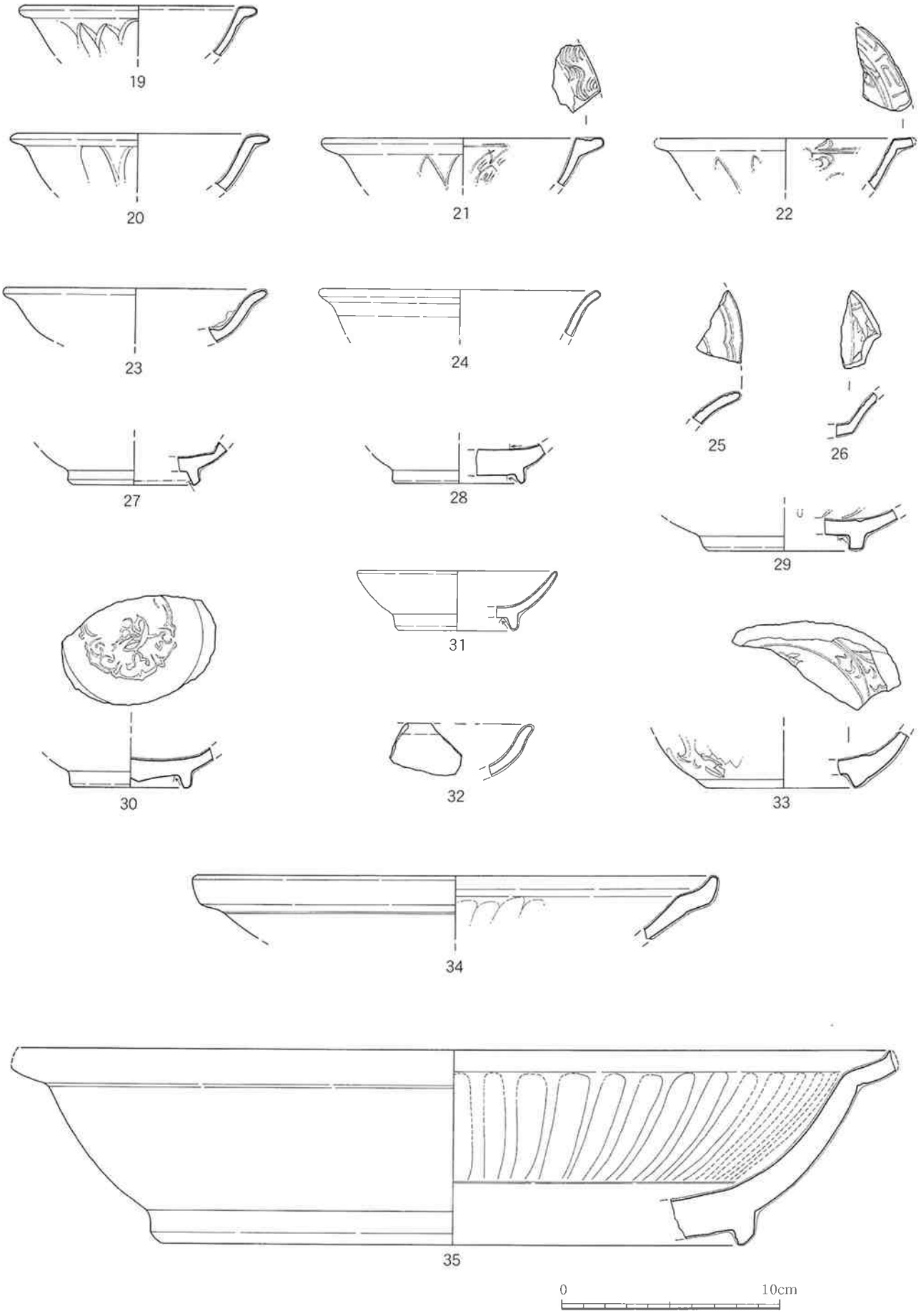
注：法量の項「－」は測定不可

第２表　青磁出土状況

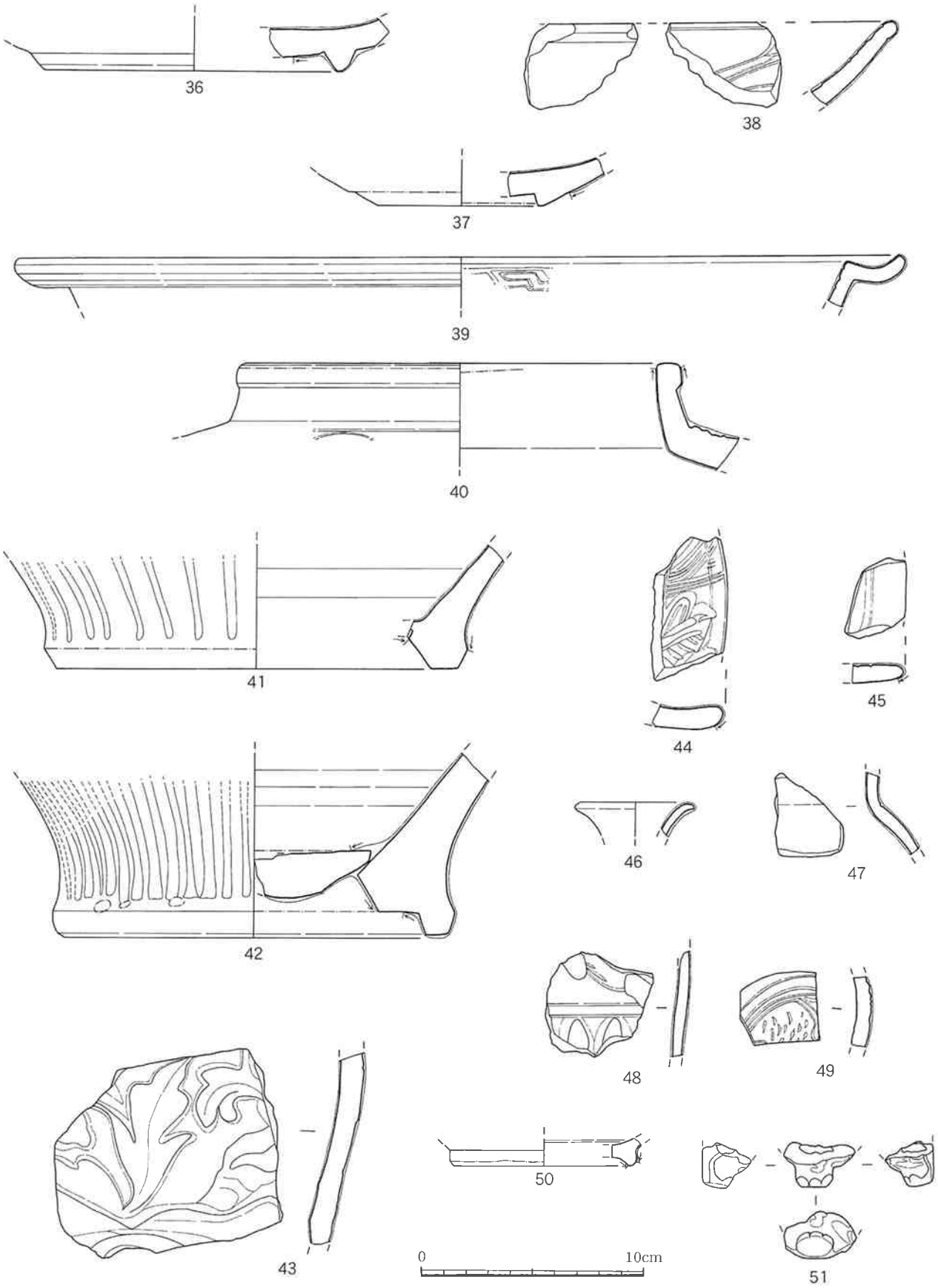
器種／分類 ＼ 出土地				Ⅰ地区			Ⅱ地区				Ⅲ地区						表採	不明	合計
				東トレンチ			2層	H－8		遺物だまり	1層	2層	西トレンチ			表採			
				表採	2層	4層		1層	遺構内				1層	2層	3層				
碗	Ⅰ	a	口縁		1						10		2				1		14
			胴								1								1
			底								5								5
		b	口縁								1								1
		不明	底								2						1		3
	Ⅱ	a	口縁	2							6								8
			胴								5								5
			底		2						1						2		5
		b	口縁		1						2						4		7
			胴							1	5		3		1		4		14
		c	口縁								2						1		3
		不明	口縁		1						11	1			2		5		20
			底														2		2
	不明		口縁								1								1
			胴								4						2		6
			底								12						3		15
皿	Ⅰ		口縁								6		1		1		2		10
			胴		1						1					1			3
			底								2						1		3
	Ⅱ	a	口縁		2						15		1	1	1		2		22
			胴								3						2	1	6
			底								3				1		2		6
		b	胴	1															1
			底								2								2
	Ⅲ		口縁													1	1		2
	Ⅳ		口～底								1								1
			口縁							1	5						1		7
			底								1								1
	Ⅴ		底								1								1
	不明		底								2						4	1	7
盤	Ⅰ		口～底								1								1
			口縁							1	4		3				7		15
			胴								3								3
			底							1	3		1				3		8
	Ⅱ		口縁								3								3
			胴													1			1
	不明		底								4						1		5
鉢			口縁			1					5								6
			胴								2				1		4		7
酒会壺			口縁														1		1
			胴		1					1	22						18		42
			底														2		2
			蓋								2						2		4
瓶			口縁										1				1		2
			頸														1		1
			胴								1				1		3		5
			底								1								1
香炉			口縁								1								1
型物			脚												1				1
不明			胴		5		1	1	1		105		1				77	3	194
合　計				3	14	1	1	1	1	5	267	1	13	1	9	3	160	5	485



第７図　青磁１　碗



第８図　青磁２　皿（19 ～ 33）、盤（34、35）



第９図　青磁３　盤（36 ～ 38）、鉢（39）、酒会壺（40 ～ 45）、瓶（46 ～ 50）、型物（51）

第２節　白磁

白磁は、碗・皿・鉢・ミニチュア製品等が検出されている。量的には碗が最も多く、その次に皿が続く。碗は明代を中心とし、皿は元代～明代と幅広い。産地では景徳鎮窯系、福建系、徳化窯系がある。以下に分類の概要について述べ、詳細は観察表に記す。

1. 碗（第 10 図 1 ～ 3）

碗は全体を窺える資料は検出されておらず、口縁部及び底部の特徴的なものを図化した。破片ではあるが、口縁部の形態により分類した。

Ⅰ類：腰部が折れ、胴部が内湾気味で口縁部が直口するもの。胴部に櫛による波状文を配する（1）。

Ⅱ類：口縁部が緩やかに外反するもの（2、3）。

碗底部：高台造り等で特徴的な資料を図化した（4 ～ 6）。

2. 小碗（第 10 図 7）

小碗は型成形であり、高台は内面が斜めに作られる。高台から腰を経て僅かに外反する口縁部へと至る。

3. 皿（第 10 図 8 ～ 15）

皿は口縁部が外反するものと直口するものがあり、底部は高台のあるものと碁笥底を呈するものが検出されている。産地では景徳鎮窯系が多い。口縁部等の形態により分類した。

Ⅰ類：腰折で口縁部が外反するもので、腰部を境に立ちあがる角度が変化する（8、9）。

Ⅱ類：小形の皿で外面胴部が僅かに脹らみ、口縁部で僅かに窄まる（10）。

Ⅲ類：底部が碁笥底のもので畳付から直線的に胴部へ向かう（14）。

皿底部：高台造り等で特徴的な資料を図化した（11 ～ 13、15）。

4. 鉢（第 10 図 16、17）

鉢は胴部（16）及び底部（17）が検出されている。胴部は内面に櫛により蓮弁文が施されている。

5. ミニチュア製品（第 10 図 18）

鉢形の製品が 1 点のみ検出されている。曲線を描く胴部から短い口縁部へと至る。

6. 馬上杯？（第 10 図 19）

馬上杯？の脚が 1 点検出されている。平坦に形成された畳付から立ち上がる。

第３表　白磁出土状況

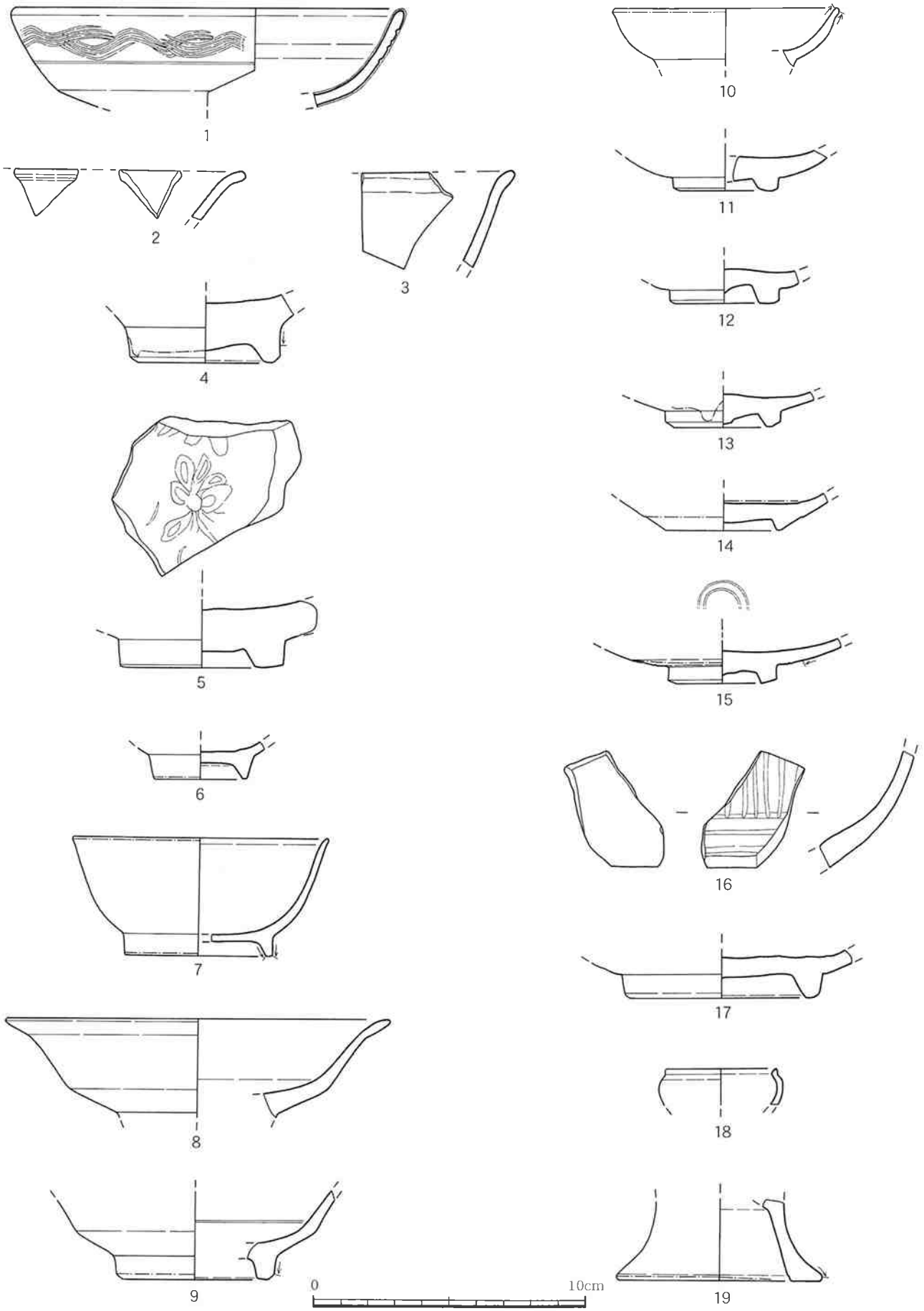
出土地＼器種			碗				小碗			皿			鉢			馬上杯	杯	袋物	不明	合計
			口～底	口縁	胴	底	口縁	胴	底	口縁	胴	底	口縁	胴	底	底	口縁	胴	胴	
Ⅰ地区	東トレンチ	2 層				1						1								2
Ⅲ地区	1 層		1	5	16	9	1	4	3	4	3	8	1		1	1	13	12	1	83
	西トレンチ	1 層		1		1	1			1				1			7	1		13
		2 層															2			2
		3 層			1	1		2			1	1	1					1		8
表採						1				1	1	2								5
合計			1	6	17	13	2	6	3	6	5	12	2	1	1	1	22	14	1	113

第４表　白磁観察一覧

単位:cm

図	番号	器種	分類	部位	口径	器高	底径	器形・成形・文様等の特徴	素地	釉色・施釉状況・貫入等	出土地
第10図（図版6）	1	碗	Ⅰ	口縁	14.2	－	－	腰が若干折れる。外面胴部に櫛による波状文及びその下に沈線を廻らす。内面に轆轤跡あり。16 世紀中葉～末。福建系。	灰白色	内外面に灰白色釉	Ⅲ地区 1 層
	2		Ⅱ	口縁	－	－	－	胴部から直線的に緩やかに外反する口縁部へ至る。文様は無い。16 世紀。景徳鎮窯系。	淡黄色	内外面に白色釉	Ⅲ地区 1 層
	3		Ⅱ	口縁	－	－	－	胴部から直線的に外反する口縁部へ至る。明代？。	白色で緻密	内外面に白色釉	Ⅲ地区 1 層
	4		－	底	－	－	5.0	高台を削り出し、畳付内外面を面取りしている。見込に轆轤跡あり。明代？。	白色で緻密	内外面に淡灰白色釉。高台外面まで施釉される。見込に付着物あり。	Ⅲ地区 1 層
	5		－	底	－	－	6.0	高台は削り出され、逆台形状に成形されている。見込に牡丹文？を陰刻する。13 世紀～ 14 世紀。	淡黄色で緻密	透明釉を見込に施釉する。見込に細かい貫入あり。	表採
	6	小碗	－	底	－	－	3.4	高台は逆三角形を呈する。外底は削りだしにより成形されるが、比較的雑である。18 世紀～ 19 世紀初期。徳化窯系。	白色	乳白色釉を畳付まで施釉。内外面ともに細かい貫入あり。	Ⅲ地区 1 層
	7		－	口～底	9.4	4.3	5.4	型により形成され、底部からそれほど張りのない腰部を経て僅かに外反する口縁部へと至る。17 世紀後半～ 18 世紀。徳化窯系。	白色で緻密	透明釉を内外面に施釉する。口唇部及び畳付は無釉。	Ⅲ地区 1 層
	8	皿	Ⅰ	口縁	14.0	－	－	折れる腰部から直線的に外反する口縁部へ至る。13 世紀～ 14 世紀。	淡灰白色で黒色粒子を含む	透明釉を内外面に施釉する。口唇部は無釉。	表採
	9		Ⅰ	底	－	－	5.5	腰折皿。内面胴部に沈線を廻らす。畳付外面は面取りされる。13 世紀～ 14 世紀。	淡灰白色で黒色粒子を含む	透明釉を高台外面まで施す。外底に黒色の付着物あり。	Ⅲ地区 1 層
	10		Ⅱ	口縁	8.3	－	－	小皿。胴部は僅かに内湾しながら窄まる口縁部へ至る。18 世紀～ 19 世紀前半。徳化窯系。	白色で緻密	内外面に透明釉を施すが、口唇部は無釉。	Ⅲ地区 1 層
	11		－	底	－	－	3.8	小皿。高台はやや雑に削り出しにより成形される。14 世紀～ 15 世紀。	淡黄色	内面に透明釉を薄く施釉する。内面に細かい貫入あり。	Ⅲ地区 1 層
	12		－	底	－	－	3.6	小皿。高台は断面逆台形を呈する。14 世紀～ 15 世紀。	淡黄色	内面に淡黄色釉を施す。釉中に気泡跡あり。	表採
	13		－	底	－	－	4.2	小皿。高台は削り出しにより内面は斜めに成形される。見込に轆轤跡あり。14 世紀～ 15 世紀。	淡黄色	内面は見込、外面は高台脇まで白色釉を施釉する。全面に細かい貫入あり。	Ⅲ地区 1 層
	14		Ⅲ	底	－	－	4.2	碁笥底。丁寧な作りで、僅かな畳付から直線的な胴部へ至る。内外面ともに轆轤跡が見られる。明代。	灰白色で緻密	外面は胴部下位、内面は見込際まで灰白色釉を施釉する。	Ⅰ地区 東トレンチ 2 層
	15		－	底	－	－	3.9	四角形状に高台を作り、緩やかに湾曲する胴部へ至る。見込に沈線で円を描く。内外面に轆轤跡あり。14 世紀～ 15 世紀。	白色	内面は全て、外面は胴部下位まで灰白色釉を施釉する。	Ⅲ地区 1 層
	16	鉢	－	胴	－	－	－	内面に蓮弁文を施す。13 世紀～ 15 世紀？。	白色	内外面ともに灰白色釉を施す。	Ⅲ地区 西トレンチ 1 層
	17		－	底	－	－	6.8	高台から胴部下位の部分である。内外面に轆轤跡あり。17 世紀～ 18 世紀前半。福建・広東系。	淡黄色	外底及び見込は無釉。	Ⅲ地区 1 層
	18	鉢？	－	口縁	4.0	－	－	ミニチュア製品。胴部から短い口縁部へと至る。	灰白色	透明釉を全面に施釉。	Ⅲ地区 西トレンチ 3 層
	19	馬上杯？	－	脚	－	－	7.2	底部から直線的に立ち上がる。清代？。	灰白色	白色釉を畳付以外に施釉。	Ⅲ地区 1 層

注：法量の項「－」は測定不可



第 10 図　白磁　碗（1 ～ 5）、小碗（6、7）、皿（8 ～ 15）、鉢（16 ～ 18）、馬上杯？（19）

第3節　染付

染付は碗・皿・鉢・杯・壺等が検出されている。景徳鎮窯系、福建・広東系、徳化窯系があり、年代的には景徳鎮窯系に15世紀後半～16世紀前半の古手のものと18世紀～19世紀代の新手のものがあり、福建・広東系、徳化窯系は17世紀～18世紀代のものが多い。

1. 碗（第11図）

碗は全体を窺うことのできるものはほとんどないため、口縁部の形態を基に分類を行った。福建・広東系も多い。

Ⅰ類：口縁部が外反もしくは口縁部が端反するもので、福建・広東系のものは高台から張る腰部を経て口縁部へ至り、胴部の文様が寿字文・散し梅文・草花文の3種を基本としている（1～11、15）。

Ⅱ類：口縁部が直口もしくはやや内湾するもので、景徳鎮窯系のものは小破片であるが口縁部に波濤文を配し、福建・広東系は胴部に梵字文等を配するものがある（12～14、16～19）。

その他、特徴的な胴部・底部資料を図示した。文様は胴部に蓮弁文を施すものが多い（20～29）。

2. 小碗（第12図40～52）

小碗は口縁部を基に2類に分類した。福建・広東系が多い。年代は18世紀代のものが多い。

Ⅰ類：口縁部が外反もしくは端反のもので、高台からそれほど張りのない胴部を経て口縁部へ至る。胴部文様は菊唐草文・牡丹唐草文・梵字文等がある（40、41、44～47、52）。

Ⅱ類：口縁部が直口するもの。胴部の文様は斜格子文・花文等がある（42、43、48）。

その他、特徴的な底部資料を図化した（49～51）。

3. 皿（第12図30～39）

皿は口縁部を主にして分類し、口縁部が分からないものは底部として扱った。

Ⅰ類：口縁部が外反するもの（30、31）。

Ⅱ類：口縁部が直口するもので、内面に梵字が配されているものを1点図化した（32）。

Ⅲ類：口縁部は窺えないが、底部が碁笥底を呈するもので、1点確認されている（36）。

4. 小杯（第12図53、54）

景徳鎮窯系の小杯が検出されているが、全体が窺えるものはない。年代は17世紀～18世紀代である。

5. 鉢（第12図55、56）

鉢は胴部と底部の2点を図化した。産地は福建・広東系である。

6. 壺（第12図57、58）

壺は胴部と口縁部が検出されている。

第５表　染付出土状況

出土地 / 器種		Ⅰ地区			Ⅱ地区				Ⅲ地区						表採	不明	合計
		東トレンチ		西Ｔ２	表採	１層	Ｈ－８	遺物	１層	遺構内トレンチ１		西トレンチ					
		２層	４層	１層			２層	だまり		１層	２層	１層	２層	３層			
碗	口～底											1					1
	口縁	1				2	2	4	51			15	1	8	11		95
	胴		1					8	54			1		14	4	1	83
	底	1			1	1		2	36		1	11		11	4		68
小碗	口～底								2								2
	口縁					1			15			2		7	2		27
	胴			1		1			15			2	1		6		26
	底							1	20			4	1	4	6		36
Ⅲ	口～底											2					2
	口縁								16			4	1	1		1	23
	胴								4			1		3			8
	底					1			43			8	1	8	2		63
小杯	口縁								1								1
	底								1								1
鉢	口縁								2					1			3
	胴								5					1	7		13
	底														2		2
壺	口縁								1								1
瓶	口縁												1				1
袋物	胴								1								1
水注	胴					1			5	1							7
蓮華									1								1
不明	口縁													1			1
	胴								2		1						3
合　計		2	1	1	1	7	2	15	275	1	2	51	6	59	44	2	469

※西Ｔ２：西トレンチ２

第６表ａ　染付観察一覧

単位：cm

図	番号	器種	分類	部位	口径	器高	底径	器形・成形・文様等の特徴	素地	釉色・施釉状況・貫入等	出土地
第11図（図版7）	1	碗	Ⅰ	口～底	15.4	6.1	7.1	外面口縁部、高台と外底に圏線、胴部に寿字文及び略された蓮弁文、内面口縁部及び胴部に圏線。18 世紀。福建系。	灰白色	呉須の発色はやや弱い。釉は僅かに青味を帯び、細かい気泡がある。畳付無釉。	Ⅲ地区 西トレンチ 1 層
	2			口縁	14.4	－	－	外面口縁部に圏線、胴部を区画し、梅花散し文及び寿字文、略された蓮弁文を配し、内面口縁部及び胴部に圏線を配する。福建系。18 世紀。	白色	呉須の発色は弱い。釉は僅かに青味を帯びる。	表採
	3			口縁	13.2	－	－	外面口縁部に圏線、胴部に梅花散し文及び略された蓮弁文、内面口縁部と胴部に圏線を施す。18 世紀。福建系。	白色	呉須の発色は良い。釉は青味を帯びる。	Ⅲ地区 西トレンチ 3 層
	4			口縁	－	－	－	外面口縁部に圏線、胴部に梅花散し文、内面口縁部と胴部に圏線を施す。18 世紀。福建系。	白色	呉須の発色は弱い。透明釉。	Ⅲ地区 1 層
	5			口縁	12.6	－	－	外面胴部に草花文、内面口縁部及び胴部に圏線を施す。18 世紀。福建系。	白色	呉須の発色は良い。透明釉。	Ⅲ地区 西トレンチ 1 層
	6			口縁	－	－	－	外面口縁部に圏線、胴部に草花文、内面口縁部に圏線を施す。18 世紀。福建系。	白色	呉須の発色は弱い。厚い透明釉中に気泡がある。	Ⅲ地区 1 層
	7			口縁	－	－	－	外面口縁部に圏線、胴部に草文？を施す。17 世紀後半～ 18 世紀前半。福建・広東系。	白色	呉須の発色は良い。透明釉。	Ⅲ地区 1 層
	8			口縁	－	－	－	外面胴部に草文？を施す。17 世紀～ 18 世紀初期。福建・広東系。	灰白色	呉須はやや黒ずむ。透明釉。見込際から無釉。	Ⅲ地区 西トレンチ 1 層
	9			口縁	12.8	－	－	外面口縁部に圏線、胴部にアラベスク文？、内面口縁部に圏線を施す。15 世紀後半～ 16 世紀前半。景徳鎮窯系。	白色	呉須の発色は良い。透明釉。	Ⅲ地区 1 層
	10			口縁	13.0	－	－	外面口縁部に圏線、胴部に寿字文、内面口縁部に圏線を施す。18 世紀。福建系。	白色	呉須の発色は良い。透明釉。	Ⅲ地区 1 層
	11			口縁	－	－	－	外面口縁部に圏線、胴部に寿字文、内面口縁部に圏線を施す。18 世紀。福建系。	白色	呉須の発色は良い。透明釉。	表採

注：法量の項「－」は測定不可

第６表ｂ　染付観察一覧

単位：cm

図	番号	器種	分類	部位	口径	器高	底径	器形・成形・文様等の特徴	素地	釉色・施釉状況・貫入等	出土地
第11図（図版7）	12	碗	Ⅱ	口縁	－	－	－	外面口縁部に圏線、胴部に梵字文、内面口縁部に圏線を施す。18 世紀。景徳鎮窯系。	白色	呉須の発色は良い。透明釉。	Ⅲ地区 1 層
	13			口縁	16.4	－	－	外面口縁部に圏線、胴部に梵字文、内面口縁部に圏線を施す。18 世紀。福建系。	灰白色	呉須の発色は良いが、釉が白くなっている部分が多く、文様が隠れている部分が多い。	Ⅲ地区 西トレンチ 1 層
	14		Ⅰ	口縁	－	－	－	外面口縁部に圏線、胴部に花弁文、内面口縁部に波濤文を施す。19 世紀前期～中葉。景徳鎮窯系。	白色	呉須の発色は良い。透明釉。	Ⅲ地区 西トレンチ 1 層
	15			口縁	－	－	－	外面口縁部に圏線、胴部に唐草文、内面口縁部に圏線を施す。15 世紀後半～ 16 世紀前半。景徳鎮窯系。	白色	呉須の発色は良い。僅かに青味のある釉。	Ⅲ地区 西トレンチ 1 層
	16		Ⅱ	口縁	－	－	－	外面口唇部が僅かに窪む。外面胴部に丸文及び草文を施す。18 世紀～ 19 世紀初期。福建系。	白色	呉須の発色は良い。僅かに青味のある釉。	Ⅲ地区 西トレンチ 3 層
	17			口縁	14.2	－	－	外面胴部に印花文を施す。17 世紀末～ 18 世紀前半。福建系。	灰白色	呉須の発色は弱い。僅かに青味のある釉。	Ⅲ地区 1 層
	18			口縁	－	－	－	外面口縁部に圏線、胴部に波濤文、内面口縁部に圏線を施す。16 世紀前半～中葉。景徳鎮窯系。	白色	呉須の発色は良い。僅かに青味のある釉。	Ⅲ地区 1 層
	19			口縁	－	－	－	外面胴部に波濤文、内面口縁部に圏線を施す。15 世紀後半～ 16 世紀前半。景徳鎮窯系。	白色	呉須の発色は良い。透明釉。	Ⅲ地区 1 層
	20		－	胴	－	－	－	外面胴部に蔓唐草文及び略された蓮弁文、内面胴部に圏線を施す。18 世紀。福建系。	白色	呉須の発色は良い。透明釉。	Ⅲ地区 西トレンチ 3 層
	21			底	－	－	7.1	腰折碗。外面高台に圏線、胴部に不明の文様を施す。17 世紀後半～ 18 世紀前半。福建・広東系。	灰白色	呉須の発色は弱い。青白色釉。外面は畳付付近まで施釉され、内面は見込中央を施釉。	Ⅲ地区 西トレンチ 1 層
	22			底	－	－	4.2	高台内面を斜めに作る。見込に蓮池文を施す。14 世紀。景徳鎮窯系。	白色で緻密	呉須の発色は良い。透明釉。	Ⅰ地区 東トレンチ 2 層
	23			底	－	－	6.4	腰折碗。外面胴部にアラベスク文、見込に十字花文を施す。16 世紀前期～中葉。景徳鎮窯系。	白色	呉須の発色は良い。透明釉で、畳付は無釉。	Ⅲ地区 1 層
	24			底	－	－	6.4	外面胴部にラマ式蓮弁、高台に圏線、見込に圏線及び草花文を施す。19 世紀前半～中葉。景徳鎮窯系。	白色で緻密	呉須の発色は良い。透明釉で細かい気泡がある。畳付無釉。	Ⅲ地区 1 層
	25			底	－	－	6.1	外面胴部にラマ式蓮弁、高台に圏線、外底に印章文、見込に圏線及び草花文を施す。19 世紀前半～中葉。景徳鎮窯系。	白色	呉須の発色は良い。釉は僅かに青味を帯びる。畳付無釉。	表採
	26			底	－	－	7.4	外面高台に圏線、外底に圏線及び宝文、見込に宝文を施す。18 世紀。福建系。	白色	呉須の発色は良い。透明釉。畳付無釉。	Ⅲ地区 西トレンチ 3 層
	27			底	－	－	6.4	外面胴部に略された蓮弁文、外底に銘、見込に圏線及び三点文を施す。18 世紀。福建系。	白色	呉須の発色は弱い。透明釉。畳付無釉。	Ⅲ地区 西トレンチ 1 層
	28			底	－	－	8.4	外面胴部に略された蓮弁文、外底に圏線及び兎文、見込に圏線及び龍文？を施す。18 世紀。福建系。	白色で緻密	呉須の発色は良い。透明釉。畳付無釉。	表採
	29			底	－	－	－	高台を高く形成する。見込に唐草文を施す。16 世紀。景徳鎮窯系。	淡黄色	呉須の発色は弱い。透明釉。畳付無釉。	Ⅲ地区 西トレンチ 1 層
第12図（図版8）	30	Ⅲ	Ⅰ	口～底	15.9	3.2	9.0	畳付は内外面ともに面取される。文様は外面口縁部及び高台脇に圏線、外底に「実」文？、内面口縁部は圏線、胴部及び見込に草花文を施す。18 世紀。福建系。	白色	呉須の発色は良い。透明釉。畳付無釉。	Ⅲ地区 西トレンチ 1 層
	31			口～底	15.2	3.0	7.4	畳付は内外面ともに面取りされる。外面口縁部及び高台脇に圏線、胴部に簡略化された霊芝文、外底に「和美」文、内面に仙芝祝寿文を施す。18 世紀。福建系。	灰白色	呉須の発色は良い。透明釉。畳付無釉。	Ⅲ地区 西トレンチ 1 層
	32		Ⅱ	口縁	15.0	－	－	内面胴部に梵字文、見込に圏線を施す。18 世紀。景徳鎮窯系？。	白色で緻密	呉須の発色は良い。透明釉。	Ⅲ地区 1 層
	33		－	底	－	－	9.0	見込に宝文及び圏線を施す。18 世紀。景徳鎮窯系。	白色で緻密	呉須の発色は良い。透明釉。畳付無釉。	Ⅲ地区 1 層
	34			底	－	－	－	全体的に薄く成形され、畳付は欠けている。外面胴部に草花文？、見込に圏線及び十字花文？を施している。15 世紀後半～ 16 世紀前半。景徳鎮窯系。	白色	呉須の発色は良い。透明釉。	Ⅲ地区 1 層
	35			底	－	－	－	小型の皿。外面胴部に唐草文、高台に圏線、見込に圏線及び十字花文を施す。16 世紀前期～中葉。景徳鎮窯系。	白色	呉須の発色はよい。透明釉。畳付無釉。	Ⅲ地区 1 層

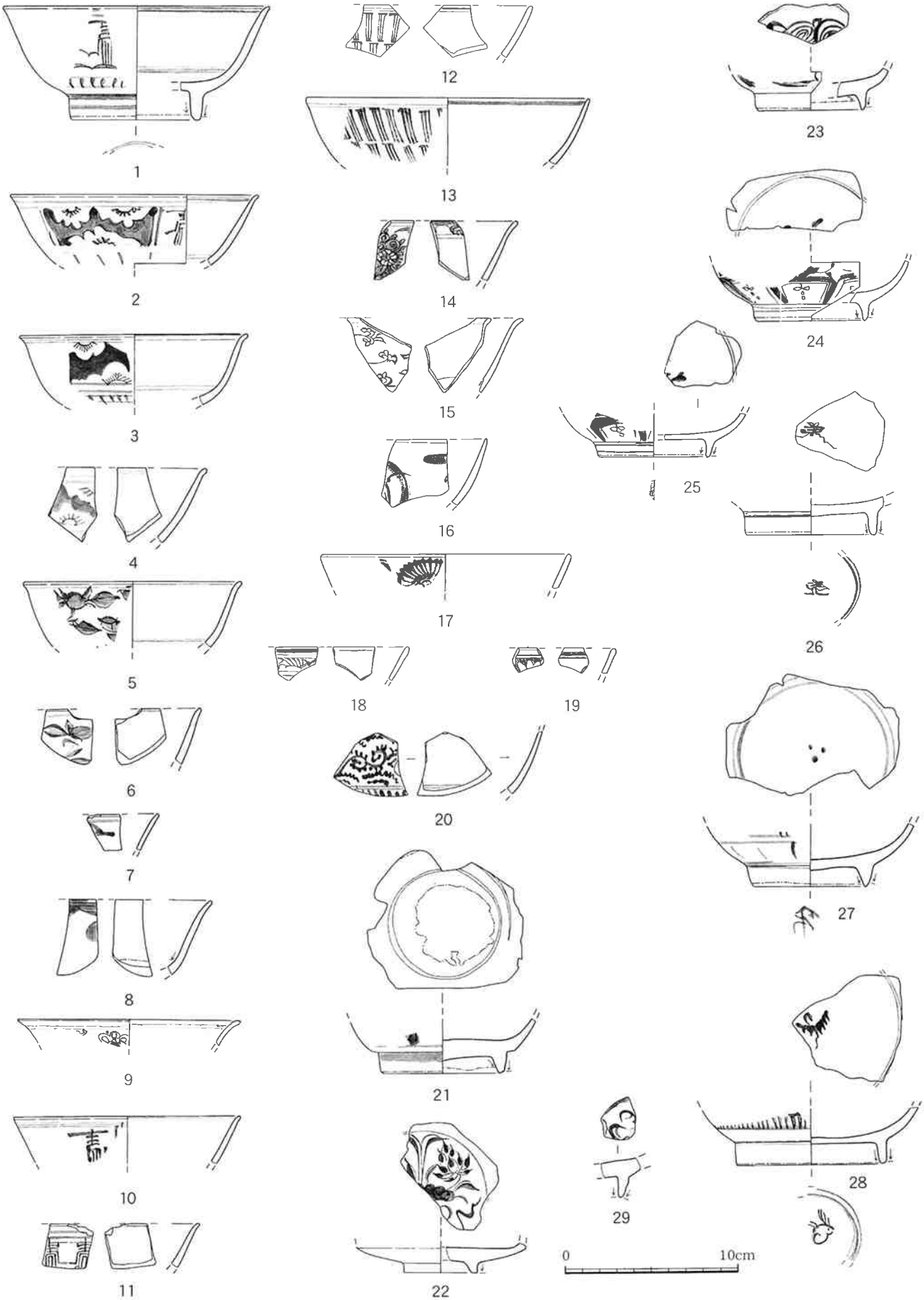
注：法量の項「－」は測定不可

第６表ｃ　染付観察一覧

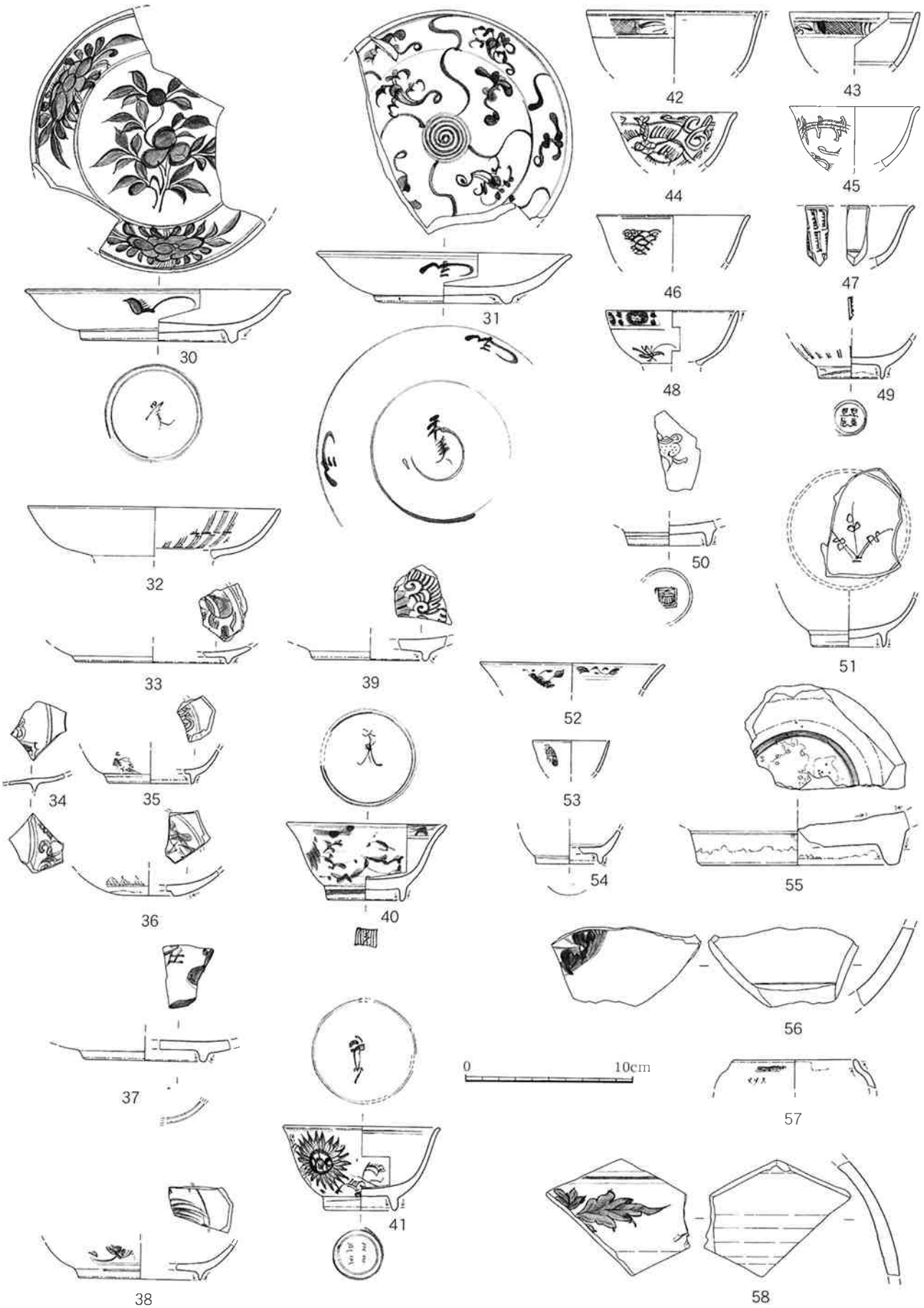
単位：cm

図	番号	器種	分類	部位	口径	器高	底径	器形・成形・文様等の特徴	素地	釉色・施釉状況・貫入等	出土地
第12図（図版8）	36	皿	Ⅲ	底	－	－	3.6	碁笥底皿。外面胴部に芭蕉文、見込に圏線及び花鳥文？を施す。16 世紀前半～中葉。景徳鎮窯系。	灰白色	呉須の発色は弱い。畳付無釉。	Ⅲ地区 1 層
	37		－	底	－	－	7.4	畳付外面は面取されている。外面胴部及び外底に圏線、見込に「志在書中」の「在」文及び人物文と思われる文様を施している。18 世紀。福建系。	白色	呉須の発色はよい。畳付無釉。	Ⅲ地区 1 層
	38			底	－	－	7.2	高台断面を三角に形成している。外面胴部に宝相華唐草文及び圏線、見込に玉取獅子文を施す。16 世紀前半～中葉。景徳鎮窯系。	白色	呉須の発色はよい。畳付無釉。	Ⅲ地区 1 層
	39			底	－	－	6.6	高台は内外面ともに面取されている。文様は太く描かれ、見込に菊花文及び蔓草文を施す。18 世紀。福建系。	白色	呉須の発色はよい。透明釉。畳付無釉。	Ⅲ地区 1 層
	40	小碗	Ⅰ	口～底	9.5	4.6	4.5	腰部から口縁部に向けて緩やかに外反する。外面口縁部及び高台に圏線、胴部に牡丹唐草文、外底に字款、内面口縁部に花文帯、見込に花文を施す。19 世紀前半～中葉。景徳鎮窯系。	白色	呉須の発色はよいが、釉中の細気泡のため輪郭が明確でない。透明釉。畳付無釉。	Ⅲ地区 1 層
	41			口～底	9.2	5.0	4.2	緩やかに口縁部が外反する。畳付外面は面取している。外面口縁部に圏線、胴部に菊唐草文及び略された蓮弁文、外底に圏線及び字款、内面口縁部に圏線、見込に花文？を施す。18 世紀後半～ 19 世紀前半。景徳鎮窯系。	白色	呉須の発色はよい。透明釉。畳付無釉。	Ⅲ地区 1 層
	42			口縁	4.2	－	－	外面口縁部を区画し、その中を斜格子文及び草文？、内面口縁部に圏線を施す。18 世紀。徳化窯系。	白色	呉須の発色はやや弱い。透明釉。口唇部無釉。	Ⅲ地区 1 層
	43		Ⅱ	口縁	7.8	－	－	外面口縁部を区画し、その中を斜格子文及び草文？、内面口縁部及び胴部に圏線を施す。18 世紀。徳化窯系。	白色	呉須の発色はやや弱い。透明釉。口唇部無釉。	Ⅲ地区 1 層
	44		Ⅰ	口縁	7.6	－	－	外面口縁部に圏線、胴部に牡丹唐草文を施す。18 世紀末～ 19 世紀中葉。徳化窯系。	白色	呉須の発色は良い。透明釉。	Ⅲ地区 西トレンチ 3 層
	45			口縁	7.8	－	－	外面口縁部に圏線、胴部に牡丹唐草文を施す。18 世紀末～ 19 世紀中葉。徳化窯系。	白色	呉須の発色は良い。透明釉。	Ⅲ地区 1 層
	46			口縁	9.2	－	－	外面口縁部に圏線、胴部に花唐草文を施す。18 世紀。景徳鎮窯系。	白色	呉須の発色は良い。透明釉。	Ⅲ地区 西トレンチ 3 層
	47			口縁	－	－	－	外面胴部に梵字文、内面口縁部及び胴部に圏線を施す。18 世紀後半～ 19 世紀前半。景徳鎮窯系。	僅かに灰白色	呉須の発色は良いが、釉中の細気泡により滲んだように見える。	Ⅲ地区 西トレンチ 3 層
	48		Ⅱ	口縁	8.0	－	－	外面口縁部に花と思われる丸文及び縦位の点文、胴部に略されたアラベスク文を施す。18 世紀。徳化窯系。	白色	呉須の発色は良い。透明釉。	Ⅲ地区 1 層
	49		－	底	－	－	3.8	外面胴部及び見込に梵字文、外底に圏線及び字款を施文する。18 世紀後半～ 19 世紀前半。景徳鎮窯系。	白色	呉須の発色は良い。透明釉で釉中に細気泡あり。畳付無釉。	Ⅲ地区 西トレンチ 1 層
	50			底	－	－	5.0	外底に圏線及び銘、見込に宝文を施す。18 世紀。景徳鎮窯系。	白色	呉須の発色は良い。透明釉。見込に僅かに貫入がある。畳付無釉。	Ⅲ地区 西トレンチ 1 層
	51			底	－	－	4.1	見込が若干窪み、高台は内傾するように作られる。見込に梅樹文、高台外面及び内面胴部に圏線を施す。17 前半。景徳鎮窯系。	白色	呉須の発色は良い。透明釉。高台外面に厚く施釉。	Ⅲ地区 2 層
	52			口縁	11.0	－	－	外面口縁部に圏線、胴部に草花文、内面口縁部に草花文を施す。15 世紀後半～ 16 世紀前半。景徳鎮窯系。	白色	呉須の発色は良いが、滲んでいる。透明釉。	Ⅲ地区 1 層
	53	小杯	－	口縁	5.0	－	－	直線的に口縁部へ至る。外面口縁部に圏線、胴部に草花文？を施す。17 世紀後半～ 18 世紀前半。景徳鎮窯系。	白色で緻密	呉須の発色は良い。透明釉。	Ⅲ地区 1 層
	54			底	－	－	－	高台から腰部はそれほど張らずに立ち上がる。内外面ともに圏線を施す。17 世紀。景徳鎮窯系。	白色	呉須の発色は良い。透明釉。	Ⅲ地区 1 層
	55	鉢	－	底	－	－	11.4	見込の中心部は若干窪み、高台内面は面取されている。見込に圏線を施す。17 世紀後半～ 18 世紀前半。福建・広東系。	灰白色	呉須の発色は良い。高台外面及び外底、見込に繊維の様な物が付着。見込に気泡跡あり。透明釉。	表採
	56			胴	－	－	－	外面に草花文？、内面に圏線を施す。18 世紀。福建・広東系。	淡黄色	呉須は黒味が強い。透明釉。	Ⅲ地区 1 層
	57	壺	－	口縁	9.0	－	－	肩から窄まない頸を経て口縁に至る。外面頸部に圏線、肩部に「×」文を並べる。17･18 世紀。景徳鎮窯系？。	白色	呉須の発色は弱い。透明釉。口縁部無釉。	Ⅲ地区 1 層
	58			胴	－	－	－	外面に圏線及び草花文を施す。15 世紀末～ 16 世紀。景徳鎮窯系。	白色	呉須の発色は弱い。透明釉。	表採

注：法量の項「－」は測定不可


1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
0
10cm

第 11 図　染付 1　碗



第 12 図　染付 2　皿（30 ～ 39）、小碗（40 ～ 52）、小杯（53、54）鉢（55、56）、壺（57、58）

第４節　褐釉陶器

褐釉陶器は総数 1,576 点を数え、中国産陶磁器の中でも最も多量に出土している。器種は壺・鉢などが確認されているが、壺の検出例が圧倒的に多い。他の中国産陶磁器と同様に全形が窺えるような資料は少数だが、特徴的な資料を第 13 図に図示した。ここでは器種別の分類概念を記し、詳細は観察表に提示する。なお、タイ産の褐釉陶器については別項で扱う。

1. **壺**（第 13 図 1 ～ 9、11 ～ 16）

Ⅰ類：短頸で口縁部が内傾し、端部の断面形態が方形状を呈し口唇部を水平に削るもの（1 ～ 5）。

Ⅱ類：長頸で口縁部がわずかに外反し、端部が玉縁状を呈するもの（6、7、14）。

Ⅲ類：胴部両面に叩き成形痕や線刻文様がみられるもの。小破片のため全形は不明（11 ～ 13）。

壺底部：底部資料の中で特徴的なものを図化した（15、16）。

2. **鉢**（第 13 図 10）

直口口縁の鉢で、口唇部を舌状に成形し端部を水平に削る。外面から内面口縁部まで施釉されるが風化のため剥離が著しい。底部形態は不明。

第７表　褐釉陶器出土状況

出土地＼器種／分類			壺										鉢	不明			合計
			Ⅰ			Ⅱ		Ⅲ	不明								
			口縁	胴	底	口縁	底	胴	口縁	胴	底	把手	口縁	口縁	胴	底	
Ⅰ地区	東トレンチ	2 層	3	3						30							36
		4 層								1							1
Ⅱ地区	1 層			4						6							10
	2 層									1							1
	H－8	1 層								1							1
	遺物だまり				1					2							3
Ⅲ地区	表採									1							1
	1 層			448			1	18	11	89	7	1	1		6		582
	2 層			2													2
	西トレンチ	1 層		12				7		3					2		24
		2 層		2				1		1							4
		3 層		4						9	1				3		17
表採			15	142	3	2		2	2	692	15	1			14	1	889
不明								1		3				1			5
合計			18	617	4	2	1	29	13	839	23	2	1	1	25	1	1576

第８表ａ　褐釉陶器観察一覧

単位：cm

図	番号	器種	分類	部位	口径	器高	底径	器形・成形・調整	素地・混入物	釉色・施釉状況	出土地
第13図（図版9）	1	壺	Ⅰ	口縁	19.0	－	－	外面に轆轤痕が残る。	灰黄色の細粒子。白色鉱物を含む。	暗褐色の釉を施釉。	表採
	2			口縁	－	－	－	外面に轆轤痕が残る。内面に石灰が付着。	褐灰色の細粒子。白色鉱物を含む。	暗灰黄色の釉を施釉。一部釉剥げ。	表採
	3			口縁	－	－	－	口縁部は一部剥離。両面に轆轤痕が残る。	灰黄褐色の細粒子。白色鉱物を含む。	黒褐色の釉を施釉。	表採
	4			底	－	－	13.6	器形は上げ底を呈する。両面に轆轤痕が残る。	灰白色の細粒子。	鈍黄褐色の釉を外面腰部まで施釉。	表採
	5			底	－	－	－	二次的な被熱を受けた跡がある。	鈍黄橙色の細粒子。	鈍黄褐色の釉を施釉。	Ⅱ地区遺物だまり
	6		Ⅱ	口縁	－	－	－	外面に轆轤痕が残る。	灰黄色の細粒子。白色鉱物を含む。	黒褐色の釉を施釉。	表採

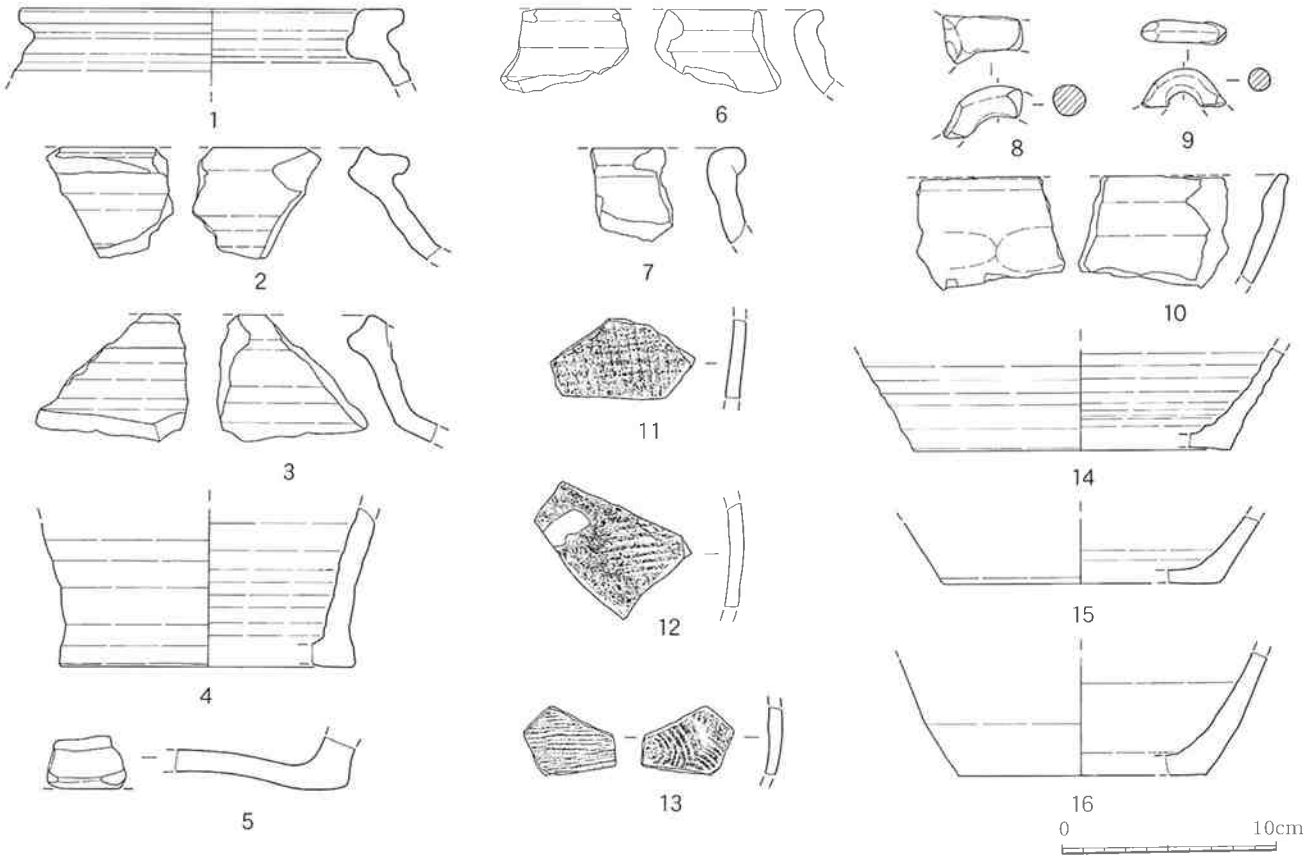
注：法量の項「－」は測定不可

第８表ｂ　褐釉陶器観察一覧

単位：cm

図	番号	器種	分類	部位	口径	器高	底径	器形・成形・調整	素地・混入物	釉色・施釉状況	出土地
第13図（図版9）	7	壺	Ⅱ	口縁	－	－	－	外面に轆轤痕が残る。	灰褐色の粗粒子。白色鉱物を多く含む。	褐灰色の釉を施釉。	表採
	8		－	把手	－	－	－	肩部に貼付される紐状の横耳である。	灰色の細粒子。	黒褐色の釉を施釉。	表採
	9		－	把手	－	－	－	肩部に貼付される紐状の横耳である。	赤橙色の細粒子。白色鉱物を含む。	灰褐色の釉を施釉。	Ⅲ地区1層
	10	鉢	－	口縁	－	－	－	外面に削り調整痕、内面に指頭痕がみられる。	灰白色の細粒子。浅黄橙色鉱物を含む。	全体的に釉剥げが著しく詳細は不明。	Ⅲ地区1層
	11	壺	Ⅲ	胴	－	－	－	外面に格子状の叩き痕がみられる。	灰褐色の微粒子。淡橙色鉱物を含む。	灰褐色の釉を外面に施釉。	Ⅲ地区西トレンチ1層
	12			胴	－	－	－	両面に叩き痕がみられる。	灰黄褐色の細粒子。灰白色鉱物を含む。	灰色の釉を外面に施釉。	Ⅲ地区1層
	13			胴	－	－	－	外面に線刻文様（叩き痕？）、内面に青海波の叩き痕がみられる。	灰白色の細粒子。	灰黄緑色の釉を施釉。	表採
	14		Ⅱ	底	－	－	15.8	外底に石灰？が付着。両面に轆轤痕が残る。	明赤褐色の細粒子。白色鉱物を含む。	暗赤褐色の釉を施釉。	Ⅲ地区1層
	15		－	底	－	－	12.8	内面に轆轤痕が残る。	鈍赤褐色の細粒子。黄橙色鉱物を含む。	灰黄褐色の釉を外面腰部まで施釉。	Ⅲ地区1層
	16		－	底	－	－	11.6	内面に調整痕？が残る。	褐灰色の細粒子。	施釉範囲は欠損。	Ⅲ地区西トレンチ3層

注：法量の項「－」は測定不可



第13図　褐釉陶器　壺（1～9、11～16）、鉢（10）

第５節　その他の中国産陶磁器

その他の中国産陶磁器として、色絵・瑠璃釉・鉄釉染付・青磁染付・黒釉陶器・翡翠釉・法花・三彩・銅緑釉・無釉陶器が出土している。概ね 16 ～ 17 世紀頃に位置付けられるもので、量的には少ないが首里城からの出土頻度の高い資料である。以下に種類別の概要を記し、個々の詳細は第９表に示す。

1. 色絵（第 14 図１～７）

色絵は碗、小碗、小杯、皿などの７点を図示した。１～３は端反口縁を呈する大振りの碗で、外面に赤や緑などで寿字文、蓮弁文などを施す。４、５は外反口縁の小碗で、外面に赤・青で詩句文？や字款を施す。６は器高の低い外反口縁の皿で、内面に赤や緑で花文を施す。７は型造りの小杯で、外面に赤や緑で草花文？を施す。

2. 瑠璃釉（第 14 図８～ 14）

瑠璃釉は６点を図示した。９～ 11 は直口口縁を呈する型造りの碗で、外面に瑠璃釉、内面に透明釉を施釉。８は型造りの小杯で、口唇部と畳付を露胎とする。外面に瑠璃釉、内面に灰白色釉を施釉。12 は外反口縁の皿で、口縁部外面に稜を有する。両面に瑠璃釉を施釉。13 は口縁部が内湾する鉢で、外面に瑠璃釉、内面に明青灰色釉を施釉。14 は仙盞瓶の蓋で、底端部を鍔縁状に成形する。釉は外面のみ施釉。

3. 鉄釉染付（第 14 図 15 ～ 17）

鉄釉染付は小杯が確認されている。15 と 16 は端反口縁の小杯で、内底に圏線と山水文を施す。17 も同じく端反口縁だが、口径が 15 と 16 に比して大きい。いずれも外面は鉄錆釉、内面は透明釉の掛け分け。

4. 青磁染付（第 14 図 18 ～ 20）

青磁染付も鉄釉染付と同様に小杯のみの出土である。器形は口縁部がわずかに外反するもので、外底に字款、内面に八卦文、内底に太極図を施す。いずれも外面は明緑灰色の青磁釉、内面は透明釉の掛け分け。

5. 黒釉陶器（第 14 図 21 ～ 23）

黒釉陶器は天目茶碗を３点図示した。器形は口縁部が「鼈甲口」を呈するもので、高台脇を水平に削り、高台内刳りは浅い。釉薬は黒色と茶褐色の釉を二度掛けし、外面腰部以下を露胎とする。

6. 翡翠釉（第 14 図 24）

24 は外反口縁を呈する皿の口縁部片で、両面に翡翠釉が施釉されるが、風化のため剥離が著しい。

7. 法花（第 14 図 25、26）

酒会壺の蓋と身が確認されている。25 は蓋の端部片で、両面に藍色の釉薬を施すが剥離が著しい。26 は酒会壺の胴部片で、外面にラマ式蓮弁文が施される。

8. 三彩（第 14 図 27）

27 は鶴形水注の胴部片で、外面に型押しの植物文？が施される。外面に緑釉が施釉される。

9. 銅緑釉（第 14 図 28、29）

銅緑釉は鉢が出土している。鍔縁口縁から底部に至る器形が想定されるが、小破片のため詳細は不明。

10. 無釉陶器（第 14 図 30 ～ 34）

30 ～ 34 は中国江蘇省の宜興窯を産地とする茶器類である。30 と 31 は蓋で、30 は頂部に宝珠状の摘を貼付する。31 は蓋甲部が階段状を呈する。いずれも急須に伴う蓋である。32 は急須の注口で、全形が緩やかなＳ字状を呈する。33 は弧状の把手で、身は大きめの急須が予想される。34 は八角形の底部で、高台を持たず外底を削り出す。

第９表　その他の中国産陶磁器観察一覧

単位：cm

図	番号	種類	器種	部位	口径	器高	底径	観察事項	出土地
第14図（図版10）	1	色絵	碗	口縁	16.6	－	－	外面に赤と青で連弧文（？）、蝙蝠文（？）、寿字文。（福建　18ｃ	表採
	2			口縁	13.9	－	－	外面に赤と緑で圏線、円形窓絵（中に草文）、花文。（福建　18ｃ）	Ⅲ地区 西トレンチ３層
	3			底	－	－	6.4	外面に赤と緑で円形窓絵、圏線、蓮弁文。釉の発色は鈍く白濁する。内底蛇の目釉剥ぎ。（福建　18ｃ）	Ⅲ地区 １層
	4		小碗	口縁	8.5	－	－	外面に赤で寿字文？（徳化窯　18ｃ後半～19ｃ前半）	Ⅲ地区 １層
	5			底	－	－	3.3	外面に赤で圏線、外底に青で字款。（景徳鎮　18ｃ後半～19ｃ初）	Ⅲ地区 １層
	6		皿	口縁	－	－	－	内面に赤と緑で圏線、円形窓絵（中に草文）、花文。（福建　18ｃ～）	Ⅲ地区 西トレンチ３層
	7		小杯	口縁	3.4	－	－	外面に赤と緑で唐草文（花弁文？）。（景徳鎮？　清代）	Ⅲ地区 １層
	8	瑠璃釉	小杯	口～底	3.3	1.9	1.9	外底面に型皺あり。（徳化窯　18ｃ後半～19ｃ前半）	Ⅲ地区 西トレンチ３層
	9		碗	口～底	9.1	4.2	4.6	瑠璃釉の発色は不良。外面に一部黒点？がみられる。外底面は一部露胎。本土産の可能性あり。（清代？）	Ⅲ地区 西トレンチ１層
	10			口縁	－	－	4.7	瑠璃釉の発色は不良。畳付は露胎でアルミナ？が付着。本土産の可能性あり。（清代？）	Ⅲ地区 １層
	11			口縁	－	－	4.4	蛇の目高台。外底面は露胎。（景徳鎮　明代）	表採
	12		皿	口縁	－	－	－	両面とも風化による釉の剥離が著しい。（景徳鎮　明代）	Ⅲ地区 １層
	13		鉢？	口縁	－	－	－	内面に轆轤痕あり。（景徳鎮　16ｃ～17ｃ？）	Ⅲ地区 １層
	14		蓋	庇	－	－	7.5	外面は稜を有し階段状を呈する。内面は露胎。（景徳鎮　16ｃ？）	Ⅰ地区 東トレンチ２層
	15	鉄釉染付	小碗	口縁	7.0	－	－	内面に二重圏線。（景徳鎮　17ｃ～18ｃ初）	Ⅲ地区 １層
	16			底	－	－	3.7	内底に二重圏線、山水文。（景徳鎮　17ｃ後半～18ｃ初）	Ⅲ地区 １層
	17			口縁	8.0	－	－	鉄錆釉はの発色は良好。口唇部は口禿。（徳化窯？　18ｃ～19ｃ前）	Ⅲ地区 １層
	18	青磁染付	小碗	口縁	9.6	－	－	内面に圏線、八卦文（坤と艮の算木）、太極図。（18ｃ後～19ｃ前半）	Ⅲ地区 １層
	19			底	－	－	3.3	外底に字款、内底に太極図。（18ｃ後～19ｃ前半）	Ⅲ地区 西トレンチ３層
	20			底	－	－	4.0	外底に二重圏線、字款、内底に太極図。（18ｃ後～19ｃ前半）	Ⅲ地区 １層
	21	黒釉陶器	天目茶碗	口縁	10.8	－	－	素地は灰黄色細粒子。口縁部の外反は弱い。（福建　13ｃ～15ｃ）	Ⅲ地区 ２層
	22			底	－	－	3.6	素地は灰白色微粒子で微細な気泡あり。内底に陽圏線？外底面に成形痕が残る。（福建　13ｃ～15ｃ）	不明
	23			底	－	－	3.6	素地は灰白色細粒子で微細な気泡あり。外底面に成形痕が残る。（福建　13ｃ～15ｃ）	Ⅲ地区 １層
	24	翡翠釉	皿	口縁	14.5	－	－	両面に轆轤痕、貫入がみられる。（景徳鎮　16ｃ）	Ⅱ地区 遺物だまり
	25	法花	蓋	庇	－	－	15.4	両面の釉は剥落が著しく、下地の白土のみが残存。（景徳鎮　明代）	Ⅲ地区 １層
	26		酒会壺	胴	－	－	－	外面に藍色釉と水色釉、内面に緑釉を施釉。外面に貼付や線刻で界線、ラマ式蓮弁文。（景徳鎮　明代）	Ⅲ地区 １層
	27	三彩	水注	胴	－	－	－	外面に型押しの植物文（蓮？）。内面に成形痕あり。（明代）	表採
	28	銅緑釉	鉢？	口縁	9.0	－	－	口縁部の断面形態はＴ字状を呈する。両面に銅緑釉を施釉。（清代）	Ⅲ地区 西トレンチ３層
	29			底	－	－	－	高台と内底は露胎。袋物の可能性もある。（清代）	Ⅲ地区 １層
	30	無釉陶器	急須	撮	1.6	－	－	撮中央に約2㎜、蓋裏中央に約5㎜の孔を穿つ。朱泥。（宜興窯　清代）	表採
	31			庇	－	－	6.8	蓋外面に金彩？で文様を施す。紫泥。（宜興窯　清代）	Ⅲ地区 １層
	32			注口	－	－	－	外面は丁寧に磨かれる。紫泥。（宜興窯　清代）	Ⅱ地区 Ｈ－８　１層
	33			把手	－	－	－	素地は赤灰色微粒子。紫泥。（宜興窯　清代）	Ⅲ地区 １層
	34			底	－	－	－	八角形に面取りされた急須の底部。内面の成形は雑。朱泥。（宜興窯　清代？）	Ⅲ地区 西トレンチ１層

注：法量の項「－」は測定不可

第 10 表　その他の中国産陶磁器出土状況

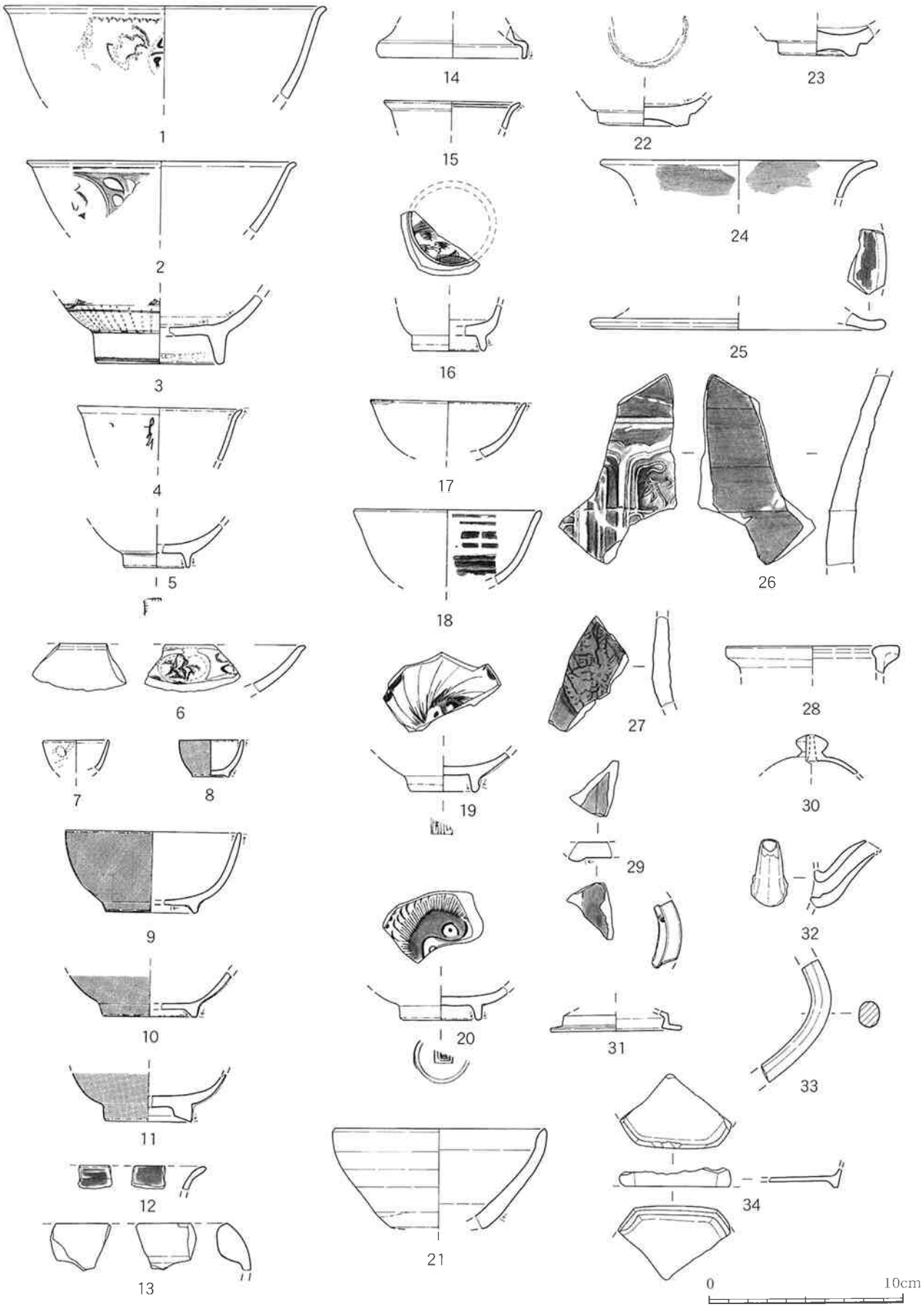
器種＼出土地			Ⅰ地区 東トレンチ 2層	Ⅱ地区 H－8 1層	Ⅲ地区 1層	Ⅲ地区 2層	Ⅲ地区 西トレンチ 1層	Ⅲ地区 西トレンチ 3層	表採	不明	合計
色絵	碗	口縁			3			1	1		5
		胴			5			1			6
		底			2						2
	小碗	口縁			1						1
		底			1						1
	小杯	口縁			1						1
	皿	口縁						1			1
		胴			4						4
	蓋	口縁			1						1
	蓮華				1						1
瑠璃釉	碗	口～底					1				1
		口縁			1				1		2
	小碗	口縁			3						3
		底			1						1
	小杯	口～底						1			1
	皿	口縁					1				1
	鉢	口縁			1						1
	蓋	庇	1								1
	不明	胴			3						3
青磁染付	小碗	口縁			5						5
		胴			3						3
		底			4			1			5
天目	茶碗	口縁				1					1
		底			1					1	2
	碗	口縁			2				1		3
		胴			12				6		18
三彩	水注	胴							5		5
無釉	急須	胴			1						1
		底					1				1
		注口		1							1
		把手			1						1
	蓋	撮							1		1
		庇			1						1
		端			1						1
	不明	底			1						1
合　計			1	1	60	1	3	5	15	1	87

第 6 節　タイ産陶磁器

タイ産陶磁器は第 15 図 1 ～ 10 の 10 点を図示した。1 ～ 3 は半練と呼ばれる土器である。器種はすべて落し蓋で、蓋を受ける壺は出土していない。1 は蓋の撮で、形態は宝珠状を呈する。器色は鈍橙色だが被熱により一部褐灰色に変色している。表採。2 と 3 は蓋の端部で、端部を内側に折り曲げて三角形に成形するものと、同じく端部を折り曲げ玉縁状に成形するものがある。いずれも表採。4 ～ 10 は褐釉陶器である。4 ～ 7 は口縁部資料で、①口縁部を外反させ端部を玉縁状に成形するもの（4、5）と、②口縁部を頸部からラッパ状に外反させ、口唇部を上下に突出させるもの（6、7）に大きく分類される。4 は口縁部断面に成形痕が確認される。口径は 16.6cm。表採。5 は口唇部上面を階段状に成形し、蓋受部？を設ける。口径は 18.0cm。Ⅲ地区Ⅰ層出土。6 は両面に灰褐色の釉を施釉するが、外面に一部釉剥げがみられる。両面に轆轤痕が残る。口径は 18.4cm。Ⅲ地区 1 層出土。7 は 6 に比して口唇部の上端が突出しており、形態は鍔縁口縁に類似する。両面に轆轤痕が残る。Ⅲ地区 1 層出土。8 は底部資料で、両面に暗褐色の釉を施釉するが外面に一部釉剥げがみられる。轆轤痕が残る。Ⅲ地区 1 層出土。9 も底部資料で、両面に黒褐色の釉を施釉する。両面に轆轤痕が残る。底径は 21.1cm。Ⅲ地区西トレンチ 1 層出土。10 も同じく底部資料で、外面に黒釉の釉垂れがみられる。両面に轆轤痕及び工具の調整痕が残る。底径は 22.7cm。Ⅲ地区 1 層出土。

第 11 表　タイ産陶磁器出土状況

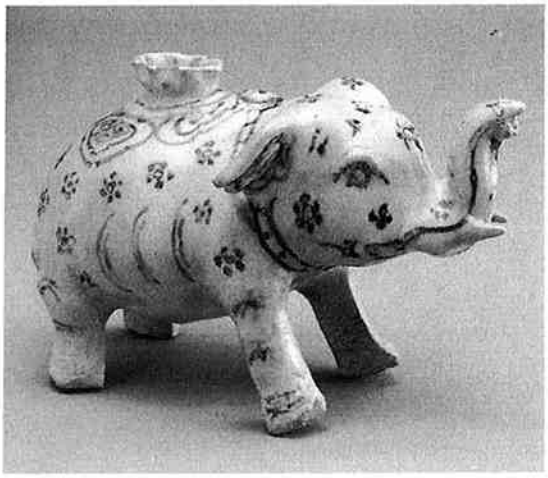
出土地＼器種			褐釉 壺 口縁	褐釉 壺 胴	褐釉 壺 底	半練 蓋 撮	半練 蓋 端	合計
Ⅰ地区	東トレンチ	2 層		16				16
Ⅱ地区	1 層			2				2
	遺物だまり			3				3
Ⅲ地区	1 層		6		3		1	10
	西トレンチ	1 層			1			1
表　採			23	416	9	1	2	451
不　明				3				3
合　計			29	440	13	1	3	486



第 14 図　その他の中国産陶磁器　色絵（1 ～ 7）、瑠璃釉（8 ～ 14）、鉄釉染付（15 ～ 17）、
青磁染付（18 ～ 20）、黒釉陶器（21 ～ 23）、翡翠釉（24）、法花（25、26）
三彩（27）、銅緑釉（28、29）、無釉陶器（30 ～ 34）

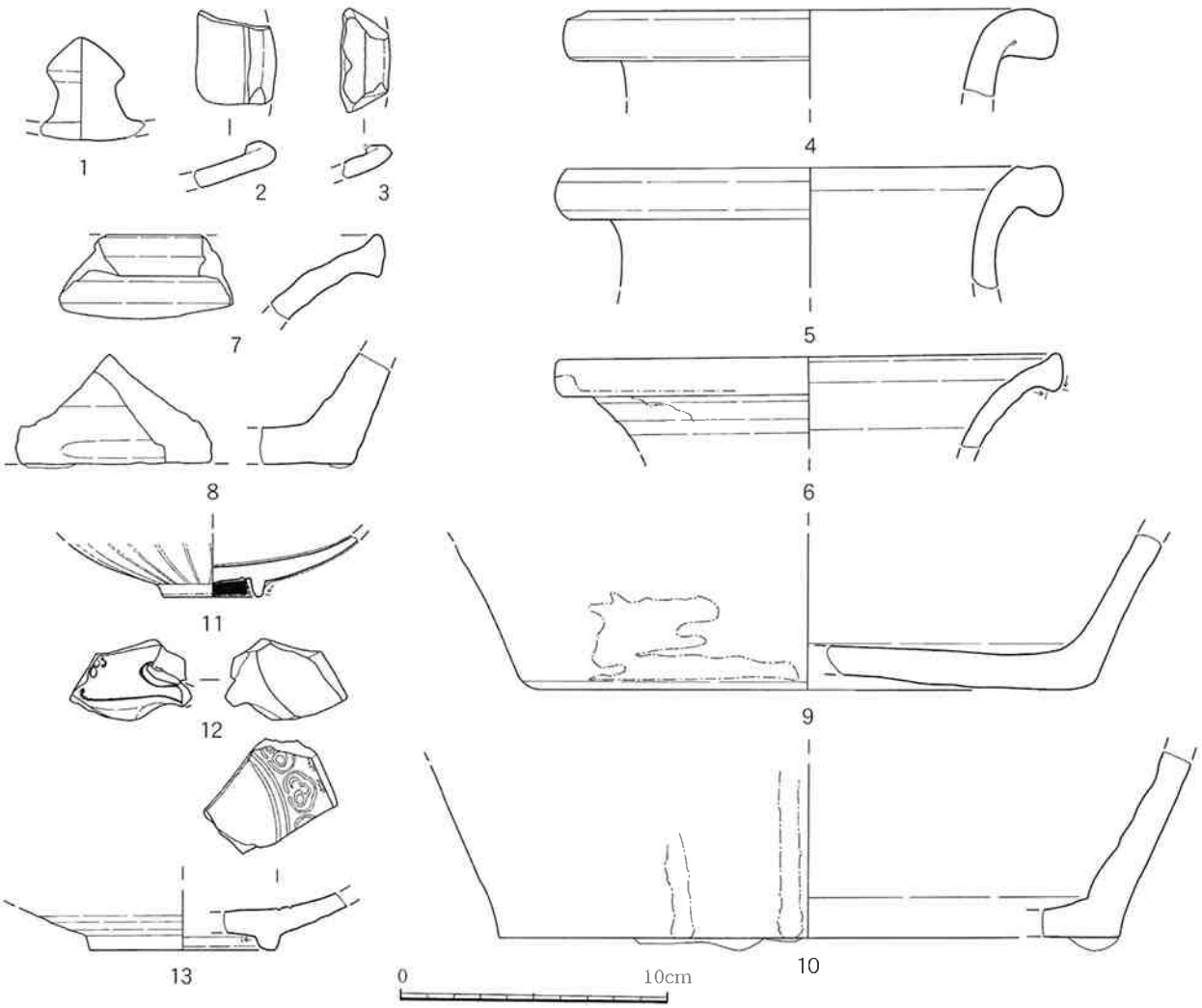
第７節　ベトナム産陶磁器

ベトナム産陶磁器と考えられるものには青磁・染付が確認されている。第15図11は青磁碗の底部片で、外面に鎬蓮弁文を施す。オリーブ色の釉を内底から高台外面まで施釉し、外底には鉄錆を塗布する。底径は3.6㎝を測る。Ⅲ地区１層出土。第15図12は染付の型物の胴部片で、おそらく象形の型物水注（註5）と思われる。外面に黄緑灰色の釉を施釉し、呉須で花文が施されるが、いずれも二次的な被熱により本来の色調は判然としない。表採。ちなみに本資料は県内初の出土例とみられるため、引用文献中の写真を参考として記載した。



第８節　高麗青磁

皿の底部片（第15図13）が１点出土している。内面全体に菊花文（竹管文？）、如意頭文、二重圏線を施した後、施文部に白土を象嵌する。灰黄緑色の釉を両面に施釉するが、二次的な被熱により内面は剥離が著しい。底径は6.8㎝を測る。Ⅱ地区Ｈ－８Ⅰ層出土。



第15図　タイ産陶磁器（1～10）、ベトナム産陶磁器（11、12）、高麗青磁（13）

第９節　本土産陶磁器

今回の調査で得られた本土産陶磁器は、磁器は染付・色絵・青磁・白磁・型紙摺り・銅版転写・ゴム判、陶器は肥前・薩摩・関西系などの種類があり、器種は碗・小碗・皿・小皿・瓶・鉢・急須・鍋・香炉などが確認されている。時期別に見ると17世紀～18世紀頃の肥前磁器なども出土しているが、特に近代以降に位置付けられる資料が多数を占める。以下にそれぞれの分類概念を述べ、個々の観察所見は第12表に記載する。

1. 染付（第16図1～26、35）

碗　Ⅰ類：口縁部が外反するもので、外面に格子文を施すもの(1)、網目文を施すもの（2)、両面に仙芝祝寿文を施すもの（3）がある。

Ⅱ類：直口口縁を呈するもので、外面に梵字文を施すもの(4)、花唐草文を施すもの（5)、花弁文を施すもの（6）がある。5は蓋付碗で、口唇部に釉剥ぎが施される。

Ⅲ類：腰部から円筒状に立ち上がるもの。口唇部を露胎にするもの（Ⅲ－ａ）と、釉剥ぎを施さないもの（Ⅲ－ｂ）がある。ａは外面に唐花文を施すもの（9）と、蛸唐草文を施すもの（10）がある。ｂは外面に雷文、内面に丸繋文を施す（11)。

皿　Ⅰ類：口縁部が菊花状を呈するもので、高台を蛇の目凹形に成形する。外面に唐草文、内底に山水文などを施す（12～14)。

Ⅱ類：口縁部が稜花状を呈する菱形皿で、外面に宝文と鋸歯文、内面に牡丹唐草文を施す（15)。

Ⅲ類：口縁部が外反する大振りの皿で、外面に荒磯文などを施す（16)。

Ⅳ類：外反口縁を呈する型造りの小皿で、内面に斜格子文などを施す（35)。

鉢　頸部に稜を有する折縁口縁のもの。いずれも両面に文様を施す（17、18)。

瓶　徳利の胴部と底部を図示した。外面に網目文を施すもの（19)、竹文を施すもの（20)、蛸唐草文を施すもの（21、22)、蓮弁文？を施すもの（23）がある。

蓋　蓋付碗に対応するものと思われる。外面に唐草文を施す（24)。

急須　外底を弧状にくぼませる薄手の急須。外面に鳳凰文や渦文？などを施す（25、26)。

2. 色絵（第16図27～34、36、37）

小杯　Ⅰ類：高台から逆「ハ」の字状に立ち上がる型造りのもので、内面に宝文を施すもの（28)、日章旗を施すもの（29)、宝船文を施すもの（30）がある。

Ⅱ類：Ⅰ類に比して腰部が強く張り出すもので、外面に蓮弁文を施す（31)。

皿　口縁部が内湾する型造りの浅皿。内面に扇面文を施すもの（32)、連続文を施すもの（33)、掛軸文を施すもの（34)、折枝松文？を施すもの（36）がある。

香炉　球形の胴部から頸部を垂直に立ち上げ、口縁部を外側に折り曲げるもの。底部の形態は不明。外面に斜格子文などを施す（37)。

器種不明　外面に呉須による唐草文、内面に赤絵による唐草文を施す。小破片のため詳細は不明（27)。

3. 型紙摺り（第17図、第18図60～70）

碗　Ⅰ類：腰部の張りが強く口縁部が外反するもので、文様の種類により3種類に大きく分類される。

ａ　外面全体に点描文を施し、その中に窓絵を設けるもの。文様の種類で①菱形窓絵（円形三角文)、②円形窓絵（鶴）＋笹・松、③円形窓絵（日章旗？）＋JAPAN、④五弁花形窓絵（水仙）＋松、⑤五弁花形窓絵（鶴）＋菱形窓絵（福寿）などの5種類に細分される（38～43)。

ｂ　外面全体に幾何学文を施し、その中に円形窓絵を設けるもの。窓絵内には花文、寿字文などを施す（44)。

ｃ　外面全体に花唐草文を施すもの。文様の種類で①牡丹唐草文、②梅花唐草文、③五弁花文＋蛸唐草文、④五弁花文＋唐草文などの4種類に細分される（45～48)。

Ⅱ類：Ⅰと同様に腰部の張りが強いが口縁部が直口するもので、文様の種類により3種類に分類される。

ａ　外面に斜格子文を施し、その中に波状窓絵を設ける。窓絵内には福･寿の文字を配する（50～52)。49はⅡ－ａに対応すると思われる蓋で、外面に亀甲文と梅花文を配する。

b　外面に点描文と花文を散らすもの（53）。

c　呉須と銅緑の２種類の顔料を使用しているもので、外面に四方襷文と竹雀文を施すもの（54）と、外面に山形窓絵を施すもの（55、56）がある。

Ⅲ類：高台から逆「ハ」の字状に立ち上がるもの。文様の種類により２種類に分類される。

a　外面全体に波頭文を施すもの。文様の種類で①桃形窓絵（梅）＋円形窓絵（松）、②桜花文散らしなどの２種類に細分される（57、58）。

b　両面全体に亀甲文を施し、その中に飛鶴文を施す（59）。

皿　Ⅰ類：波状口縁を呈するもので、高台を蛇の目凹形に成形する。文様の種類により２種類に分類される。

a　内面全体に施した点描文と別の文様を組み合わせるもの。文様の組み合わせで①鶴文、②桜花文散らし＋三友文、③松・笹＋三友文、④花弁状窓絵（水仙文）＋三友文などの４種類に細分される（60 ～ 63）。

b　内面全体に微塵唐草文を施すもの。内底に三友文を施す（64）。

Ⅱ類：器形はⅠに似るが高台の形態が凹形ではない形造りの小皿で、文様の種類により①点描文の地に桜花文散らし、②点描文の地に区割り詩文文と山水文、③捻花形窓絵（三友文、鳥文）を施すものの３種類に細分される（65 ～ 67）。

香炉　器形が筒形を呈するもので、外面に七宝繋文や花文を施すものなどがある（68 ～ 70）。

4. 銅版転写（第 18 図 71 ～ 74）

碗　腰部の張りが弱く、口縁部を斜上方に立ち上げる形造りのもの。外面に牡丹文などを施す（71、72）。

皿　口縁部が内湾する型造りの皿。内面に壺尽くし図や菊花文などを施す（73、74）。

5. ゴム判（第 18 図 75 ～ 82）

碗　高台から斜上方に口縁部を立ち上げるもの（75）と、器形が直口口縁を呈するもの（76）がある。いずれも外面に文様を施す。

小碗　直口口縁を呈する型造りのもので、外面に雷文や竹林図などを施す（77 ～ 82）。

6. 青磁（第 18 図 83 ～ 85）

小碗　直口口縁を呈する型造りのもの。外面に飛鉋を蓮弁状に施す（85）。

皿　口縁部が内湾する型造りの浅皿。内底にイッチンで花鳥文？を施すもの（83）と、内面に呉須で雲龍文を施す青磁染付の皿（84）がある。

7. 白磁（第 19 図 86 ～ 88）

皿　腰部に稜を持つ外反口縁の型造りのもので、内底に型押しで寿字文を施す（86、87）。

急須　外底を弧状にくぼませる薄手の急須。染付の急須（第 16 図 25、26）と同様の器形である（88）。

8. 陶器（第 19 図 89 ～ 111）

碗　底部に高台を持つもの（89、90）と、高台を持たず外底を雑に削り出すもの（91）がある。

鍋　一般に行平と称されるもので、口縁部を外側に折り曲げ、蓋受部を弧状にくぼませる（92 ～ 94）。95 ～ 97 は鍋の蓋で、皿形の器を伏せた形を呈する。

壺　Ⅰ類：口縁部が外側に屈曲するもので、口縁下部に抉りを入れる（98、99）。

Ⅱ類：頸部を垂直に立ち上げる小形の壺で、口縁部を玉縁状に成形する（100、101）。

急須　急須は口縁部内面に蓋受部を設けるもの（104 ～ 107）と、蓋受部を持たないもの（108、109）がある。底部は平底で、円錐形の脚部を貼付するもの（107）もある。

瓶　103 は瓶の口縁部で、断面形態が三角形を呈する。

火入　102 は火入の底部と思われるもので、底部は高台を持たず外底を削り出して成形する。110 は円筒状の器形を呈する火入の口縁部である。

鉢　口縁部を外側に折り曲げる鍔縁口縁のもので、鍔端部を縄目状に加飾する（111）。

第 12 表 a　本土産陶磁器観察一覧

単位：cm

図	番号	種類	器種	分類	部位	口径	器高	底径	観察事項	出土地
第16図（図版11）	1	染付	碗	Ⅰ	口～底	8.9	3.9	4.6	外面に格子文、圏線。（肥前系　19 c 前半）	Ⅲ地区 西トレンチ 3 層
	2				口縁	10.6	－	－	外面に網目文、魚文、内面に雷文（？）、圏線。（国産　明治～）	Ⅲ地区 1 層
	3				口～底	8.1	4.0	4.0	口藍。両面に仙芝祝寿文（なずな文？）。（瀬戸・美濃　明治～）	Ⅱ地区 遺物だまり
	4			Ⅱ	口縁	9.6	－	－	外面に梵字文、内面に圏線。（肥前系　19 c 前半）	Ⅲ地区 西トレンチ 1 層
	5				口～底	11.1	5.1	4.2	外面に花唐草文（？）、圏線。呉須の発色は不明瞭。（薩摩　幕末）	Ⅲ地区 西トレンチ 3 層
	6				口～底	8.3	3.3	4.7	外面に花弁文、圏線。（国産　明治～）	Ⅲ地区 西トレンチ 1 層
	7			－	底	－	－	4.4	外面に圏線、外底に「富貴□□」の銘。内底に風文、花卉文。（肥前　18 c 後半）	Ⅲ地区 2 層
	8				底	－	－	4.1	外面に水草文（蓮？）、圏線、内底に二重圏線、草文。（肥前　17 c 末～18 c 初）	Ⅲ地区 1 層
	9			Ⅲ－a	口縁	13.4	－	－	外面に唐花文？（肥前系　18 c 末～19 c 前半）	Ⅲ地区 1 層
	10				口縁	12.2	－	－	外面に蛸唐草文。（肥前　18 c 後半）	Ⅲ地区 1 層
	11			Ⅲ－b	口縁	7.5	－	－	外面に雷文、内面に丸繋文？（肥前系　1820 ～ 1860 年代）	Ⅲ地区 1 層
	12		皿	Ⅰ	口縁	－	－	－	外面に唐草文、内面に波濤文？（肥前　19 c 初～幕末）	Ⅲ地区 西トレンチ 1 層
	13				口～底	14.6	4.5	9.2	外面に唐草文、内面に山水文。（肥前　19 c 初～幕末）	Ⅲ地区 1 層
	14				底	－	－	9.0	外面に圏線、内面に家屋文（船？）。（肥前系　19 c ～）	Ⅲ地区 1 層
	15			Ⅱ	口～底	(17.0)	(3.7)	(9.6)	外面に宝文、鋸歯文、内面に型打ち陽刻の渦文（雲？）、牡丹唐草文。（鍋島　1670 ～ 1680 年代）	表採
	16			Ⅲ	口縁	16.6	－	－	外面に荒磯文、半菊花文（？）、圏線、内面に半菊花文？（国産　明治～大正）	Ⅲ地区 1 層
	17		鉢	－	口縁	17.2	－	－	芙蓉手。外面に水草文（？）、内面に吉祥字文、牡丹文、花卉文。（肥前　18 c 末～19 c 前半）	Ⅱ地区 遺物だまり
	18				胴	－	－	－	両面に文様を施すが小片のため不明。（肥前系　明治～大正）	Ⅲ地区 西トレンチ 1 層
	19		瓶	－	胴	－	－	－	外面に網目文。（肥前　18 c 前半？）	Ⅲ地区 西トレンチ 1 層
	20				胴	－	－	－	外面に山水文、竹文。（肥前　18 c 末～幕末）	Ⅲ地区 西トレンチ 1 層
	21				胴	－	－	－	外面に蛸唐草文。（肥前系　18 c 後半～19 c 初）	Ⅲ地区 1 層
	22				胴	－	－	－	外面に蛸唐草文、竹文。（肥前系　18 c 後半～19 c 初）	Ⅲ地区 1 層
	23				底	－	－	5.0	外面に蓮弁文（？）、圏線。（肥前系　18 c 後半～19 c 初）	Ⅲ地区 1 層
	24		蓋	－	胴	－	－	－	外面に唐草文、圏線。（肥前　18 c 前半～18 c 中）	Ⅲ地区 1 層
	25		急須	－	口縁	7.6	－	－	外面に鳳凰文。（国産　明治～）	Ⅲ地区 西トレンチ 1 層
	26				底	－	－	9.8	外面に渦文（鳳凰文？）、圏線。（国産　明治～）	Ⅲ地区 西トレンチ 1 層
	27	色絵	不明	－	胴	－	－	－	外面に青で花唐草文、内面に赤で唐草文。（肥前　18 c 後半）	Ⅲ地区 1 層
	28		小杯	Ⅰ	口～底	6.8	2.8	2.6	内面に金と青で宝文、金で亀甲文、圏線。（瀬戸・美濃　大正～昭和）	Ⅲ地区 西トレンチ 1 層
	29				口～底	6.8	2.7	2.4	外面に青で波状圏線、内面に赤で日章旗。（瀬戸・美濃　明治～）	Ⅲ地区 1 層
	30				口～底	7.2	2.6	2.7	内面に青などで宝船文。（国産　明治～）	Ⅲ地区 西トレンチ 3 層
	31			Ⅱ	底	－	－	4.0	外面に青で蓮弁文、赤で圏線。（薩摩・平佐　19 c 初～幕末）	Ⅲ地区 1 層
	32		皿	－	口～底	10.4	1.8	6.3	内面に赤で圏線、扇面形窓絵（渦文・赤と緑で竹林図）。（瀬戸・美濃　昭和～）	Ⅲ地区 1 層
	33				底	－	－	7.8	外面に青で○と×の連続文、圏線、内面に赤と金で菊花文・櫓垣文、内底に青で圏線、松文。（有田　1750 ～ 1770 年代）	Ⅲ地区 1 層
	34			－	底	－	－	6.4	内面に赤と緑で桜花文、掛軸文、桐文。（瀬戸・美濃　昭和～）	Ⅲ地区 西トレンチ 1 層
	35	染付		Ⅳ	口～底	11.0	2.5	5.3	外面に圏線、内面は斜格子文地に区画文（楼閣？）、圏線。（瀬戸・美濃　昭和～）	Ⅲ地区 1 層
	36	色絵		－	底	－	－	－	外面に青で圏線、内面に折枝松文？（瀬戸・美濃　昭和）	Ⅲ地区 1 層
	37		香炉	－	口縁	8.6	－	－	外面に青で圏線、赤と緑で四方欅文、内面に赤で○と×の連続文。（肥前系　19 c）	Ⅲ地区 西トレンチ 1 層

注：法量の項「－」は測定不可

第 12 表ｂ　本土産陶磁器観察一覧

単位：cm

図	番号	種類	器種	分類	部位	口径	器高	底径	観察事項	出土地
第17図（図版12）	38	型紙摺り	碗	Ⅰ－a	口～底	13.5	6.5	4.6	外面は点描文地に菱形連続窓絵（中に菊花文と三角文の組み合わせ）、内面に花文、内底に圏線、三友文。	Ⅱ地区 Ｈ－８　１層
	39				口～底	13.1	5.8	4.6	外面は点描文地に円形窓絵（中に鶴）＋笹・松、内面に笹・松、内底に圏線。	Ⅲ地区 １層
	40				口縁	13.7	－	－	外面は点描文地に円形窓絵、内面に「JAPAN」の文字。	Ⅲ地区 １層
	41				口～底	12.4	5.2	4.4	外面は点描文地に五弁花形窓絵（中に水仙）＋笹・松、内面に笹・松、内底に圏線、三友文。	表採
	42				口～底	12.9	5.5	4.6	外面は点描文地に花弁形窓絵（中に水仙）＋松、内面に松、内底に圏線、三友文。	Ⅲ地区 １層
	43				口～底	12.7	5.0	3.9	外面は点描文地に五弁花形窓絵（中に鶴）＋菱形窓絵（中に福寿）、内面に笹、内底に圏線、鶴文。	Ⅲ地区 １層
	44			Ⅰ－b	口縁	12.8	－	－	外面は幾何学文（中に四方襷文）地に円形窓絵（中に菊花･寿字）、内面に菊花・寿字。	Ⅰ地区 西トレンチ②１層
	45			Ⅰ－c	口～底	14.5	6.0	4.8	外面に牡丹唐草文、内面に梅花文（？）、内底に二重圏線、荒磯文（？）。	Ⅲ地区 西トレンチ１層
	46				口～底	13.6	5.8	4.4	外面に梅花唐草文（？）、内面に梅花文（？）、内底に圏線、梅花文（？）。	Ⅲ地区 西トレンチ１層
	47				口～底	13.5	6.0	4.2	外面は蛸唐草文地に五弁花文。内面に梅花唐草文、内底に圏線。	Ⅲ地区 西トレンチ１層
	48				口縁	13.3	－	－	外面には唐草文（蛸唐草文？）地に五弁花文。内面に花唐草文。	Ⅲ地区 西トレンチ３層
	49		蓋	－	撮	4.3	－	－	外面に亀甲文（中に菊花文）、梅花文。蓋内面蛇の目釉剥ぎ。	Ⅲ地区 西トレンチ３層
	50		碗	Ⅱ－a	口縁	10.6	－	－	外面は蛸唐草文地＋七宝繋文地に区画文（中に福・寿）、内面に福・寿、内底に圏線。	Ⅲ地区 西トレンチ１層
	51				底	－	－	4.8	外面は蛸唐草文地に区画文（中に福・寿）、内底に圏線。内底釉剥ぎ。	Ⅲ地区 西トレンチ３層
	52				底	－	－	4.7	外面は蛸唐草文地＋七宝繋文地に区画文（中に福･寿）、内底に圏線、麒麟文。	Ⅲ地区 西トレンチ１層
	53			Ⅱ－b	口～底	10.4	4.2	3.8	外面に点描文と菊花文（？）散らし、内面に圏線、内底に圏線。内底蛇の目釉剥ぎ。	Ⅱ地区 遺物溜まり
	54			Ⅱ－c	口～底	11.6	5.2	4.6	外面は四方襷文地に雲割り（中に竹雀文？）、内面に緑で瓔珞文。内底蛇の目釉剥ぎ。	Ⅲ地区 西トレンチ１層
	55				口縁	10.6	－	－	外面は青海波文地に山形窓絵（中に家屋）、牡丹、雲（？）、内面に緑で瓔珞文。	Ⅲ地区 １層
	56				口縁	12.2	－	－	外面は青海波文地に山形窓絵（中に家屋）、牡丹、雲（？）、内面に緑で瓔珞文。内底釉剥ぎ。	Ⅲ地区 １層
	57			Ⅲ－a	口～底	11.6	4.2	3.6	外面は青海波文地に桃形窓絵（中に梅樹）＋円形窓絵（中に松樹）、内面に瓔珞文。	Ⅲ地区 西トレンチ３層
	58				口～底	11.0	4.7	3.7	外面は青海波文地に桜花文散らし、内面に瓔珞文。内底蛇の目釉剥ぎ。	Ⅲ地区 １層
	59			Ⅲ－b	口～底	9.8	4.2	3.4	両面とも亀甲文地に飛鶴文。	Ⅱ地区 遺物だまり
第18図（図版13）	60	型紙摺り	皿	Ⅰ－a	口～底	13.3	3.5	8.1	外面に蔓草文、圏線、内面は点描文地に鶴文、内底に檜垣文、鶴文。	Ⅲ地区 西トレンチ１層
	61				口～底	13.8	3.3	7.2	外面に唐草文（？）、圏線、内面は点描文地に桜花文散らし、内底に檜垣文。	Ⅲ地区 １層
	62				口～底	13.0	3.2	8.0	外面に花唐草文、圏線、内面は点描文（微塵唐草文？）地に笹・松、内底に檜垣文、三友文。	Ⅲ地区 西トレンチ３層
	63				口～底	13.3	3.9	8.2	外面は花唐草文、圏線、内面は点描文地に花弁形窓絵（中に水仙・梅花）、内底に檜垣文、三友文（？）。	Ⅱ地区 Ｈ－８　１層
	64			Ⅰ－b	口～底	14.5	4.4	8.6	外面は花枝文、圏線、内面は微塵唐草文、内底に檜垣文、三友文。	Ⅲ地区 西トレンチ１層
	65			Ⅱ	口～底	10.5	2.0	5.8	内面は点描文地に桜花文散らし。	Ⅲ地区 西トレンチ１層
	66				口～底	10.6	2.2	6.6	内面は点描文地に日足形区割り（中に詩文文、山水文）。	Ⅱ地区 １層
	67				口～底	11.0	1.9	7.0	内面は点描文地に捻花形区割り（中に三友文、雀？）。	Ⅲ地区 西トレンチ１層
	68		香炉	－	口縁	10.0	－	－	外面は七宝繋文地に帯形区割り（中に梅花）。	Ⅲ地区 １層
	69				口縁	11.0	－	－	外面は七宝繋文地に雲割り（中に緑で朝顔？）。	Ⅲ地区 １層
	70				口縁	9.8	－	－	外面は四方襷文地に雲割り（中に緑で鶴、草花？）。	不明
	71	銅版転写	碗	－	口～底	11.0	5.9	4.2	外面は青と緑で菊花文と扇面形窓絵（中に富士山？）。	Ⅲ地区 １層
	72				口～底	11.3	5.3	3.6	外面に緑で牡丹文。	不明
	73		皿	－	口～底	12.8	2.6	7.4	内面に青で壺尽くし図、桔梗文（？）、内底に丸文（中に花文）。	Ⅲ地区 西トレンチ１層
	74				口～底	11.0	2.3	6.4	内面に緑で菊花文、桐文。	Ⅲ地区 １層

注：法量の項「－」は測定不可

第 12 表 c　本土産陶磁器観察一覧

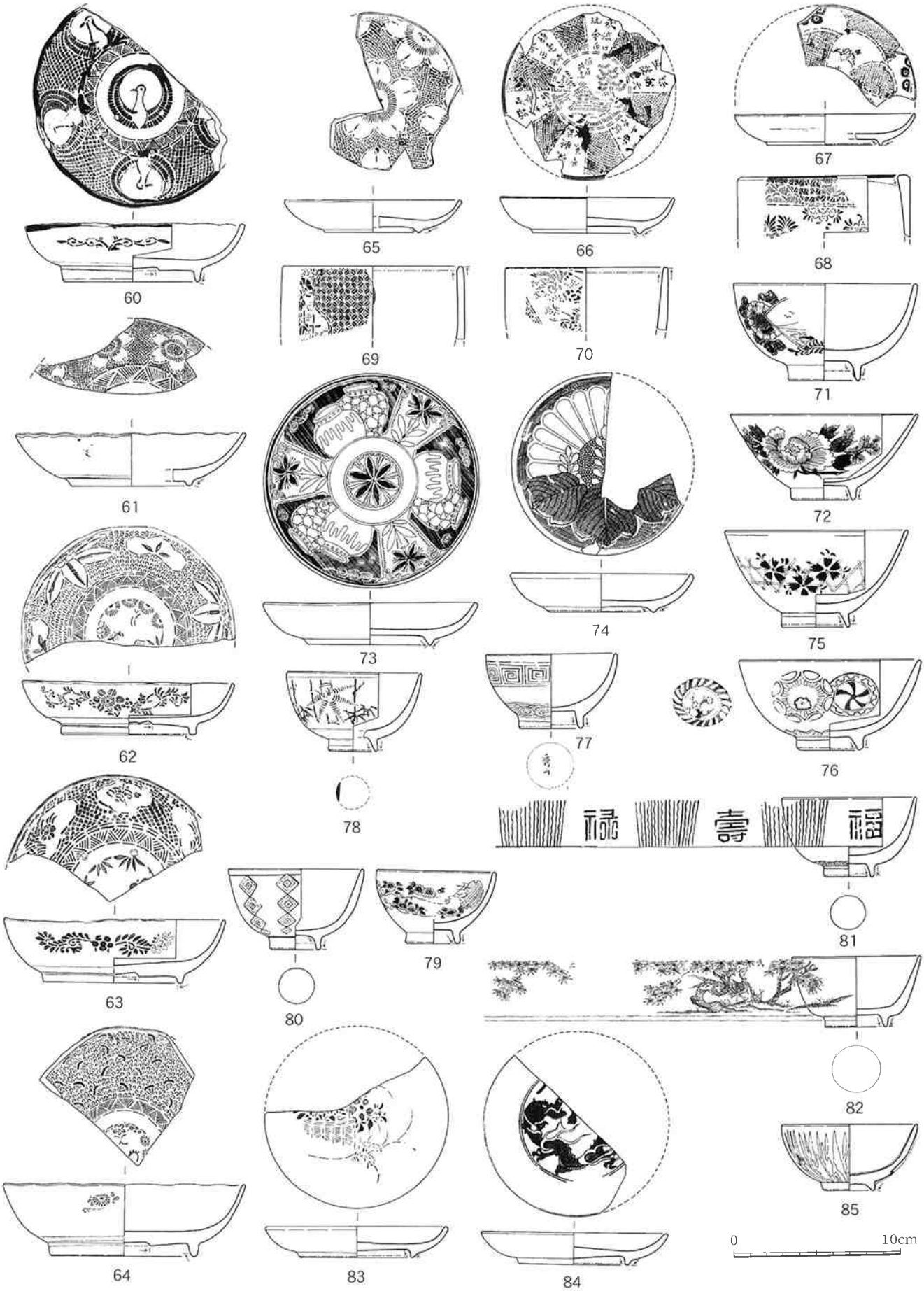
単位：cm

図	番号	種類	器種	分類	部位	口径	器高	底径	観察事項	出土地
第18図（図版13）	75	ゴム判	碗	－	口～底	11.1	5.9	4.0	外面は竹垣文、撫子文（？）、圏線。	Ⅲ地区 1層
	76				口～底	11.0	5.5	3.6	外面に丸文（中に折枝梅・桜花・捻文）、蓮弁文（星梅鉢？）、圏線。	Ⅲ地区 1層
	77		小碗	－	口～底	7.9	4.5	3.8	外面に雷文、渦文、外底に圏線、「秀山」の銘。	Ⅲ地区 西トレンチ1層
	78				口～底	8.0	4.8	2.8	外面に竹林図（？）、圏線。	Ⅲ地区 西トレンチ1層
	79				口～底	7.2	4.5	3.0	外面は緑と金？で菊花文と丸文の組み合わせに詩句文？	Ⅲ地区 1層
	80				口～底	8.0	4.9	3.0	青磁染付。外面に圏線、菱繋文？	Ⅲ地区 西トレンチ1層
	81				口～底	8.0	4.8	2.8	外面は鎬文地に区画文（中に福・禄・寿）、蓮弁文、圏線。	Ⅲ地区 1層
	82				口～底	7.6	4.3	3.6	外面に「楓と雉」、圏線。	Ⅲ地区 西トレンチ1層
	83	青磁	皿	－	口～底	11.0	1.9	7.0	イッチン。内面に花鳥文？	Ⅲ地区 西トレンチ3層
	84				口～底	11.1	2.0	6.6	青磁染付。内面に二重圏線、雲龍文。	Ⅲ地区 西トレンチ1層
	85		小碗	－	口～底	8.0	4.0	3.0	外面に飛鉋を蓮弁状に施す。	Ⅲ地区 西トレンチ3層
第19図（図版14）	86	白磁	Ⅲ	－	口～底	9.1	1.2	4.7	内底に型押しの寿字文。	Ⅲ地区 西トレンチ1層
	87				口～底	9.6	1.4	5.0	内底に型押しの寿字文。	Ⅲ地区 西トレンチ3層
	88		急須	－	底	－	－	9.4	両面に轆轤痕が明瞭に残る。	Ⅲ地区 1層
	89	陶器	碗	－	底	－	－	4.8	灰釉を内底から高台脇まで施釉。竹節状高台。（肥前・内野山　17ｃ後半～18ｃ前半）	Ⅲ地区 1層
	90				底	－	－	4.0	黄緑灰色の釉を全面施釉後、畳付の釉を掻き取る。（関西系　19ｃ～）	Ⅲ地区 西トレンチ1層
	91				底	－	－	3.8	黒褐色の釉を内底から外面腰部まで施釉。茶入の可能性あり。（肥前　1590～1630年代）	Ⅲ地区 1層
	92		鍋	－	口縁	13.4	－	－	灰白色の釉を施釉後、口唇部の釉を掻き取る。両面轆轤痕あり。（関西系　19ｃ）	Ⅲ地区 1層
	93				口縁	17.5	－	－	灰白色の釉を施釉後、口唇部の釉を掻き取る。両面轆轤痕あり。（関西系　19ｃ）	Ⅲ地区 1層
	94				口縁	17.0	－	－	浅黄色の釉を施釉後、口唇部の釉を掻き取る。（関西系　19ｃ）	Ⅲ地区 西トレンチ3層
	95		蓋	－	撮～庇	3.0	2.9	10.7	灰白色の釉を施釉。外面に陰圏線。（関西系　19ｃ）	Ⅲ地区 西トレンチ1層
	96				撮～庇	4.8	4.5	17.3	灰白色の釉を施釉。外面に陰圏線。（関西系　19ｃ）	Ⅲ地区 西トレンチ1層
	97				撮～庇	4.6	4.6	16.0	淡黄色の釉を施釉。外面に陰圏線。（関西系　19ｃ）	Ⅲ地区 西トレンチ1層
	98		壺	Ⅰ	口縁	17.6	－	－	黒褐色の釉を施釉。施釉は両面とも不徹底。（薩摩　18ｃ～19ｃ）	Ⅲ地区 1層
	99				口縁	16.0	－	－	黒褐色の釉を施釉後、口唇部の釉を掻き取る。口唇部は僅かに段を持ち、蓋受部？を設ける。（薩摩　17ｃ後半～18ｃ）	Ⅲ地区 1層
	100		壺	Ⅱ	口縁	7.2	－	－	透明釉を両面に施釉。外面は鮫肌状。内面に轆轤痕あり。（薩摩　19ｃ）	Ⅲ地区 1層
	101				底	－	－	8.2	透明釉を全面施釉後、畳付の釉を掻き取る。外面は鮫肌状。内面に轆轤痕あり。（薩摩　19ｃ～）	Ⅲ地区 1層
	102		火入	－	底	－	－	11.3	灰白色の釉を外面に施釉。外面に貫入あり。（関西系　19ｃ）	Ⅲ地区 西トレンチ1層
	103		瓶	－	口縁	6.0	－	－	灰白色の釉を両面に施釉。口縁部内面に僅かに段を持ち、蓋受部？を設ける。（肥前？　17ｃ前半～17ｃ末）	Ⅲ地区 西トレンチ1層
	104		急須	－	口縁	7.7	－	－	透明釉を外面に施釉。外面に上絵付を施すが剥落が著しい。（関西系　19ｃ～）	Ⅲ地区 西トレンチ3層
	105				底	－	－	4.7	透明釉を内底から外面腰部まで施釉。両面に轆轤痕あり。（関西系　19ｃ）	Ⅲ地区 1層
	106				口縁	6.3	－	－	両面に暗灰黄色の釉を施釉後、口唇部の釉を掻き取る。外面は鮫肌状。内面に轆轤痕あり。（薩摩　19ｃ～）	Ⅲ地区 西トレンチ3層
	107				底	－	－	6.6	外面に鈍赤褐色の鮫肌釉を施釉。内面に轆轤痕あり。（薩摩　19ｃ）	Ⅲ地区 西トレンチ1層
	108				口縁	9.5	－	－	外面に蔓草文、圏線、鎬文地に棕櫚文？（関西系　19ｃ）	Ⅲ地区 1層
	109				口縁	13.8	－	－	灰黄緑色の釉を施釉後、口唇部の釉を掻き取る。内面に轆轤痕あり。（関西系　19ｃ）	Ⅲ地区 1層
	110		火入	－	口縁	9.4	－	－	灰白色の釉を施釉。内面に貫入あり。（肥前？　18ｃ？）	Ⅲ地区 西トレンチ3層
	111		鉢	－	口縁	32.6	－	－	黒褐色の釉を全面施釉後、鍔上面の釉を掻き取る。鍔端部を縄目状に成形、外面に陰圏線。（薩摩　17ｃ後半～19ｃ）	Ⅲ地区 1層

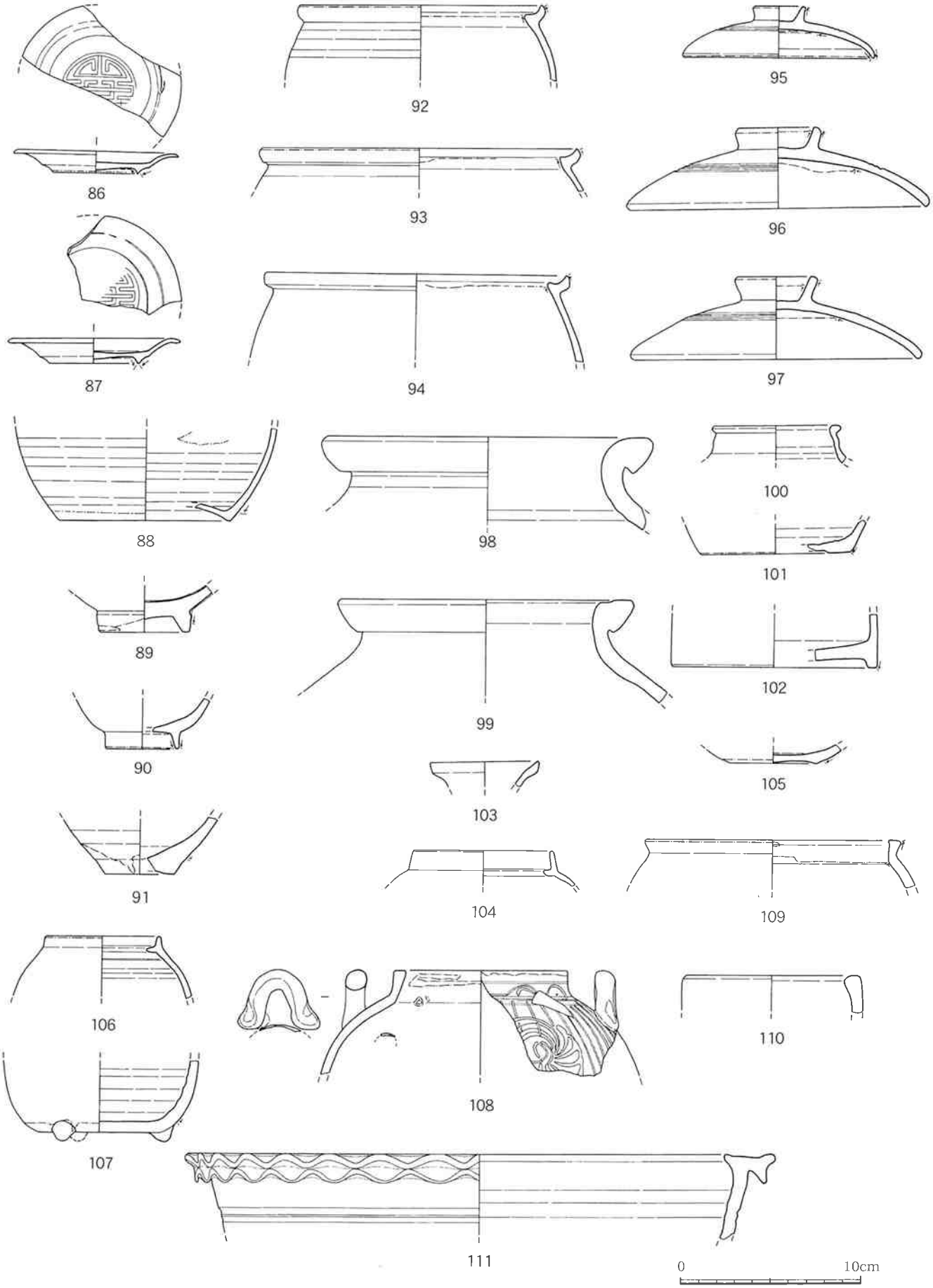
注：法量の項「－」は測定不可

第 16 図　本土産陶磁器 1　染付（1 ～ 26、35）、色絵（27 ～ 34、36、37）

第 17 図　本土産陶磁器 2　型紙摺り



第 18 図　本土産陶磁器 3　型紙摺り(60 ～ 70)、銅版転写(71 ～ 74)、ゴム判(75 ～ 82)、青磁(83 ～ 85)



第 19 図　本土産陶磁器 4　白磁（86 ～ 88）、陶器（89 ～ 111）

第 10 節　沖縄産施釉陶器

器の表面に釉薬を施釉するもので、方言で「上焼（ジョウヤチ）」とも称される。釉薬は灰釉・鉄釉・飴釉・黒釉・白釉（白化粧＋透明釉）などの種類があり、その上に呉須や緑釉などで文様が施される例もある。器種は碗・小碗・小杯・皿・小鉢・大鉢・鍋・壺・急須・蓋・酒器・瓶・火炉・香炉・火取・灯明具が確認されている。ここでは各器種の分類概念を記し、個々の観察所見については第 14 表に記載する。

1. 碗（第 20 図、第 21 図 22 ～ 29）

Ⅰ類：高台から逆「ハ」の字形に立ち上がる直口口縁のもので、灰釉単掛け（Ⅰ－ａ）と黒釉単掛け（Ⅰ－ｂ）がある。ａ、ｂともにフィガキーで無文（1 ～ 3）。

Ⅱ類：腰部に丸みを持たせ外反口縁を呈するもので、高台脇に抉りを入れる。施釉方法はフィガキー（Ⅱ－ａ）と内底蛇の目釉剥ぎ（Ⅱ－ｂ）がある。ａは黒釉単掛けで内面に鉄釉で文様を施す（4）。ｂは鉄釉と灰釉の掛け分けで内面に鉄釉で文様を施すもの（5、6）と無文のもの（8）、黒釉と白釉の掛け分けで無文のもの（7）がある。

Ⅲ類：器形はⅡに似るが外反口縁が強調されるもので、高台脇の抉りは不明瞭。白釉単掛けで内底蛇の目釉剥ぎ（Ⅲ－ａ）、灰釉単掛けでフィガキー（Ⅲ－ｂ）、錆釉あるいは灰釉単掛けで内底蛇の目釉剥ぎ（Ⅲ－ｃ）、錆釉と灰釉の掛け分けで畳付露胎（Ⅲ－ｄ）がある。ａは無文のもの（9）、呉須や飴釉などで文様を施すもの（10 ～ 16、20 ～ 24）がある。20 と 21 は直口口縁だがⅢ類の範疇に含むものとする。ｂは両面に鉄絵で文様を施す（17）。ｃは内底露胎部に白土を塗布するもの（26）と無文のもの（25）がある。ｄは無文（19）。27 は透明釉単掛けで畳付露胎。両面に呉須や鉄釉で文様を施す。

Ⅳ類：筒碗と呼ばれる円筒形の碗。白釉単掛けで内底蛇の目釉剥ぎ。外面に呉須や飴釉で文様を施す（28、29）。

2. 小碗（第 21 図 30 ～ 50）

Ⅰ類：腰部に丸みを持ち外反口縁を呈するもので、外反の弱いもの（Ⅰ－ａ）と強いもの（Ⅰ－ｂ）がある。ａは鉄釉と灰釉の掛け分け（30）と鉄釉あるいは錆釉と白釉の掛け分け（31、32）がある。いずれも内底蛇の目釉剥ぎで無文。ｂは白釉単掛けで無文のもの（33）、呉須で文様を施すもの（34 ～ 41）がある。施釉方法は内底蛇の目釉剥ぎが主だが、36 と 40 は畳付のみ露胎。

Ⅱ類：器形はⅠ－ｂに似るが外面に六角形の面取りが囲繞するもので、面取りが 1 段のもの（42）と 2 段のもの（43）がある。いずれも白釉単掛けで内底蛇の目釉剥ぎ。無文。

Ⅲ類：丸碗と称される内湾口縁のもの。白釉単掛けで両面に呉須で文様を施すもの（44、47、48）、灰釉単掛けで外面に白土で文様を施すもの（45、46）、透明釉単掛けで無文のもの（49）がある。いずれも畳付のみ露胎。

Ⅳ類：器形が筒形のもの。白釉単掛けで外面に呉須や飴釉で文様を施す（50）。

3. 小杯（第 21 図 51）

口縁部が外反するもの。透明釉単掛けで外面腰部以下は露胎。無文。

4. 皿（第 22 図 52 ～ 64）

Ⅰ類：外反口縁を呈するもので、白釉単掛けで内底蛇の目釉剥ぎを施す。無文のもの（52）、内面に呉須で文様を施すもの（53 ～ 57）がある。

Ⅱ類：口縁部が内湾するもので、白釉単掛けで内底蛇の目釉剥ぎ。内面に呉須や飴釉で文様を施す（58 ～ 60）。

Ⅲ類：器形はⅡ類に似るが口唇部を稜花状に成形する。鉄釉と白釉の掛け分け（Ⅲ－ａ）、白釉単掛け（Ⅲ－ｂ）、透明釉単掛け（Ⅲ－ｃ）があり、いずれも内底蛇の目釉剥ぎだがｃは外底を露胎とする。ａは内底に線彫りで文様を施す（61）。ｂは無文のもの（62）と、内面に呉須で文様を施すもの（63）がある。ｃは線彫りと呉須で文様を施す（64）。

5. 小鉢（第 22 図 65、66）

口縁部が朝顔状に開くもので、端部を内側に折り曲げる。内面に呉須で文様を施す。

6. **大鉢**（第 23 図 67 ～ 76）

Ⅰ類：内湾口縁を呈するもので、黒釉と白釉の掛け分けで内底蛇の目釉剥ぎ。無文（67）。

Ⅱ類：口縁部を外側に折り曲げるもので、灰釉または鉄釉単掛け（Ⅱ－ａ）、黒釉と灰釉または白釉の掛け分け（Ⅱ－ｂ）、白釉単掛け（Ⅱ－ｃ）がある。ａはいずれもフィガキーで内底に鉄絵や白土で文様を施すもの（72、73）や、無文のもの（74）がある。68 と 69 は不明。ｂは内底蛇の目釉剥ぎで無文のもの（70）、外底に墨書を施すもの（75）がある。76 は外面腰部以下のみ露胎。ｃは内面に呉須や飴釉で文様を施す（71）。

7. **鍋**（第 23 図 77 ～ 80）

Ⅰ類：口縁部が「く」の字形に屈曲し胴部が球形を呈するもので、底部に円錐形の突起を 3 個貼付する。灰釉単掛け（78）、鉄釉単掛け（79）、黒釉と白釉の掛け分け（77）があり、77 と 79 は内面口縁部を露胎とする。文様は施されない。

Ⅱ類：口縁部内面に蓋受部を設け腰部が張るもの。白釉単掛けで蓋受部の釉を掻き取る。無文（80）。

8. **壺**（第 23 図 81）

「アンダガーミ」と称される小形の四耳壺。鉄釉単掛けで口唇部と畳付のみ露胎。無文。

9. **急須**（第 24 図 82 ～ 89）

Ⅰ類：胴部が球形を呈するもので、肩部に三角形の板状把手を 1 対、底部に円錐状の突起を 3 個貼付する。黒釉単掛け（Ⅰ－ａ）、白釉単掛け（Ⅰ－ｂ）、瑠璃釉と白釉の掛け分け（Ⅰ－ｃ）がある。ａは口唇部から内面露胎で無文（82）。ｂは外面に呉須や飴釉で文様を施すもの（84 ～ 86）や、上絵付を施すもの（88）がある。ｃは口唇部のみ露胎で無文（83）。

Ⅱ類：基本的な器形はⅠ類に似るが、肩部に稜を持ち口縁部内面に蓋受部を設ける。白釉単掛けで口唇部と外底を露胎とする。無文（87）。

Ⅲ類：高台と陶製の弦を持つ大形の急須で、「アンビン」と称されるもの。黒釉単掛けで口唇部と畳付を露胎とする。無文（89）。

10. **蓋**（第 24 図 90 ～ 102）

Ⅰ類：庇がほぼ水平で中央に摘を持ち、裏面に滑り止めを有するもので、急須Ⅰ類に対応する。白釉単掛け（Ⅰ－ａ）と瑠璃釉単掛け（Ⅰ－ｂ）がある。ａは無文のもの（90）と、外面に呉須や飴釉で文様を施すもの（92、93）がある。ｂは無文（91）。

Ⅱ類：器形はⅠ類に似るが摘を持たない。白釉単掛けで外面に線彫りと飛鉋で文様を施すもの（94）と、緑釉単掛けで無文のもの（95）がある。

Ⅲ類：急須Ⅲ類に対応するもの。錆釉単掛けで内面は露胎。無文（96）。

Ⅳ類：摘が高台状を呈するもので、壺（アンダガーミ）に対応する。鉄釉または黒釉単掛けで内面は露胎。庇上面に蛇の目釉剥ぎを施すもの（97）と、釉剥ぎを施さないもの（98、99）がある。

Ⅴ類：鍋に対応するもので、皿形の器を伏せた形を呈する。黒釉単掛け（100）と灰釉単掛け（101）がある。いずれも内面は露胎。

Ⅵ類：小碗に対応するもの。白釉単掛けで内面は露胎。外面に呉須で文様を施す（102）。

11. **酒器**（第 24 図 103 ～ 106）

Ⅰ類：胴部が横長の楕円形を呈するもの。白釉単掛けで外面に呉須と飴釉で文様を施すもの（103）と、瑠璃釉単掛けで無文のもの（104）がある。

Ⅱ類：胴部中位に稜を持ち算玉状を呈するもの。白釉単掛けで外面に呉須と飴釉で文様を施す（105）。

Ⅲ類：腰部から垂直に立ち上がるもので、腰部と胴部中位にそれぞれ稜を持つ。白釉単掛けで外面に呉須で文様を施す（106）。

12. **瓶**（第 25 図 107 ～ 113）

107 は口縁部がラッパ状に開くもの。白釉単掛けで文様の有無は不明。108 は玉縁口縁を呈する長頸瓶で、「嘉瓶」と称されるもの。鉄釉単掛けで無文と思われる。109 は頸部と胴部下位がすぼまるもので、白釉単掛けで外面に呉須と飴釉で文様を施す。110 と 111 は油壺と称されるもので、いずれも鉄釉単掛けで内面は露胎。無文。112 は底部に高台を有するもの。鉄釉単掛けで外底は露胎。無文。113 は筒形の花生で、外面を竹節状に成形する。白釉単掛けで外面に呉須で文様を施す。

13. **火炉**（第 25 図 114 ～ 117）

Ⅰ類：腰部に丸みを持つもので、口縁部の断面形態がＴ字状を呈する。114 は緑釉単掛けで外底と内面を露胎とする。無文。115 は火炉の底部と思われるもので、黒釉単掛けで外底は露胎。116 は鉄釉単掛けで口唇部のみ露胎。

Ⅱ類：円筒状の器形を呈するもので、口縁部に火窓を設け、内面にＬ字形の器物受を貼付する。黒釉単掛けで口唇部のみ露胎。無文（117）。

14. **香炉**（第 25 図 118）

楕円形の胴部から頸部をほぼ垂直に立ち上げ、口縁部を外側に折り曲げるもの。緑釉単掛けで外面腰部以下と内面を露胎とする。無文。

15. **火取**（第 25 図 119 ～ 126）

Ⅰ類：腰部に稜を持ち胴部が円筒形を呈するもの。灰釉単掛け（Ⅰ－ａ）、鉄釉単掛け（Ⅰ－ｂ）、白釉単掛け（Ⅰ－ｃ）があり、いずれも外底と内面を露胎とする。ａは外面に白土象嵌を施すもの（122、123）と、無文のもの（125）がある。ｂは口縁部が肥厚するもの（124）と、獣面の外耳を１対貼付するもの（119）がある。ｃは無文のもの（120）と、外面に呉須で文様を施すもの（121）がある。

Ⅱ類：腰部が丸みを持つもの。灰釉単掛けで畳付と内面を露胎とする。無文（126）。

16. **灯明具**（第 25 図 127 ～ 130）

Ⅰ類：高台から直線的に立ち上がる器高の低い皿で、口唇部に三角形の灯心受を１個有する。白釉単掛けで外面口縁部以下は露胎。無文（127）。

Ⅱ類：いわゆる燭台で、「ウドンモー」と称されるもの。128 は内底に灯心受を持つ脚付の小杯で、白釉単掛けで外底のみ露胎。外面に呉須で文様を施す。129 は瓶子形の脚台を持つもので、鉄釉単掛けで外面腰部以下は露胎。瓶の可能性もある。130 は皿形の底部に中央に孔を穿った円筒状の胴部を貼付するもの。胴部上位の器形は不明。白釉単掛けで外底のみ露胎。無文。

第 13 表　沖縄産施釉陶器出土状況

		Ⅰ地区						Ⅱ地区								Ⅲ地区											
		1層	東トレンチ		西T1	西トレンチ2		表採	1層	T.P.1	T.P.3	H－8			遺物だまり	1層	2層	遺構内T1	遺構内T2	西トレンチ			表採	不明	表採	不明	合計
			表採	2層	3層	1層	2層			1層	1層	1層	2層	遺構内				2層	1層	1層	2層	3層					
碗	口～底								7			1			2	18	5			13		25		3	1		75
	口縁						1	2	21			2			24	434	93		1	82	5	198		8	26		897
	胴							1	5						8	263	10		2	78	2	88		2	16		475
	底	1		2			2	5	36	1	1	4			56	465	32	1		166	5	219		9	65		1070
小杯	口～底																			1		1					2
	口縁																			1		1					2
	底															1				2							3
皿	口～底								2						1	2	1			3		4				2	15
	口縁							1	1			1			2	22	1			11		6			1		46
	胴														2	16	1			7		3			2		31
	底								1						1	7				3		3			2		17
小鉢	口～底															1											1
	口縁															1				5		2			1		9
大鉢	口～底								1							2				5		1					9
	口縁							1	4	1		1		1	16	146				51	1	41		4	18		285
	胴								10			5			16	323	2			109	3	69	1	5	23		566
	底								5	1					11	70				31		15			13		146
鍋	口～底															1											1
	口縁														3	45			4	4	1	11			5		73
	胴															10	10			9		1					30
	底															10				4		1					15
	把手															5											5
壺	口縁														1	26				15		7		1	2		52
	胴			4				1	10						9	179	1	8	2	56	1	46	1		17		335
	底								6						13	24				10	1	9			8		71
	耳															6				7	1	1					15
	蓋															5				2		3					10
急須	口～底															1				2							3
	口縁															45	3			16	1	15	1	3			84
	胴															110	3			24	1	32	11		1		182
	底															81	2			17	1	26		3	1		131
	注口															19				7		11	1				38
	耳															22				5		4		1			32
	把手														1					1							2
	蓋							1	1			1			2	48			1	20	1	20	3	1	1		100
大型急須	口～底											1										1					2
	口縁														2	1				2		2					7
	胴															40				18	1	18	1	1			79
	底															1				1		2					4
	注口															3											3
	取手							1								11				1		2	1				16
酒器	口縁															7	3			2		3					15
	胴															23			1	4		10	1	1	1	1	42
	底															10			1	1		2	1				15
瓶	口縁															4				5		7					16
	胴			1	1				1					1	4	59	3			20		22		1	5	1	119
	底															22				6		8					36
火炉	口～底		1																								1
	口縁														1	9				7	1	5			2		25
	胴								2						4	9				3		5			11		34
	底								4						1	15				7	3	7			3		40
	耳															1			1	3		1					6
香炉	口～底												1														1
	口縁																			1							1
	飾り								1																		1
火取	口～底															2				1		1					4
	口縁			1					2						3	28				8	11	1	1				55
	胴															17				7	8			1			33
	底								1						1	12	1			6	6	1	2		2		32
灯明皿	底															1											1
灯明具	口縁															1				1		2					4
	底								1							4	1			2		2					10
	脚台															1						1					2
不明	口縁															2											2
	胴			4					5						10	36				1		5		1	52	1	115
	底															1											1
	蓋					1	1	2	3			1			3	15	1			2	1	3			7		40
合計		1	1	12	1	1	4	15	130	3	1	17	1	2	197	2743	173	9	13	876	55	974	25	45	286	5	5590

※西Ｔ１：西トレンチ１、遺構内Ｔ１：遺構内トレンチ１、遺構内Ｔ２：遺構内トレンチ２

第 14 表 a　沖縄産施釉陶器観察一覧

単位：cm

図	番号	器種	分類	部位	口径	器高	底径	観察事項	出土地
第20図（図版15）	1	碗	Ⅰ－a	口縁	13.0	－	－	口唇部の釉は一部剥落。	Ⅲ地区 1層
	2			底	－	－	7.2	外面の釉の発色は不明瞭（白色に濁る）。内底に石灰が付着。	Ⅲ地区 1層
	3		Ⅰ－b	口縁	13.0	－	－	内面に気泡がみられる（被熱の跡？）。	Ⅲ地区 西トレンチ3層
	4		Ⅱ－a	底	－	－	6.0	内底に鉄釉で丸文（蛇の目を意識？）。畳付にアルミナを塗布。	Ⅲ地区 1層
	5		Ⅱ－b	口縁	16.6	－	－	内面に鉄釉で圏線。	Ⅲ地区 1層
	6			底	－	－	6.0	内面及び内底に鉄釉で圏線、丸文。畳付にアルミナを塗布。	Ⅲ地区 1層
	7			口～底	13.9	6.3	6.0	内底にアルミナが付着。畳付にアルミナを塗布。	Ⅲ地区 1層
	8			底	－	－	6.4	内面に気泡がみられる（被熱の跡？）。畳付にアルミナを塗布。	Ⅲ地区 1層
	9		Ⅲ－a	口～底	12.4	5.6	5.8	内底にアルミナが一部付着。畳付にアルミナを塗布。	Ⅱ地区 1層
	10			口～底	14.2	6.8	6.4	外面に呉須と飴釉で印花文。畳付にアルミナを塗布。	Ⅱ地区 1層
	11			口～底	13.4	6.3	5.8	外面に呉須で花文3個（九曜文？）。内底にアルミナが付着。畳付にアルミナを塗布。	Ⅲ地区 西トレンチ3層
	12			口～底	12.2	5.4	5.9	外面に呉須で巴文3個。畳付にアルミナを塗布。	Ⅲ地区 西トレンチ3層
	13			口～底	13.6	5.9	6.0	外面に呉須で菊花文、内面に呉須で草文。内底にアルミナが付着。畳付にアルミナを塗布。	Ⅲ地区 西トレンチ1層
	14			口～底	13.6	6.3	6.4	外面に呉須で菊花文、区画文、巴文、圏線、内面に呉須で花文、圏線。畳付にアルミナを塗布。	Ⅲ地区 西トレンチ3層
	15			口～底	13.2	6.5	5.8	外面に呉須で菊花唐草文、内面に呉須で花弁文（瓔珞文？）。内底にアルミナが付着。畳付にアルミナを塗布。	Ⅲ地区 西トレンチ3層
	16			口～底	12.8	5.8	5.3	外面に呉須で菊花文、内面に呉須で唐草文。内底にアルミナが付着。畳付にアルミナを塗布。	Ⅲ地区 西トレンチ1層
	17		Ⅲ－b	底	－	－	6.2	外面に鉄絵で圏線2条、内底に鉄絵で丸文。内底に砂粒が付着。	Ⅲ地区 西トレンチ1層
	18		Ⅲ－c	底	－	－	6.0	内面に石灰？が付着。畳付にアルミナを塗布。	Ⅲ地区 1層
	19		Ⅲ－d	底	－	－	5.6	外底面の施釉は不徹底。	Ⅱ地区 表採
	20		Ⅲ－a	口縁	13.1	－	－	口唇部に呉須を部分的に塗布。内底にアルミナが一部付着。	Ⅲ地区 1層
	21			口縁	12.2	－	－	両面に呉須で草花文？	Ⅲ地区 西トレンチ1層
第21図（図版16）	22		Ⅲ－a	底	－	－	6.2	外面に線彫りと呉須で唐草文。内底にアルミナが付着。畳付にアルミナを塗布。	Ⅲ地区 1層
	23			底	－	－	6.1	外面に線彫りと呉須で丸十字文？　畳付にアルミナを塗布。	Ⅲ地区 1層
	24			底	－	－	6.7	外面に緑釉と飴釉で花文。畳付にアルミナを塗布。	Ⅲ地区 2層
	25			底	－	－	5.8	外面に赤絵で圏線、内面に赤絵で圏線。内底にアルミナが一部付着。畳付にアルミナを塗布。	Ⅱ地区 遺物だまり
	26		Ⅲ－c	底	－	－	6.4	内底露胎部に白土を塗布。畳付にアルミナを塗布。	Ⅲ地区 1層
	27		－	底	－	－	4.7	外面に呉須と鉄釉で花文、唐草文？、二重圏線、内底に呉須で圏線、草文。内底にアルミナ？を施す。	Ⅲ地区 西トレンチ1層
	28		Ⅳ	口縁	11.0	－	－	外面に線彫りと呉須・飴釉で花弁文、区画文。口唇部は露胎。	Ⅲ地区 1層
	29			底	－	－	6.5	外面に線彫りと呉須で圏線？　畳付にアルミナを塗布。	Ⅲ地区 西トレンチ3層
	30	小碗	Ⅰ－a	口～底	9.3	4.5	4.4	内面口縁部に釉垂れあり。高台外面に目跡？が付着。	Ⅲ地区 西トレンチ3層
	31			口～底	8.7	4.6	3.8	内面口縁部に一部釉垂れあり。畳付にアルミナを塗布。	Ⅲ地区 西トレンチ3層
	32			底	－	－	3.4	畳付にアルミナを塗布。	Ⅲ地区 西トレンチ3層
	33		Ⅰ－b	口～底	8.4	4.4	3.6	内底にアルミナが一部付着。畳付にアルミナを塗布。	Ⅲ地区 2層

注：法量の項「－」は測定不可

第14表b　沖縄産施釉陶器観察一覧

単位：cm

図	番号	器種	分類	部位	口径	器高	底径	観察事項	出土地
第21図（図版16）	34	小碗	Ⅰ－b	口縁	8.8	－	－	外面に呉須で巴文？	Ⅲ地区 2層
	35			口縁	8.4	－	－	内面に呉須で草文。外面の釉の発色は不明瞭（白色に濁る）。	Ⅲ地区 西トレンチ3層
	36			口～底	8.4	4.5	3.5	外面に呉須で山水文。畳付にアルミナを塗布。	Ⅲ地区 西トレンチ3層
	37			口～底	8.3	(4.4)	(3.8)	内面に呉須で草文。畳付にアルミナを塗布。	Ⅲ地区 2層
	38			口～底	7.8	3.9	3.2	外面に呉須で九曜文。内底にアルミナが付着。畳付にアルミナを塗布。	Ⅲ地区 1層
	39			口～底	8.4	3.9	3.7	外面に呉須で菊花文、内面に呉須で草花文。内底にアルミナが付着。畳付にアルミナを塗布。	Ⅲ地区 1層
	40			口～底	8.0	4.2	3.4	外面に呉須で菊花唐草文、内面及び内底に呉須で瓔珞文？、花文。畳付にアルミナを塗布。	Ⅲ地区 西トレンチ3層
	41			口～底	8.2	3.8	3.9	外面に呉須で菊花文1対。内底にアルミナが付着。畳付にアルミナを塗布。	Ⅲ地区 1層
	42		Ⅱ	口～底	7.9	4.0	4.0	内底にアルミナが一部付着。畳付にアルミナを塗布。	Ⅲ地区 1層
	43			底	－	－	3.4	外底面の施釉は不徹底。畳付にアルミナを塗布。	Ⅲ地区 西トレンチ1層
	44		Ⅲ	口～底	8.0	4.0	3.8	外面に呉須で巴文1対。畳付にアルミナを塗布。	Ⅲ地区 西トレンチ3層
	45			口縁	9.0	－	－	外面に白土象嵌で巴文、二重圏線、葉文。	Ⅲ地区 西トレンチ2層
	46			口縁	－	－	－	外面に白土で花文。外面の釉の発色は不明瞭（白色に濁る）。	Ⅲ地区 1層
	47			底	－	－	4.0	外面に呉須で蓮弁文。畳付にアルミナを塗布。	Ⅲ地区 西トレンチ1層
	48			底	－	－	3.9	内底に呉須で菊花文。畳付にアルミナを塗布。	Ⅲ地区 2層
	49			口～底	8.6	3.9	3.8	外底面に陰圏線。畳付にアルミナを塗布。成形は丁寧。	Ⅲ地区 西トレンチ3層
	50		Ⅳ	口縁	6.4	－	－	外面に呉須と飴釉で線条文。口唇部に鉄錆を塗布。	Ⅲ地区 西トレンチ1層
	51	小杯	－	口～底	4.6	3.0	1.9	全体的に成形は丁寧。	Ⅲ地区 西トレンチ3層
第22図（図版17）	52	Ⅲ	Ⅰ	口～底	14.1	3.4	7.0	内底にアルミナが一部付着。畳付にアルミナを塗布。	Ⅲ地区 西トレンチ3層
	53			口～底	9.2	3.0	4.0	内面に呉須で菊花唐草文。畳付にアルミナを塗布。	Ⅲ地区 西トレンチ3層
	54			口～底	13.0	4.0	5.6	内面及び内底に呉須で花弁文、渦文。内底にアルミナが付着。畳付にアルミナを塗布。	Ⅲ地区 西トレンチ1層
	55			口～底	14.2	3.4	7.1	内面に呉須で菊花唐草文。畳付にアルミナを塗布。	不明
	56			口縁	22.3	－	－	内面に呉須で菊花文、区画文（清朝磁器を意識）。口唇部の釉は一部剥落。	Ⅱ地区 表採
	57			口～底	21.8	6.3	9.4	内面に呉須で草花文。内底にアルミナが付着。畳付にアルミナを塗布。	Ⅲ地区 西トレンチ3層
	58		Ⅱ	口～底	10.2	2.9	4.8	内面に呉須と飴釉で捻花文？、内底に呉須で丸文？　畳付にアルミナを塗布。	Ⅲ地区 西トレンチ3層
	59			口～底	12.1	3.3	6.0	内面及び内底に呉須で花弁文？、圏線、渦文。内底にアルミナが付着。畳付にアルミナを塗布。	Ⅲ地区 1層
	60			口～底	10.6	3.1	2.4	内面に呉須で花弁文。畳付にアルミナを塗布。	Ⅱ地区 遺物だまり
	61		Ⅲ－a	口～底	14.2	4.3	6.4	内底に線彫りで圏線3条。畳付にアルミナを塗布。	不明
	62		Ⅲ－b	口～底	15.0	4.9	7.6	外底面の施釉は不徹底。畳付にアルミナを塗布。	Ⅲ地区 西トレンチ1層
	63			口～底	13.6	3.7	6.2	内面及び内底に呉須で鋸歯状文、圏線、渦文。畳付にアルミナを塗布。	Ⅲ地区 西トレンチ1層
	64		Ⅲ－c	口～底	10.5	3.1	5.4	外面に線彫りで唐草文、内面及び内底に線彫りと呉須で唐草文、圏線、斜線文、菊花文、巴文。	Ⅲ地区 1層
	65	小鉢	－	口縁	13.6	－	－	内面に呉須で斜格子文。	Ⅲ地区 西トレンチ1層
	66			口～底	16.0	6.8	6.4	内面及び内底に呉須で区画文、花文、圏線、渦文。内底にアルミナが付着。畳付にアルミナを塗布。	Ⅲ地区 1層

注：法量の項「－」は測定不可

第 14 表 c　沖縄産施釉陶器観察一覧

単位：cm

図	番号	器種	分類	部位	口径	器高	底径	観察事項	出土地
第23図（図版18）	67	大鉢	Ⅰ	口～底	23.4	10.9	9.3	内底にアルミナが付着。畳付にアルミナを塗布。	Ⅱ地区 1層
	68		Ⅱ－a	口縁	24.0	－	－	両面に轆轤痕がみられる。	Ⅲ地区 西トレンチ1層
	69			口縁	18.6	－	－	内面は白化粧を施した後に施釉。	Ⅲ地区 1層
	70		Ⅱ－b	口～底	21.6	11.2	8.4	内底にアルミナが付着。畳付にアルミナを塗布。内面に轆轤痕がみられる。	Ⅲ地区 西トレンチ1層
	71		Ⅱ－c	口～底	19.0	10.2	7.7	内面に呉須と飴釉で波状文3個。畳付にアルミナを塗布。外面に轆轤痕がみられる。	Ⅲ地区 西トレンチ1層
	72		Ⅱ－a	底	－	－	8.2	内面に鉄絵で丸文。	Ⅲ地区 1層
	73			底	－	－	9.2	内底に白土で丸文。内底にアルミナ？が一部付着。	Ⅲ地区 1層
	74			底	－	－	9.6	内底にアルミナ？が一部付着。	Ⅲ地区 西トレンチ3層
	75		Ⅱ－b	底	－	－	9.8	外底に墨書で「峯」の銘。内底に飴釉で花文。内底にアルミナが付着。畳付にアルミナを塗布。	表採
	76			底	－	－	9.8	内底に目跡？が付着。外底面に鉄釉を雑に塗布。	Ⅲ地区 1層
	77	鍋	Ⅰ	口縁	12.4	－	－	口縁内面の露胎部にアルミナ？が一部付着。	Ⅱ地区 遺物だまり
	78			口縁	16.5	－	－	全体的に釉の発色は不明瞭（白色に濁る）。	Ⅲ地区 1層
	79			口～底	17.4	12.3	8.3	口縁部に紐状の横耳を1対貼付。	Ⅲ地区 西トレンチ3層
	80		Ⅱ	口縁	24.8	－	－	全面に気泡がみられる。	Ⅱ地区 遺物だまり
	81	壺	－	口～底	10.2	27.1	12.4	外面肩部に縦耳を2対貼付。口唇部は釉剥ぎ後に白土を塗布。	Ⅲ地区 西トレンチ3層
第24図（図版19）	82	急須	Ⅰ－a	口縁	5.6	－	－	内面に轆轤痕がみられる。	Ⅲ地区 1層
	83		Ⅰ－c	口縁	5.4	－	－	外面は白化粧を施した後に施釉。釉は口縁部内面まで及ぶ。	Ⅲ地区 西トレンチ1層
	84		Ⅰ－b	口縁	5.2	－	－	外面に線彫りと呉須・飴釉で圏線、花弁文？	Ⅲ地区 1層
	85			口～底	5.5	9.7	7.7	外面に線彫りと呉須で圏線、花弁文、斜格子文。注口裏に約6㎜の孔を横に2個穿つ。	Ⅲ地区 西トレンチ3層
	86			口縁	4.6	－	－	外面に線彫りと呉須・飴釉で圏線、花弁文？　注口基部に緑釉流し掛け。注口裏に約6㎜の孔を斜めに2個穿つ。	Ⅲ地区 西トレンチ3層
	87			口縁	5.1	－	－	外面に青釉？と赤絵で葡萄文を施すが剥落が著しい。	Ⅲ地区 西トレンチ3層
	88		Ⅱ	口～底	6.8	6.7	6.0	注口裏に約5㎜の孔を縦に2個穿つ。外面口縁部から胴部中位に貫入がみられる。	Ⅲ地区 1層
	89		Ⅲ	口～底	10.5	16.0	10.7	内底にアルミナが付着。畳付にアルミナを塗布。外底面の施釉は不徹底。	Ⅲ地区 西トレンチ3層
	90	蓋	Ⅰ－a	口～底	5.8	2.8	4.4	庇端部に陰圏線2条。撮基部に約6㎜の孔を1個穿つ。	Ⅲ地区 西トレンチ1層
	91		Ⅰ－b	口～底	5.6	3.0	3.8	撮頂部から約3㎜の孔を1個穿つ。	Ⅲ地区 西トレンチ1層
	92		Ⅰ－a	口～底	6.0	3.5	4.0	外面に線彫りと呉須・飴釉で圏線、花弁文、斜格子文。撮基部に約5㎜の孔を1個穿つ。	Ⅰ地区 西トレンチ②1層
	93			口～底	6.7	3.0	5.0	外面に線彫りと呉須で車輪文。撮基部に約4㎜の孔を1個穿つ。	Ⅲ地区 表採
	94		Ⅱ	口～底	6.6	1.7	4.7	外面に陰圏線、飛鉋。	Ⅲ地区 1層
	95			口～底	5.3	2.0	3.7	庇上面の釉の発色は不明瞭（灰色に濁る）。	Ⅲ地区 1層
	96		Ⅲ	底	12.2	－	9.4	庇端部内面にアルミナが一部付着。	Ⅲ地区 西トレンチ3層
	97		Ⅳ	口～底	11.0	3.6	6.7	庇端部に陰圏線3条。	Ⅲ地区 西トレンチ3層
	98			口～底	8.4	3.0	5.4	庇端部に陰圏線2条。	Ⅲ地区 1層
	99			口～底	8.6	3.2	5.1	庇端部に陰圏線2条。	Ⅲ地区 1層

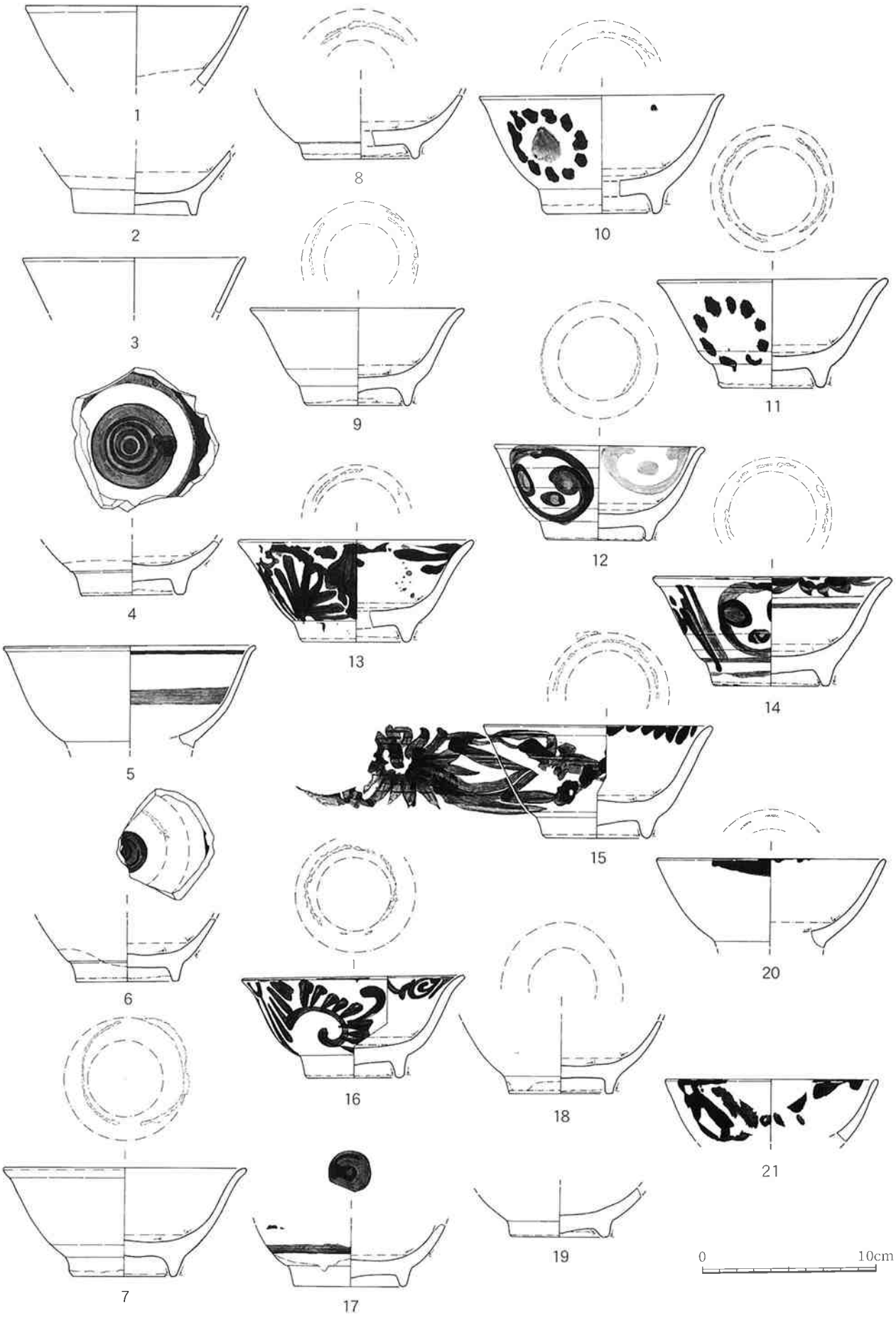
注：法量の項「－」は測定不可

第 14 表 d　沖縄産施釉陶器観察一覧

単位：cm

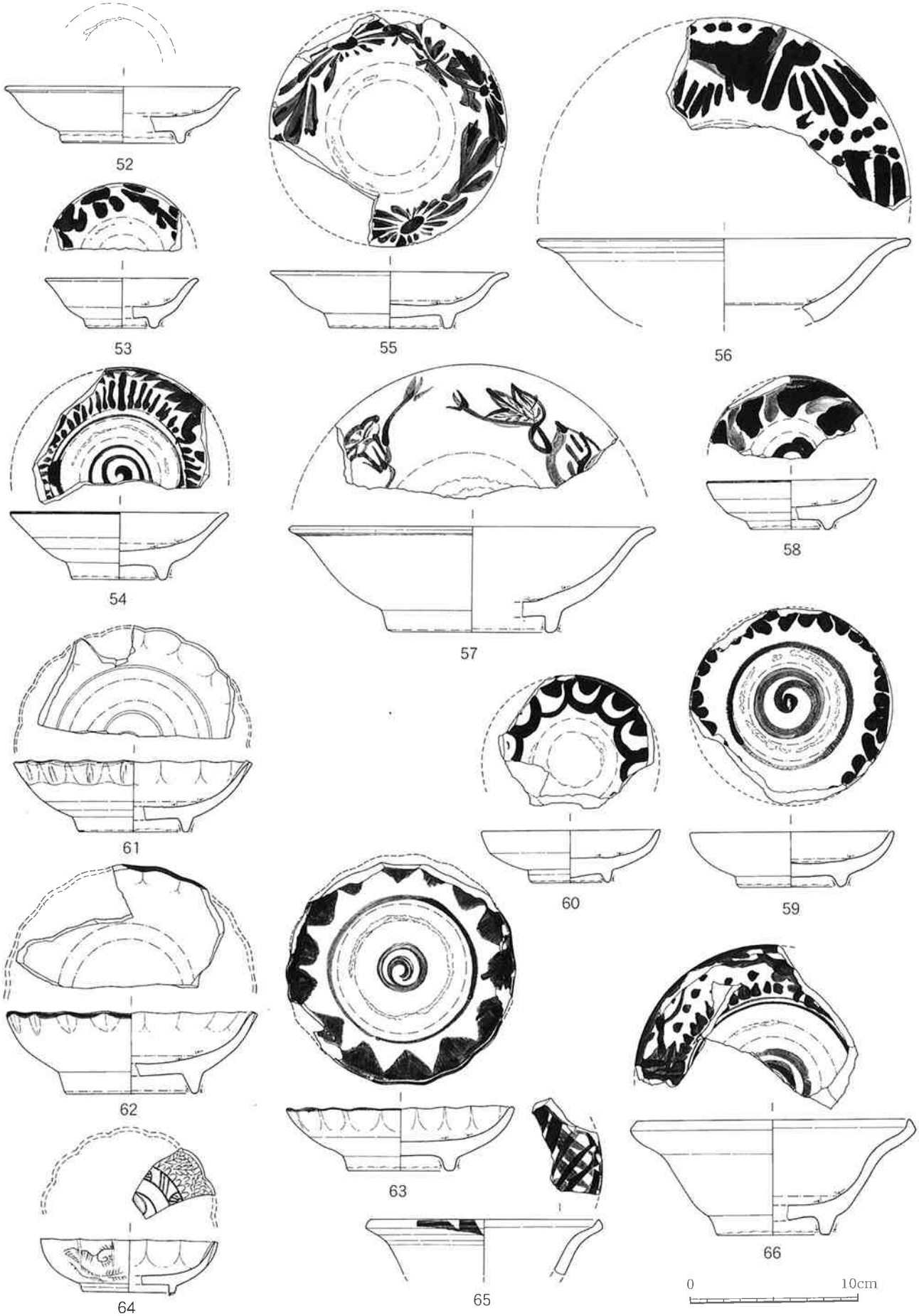
図	番号	器種	分類	部位	口径	器高	底径	観察事項	出土地
第24図（図版19）	100	蓋	V	口～底	4.6	4.1	11.4	撮頂部と庇端部にアルミナを塗布。	Ⅲ地区 西トレンチ２層
	101			口	3.1	－	－	外面に陰圏線３条。内面に白化粧を施す。	Ⅲ地区 1 層
	102		Ⅵ	底	11.4	－	9.6	外面に呉須で花弁文？	Ⅲ地区 西トレンチ３層
	103	酒器	Ⅰ	底	－	－	7.4	外面に線彫りと呉須・飴釉で花弁文。	Ⅲ地区 西トレンチ１層
	104			底	－	－	8.6	外面に陽圏線２条。外面は白化粧を施した後に施釉。	Ⅲ地区 西トレンチ３層
	105		Ⅱ	底	－	－	9.0	外面に線彫りと呉須・飴釉で圏線、花弁文？　外底に墨書で「ニ？」の銘。外底面にアルミナが一部付着。	表採
	106		Ⅲ	底	－	－	9.0	外面胴部に呉須を塗布。外底面にアルミナが付着。	Ⅲ地区 西トレンチ３層
第25図（図版20）	107	瓶	－	口	8.8	－	－	両面に部分的に気泡がみられる。	Ⅲ地区 1 層
	108			口	5.5	－	－	内面に轆轤痕がみられる。	Ⅲ地区 1 層
	109			胴	－	－	－	外面に呉須と飴釉で花弁文。頸部に緑釉を流し掛ける。	Ⅲ地区 西トレンチ３層
	110			口	1.8	－	－	内面に轆轤痕がみられる。	Ⅲ地区 西トレンチ２層
	111			底	－	－	5.4	内面に轆轤痕がみられる。	Ⅲ地区 1 層
	112			底	－	－	9.2	内面に轆轤痕がみられる。	Ⅲ地区 西トレンチ１層
	113			底	－	－	12.4	外面に呉須で松竹梅文。畳付にアルミナを塗布。外底面に鉄釉を雑に施釉。	Ⅲ地区 西トレンチ３層
	114	火炉	Ⅰ	口	29.0	－	－	外面は白化粧を施した後に施釉。内底に煤？が付着。	Ⅲ地区 西トレンチ３層
	115			底	－	－	24.4	内底に器物片が溶着。外底に目跡？が溶着。	表採
	116			口	12.0	－	－	口唇部に白土を塗布。外面に器物片？が溶着。	Ⅲ地区 西トレンチ３層
	117		Ⅱ	口	14.4	－	－	口唇部にアルミナが一部付着。	Ⅲ地区 西トレンチ３層
	118	香炉	－	口～底	14.0	7.5	6.6	外面は白化粧を施した後に施釉。外底にアルミナが一部付着。	Ⅱ地区 H－８　２層
	119	火取	Ⅰ－b	底	－	－	8.5	外面に獣面（獅子）の外耳を１対貼付。	Ⅲ地区 西トレンチ３層
	120		Ⅰ－c	口～底	10.3	8.7	7.5	外面に轆轤痕がみられる。畳付にアルミナを塗布。	Ⅲ地区 西トレンチ１層
	121			口～底	10.4	9.0	7.6	外面口縁部に呉須で圏線？　畳付にアルミナを塗布。	Ⅲ地区 西トレンチ３層
	122		Ⅰ－a	底	－	－	7.6	外面に飛鉋を施した後、白土象嵌。高台外面に器物片が溶着。	Ⅲ地区 1 層
	123			口	8.6	－	－	外面に白土象嵌で圏線、羽状文？　内面に轆轤痕がみられる。	Ⅲ地区 1 層
	124		Ⅰ－b	口	9.6	－	－	内面に轆轤痕がみられる。	Ⅲ地区 西トレンチ１層
	125		Ⅰ－a	底	－	－	6.8	内面に轆轤痕がみられる。	Ⅲ地区 西トレンチ３層
	126		Ⅱ	底	－	－	6.0	畳付及び外底に砂粒が付着。	Ⅲ地区 西トレンチ３層
	127	灯明具	Ⅰ	口～底	10.4	2.8	3.8	内底にアルミナが付着。外面腰部から畳付にアルミナを塗布。	Ⅲ地区 1 層
	128		Ⅱ	口	6.0	－	－	口縁部に呉須で覆輪？	Ⅲ地区 西トレンチ３層
	129			底	－	－	5.6	畳付にアルミナを塗布。内面に轆轤痕がみられる。	表採
	130			底	－	－	8.8	外底に目跡が残る。	Ⅲ地区 西トレンチ３層

注：法量の項「－」は測定不可

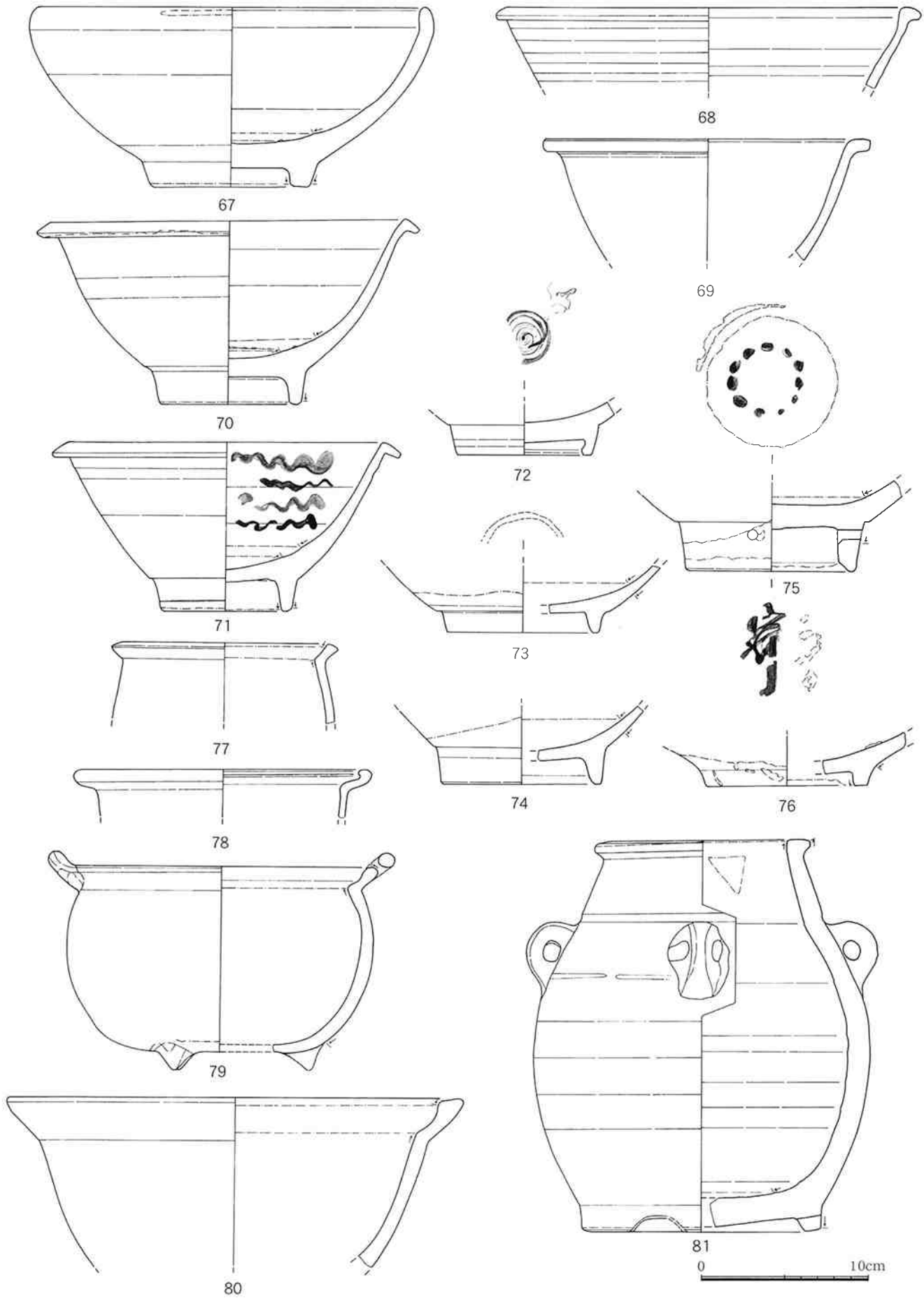


第 20 図　沖縄産施釉陶器 1　碗

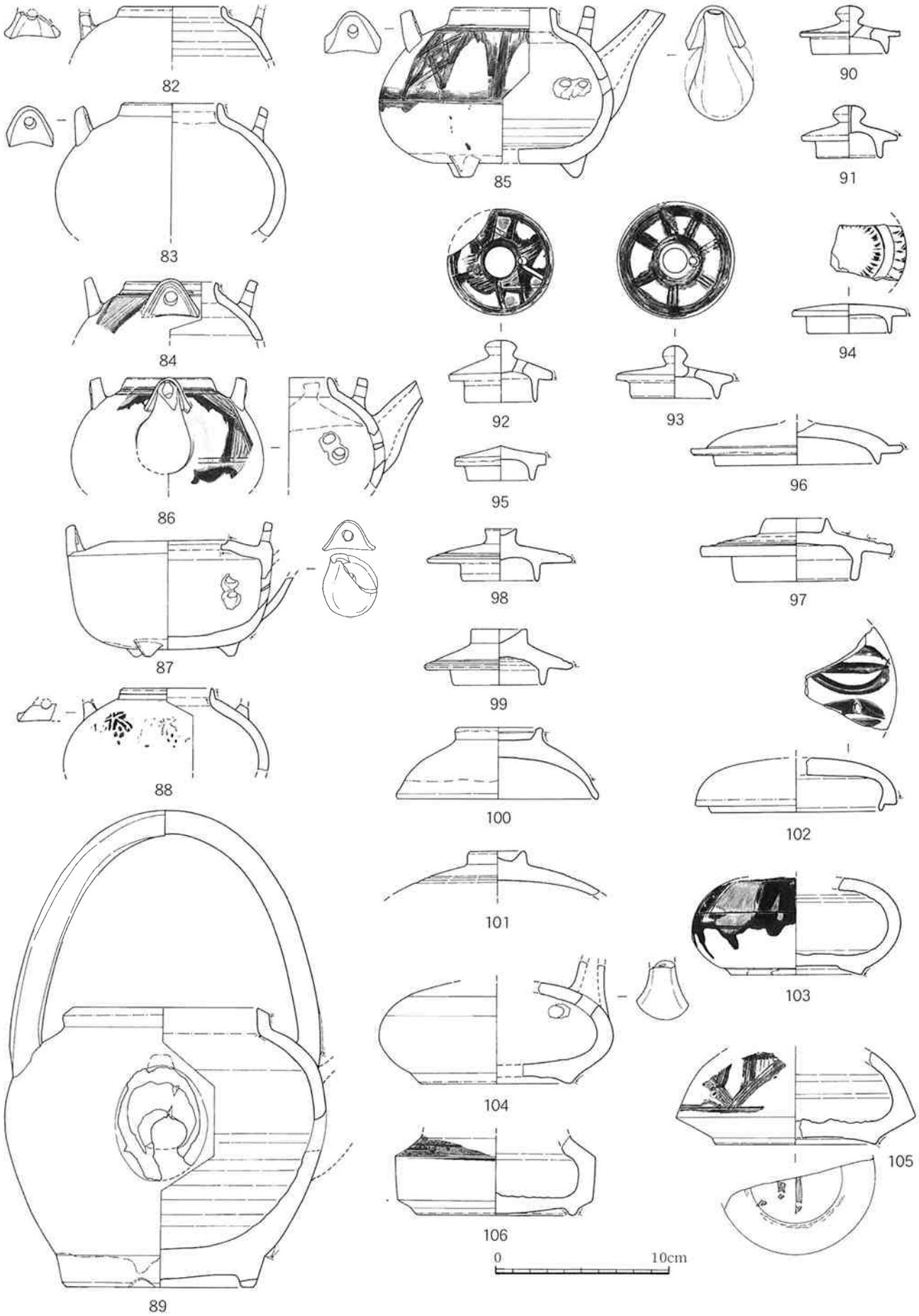
第 21 図　沖縄産施釉陶器 2　碗（22 ～ 29）、小碗（30 ～ 50）、小杯（51）



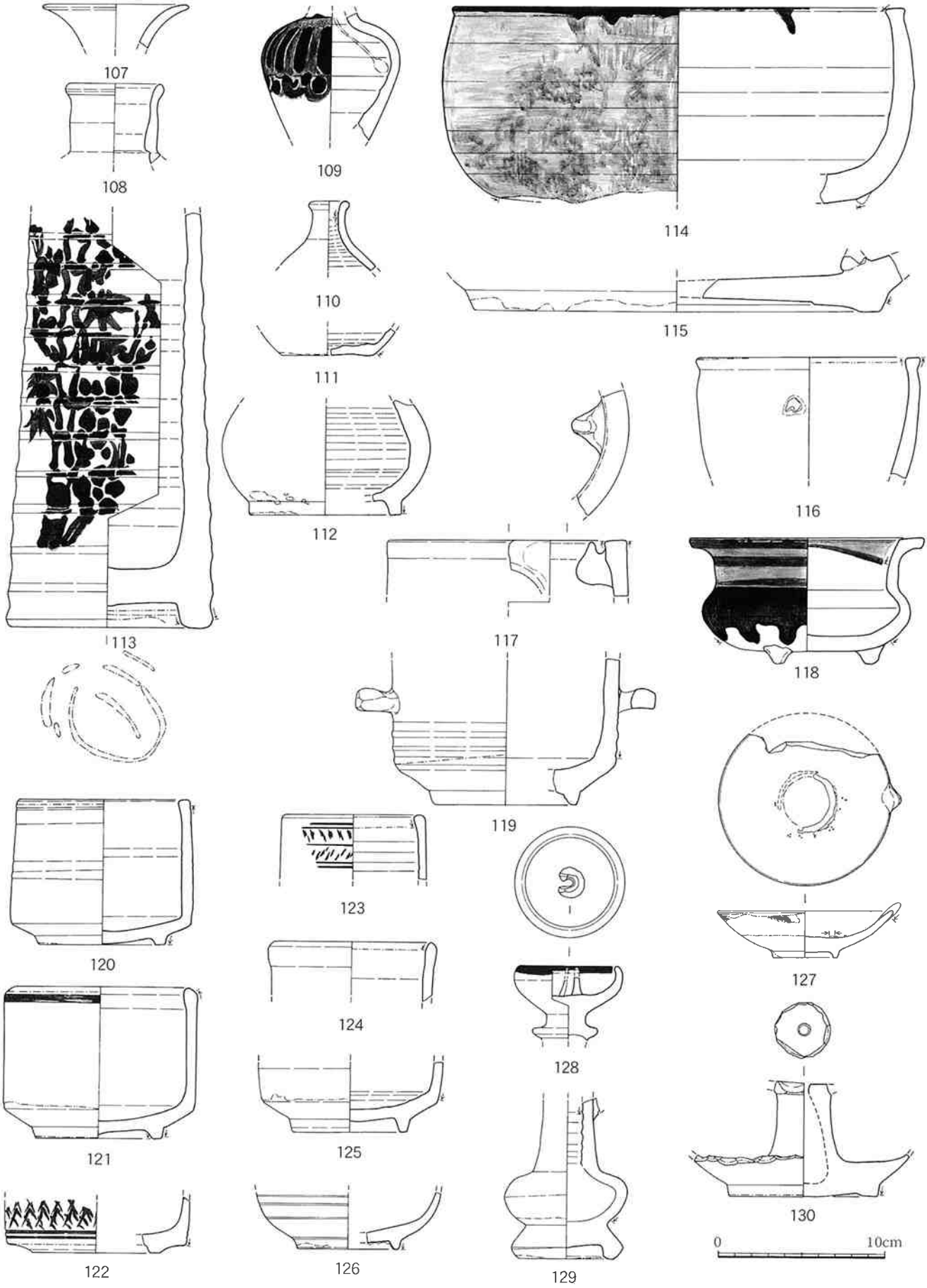
第 22 図　沖縄産施釉陶器 3　Ⅲ（52 ～ 64）、小鉢（65、66）



第 23 図　沖縄産施釉陶器 4　大鉢（67 ～ 76）、鍋（77 ～ 80）、壺（81）



第 24 図　沖縄産施釉陶器 5　急須（82 ～ 89）、蓋（90 ～ 102）、酒器（103 ～ 106）



第 25 図　沖縄産施釉陶器 6　瓶（107 ～ 113）、火炉（114 ～ 117）、香炉（118）、火取（119 ～ 126）灯明具（127 ～ 130）

第 11 節　沖縄産無釉陶器

高火度で焼成された焼き締め陶器の一群で、方言で「荒焼（アラヤチ）」とも称される。基本的には無釉の陶器を主体とするが、マンガン釉や泥釉などが施釉されるものも含まれる。器種は碗・皿・鍋・急須・蓋・徳利・火取・火炉・鉢・擂鉢・壺・甕が確認されている。ここでは各器種の分類概念を記し、個々の観察所見は第 16 表に譲る。

1. 碗（第 26 図 1、2）

高台刳りの浅い厚手の碗で、口縁部は直口するもの（1）と、端部をわずかに外反させるもの（2）がある。いずれも無文。

2. 皿（第 26 図 3 ～ 6）

Ⅰ類：平底の底部から逆「ハ」の字状に立ち上がる小皿で、直口口縁のもの（3、5）と内湾器形を呈するもの（4）がある。また灯明皿として使用されるため、3 や 4 のように口縁部に変色や煤跡の付着が認められるものもある。

Ⅱ類：高台から逆「ハ」の字状に開くもの。鍋等の蓋の可能性もある（6）。

3. 鍋（第 26 図 7）

口縁部を外側に折り曲げ胴部が球形を呈するもので、口縁部外面に紐状の横耳を貼付する。底部形態及び文様の有無は不明。

4. 急須（第 26 図 8 ～ 12）

Ⅰ類：胴部が球形を呈するもので、頸部を垂直に立ち上げ口縁部内面に蓋受部を設ける（8 ～ 10）。9 は小形の鉢の可能性もある。

Ⅱ類：胴部が円錐状にすぼまるもの。口縁部内面に蓋受部を設ける。無文（11）。12 は急須の注口であるが、胴部形態との関連は不明。

5. 蓋（第 26 図 13、14）

Ⅰ類：壺に対応するもので、摘を持たず庇上面を平坦に成形する。無文（13）。

Ⅱ類：急須または壺に対応するもので、庇上面を膨らませ端部が外側に張り出す。無文（14）。

6. 徳利（第 26 図 15 ～ 18）

Ⅰ類：器形が茄子形を呈するもので、方言で「一合マス」または「二合マス」と称される。外面に自然釉が施釉される（15）。

Ⅱ類：胴部が球形を呈する大形の徳利で、方言で「チュワカサー」または「ヒラチビ」と称されるもの（16、17）。

Ⅲ類：胴部が砲弾形を呈するもので、方言で「ターワカサー」または「鬼の手（ウニヌティー）」と称される。外面に自然釉が施釉される（18）。

7. 火取（第 26 図 19）

器形が筒状を呈するもので、底部は高台を持たず外底面を削り出す。

8. 火炉（第 26 図 20 ～ 22）

Ⅰ類：頸部を垂直に立ち上げ玉縁口縁を形成するもので、口縁部内面に器物受を貼付する。両面にマンガン釉を施釉する（20）。

Ⅱ類：器形が筒状を呈するもので、底部は外底面に獣足形の脚を貼付するもの（21）と、外底面を削り出すもの（22）がある。

9. **器種不明**（第 26 図 23）

高台から逆「ハ」の字状に開く大形の製品で、数ヶ所に半円形の抉りが施される。大皿等の器形が予想されるが詳細は不明。

10. **鉢**（第 27 図 24 ～ 32）

Ⅰ類：口縁部が内湾する平底の鉢で、方言で「ミジクブサー」と称されるもの。口縁部の形態により、口縁部が舌状を呈するもの（Ⅰ－a）、断面三角形状に肥厚するもの（Ⅰ－b）、断面がT字状を呈するもの（Ⅰ－c）に分かれる。aは外面に櫛描きで文様を施す（24、25）。bは外面に線彫りで文様を施す（26）。cは無文（27）。

Ⅱ類：口縁部を外側に折り曲げ鍔縁状を呈するもので、無文のもの（28、32）、外面に櫛描きで文様を施すもの（29）、鍔下部に縄目文を施すもの（30）、外面に貼り付けで文様を施すもの（31）がある。また、28 や 29 のように内面に泥釉を施釉するものもある。

11. **擂鉢**（第 27 図 33 ～ 39）

Ⅰ類：腰部から逆「ハ」の字状に開く器形で、口縁部直下に抉りを入れ稜を形成するもの（33 ～ 35）と、稜を持たないもの（38）がある。内面全体に擂目を施し、口縁部のみ擂目がナデ消される。底部は平底が主体だが、高台を持つもの（36、37）もある。37 は外面に泥釉を施釉する。

Ⅱ類：口縁部を外側に折り曲げ鍔縁状を呈するもの。内面全体に擂目を密に施し、口縁部のみ擂目がナデ消される。底部は平底で高台を持たない（39）。

12. **壺**（第 28 図 40 ～ 45）

Ⅰ類：卵形の胴部から頸部を垂直に立ち上げるもので、口縁部を外側に折り曲げ鍔縁状を呈する。両面に泥釉を施釉する（40、41）。

Ⅱ類：口縁部が玉縁状を呈する広口の壺。両面に自然釉を施釉する（42）。

Ⅲ類：胴部が砲弾状を呈する玉縁口縁の壺で、肩部に紐状の横耳を貼付する（43 ～ 45）。

13. **甕**（第 28 図 46 ～ 52）

Ⅰ類：有頸の甕形蔵骨器。外面に線彫りと貼り付けで文様を施す（46）。

Ⅱ類：肩部に最大径を持ち、口縁部を外側に折り曲げ鍔縁状を呈するもの。外面に線彫りや貼り付けで文様を施す（47、48）。

Ⅲ類：底部からほぼ垂直に立ち上がり、最大径を口縁部に持つもの。口縁部が断面T字形を呈するもの（49 ～ 51）と、口縁部を玉縁状に肥厚するもの（52）がある。外面に線彫りや貼り付けで文様を施す。

第 15 表　沖縄産無釉陶器出土状況

		Ⅰ地区				Ⅱ地区						Ⅲ地区								表採	不明	合計
		1層	東トレンチ 2層	西T1 3層	西T2 1層	表採	1層	T.P.3 1層	H－8 1層	H－8 遺構内	遺物だまり	1層	2層	遺構内T2 1層	西トレンチ 1層	西トレンチ 2層	西トレンチ 3層	表採	不明			
碗	口～底											1										1
	口縁											4								1		5
	胴											2										2
	底											5			4		3			2		14
皿	口～底											1										1
	口縁											2										2
	底											6			4							10
鍋	口縁																				1	1
	胴											2							1			3
急須	口縁											3			1							4
	注口											1			1							2
土瓶	口縁																			1		1
	注口																			1		1
瓶	口縁											2			2		2					6
	胴						1				1									8		10
	底											1			1		1				2	5
火取	口縁											3										3
	底											1								1		2
火炉	口縁														1					1		2
	胴						1													2	1	4
	底											1								1		2
馬蹄	口縁										1											1
鉢	口～底						5				1	4					11				1	22
	口縁		1			4	28		3		79	292	8	3	126	3	85	1		96	29	758
	胴											12	1		9		6			1		29
	底						10				21	126	8	2	107	1	46		2	29	5	357
有紋	口縁		2			5					17	35			23		9			20	5	116
貼付	胴											14	2		5		3					24
	底											1			1							2
擂鉢	口～底														2							2
	口縁					2	2		1		36	2							1	28		72
	胴					1	1				24	178		1	37	4	56	2	1	22	2	329
	底		1			2	6		2		47	177		1	42	3	53		4	75	2	415
壺	口～底											1										1
	口縁		1				10				25	41	2		41	1	19		1	23	4	168
	胴		1				7				20	6	1		5		1		1	87	12	141
	底					2	21		3	1	46	135	5		88	1	62		4	73	24	465
	耳		1				5		1		13	28	1		10		5			8	4	76
甕	口縁						3				5	42			26	1	35		1	11	1	125
	胴		1								1									5		7
壺or甕	胴	3	16	4	17	21	280	4	27	6	415	2685	83	7	1274	16	1215			684	205	6962
	底						1				4	10			4		1		1			21
紋様	胴						2				4	23			36		21			6	1	93
圏線	胴					1	11				37	124			44		52		4	27	17	317
トチン	口～底											1										1
不明	口縁						1								1		4		2	2		10
	胴	1					1				3	37			4		7		1	28		82
	底						2				2	2							1			7
	蓋											2			2	1	2			2		9
	不明																			2		2
合計		4	24	4	17	38	398	4	37	7	802	4012	111	14	1901	31	1699	3	25	1247	316	10694

※遺構内Ｔ２＝遺構内トレンチ２、西Ｔ１：西トレンチ１、西Ｔ２：西トレンチ２

第 16 表 a　沖縄産無釉陶器観察一覧

単位：cm

図	番号	器種	分類	部位	口径	器高	底径	観察事項	出土地
第26図（図版21）	1	碗	－	口縁	14.4	－	－	素地は明赤褐色粒子で口縁部は灰赤色に変色。外面に石灰？が付着。両面轆轤痕。	Ⅲ地区 1層
	2			底	(12.8)	(6.2)	5.6	素地は灰赤色粒子で堅緻。外面下半部は暗赤灰色に変色。外面回転擦痕、内面轆轤痕。	Ⅲ地区 1層
	3	皿	Ⅰ	口～底	10.2	2.5	4.3	素地は鈍橙色粒子。口縁部と内底面は被熱して灰色に変色。外面口縁部に煤？が付着。外面回転擦痕、外底糸切り痕。	Ⅲ地区 1層
	4			口～底	10.0	2.8	5.1	素地は橙色粒子。内面から外面口縁部は被熱して灰褐色に変色。外面回転擦痕、外底糸切り痕、内面轆轤痕。	Ⅲ地区 西トレンチ１層
	5			底	－	－	4.2	素地は鈍赤褐色粒子で堅緻。内面は自然釉？により灰黄色。外面回転擦痕、内面轆轤痕。外底の成形は雑。	Ⅲ地区 1層
	6		Ⅱ	底	－	－	7.0	素地は鈍橙色粒子で外面は灰褐色に変色。高台脇に抉りを入れる。外面回転擦痕、内面轆轤痕。	Ⅲ地区 西トレンチ１層
	7	鍋	－	口縁	12.6	－	－	素地は灰色粒子で堅緻。外面口縁部に紐状の横耳を１対貼付。両面轆轤痕。	不明
	8	急須	Ⅰ	口縁	10.4	－	－	素地は鈍赤褐色粒子。外面に陰圏線。両面轆轤痕。	Ⅲ地区 1層
	9			口縁	13.2	－	－	素地は鈍赤褐色粒子で堅緻。両面に自然釉？を施釉。両面轆轤痕。小鉢の可能性あり。	Ⅲ地区 1層
	10			口縁	10.0	－	－	素地は鈍赤褐色粒子で堅緻。内面は灰黄色に変色。両面轆轤痕。	Ⅲ地区 西トレンチ１層
	11		Ⅱ	口縁	10.3	－	－	素地は鈍赤褐色粒子で堅緻。内面は灰色に変色。外面回転擦痕、内面轆轤痕と接合痕。	Ⅲ地区 1層
	12		－	注口	－	－	－	素地は灰褐色粒子で堅緻。外面は自然釉により浅黄色。胴部との接合部に石膏が付着。外面指ナデ調整痕。	Ⅲ地区 西トレンチ１層
	13	蓋	Ⅰ	庇	10.0	－	－	素地は鈍赤褐色粒子で堅緻。器色は泥釉により赤灰色。両面轆轤痕。庇上面の成形は雑。	表採

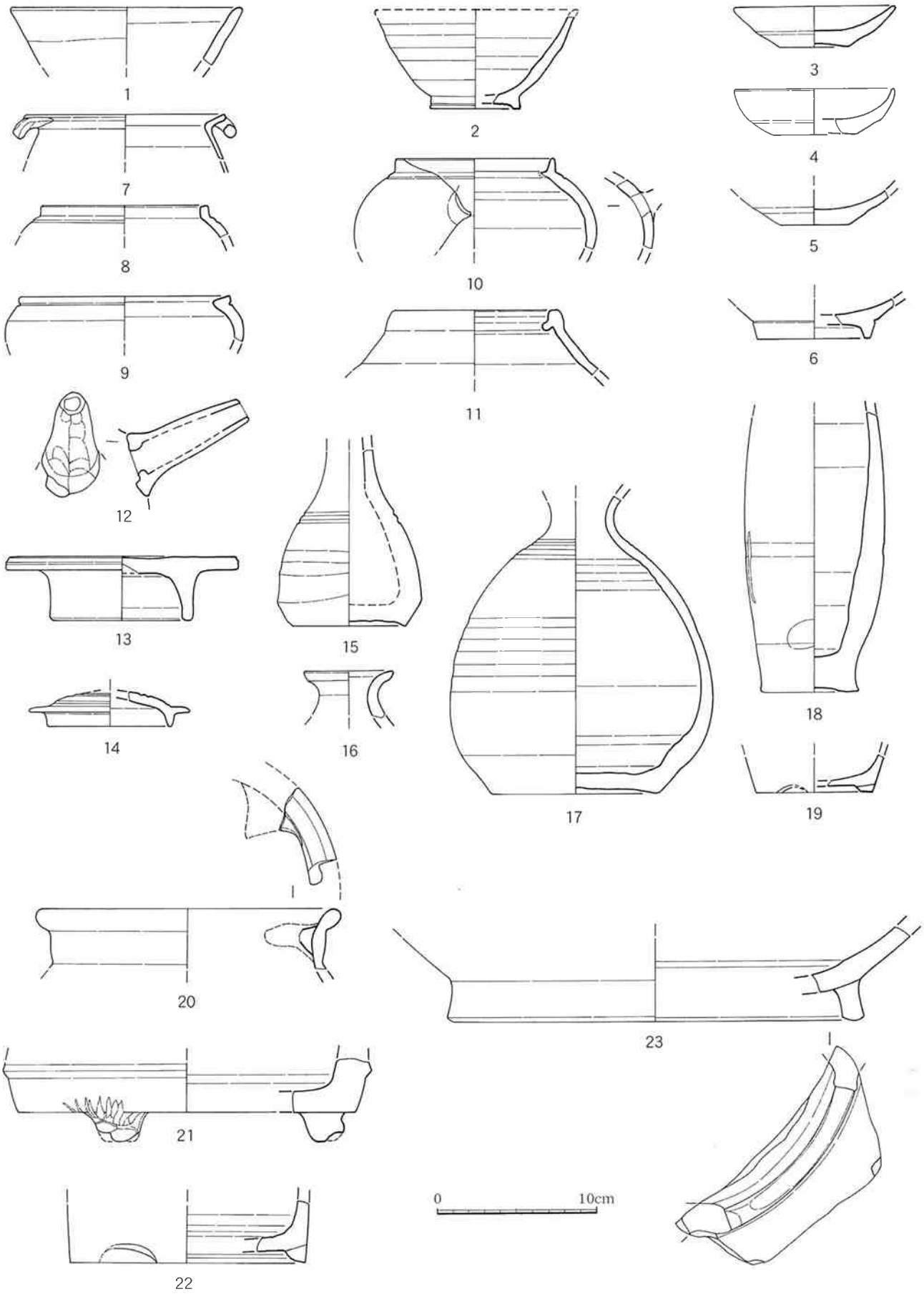
注：法量の項「－」は測定不可

第 16 表ｂ　沖縄産無釉陶器観察一覧

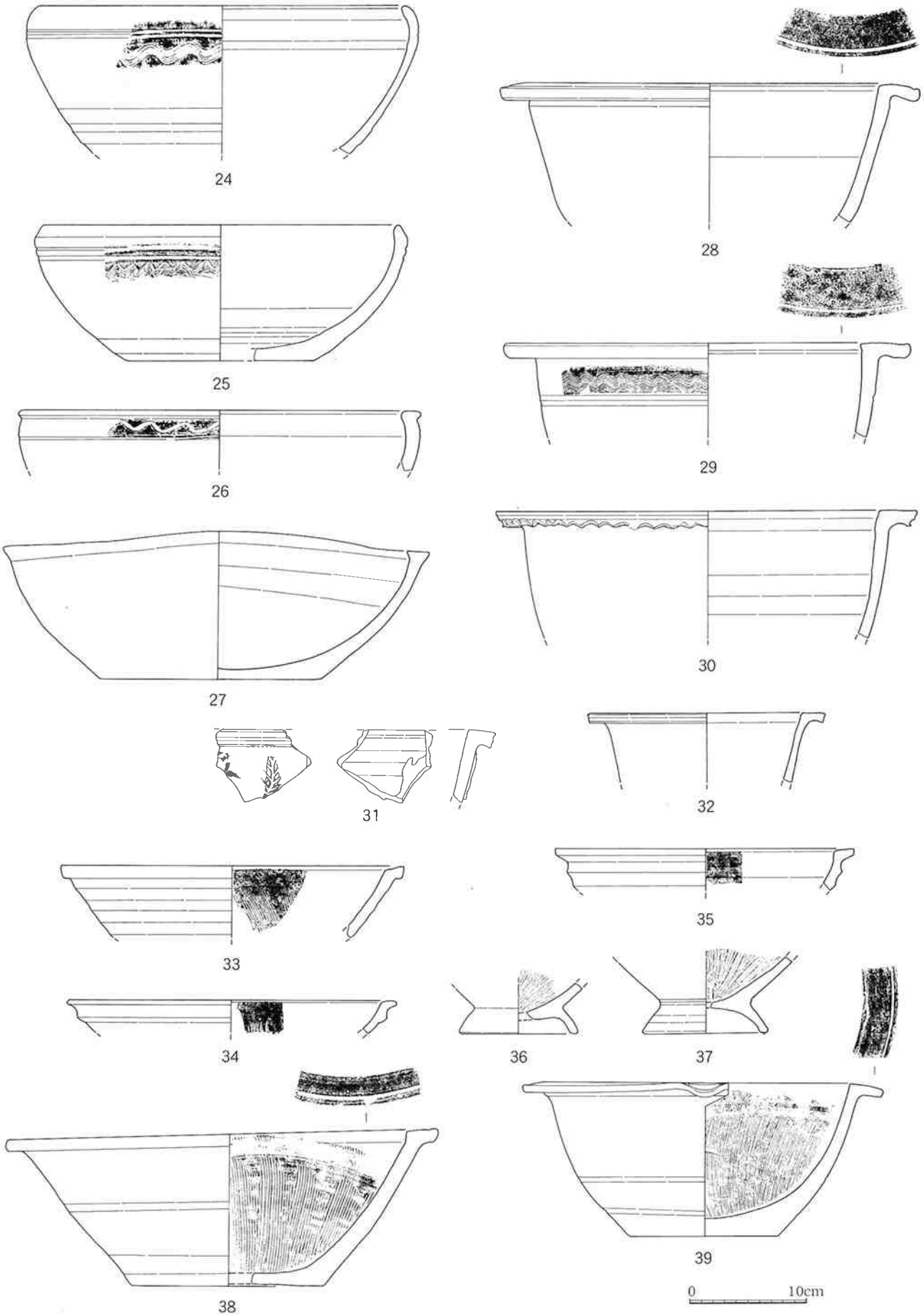
単位：cm

図	番号	器種	分類	部位	口径	器高	底径	観察事項	出土地
第26図（図版21）	14	蓋	Ⅱ	庇	9.8	－	7.8	素地は鈍赤褐色粒子で堅緻。外面に陰圏線。外面回転擦痕、内面轆轤痕。	Ⅲ地区 西トレンチ１層
	15	徳利	Ⅰ	底	－	－	7.2	素地は鈍赤褐色粒子で堅緻。外面は自然釉により灰黄色。外面に陰圏線２条。外面轆轤痕と回転擦痕、内面轆轤痕。外底の成形は雑。	Ⅲ地区 西トレンチ１層
	16		Ⅱ	口縁	5.6	－	－	素地は明赤褐色粒子で器色は鈍赤褐色。両面轆轤痕。	Ⅲ地区 １層
	17			底	－	－	10.4	素地は橙色粒子で外面下半部と内面は灰褐色に変色。外面に陰圏線。外面轆轤痕と回転擦痕、内面轆轤痕。	Ⅲ地区 西トレンチ１層
	18		Ⅲ	底	－	－	6.2	素地は鈍赤褐色粒子で堅緻。外面は泥釉により灰赤色。外面轆轤痕と回転擦痕、内面轆轤痕。	不明
	19	火取	－	底	－	－	7.1	素地は橙色粒子。高台に半円形の抉りがみられる。両面に被熱の跡あり。外面回転擦痕。	表採
	20	火炉	Ⅰ	口縁	19.0	－	－	素地は橙色粒子。器色は泥釉により褐灰色。外面口縁部に半円形の火窓を設け、内面に器物受を貼付。両面轆轤痕。	Ⅲ地区 西トレンチ１層
	21		Ⅱ	底	－	－	21.0	素地は明赤褐色粒子。外面は鈍赤褐色に変色。外底に獣足形の脚部を貼付。外面轆轤痕と回転擦痕、内面轆轤痕。	Ⅲ地区 １層
	22			底	－	－	14.5	素地は明赤褐色粒子。器色は塗料（ベンガラ？）により鈍赤褐色。高台に半円形の抉りがみられ、高台内面を階段状に成形。両面轆轤痕。	表採
	23	不明	－	底	－	－	26.0	素地は明赤褐色粒子で器色は高台を除き灰赤色に変色。高台に半円形の抉りがみられる。両面轆轤痕。	Ⅱ地区 遺物だまり
第27図（図版21）	24	鉢	Ⅰ－a	口縁	31.1	－	－	素地は明赤褐色粒子。内面は自然釉により褐灰色。外面に陰圏線２条、６本櫛の波状文。外面轆轤痕と回転擦痕、内面轆轤痕。	Ⅲ地区 西トレンチ１層
	25			口～底	30.0	11.5	16.0	素地は橙色粒子。外面に陰圏線２条、櫛描きの波状文。外面轆轤痕と回転擦痕、内面轆轤痕。外底の成形は丁寧。	Ⅲ地区 西トレンチ３層
	26		Ⅰ－b	口縁	33.8	－	－	素地は橙色粒子で口縁部は鈍黄褐色に変色。外面に線彫りの波状文、陰圏線。両面轆轤痕。	Ⅲ地区 西トレンチ３層
	27		Ⅰ－c	口～底	36.0	12.7	18.8	素地は鈍赤褐色粒子。器色は泥釉？により赤灰色。鍔上面に陰圏線、鍔下端に抉りを入れる。両面轆轤痕。	Ⅲ地区 西トレンチ３層
	28		Ⅱ	口縁	35.8	－	－	素地は明赤褐色粒子。外面口縁部から内面は灰黄褐色に変色。外面轆轤痕と回転擦痕、内面轆轤痕。外底の成形は丁寧。	Ⅲ地区 西トレンチ１層
	29			口縁	34.4	－	－	素地は明赤褐色粒子。内面は自然釉により灰黄色。鍔上面に陰圏線、外面に13本櫛の波状文、陰圏線２条。両面轆轤痕。	Ⅲ地区 西トレンチ３層
	30			口縁	35.6	－	－	素地は明赤褐色粒子。鍔端部に陰圏線、貼り付けの縄目文。両面轆轤痕。	Ⅱ地区 遺物だまり
	31			口縁	－	－	－	素地は鈍黄褐色粒子で堅緻。鍔端部に陰圏線２条、外面に貼り付けの唐草文（牡丹？）。両面轆轤痕。	Ⅲ地区 １層
	32			口縁	20.1	－	－	素地は鈍赤褐色粒子で堅緻。鍔端部に陰圏線２条。両面轆轤痕。	Ⅲ地区 西トレンチ１層
	33	擂鉢	Ⅰ	口縁	29.0	－	－	素地は鈍赤褐色粒子で堅緻。外面は灰黄褐色に変色。内面に15本櫛？の擂目を施し、口縁部はナデ消す。外面に石灰が一部付着。両面轆轤痕。	不明
	34			口縁	27.8	－	－	素地は赤褐色粒子。外面は泥釉により赤灰色。内面に６本櫛？の擂目を施し、口縁部はナデ消す。内面に石灰が一部付着。両面轆轤痕。	Ⅲ地区 １層
	35			口縁	25.2	－	－	素地は鈍赤褐色粒子で堅緻。外面は鈍橙色に変色。内面に６本櫛？の擂目を施し、口縁部はナデ消す。両面轆轤痕。	Ⅲ地区 １層
	36			底	－	－	10.0	素地は明赤褐色粒子。内面に擂目を右回転で施す。外底に擂目？を施す。両面轆轤痕。	Ⅲ地区 １層
	37			底	－	－	10.7	素地は鈍赤褐色粒子で堅緻。外面は泥釉により灰赤色。内面に擂目を右回転で施す。外底に砂粒？が付着。両面轆轤痕。	Ⅲ地区 西トレンチ３層
	38			口～底	36.7	13.3	16.2	素地は明赤褐色粒子。鍔上面に陰圏線、内面に13本櫛の擂目を右回転で施し、口縁部はナデ消す。外面轆轤痕と回転擦痕、内面轆轤痕。外底の成形は雑。	Ⅲ地区 西トレンチ３層
	39		Ⅱ	口～底	30.0	13.0	12.5	素地は明赤褐色粒子。鍔上面に陰圏線。内面に擂目を右回転で密に施し、口縁部はナデ消す。外面轆轤痕と回転擦痕、内面轆轤痕。外底の成形は丁寧。	Ⅲ地区 西トレンチ３層
第28図（図版22）	40	壺	Ⅰ	口縁	14.4	－	－	素地は鈍赤褐色粒子。器色は泥釉により褐灰色。鍔上面を階段状に成形（蓋受部？）。両面轆轤痕。	Ⅲ地区 西トレンチ３層
	41			口～底	12.4	22.0	10.8	素地は赤褐色粒子。器色は泥釉により灰褐色。外面に陰圏線。両面轆轤痕。外底の成形は丁寧。	Ⅲ地区 １層
	42		Ⅱ	口縁	18.2	－	－	素地は橙色粒子。器色はマンガン釉？により赤灰色。外面に線文(調整痕？)。両面轆轤痕。	Ⅲ地区 １層
	43		Ⅲ	口縁	25.5	－	－	素地は明赤褐色粒子。外面は自然釉により灰黄褐色。器面は被熱によりアバタ状。両面轆轤痕。	Ⅱ地区 １層
	44			底	－	－	25.8	素地は橙色粒子。外面は自然釉により灰赤色。外面轆轤痕と回転擦痕、内面轆轤痕。外底の成形は丁寧。	Ⅱ地区 １層
	45			底	－	－	22.4	素地は橙色粒子。外面は自然釉により灰黄褐色。内面に石膏が一部付着。外面轆轤痕と回転擦痕、内面轆轤痕。外底の成形は丁寧。	Ⅱ地区 １層
	46	甕	Ⅰ	口縁	－	－	－	素地は鈍赤褐色粒子。外面はマンガン釉により灰色。外面に貼り付けの突帯、線彫りの陰圏線、蓮花文。両面轆轤痕。	表採
	47		Ⅱ	口縁	－	－	－	素地は橙色粒子で石灰粒混入。器色はマンガン釉？により褐灰色。鍔上面に陰圏線、外面に貼り付けの突帯。両面轆轤痕。	表採
	48			口縁	52.0	－	－	素地は鈍赤褐色粒子。鍔端部に陰圏線２条、外面に陰圏線、10本櫛？の波状文。両面轆轤痕。	Ⅱ地区 １層
	49		Ⅲ	口縁	45.8	－	－	素地は鈍赤褐色粒子で堅緻。器色は泥釉で灰褐色。外面に陰圏線３条、４本櫛の波状文、貼り付けの丸文、突帯。両面轆轤痕。	Ⅲ地区 西トレンチ３層
	50			口縁	55.0	－	－	素地は鈍赤褐色粒子。外面は泥釉により灰褐色。外面に陰圏線３条。両面轆轤痕。	表採
	51			口縁	－	－	－	素地は鈍赤褐色粒子で堅緻。外面は泥釉により灰赤色。外面に縄目文、貼り付けの突帯、唐草文（牡丹？）。両面轆轤痕。	Ⅲ地区 西トレンチ１層
	52			口縁	54.0	－	－	素地は橙色粒子。外面に陰圏線５条、貼り付けの丸文。両面轆轤痕。	Ⅱ地区 １層

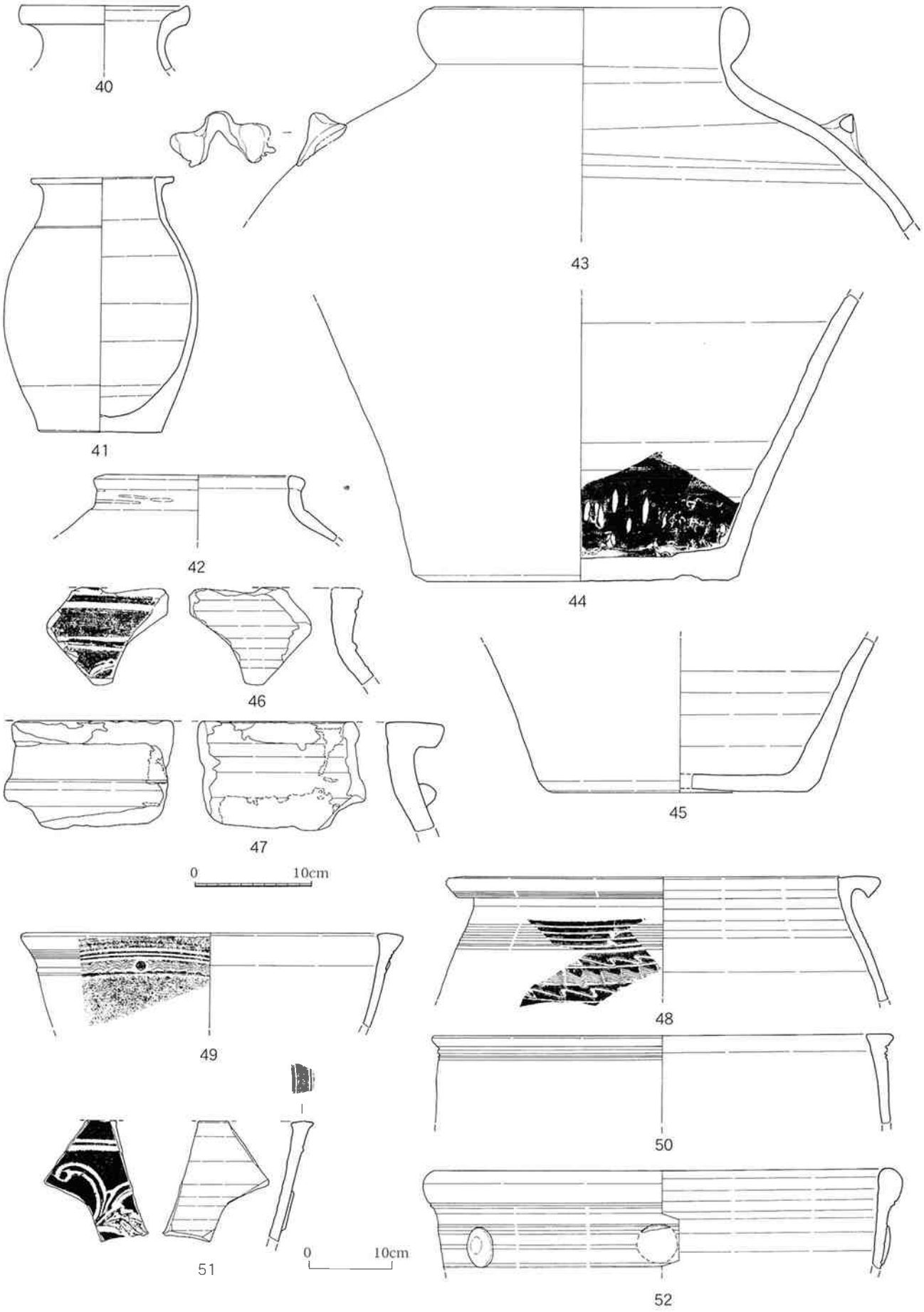
注：法量の項「－」は測定不可



第 26 図　沖縄産無釉陶器 1　碗（1、2）、皿（3 ～ 6）、鍋（7）、急須（8 ～ 12）、蓋（13、14）、徳利（15 ～ 18）、火取（19）、火炉（20 ～ 22）、不明（23）



第 27 図　沖縄産無釉陶器 2　鉢（24 ～ 32）、擂鉢（33 ～ 39）



第 28 図　沖縄産無釉陶器 3　壺（40 ～ 45）、甕（46 ～ 52）

第 12 節　陶質土器

陶質土器とは「アカムヌー（註 6）」と呼ばれているもので、胎土は精選され、混入物に砂粒・白色粒・赤色粒・黒色粒・雲母粒などを含み、轆轤引き・輪積みによって成形され、焼成が悪く触れると粉末が付着するという特徴をもつ。器色は褐色を主体に橙褐色・黄褐色になり、火炉・手焙り・鍋・急須・灯明皿などの二次的に火を受ける器種は煤が付着している。今回の調査では火炉・馬蹄形火炉・手焙り・鍋・急須・灯明皿・水鉢・植木鉢・鉢（鉢・筒状鉢・小鉢）・壺・瓶・器種不明の蓋・器種不明の特徴的な資料が確認できた。資料の中には、焼成の状態が陶質土器にしては良好で沖縄産陶器に近い硬質のものも確認できたが、同じ陶質土器の枠で、焼成が比較的良好な資料として今回は、分けて扱った。以下に器種別の概要を記し、個々の資料の詳細を観察表に記載した。

1. 火炉（第 29 図）

「ヒールー（註 1）」と呼ばれているもので、口縁部に火窓を設け、内側に突起を貼付、もしくは口唇部を肥厚させ、胴部は有孔の把手を貼付する器形である。火炉は形態から下記の 6 種類に分類を行った。

Ⅰ類：胴部は球状に膨らみ、口縁部は内傾する。外面胴部に白化粧土で圏線を描く（同図 1 ～ 6）。

Ⅱ類：底部から胴上半部まで直線的に外傾して至り、口縁部で内側に折れる（同図 7）。

Ⅲ類：口縁部は僅かに内反し、口唇を内側に折り曲げる事で、器物を乗せられるように作る（同図 8・9）。

Ⅳ類：底部から口縁部までほぼ直線的に至り、筒状になる（同図 10）。

Ⅴ類：胴部から口縁部まで直線的に至り、口唇部を肥厚させる事で器物を乗せられるように作る（同図 11・12）。

Ⅵ類：胴部は膨らみ、口縁付近でくびれて頸を作り、口縁部は外反する。（同図 13 ～ 16）。

2. 馬蹄形火炉（第 30 図 17 ～ 19）

第 30 図 17 ～ 19 の資料は喜友名貝塚・喜友名グスク（註 7）からも報告されている。器体は上面観が円形になる部分（同図 19）と、そこから突出して上面観が方形となる部分（同図 17・18）の 2 つの部分で構成される器物である。

3. 手焙り（第 30 図 20）

ここでいう「手焙り」は、蓋や器体の胴部にいくつか孔を設け、火を使って暖を取る器物を指す。第 30 図 20 は手焙りの落とし蓋で、1 つだけ孔が確認できた。また、蓋下面の端部にすべり止めの突起を作っているのも特徴的である。

4. 鍋（第 30 図 21 ～ 29）

蓋　頂部に高台状の摘みを作り、緩いカーブで端部に至るもので、第 30 図 22 ～ 24 は端部、同図 21 は摘みである。皿に似るが、今回の調査では頂部から端部まで全形が伺える資料は確認できなかった為、詳細は不明である。しかし、内面よりも外面を丁寧に仕上げている事から今回は蓋として扱った。

身　鍋の身は形態から下記の 2 種類に分類を行った。

Ⅰ類：「サーク（註 6）」と呼ばれているもので、口縁部は外反して蓋の受けを作り、胴部は球状に膨らみ、口縁部付近に紐状の把手を貼付する。また、Ⅰ類は口縁部の折れ方から下記のＡ～Ｃに細分した。

Ａ　口縁部が「く」の字に強く外反し、口唇部まで直線的に至るもの。（同図 26・27）

Ｂ　口縁部が「く」の字に外反し、口唇部まで緩やかに立ち上がるもの（同図 28）。

Ｃ　口縁部が「コ」の字で段階的に折れ、口唇部を摘み上げるもの（同図 25）。

Ⅱ類：胴部に膨らみを持たず、羽釜状に鍔を巡らせるもの（同図 29）。

5. 急須（第 30 図 30 ～ 41）

形態から蓋を下記の 2 種類、身を 3 種類に分類を行った。また、蓋の摘み（第 30 図 30）、紐を通す外耳（同図 39）、注ぎ口（同図 40）、脚を設けた底部（同図 41）も併せて掲載した。

蓋　Ⅰ類：頂部から緩いカーブを描いて端部に至るもの（同図 31）。

Ⅱ類：頂部から傘部に僅かな段差をつくって端部に至るもの（同図 32）。

身　Ⅰ類：口縁部を微弱に立ち上げて短い頸をつくるもの（同図 33）で、壺屋古窯群（註 8）の調査で報告された口縁部に対応する球状に膨らむ胴部（同図 34）も確認できた。

Ⅱ類：口縁部を立ち上げてほぼ直口する長い頸をつくるもの（同図 35）で、口縁部に対応する算盤の珠のように「く」の字に折れる胴部（同図 36）も確認できた。

Ⅲ類：口縁部は外反し、内側は肥厚させて、蓋受けをつくるもの（同図 37・38）。

6. **灯明皿**（第 31 図 42、43）

第 31 図 42・43 は器体内面や口縁部付近に煤が付着している事、内面に比べ外面を丁寧に作っている事から灯明皿として使用されていたと考えられるものである。

7. **蓋**（第 31 図 44 ～ 46、第 32 図 63）

第 31 図 44 ～ 46、第 32 図 63 は蓋と考えられる資料である。どのような器物に被せる蓋かは不明だが、形態的特徴から、今回は蓋として一括して扱った。その中でも同図 63 は焼成が良好であった為、第 32 図に分けて扱った。

8. **水鉢**（第 31 図 47 ～ 49、第 32 図 64 ～ 69）

「ミジクブサー（註 6）」と呼ばれているもので、胴部は膨らみ、口縁部は内傾するものである。胴上半部に数条の丸彫り圏線と数条の櫛描波状文を組み合わせて描く文様が特徴である（第 31 図 47 ～ 49、第 32 図 64 ～ 69）。その中でも焼成が良好なものは、第 32 図に分けて扱った。

9. **植木鉢**（第 32 図 73、76）

第 32 図 73 は底部から逆「ハ」の字でほぼ直線的に口縁部に至り、口縁部は水平に外反させるものである。底面の中央には水抜きの穴が設けられているのが特徴である。同図 76 は胴部が僅かに膨らむ底部で、全形が窺えず詳細は不明だが、水抜き穴が確認できた為、植木鉢として扱った。上記の資料は、焼成が良好の為、第 32 図に分けて扱った。

10. **鉢**（第 31 図 50 ～ 53、第 32 図 70 ～ 72）

第 32 図 50 ～ 53、第 32 図 70 ～ 72 は形態的特徴から鉢として扱った資料である。同図 50 は口径が広く高さを持たない為、碗の可能性も考えられる。同図 51 は胴部が直線的で、口縁部は外側へ水平に折れる器形である。同図 52 は胴部から口縁部へ直線的に至る器形で、同図 53 は胴部から口縁部へ直線的に至り、口縁付近に段差をもつ器形である。第 32 図 70 ～ 72 は陶質土器としては焼成が良好な為、第 32 図に分けて扱った。同図 70・71 は形態的特徴から鉢と考えられる口縁部だが、全形が窺える資料に乏しい為、詳細は不明である。同図 72 は植木鉢と同じ器形だが、内側に多量の煤が付着している事から鉢以外の用途も考えられる資料である。

11. **筒状鉢**（第 31 図 55）

第 31 図 55 は高さを持たず、底部から直口で口縁部に至る筒状の器体である。用途は不明だが、形態的特徴から鉢の範疇に属する中の筒状鉢として扱った。

12. **小鉢**（第 31 図 54、第 32 図 75、76）

第 31 図 54 は胴部が球状に膨らむ小振りな器体である。第 32 図 75・76 は焼成が良好な為、第 32 図分けて扱った。同図 75 は底部から口縁部へほぼ直線的に至り、口縁部は水平に外反する器形で、胴部には墨書で左から「名」、次に「境」もしくは「墳」の字が○の中に書かれている。同図 76 は胴部が僅かに膨らむであろう器体だが、全形が窺えない為、詳細は不明である。上記の資料の用途は不明だが、形態的特徴から一括し小鉢として扱った。

13. **壺**（第 31 図 56）

第 31 図 56 は口縁部が僅かに外反する器形で、壺として使用されていたかは不明だが、形態的特徴から今回は壺として扱った。

14. **瓶**（第 31 図 57、58）

第 31 図 58 は口縁部が玉縁状に肥厚する器形で、外面には暗褐色の塗料が塗られているのが特徴である。同図 58 は口縁部が直口する器形である。いずれも 1 点ずつしか出土しておらず、詳細は不明である。

15. **焙烙**（第 31 図 62）

第 31 図 62 は天界寺跡（註 9）で硬質土器として扱っている焙烙（ほうろく）と呼ばれる茶道具の柄である。身の部分は今回の調査では確認できなかった。

16. **不明**（第 31 図 59 ～ 61）

陶質土器に近い性質（胎土・混入物・成形など）をもち、器種・器形は特定できないが、特徴的な破片を不明として扱った。第 31 図 60 は外面に横方向の擂り目のような文様を持つ胴部片である。同図 59 は欠損している凸帯文を挟んで上下に籠目の沈線を施している胴部片である。同図 61 は外面に叩き目を明瞭に残す胴部片である。

第 17 表 a　陶質土器観察一覧

単位：cm

図	番号	器種分類	部位	口径 器高 底径	特徴	調整	成形	器色	混入物	出土地
第29図（図版22）	1	火炉Ⅰ	口縁	－ － －	口唇部：舌状に尖る。 火窓：焼成後に作っている。	外面：磨き	轆轤	両面：灰黄褐色 素地：灰色	白色粒、黒色粒 赤色粒、雲母	Ⅲ地区 1層
	2		口縁	15.6 － －	口唇部：舌状。 口縁部：白化粧土の圏線を巡らす。 内面突起：台形状。	外面：磨き 突起：指撫で	轆轤	外面：黄褐色 内面：灰黄褐色 素地：灰色	白色粒、黒色粒 赤色粒、雲母	Ⅱ地区 遺物だまり
	3		底	－ － 7.4	胴部：下部に白化粧土の圏線を巡らす。 底部：低い高台を作る。	外面：磨き	轆轤	両面：灰黄褐色 素地：黄褐色	白色粒、黒色粒 赤色粒、雲母	Ⅲ地区 1層
	4		口縁	13.4 － －	口唇部：丸い。 口縁部：白化粧土の圏線を巡らす。	外面：磨き 把手：指撫で	轆轤	外面：灰黄色 内面：黄褐色 素地：褐色	白色粒、黒色粒 赤色粒、雲母	Ⅲ地区 1層、他
	5		把手	－ － －	把手：丸状。孔を上方から穿つ。	磨き	（胴部） 轆轤	外面：暗黄褐色 内面：黄褐色 素地：灰色	白色粒、黒色粒 赤色粒、雲母	Ⅲ地区 西トレンチ 3層
	6		把手	－ － －	把手：平行四辺形状（小）。 孔を上方から穿つ。孔を二つ設ける。	磨き	（胴部） 撫で	両面：黄褐色 素地：灰色	白色粒、黒色粒 赤色粒、雲母	Ⅲ地区 1層
	7	火炉Ⅱ	口縁	12.6 － －	口唇部：丸い。 口縁部：二条の圏線。 把手：平行四辺形。孔を上方から穿つ。	外面：磨き 把手：指撫で	轆轤	外面：黄褐色 内面：暗赤褐色 素地：灰赤褐色	白色粒、黒色粒 赤色粒、雲母	Ⅲ地区 1層、他
	8	火炉Ⅲ	口縁	－ － －	口唇部：尖る。 口縁部：器物が乗せられるように内側に折れる。 白化粧土の圏線を巡らす。	外面：磨き	轆轤	外面：橙褐色 内面：灰橙褐色 素地：灰褐色	白色粒、黒色粒 赤色粒、雲母	Ⅲ地区 1層
	9		口縁	23.2 － －	口唇部：平ら。 口縁部：白化粧土の圏線を巡らす。 内面突起：欠損。	外面：磨き 把手：指撫で	轆轤	外面：黄褐色 内面：暗褐色 素地：灰褐色	白色粒、黒色粒 赤色粒、雲母	Ⅲ地区 1層
	10	火炉Ⅳ	口縁	13.6 － －	口唇部：平ら。 口縁部：直口する。内側に鉤状の突起を貼付する。 白化粧土の圏線を巡らす。	外面：磨き	轆轤	外面：黄褐色 内面：灰黄褐色 素地：灰褐色	白色粒、黒色粒 赤色粒、雲母	Ⅲ地区 西トレンチ 1層
	11	火炉Ⅴ	口縁	15.8 － －	口唇部：平ら。 口縁部：内側に肥厚する。 白化粧土の圏線を巡らす。	外面：磨き	轆轤	外面：灰黄色 内面：暗灰黄色 素地：灰色	白色粒、黒色粒 赤色粒、雲母	Ⅲ地区 西トレンチ 3層

注：法量の項「－」は測定不可

第17表b　陶質土器観察一覧

単位：cm

図	番号	器種分類	部位	口径 器高 底径	特徴	調整	成形	器色	混入物	出土地
第29図（図版22）	12	火炉V	口縁	17.8 － －	口唇部：平ら。 口縁部：外側に肥厚する。 白化粧土の圏線を巡らす。	外面：磨き	轆轤	外面：暗灰褐色 内面：灰褐色 素地：灰色	白色粒、黒色粒 赤色粒、雲母	Ⅲ地区 西トレンチ 3層
	13	火炉VI	胴	－ － －	胴部：上部と下部に白化粧土の圏線を巡らす。	外面：磨き 内面上部：指撫で	轆轤	外面：灰黄色 内面：黄褐色 素地：灰色	白色粒、黒色粒 赤色粒、雲母	Ⅲ地区 西トレンチ 3層
	14		口縁	14.7 － －	口唇部：平ら。内外に肥厚。 口縁部：頸を作り僅かに外反する。二条の凹線を巡らす。 内側に鉤状の突起を貼付する。	外面：磨き	轆轤	両面：灰褐色 素地：赤褐色	白色粒、黒色粒 赤色粒、雲母	Ⅲ地区 西トレンチ 1層
	15		口縁	－ － －	口縁部：内側に折れる。内側に鉤状の突起を貼付する。 表に二条、裏に一条の凹線を巡らす。 その他：両面に暗橙色の塗料が塗られている。	外面：撫で	轆轤	両面：赤褐色 素地：橙褐色	白色粒、黒色粒 赤色粒、雲母	Ⅲ地区 1層
	16		口縁	15.0 － －	口唇部：丸い。 口縁部：外反する。内側に鉤状の突起を貼付する。 その他：両面に暗橙色の塗料が塗られている。	轆轤目のみ確認	轆轤	両面：赤褐色 素地：橙褐色	白色粒、黒色粒 雲母	Ⅲ地区 西トレンチ 1層
第30図（図版23）	17	馬蹄形火炉	前部	－ － －	口縁部：外反して上面観方形に張り出す。内側に煤が付着。	外面：篦撫で 内面：撫で	撫で	外面：黄褐色、赤褐色 内面：灰黄褐色 素地：灰褐色	籾殻（一部） 白色粒、黒色粒 赤色粒、雲母	Ⅲ地区 遺物だまり 他
	18		立部	－ － －	口縁部：外反して上面観方形に張り出す。	外面：篦撫で 内面：撫で	撫で	外面：黄褐色、赤褐色 内面：灰黄褐色 素地：灰褐色	籾殻（一部） 白色粒、黒色粒 赤色粒、雲母	不明
	19		後部	－ － －	口縁部：上面観円形で内外に肥厚する。内側に煤が付着。	両面：撫で	轆轤輪積	外面：黄褐色 内面：暗黄褐色 素地：灰褐色	白色粒、黒色粒 赤色粒、雲母	Ⅲ地区 西トレンチ 1層、他
	20	手捻り蓋	端	10.8 － －	端部：舌状になる。 傘部：突起を作る。 その他：上面から下面に孔を穿つ。	上面：磨き 下面：一部撫で	轆轤	上面：黄褐色 下面：暗褐色 素地：灰褐色	白色粒、黒色粒 赤色粒、雲母	Ⅲ地区 1層
	21	鍋蓋	摘	6.2 (摘径)	摘み：高台状	摘み：磨き	轆轤	上面：赤黄褐色 下面：黄褐色 素地：灰黄褐色	白色粒、黒色粒 赤色粒、雲母	Ⅲ地区 西トレンチ 3層
	22		端	19.2 (端径) －	端部：ほぼ平ら。 傘部：緩いカーブを描く。	両面：頂部付近に磨き	轆轤	上面：灰黄褐色 下面：黄褐色 素地：灰黄褐色	白色粒、黒色粒 赤色粒、雲母	Ⅲ地区 遺物だまり
	23		端	16.1 (端径) －	端部：丸い。 傘部：緩いカーブ。	上面：磨き 下面：撫で	轆轤	外面：灰黄褐色 内面：暗灰褐色 素地：灰黄色	白色粒、黒色粒 赤色粒、雲母	不明
	24		端	－ － －	端部：舌状になる。 傘部：緩いカーブを描く。 その他：端部両面と頂部付近に煤が付着。	両面：頂部付近に磨き	轆轤	上面：暗褐色 下面：褐色 素地：灰褐色	砂粒、黒色粒 赤色粒	Ⅲ地区 1層
	25	鍋I	口縁	17.0 － －	口唇部：平ら。 口縁部：段階的に外反する。内側に二条の凹線を巡らす。 蓋受け：先端摘み上げタイプ（C）	外面：磨き	轆轤	外面：灰黄褐色 内面：黄褐色 素地：灰色	白色粒、黒色粒 赤色粒、雲母	Ⅲ地区 西トレンチ 3層
	26		口縁	20.5 － －	口唇部：平ら。 口縁部：外反する。 蓋受け：ほぼストレートタイプ（A）	外面：磨き	轆轤	外面：灰白色 内面：灰橙褐色 素地：灰色	白色粒、黒色粒 赤色粒、雲母	Ⅲ地区 西トレンチ 3層
	27		口縁	18.4 － －	口唇部：尖る。 口縁部：外反する。 蓋受け：ストレートタイプ（A）	外面：磨き	轆轤	両面：暗橙褐色 素地：灰橙色	白色粒、黒色粒 赤色粒、雲母	Ⅲ地区 西トレンチ 1層
	28		口縁	19.2 － －	口唇部：上面は平ら、先端は尖る。 口縁部：外反する。 蓋受け：緩やかに立ち上がるタイプ（B）	外面：磨き	轆轤	外面：暗黄褐色 内面：黄褐色 素地：灰褐色	白色粒、黒色粒 赤色粒、雲母	Ⅲ地区 1層
	29	鍋II	胴	－ － －	胴部：鍔が貼付される。 鍔から上には暗橙色の塗料が塗られる。 鍔から下には煤が付着している。	外面：磨き	轆轤	外面：黄褐色 内面：灰黄褐色 素地：灰色	白色粒、黒色粒 赤色粒、雲母	Ⅲ地区 西トレンチ 1層
	30	急須蓋	摘	－ － －	摘み：饅頭形。 底部：高台状。	上下面：磨き	轆轤	両面：灰黄色 素地：灰黄色	白色粒、黒色粒 赤色粒、雲母	Ⅲ地区 1層
	31	急須蓋I	蓋I	9.1 (端径) －	傘部：緩いカーブで端部に至る。 底部：高台状。	上下面：磨き	轆轤	両面：灰黄色 素地：灰黄褐色	白色粒、黒色粒 赤色粒、雲母	Ⅲ地区 1層
	32	急須蓋II	蓋II	8.4 (端径) －	傘部：緩い段差で端部に至る。 底部：高台状。	上下面：撫で	轆轤	両面：灰黄色 素地：灰黄褐色	白色粒、黒色粒 赤色粒、雲母	Ⅲ地区 西トレンチ 3層
	33	急須I	口I	7.1 － －	頸部：短頸。	外面：撫で 内面：磨き	轆轤	外面：灰黄色 内面：暗赤褐色 素地：暗灰黄色	白色粒、黒色粒 赤色粒、	不明

注：法量の項「－」は測定不可

第17表c　陶質土器観察一覧

単位：cm

図	番号	器種分類	部位	口径 器高 底径	特徴	調整	成形	器色	混入物	出土地
第30図（図版23）	34	急須Ⅰ	底	－ － －	その他：内面に石灰が付着している。底面に煤が付着している。	外面：磨き	轆轤	外面：灰黄色 内面：橙褐色 素地：灰橙色	白色粒、黒色粒 赤色粒、雲母	Ⅲ地区 西トレンチ 1層
	35	急須Ⅱ	口Ⅱ	－ － －	頸部：長頸。	外面：磨き	轆轤	両面：灰黄色 素地：暗褐色	白色粒、黒色粒 赤色粒、雲母	Ⅲ地区 西トレンチ 3層
	36		胴	－ － －	胴部：算盤の珠状に折れる。 その他：内面に石灰が付着している。 底部に煤が付着している。	外面：磨き	轆轤 輪積	外面：黄褐色 内面：白色（石灰） 素地：灰黄色	白色粒、黒色粒 赤色粒、雲母	Ⅲ地区 1層
	37	急須Ⅲ	口Ⅲ	11.2 － －	口唇部：尖る。 口縁部：外反し内側にも突き出て蓋受けを作る。 その他：口縁部内面に煤が付着している。	内面：撫で	轆轤	両面：黄褐色 素地：灰褐色	白色粒、黒色粒 赤色粒、雲母	Ⅲ地区 西トレンチ 1層
	38		口Ⅲ	13.0 － －	口唇部：平ら。 口縁部：外反し、内側にも突き出て蓋受けを作る。	轆轤目のみ確認	轆轤	外面：黄褐色 内面：灰黄色 素地：灰黄褐色	白色粒、黒色粒 赤色粒、雲母	Ⅲ地区 1層
	39	急須	外耳	－ － －	外耳：外面から穴を穿つ。	撫で貼付	（胴部） 轆轤 輪積	外面：黄褐色 内面：灰色 素地：灰色	白色粒、黒色粒 赤色粒、雲母	不明
	40		注口	－ － －	注口：注ぎ口の上部を平らに削っている。	撫で貼付	（胴部） 輪積	外面：灰黄色 内面：灰色 素地：灰褐色	白色粒、黒色粒 赤色粒、雲母	Ⅲ地区 1層
	41		底	－ － －	底部：脚が貼付されている。	外面：磨き 内面：撫で	不明	外面：黒灰色 内面：灰黄色 素地：黄白色	白色粒、黒色粒 赤色粒	Ⅲ地区 1層
第31図（図版23）	42	灯明皿	口縁	17.2 － －	口唇部：丸く肥厚する。 その他：内面に煤が付着。	外面：磨き	轆轤	上面：灰黄褐色 下面：灰黄色 素地：灰褐色	白色粒、黒色粒 赤色粒、雲母	Ⅲ地区 1層
	43		口縁	15.0 － －	口唇部：丸い。 口縁部：僅かに内傾する。 その他：両面にアルミナ付着。内面に煤が付着。	外面：磨き	轆轤	外面：灰黄褐色 内面：白黄色 素地：白黄色	黒色粒、赤色粒	Ⅲ地区 1層
	44	蓋	端	25.0 （端径） －	上面：丁寧に水平に成形する。 端部：平ら。下面に肥厚する。 その他：暗赤褐色の塗料が上面と下面の端部に塗られる。	上面：磨き	轆轤	外面：暗赤褐色 内面：暗橙褐色 素地：暗灰橙色	白色粒、黒色粒 赤色粒、雲母	Ⅲ地区 1層
	45		端	25.0 （端径） －	端部：丸い。	上面：磨き 下面：丁寧な磨き	不明	上面：暗灰黄色 下面：暗赤黄色 素地：暗灰黄色	砂粒、黒色粒 赤色粒、雲母	Ⅲ地区 1層
	46		端	10.0 （端径） －	頂部：糸切りの痕が僅かに残る。皿の可能性あり。 傘部：緩やかなカーブから端部で外側に折れる。 端部：尖る。器物との接地面を広く作る。	両面：磨き	轆轤	両面：黄褐色 素地：灰黄褐色	白色粒、黒色粒 赤色粒、雲母	Ⅲ地区 1層
	47	水鉢	口縁	21.8 － －	口唇部：尖る（内側に肥厚）。 口縁部：内反が強い。 文様：波状沈線文の上部と口唇付近の各所に一条ずつの圏線。	轆轤目のみ確認	轆轤	外面：黄褐色 内面：暗黄褐色 素地：灰黄褐色	白色粒、黒色粒 赤色粒、雲母	Ⅲ地区 西トレンチ 3層
	48		口縁	16.2 － －	口唇部：舌状。 文様：口唇部内面に一条の圏線。	外面：磨き 内面：撫で	轆轤	外面：灰黄褐色 内面：暗灰褐色 素地：灰色	白色粒、黒色粒 赤色粒、雲母	Ⅱ地区 遺物だまり
	49		口縁	27.0 － －	口唇部：丸い。 文様：波状沈線文の上下部に一条ずつの圏線。	両面：撫で	轆轤	外面：暗灰橙褐色 内面：暗橙褐色（上） 暗茶褐色（下） 素地：灰色	白色粒、黒色粒 赤色粒、雲母	Ⅲ地区 西トレンチ 3層
	50	鉢	口縁	26.2 － －	口唇部：平ら。 口縁部：折れてほぼ直口する。	両面：丁寧な磨き	轆轤	外面：黄褐色 内面：赤黄褐色 素地：暗灰色	白色粒、黒色粒 赤色粒、雲母	Ⅲ地区 1層
	51		口縁	14.0 － －	口唇部：平ら。 口縁部：折れて水平になる。	轆轤目のみ確認	轆轤	外面：黄褐色 内面：赤黄褐色 素地：赤褐色	白色粒、黒色粒 赤色粒、雲母	表採
	52		口縁	18.0 － －	その他：暗赤褐色の塗料が両面に塗られる。	轆轤目のみ確認	轆轤	両面：暗褐色（塗料） 素地：灰褐色	白色粒、黒色粒 赤色粒	Ⅲ地区 西トレンチ 1層
	53		口縁	18.0 － －	段を作って幅を広く作る。 両面に暗褐色の塗料を薄く塗る。	外面：磨き 内面：削り	轆轤	両面：暗褐色（塗料） 黄白色（剥げ） 素地：灰黄褐色	砂粒、黒色粒 赤色粒	表採
	54	小鉢	胴	－ － －	胴部：丸く膨らみを持つ。	外面：篦削り	轆轤	外面：灰黄褐色 内面：灰褐色 素地：灰色	白色粒、黒色粒 赤色粒、雲母	Ⅲ地区 西トレンチ 3層

注：法量の項「－」は測定不可

第17表d　陶質土器観察一覧

単位：cm

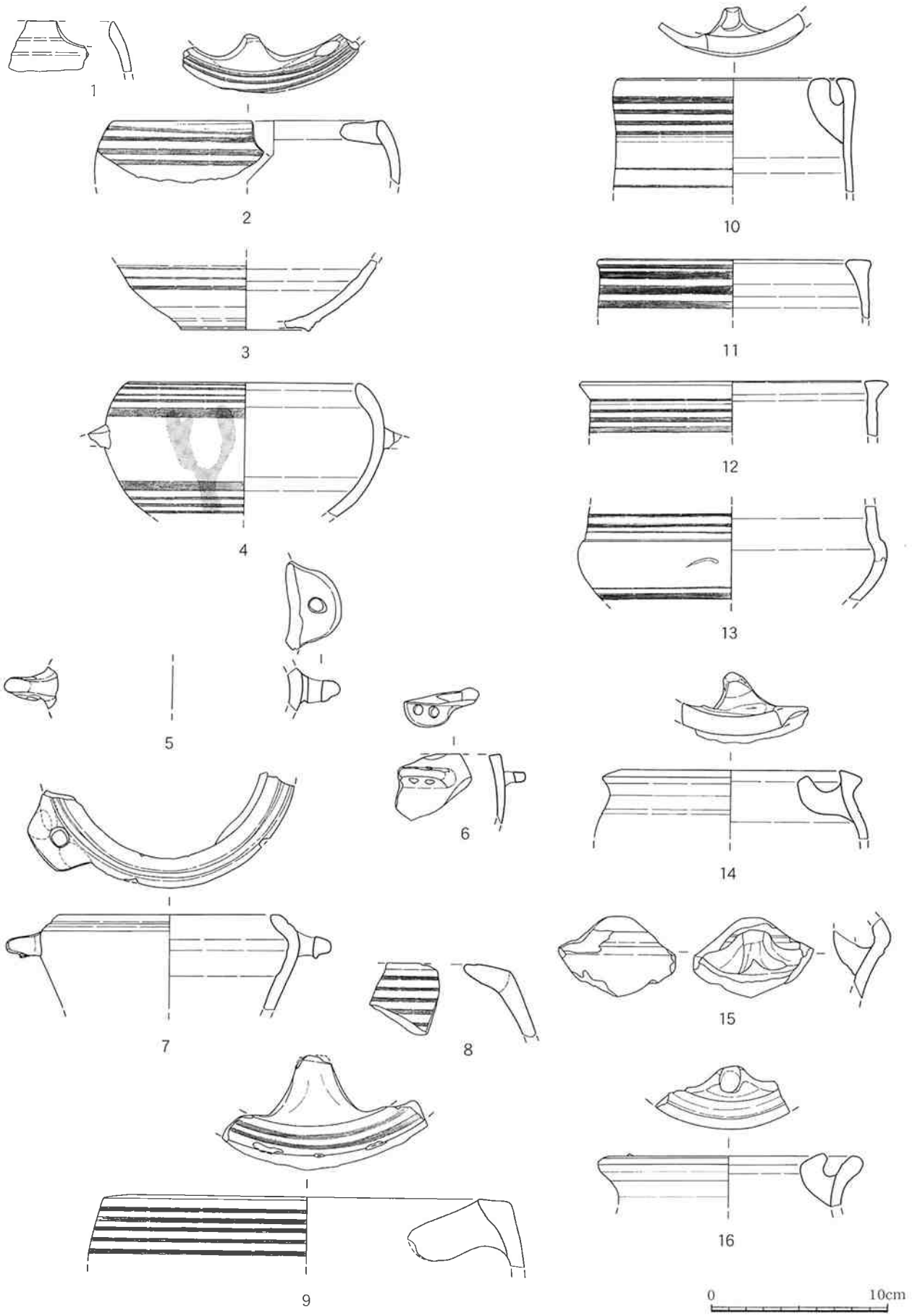
図	番号	器種分類	部位	口径 器高 底径	特徴	調整	成形	器色	混入物	出土地
第31図（図版23）	55	筒鉢	口～底	8.4 8.7 9.0	口唇部：尖る。 口縁部：直口。 底部：接地面外側が僅かに肥厚する。	外面：撫で	轆轤	外面：灰黄褐色 内面：暗灰黄褐色 素地：灰褐色	白色粒、黒色粒 赤色粒	表採
	56	壺	口縁	8.4 － －	口唇部：丸い。 口縁部：僅かに外反。 その他：口唇部に煤が付着。	外面：磨き 内面：撫で	轆轤 輪積	外面：灰黄色 内面：黄褐色 素地：灰色	白色粒、黒色粒 赤色粒、雲母	Ⅲ地区 西トレンチ 1層
	57	瓶	口縁	5.0 － －	口唇部：ほぼ平ら。 口縁部：直口する。	外面：箆撫で 内面：磨き	轆轤	外面：暗橙褐色 内面：橙褐色 素地：黄褐色	白色粒、黒色粒 赤色粒、雲母	Ⅲ地区 1層
	58		口縁	6.0 － －	口唇部：丸く肥厚。 口縁部：外反する。 その他：外面に暗褐色の塗料が塗られる。	外面：磨き 内面：撫で	轆轤	外面：橙褐色 内面：暗灰褐色 素地：暗灰色	白色粒、黒色粒 赤色粒、雲母	Ⅲ地区 西トレンチ 1層
	59	不明	胴	－ － －	文様：一条の凸帯、籠目の沈線。	外面：磨き 内面：撫で	不明	両面：暗赤褐色 素地：暗黄褐色	白色粒、黒色粒 赤色粒、雲母	Ⅲ地区 1層
	60		不明	－ － －	外面に擂り目状の文様を描く。	外面：削り 内面：撫で	轆轤	両面：黄褐色 素地：灰黄褐色	白色粒、黒色粒 赤色粒、雲母	Ⅲ地区 西トレンチ 1層
	61		胴	－ － －	外面にたたき目。	外面：たたき 内面：撫で	不明	外面：暗灰褐色 内面：灰黄褐色 素地：暗赤褐色	白色粒、黒色粒 赤色粒、雲母	Ⅲ地区 1層
	62	焙烙	把手	－ － －	その他：把手に孔を穿つ。 縁を丁寧に作る。	外面：撫で、磨き	撫で	両面：黄褐色 素地：灰色	白色粒、黒色粒 赤色粒、雲母	不明
第32図（図版24）	63	蓋	端	29.6 （端径） －	端部：肥厚する。	上面：磨き	轆轤	両面：灰赤褐色 素地：灰色	白色粒、黒色粒 赤色粒、雲母	Ⅲ地区 1層
	64	水鉢	口縁	15.2 － －	口唇部：舌状。 文様：三条の凹圏線。	内面：撫で	轆轤	外面：暗橙褐色 内面：橙褐色 素地：灰橙褐色	白色粒、黒色粒 赤色粒、雲母	Ⅲ地区 1層
	65		口縁	16.2 － －	口唇部：舌状。 文様：二条の圏線。	外面：磨き	轆轤	外面：黄褐色 内面：黄褐色（上） 暗茶褐色（下） 素地：灰色	白色粒、黒色粒 赤色粒、雲母	Ⅲ地区 西トレンチ 3層
	66		口縁	20.1 － －	口唇部：丸い。 口縁部：内反が強い。 文様：波状沈線文。	轆轤目のみ確認	轆轤	両面：黄褐色 素地：灰黄褐色	白色粒、黒色粒 赤色粒、雲母	Ⅲ地区 西トレンチ 3層
	67		口縁	30.8 － －	口唇部：舌状。 文様：波状沈線分の上部に二条の圏線。	外面：磨き 内面：指圧	轆轤	外面：暗黄褐色 内面：暗赤褐色 素地：暗灰赤褐色	白色粒、黒色粒 赤色粒、雲母	Ⅲ地区 1層
	68		口縁	22.0 － －	口唇部：舌状（内側が肥厚）。 文様：一条の圏線。	外面：磨き 内面：撫で	轆轤	両面：黄褐色 素地：灰黄褐色	白色粒、黒色粒 赤色粒、雲母	Ⅲ地区 西トレンチ 3層
	70	鉢	口縁	－ － －	口唇部：舌状。 口縁部：外反する。	轆轤目のみ確認	轆轤	外面：暗赤褐色 内面：暗橙褐色 素地：暗赤褐色	白色粒、黒色粒 赤色粒、雲母	Ⅲ地区 1層
	71		口縁	－ － －	口唇部：平ら。内側は僅かに肥厚する。 口縁部：外側に水平に折れる。	外面：磨き	轆轤	外面：暗黄褐色 内面：灰黄褐色 素地：黄褐色	白色粒、黒色粒 赤色粒、雲母	表採
	72		口縁	30.8 － －	口唇部：舌状。 口縁部：外側を水平に折り曲げる。 その他：内面に煤が多量に付着。	外面：撫で	轆轤	外面：橙褐色 内面：暗橙褐色 素地：灰橙褐色	白色粒、黒色粒 赤色粒、雲母	Ⅲ地区 1層
	73	植木鉢	口～底	32.4 14.0 14.0	口唇部：凹状。口縁部：外側へ水平に折れる。 底部：高台を作る。底面中央に水抜き穴を設ける。 その他：外面と口縁部内面に暗褐色の塗料が塗られている。	轆轤目のみ確認	轆轤	外面：暗褐色（塗） 内面：暗褐色（塗） 黄褐色 素地：灰褐色	白色粒、黒色粒 赤色粒、雲母	Ⅲ地区 1層、他
	74		底	－ － 9.8	底部：底面中央に水抜き穴を設ける。下面に糸切り痕明瞭。	轆轤目のみ確認	轆轤 輪積	両面：橙褐色 素地：灰橙褐色	白色粒、黒色粒 赤色粒、雲母	Ⅲ地区 西トレンチ 1層
	75	小鉢	口縁	12.5 － －	口唇部：平ら。 口縁部：外側に水平に折れる。 その他：墨書で文字が描かれる。	外面：磨き	轆轤	外面：暗赤褐色 内面：赤褐色 素地：灰褐色	白色粒、黒色粒 赤色粒、雲母	Ⅲ地区 西トレンチ 1層、他
	76		底	－ － 5.2	底部：高台状。外面に二条の圏線。	外面：磨き	轆轤	外面：灰黄褐色 内面：黄褐色 素地：灰色	白色粒、黒色粒 赤色粒、雲母	Ⅲ地区 1層、他

注：法量の項「－」は測定不可

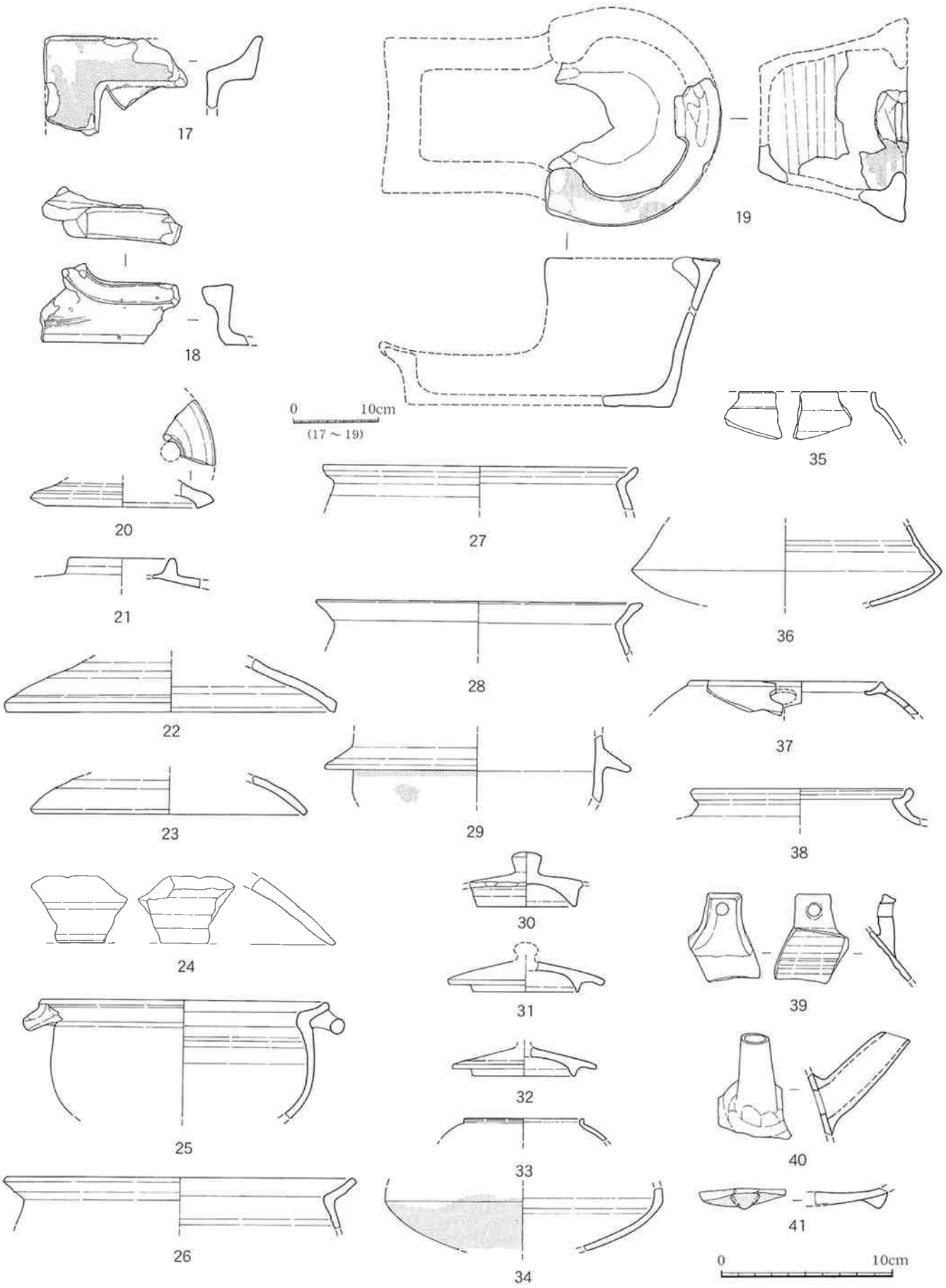
第 18 表　陶質土器出土状況

器種＼出土地			Ⅰ地区		Ⅱ地区							Ⅲ地区								表採	不明	合計
			東トレンチ	西トレンチ	1層	2層	T.P.3	H－8		遺物だまり	表採	1層	2層	遺構内T2	西トレンチ			表採	不明			
			2層	1層			1層	1層	遺構内					1層	1層	2層	3層					
火炉	Ⅰ類	口縁										25	1									26
		胴										5										5
		底										1										1
	Ⅱ類	口縁										4					1		1	3		9
		胴										4					1					5
	Ⅲ類	口縁			2							10			1				1			14
	Ⅳ類	胴															1					1
	Ⅴ類	口縁										7					3					10
		底										2										2
	Ⅵ類	口縁			1					1		11	1		6		3					23
	馬蹄	口縁			2					2		4	2		5		11			3		29
		前部								1												1
		立部																			1	1
		後部								1												1
	類不明	口縁	1						1	6		24		1	9	1	18			15	2	78
		胴										46		1	18	3	28		1			97
		底								7	1	31			12	1	17	1	2	3	1	76
		把手								5		13			8		6			5		37
手焙り蓋		蓋										1										1
鍋		口縁		3	3			2		7		114	1	1	29	3	68			5		236
		胴								4		76			31	1	5			1		118
		耳								1		15			3	1	7			3		30
		蓋								1		1					1				1	4
急須		口縁								1		6			2	1	5				1	16
		胴					1			1		21			9	1	5		1			39
		底										1			1							2
		注口								2		14			2		4					22
		耳								1		12			3		3			1	1	21
		蓋										22	1		2	2	8		1			36
		撮み										3					1					4
灯明皿		口縁										1										1
		底										3			1		1			1		6
鉢	水鉢	口縁			1					2		48			14		19			4	2	90
		胴										13					1					14
	植木鉢	口縁			1	1						12			4		1			1		20
		胴										8			8		2					18
		底															1					1
	鉢	口～底										1							1			2
		口縁					1			4		24			17		8	1		7		62
		底					1			3		2			1					9		16
	鉢(籾混)	口～底											1									1
		口縁										1			1							2
		底								1		2					2					5
	筒状	口～底																		1		1
		口縁																		1		1
	小鉢	胴															1					1
壺		口縁													1							1
瓶		口縁										8			1				1			10
		胴										1					1					2
焙烙		把手																			1	1
器種不明		口縁										7	1		4		1		2			15
		胴							1	17		274	5	3	84	4	86		3	49	4	530
		底			2							65			31	1	17				2	118
		耳								1					1		1					3
		蓋										22			8		8			2		40
		不明													2		1			1		4
合計			1	3	12	1	3	2	2	69	1	965	13	6	319	19	347	2	14	115	16	1910

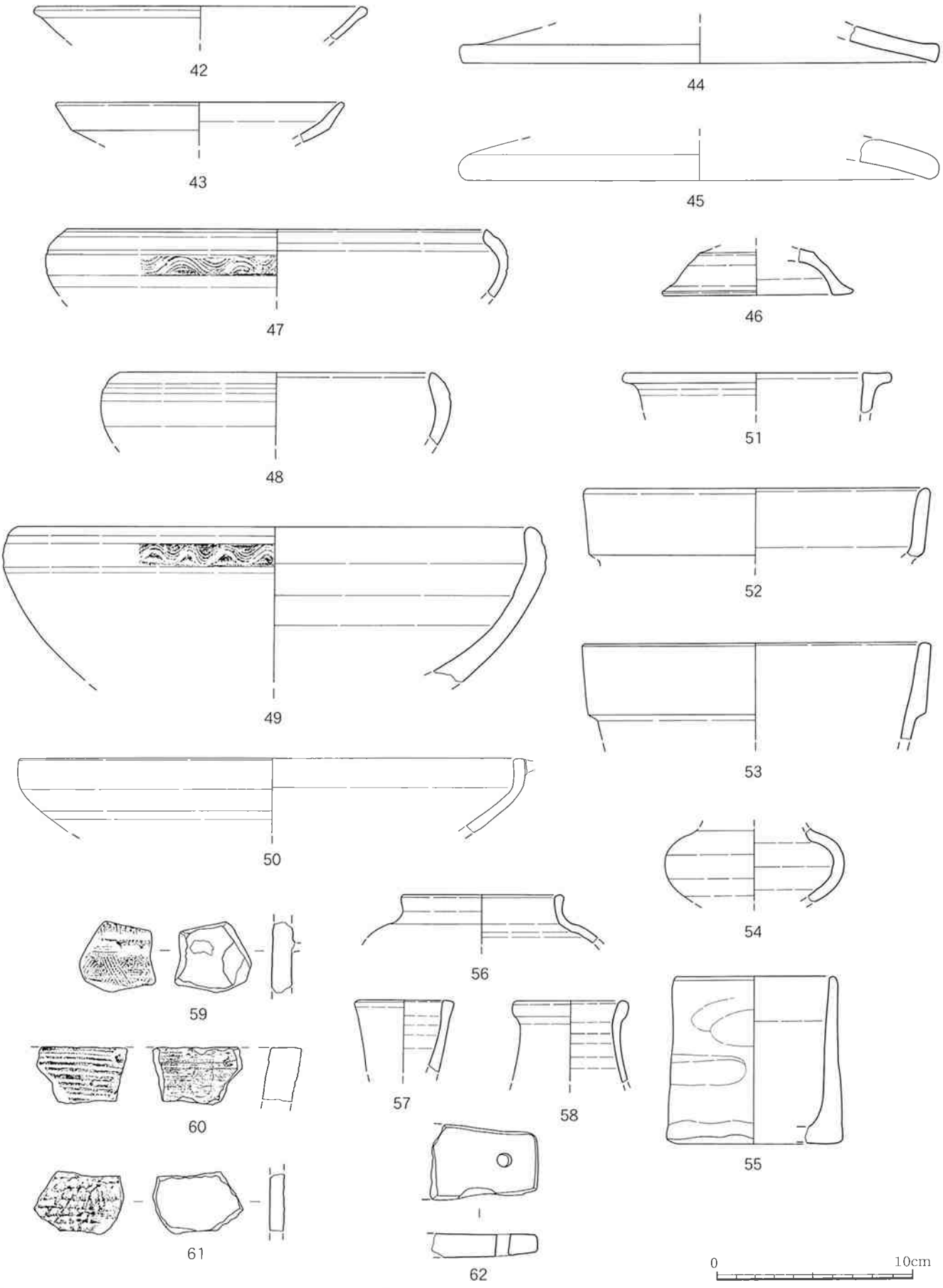
※遺構内Ｔ２＝遺構内トレンチ２



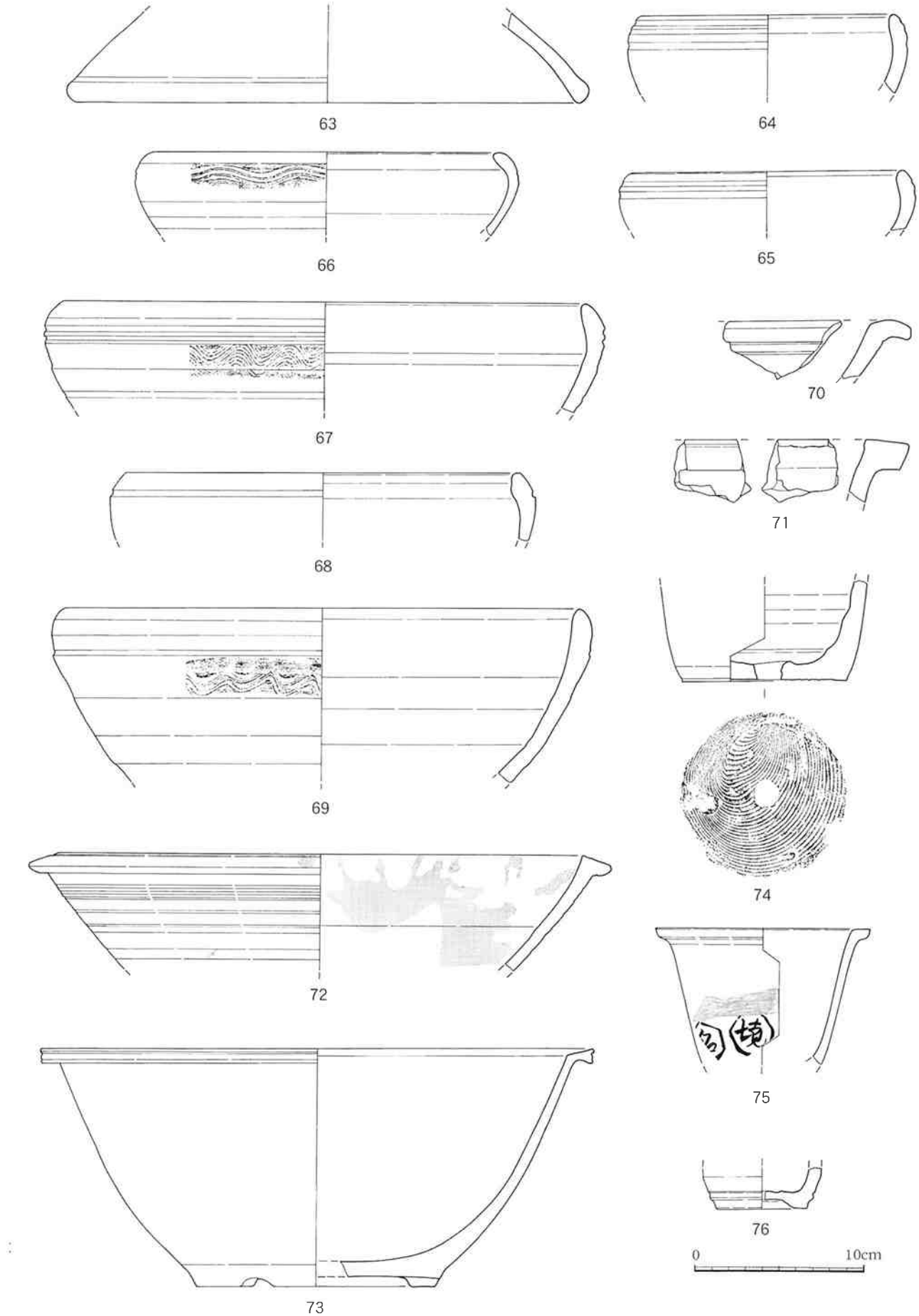
第 29 図　陶質土器 1　火炉



第30図　陶質土器2　馬蹄形火炉(17～19)、手焙り蓋(20)、鍋蓋(21～24)、鍋(25～29)、急須(30～41)



第 31 図　陶質土器 3　灯明皿（42、43）、蓋（44 ～ 46）、水鉢（47 ～ 49）、鉢（50 ～ 53）、小鉢（54）、筒鉢（55）、壺（56）、瓶（57、58）、不明（59 ～ 61）、焙烙（62）



第 32 図　陶質土器 4　蓋（63）、水鉢（64 ～ 69）、鉢（70 ～ 72）、植木鉢（73、74）、小鉢（75、76）

第 13 節　瓦質土器

ここで扱う瓦質土器は、胎土や焼成の状態が瓦に類似するもので、胎土は精選され、混入物に砂粒・白色粒・黒色粒・赤色粒・雲母などを含み、轆轤引き・輪積みによって成形される器物である。器色は暗灰色や黄灰色を主体としている。また、沖縄から一般的に出土する瓦質土器は焼成が悪い為、触れると粉末が付着する特徴をもつ。上記の特徴は陶質土器に類似するが、陶質土器は「アカムヌー」と称されているように（註 6）、器色は主に橙褐色や黄褐色である。また、陶質土器は火炉・鍋・急須・灯明などの耐火性の高い器種が多いが、瓦質土器は植木鉢・擂鉢などの大型の器種が多く見られるのも特徴である。今回の調査では、植木鉢・火鉢・鉢・角鉢・壺などの器種が確認できた。以下に各器種の特徴を記し、資料の個々の詳細は第 20 表に記載した。

1. **植木鉢**（第 33 図 1、2）

底部から胴部へ膨らみ、口縁部は僅かに内反する器形（第 33 図 1）と底部から口縁部へ外傾する器形（同図 2）が確認できた。今回の調査では底部の資料は確認できなかったが、底面には水抜きの穴を作る類例（註 10）から植木鉢と考えられる。瓦質土器器種の中で植木鉢は大型の器種で、口縁部と胴部に波状凸帯文を数条貼付し、胴部には菊花文などが印刻される類例（註 10）もある。今回の調査では、波状凸帯文が貼付された口縁部（同図 1･2）のみが確認できた。

2. **火鉢**（第 33 図 4）

口唇部は僅かに肥厚し、口縁部は内反する器形（第 33 図 4）である。口縁部の外面には印刻を巡らせ、器体の外面には褐釉のような釉薬が塗られているのが特徴的で、胎土や焼成状態からは移入品の可能性が考えられる資料である。また、破片の割れ目には二次的に火を受けた痕が残っている。

3. **角鉢**（第 33 図 5）

底部から口縁部へ直線的に至り、上面観は方形になると思われる器形で、第 33 図 5 は底部に高台を作り、器体の外面には黒褐色の釉薬のようなものが塗られている。同図 5 は胎土・焼成等の特徴が沖縄で多く出土する瓦質土器とは特徴が異なる事から本土産瓦器の移入品の可能性が考えられる資料である。胴部破片の為、器種は不明だが、形態的特徴から角鉢として扱った。

4. **鉢**（第 33 図 3、10）

第 33 図 3 は口縁部の内側に蓋受けのような段差をつくり、口縁部と胴部の間には頸をもち、胴部から下は欠損している為、詳細は不明だが、おそらく袋状に膨らむと思われるもので、丁寧に成形された器体である。外面全体には黒褐色の釉薬のようなものが塗られており、口縁部の外面には龍を象った線刻文を巡らしている。胎土・焼成等が沖縄で多く出土する瓦質土器と異なる事から本土産瓦器の可能性が考えられる資料である。同図 10 は全形が窺えない底部資料で、器種は不明だが、形態的特徴から鉢として扱った。

5. **壺**（第 33 図 6、7）

口唇部は丸く肥厚し、口縁部が外反する器形（第 33 図 6、7）で、形態的特徴から壺と考えられる。

6. **不明**（第 33 図 8、9、11）

第 33 図 8、9、11 は器種・器形の伺えない破片であるが、特徴的な資料として扱った。同図 8 は外面に何らかの文様が彫り込まれ、文様の凸部分には朱の塗料が塗られている。同図 11 は外面に印刻が施された胴部片で、胎土・焼成等の特徴から移入品の可能性が高い資料である。同図 9 は高台を有する径の小さい底部片で、外面には黒褐色の釉薬のようなものが塗られているのが特徴である。

第 19 表　瓦質土器出土状況

出土地＼器種			植木鉢		鉢			火鉢	角鉢	壺	不明				合計
			口縁	胴	口縁	胴	底	口縁	底	口縁	口縁	胴	底	不明	
Ⅱ地区	遺物だまり						2	1				2			5
Ⅲ地区	1 層			1	1				2	1	1	4			10
	西トレンチ	1 層								1		3	1	1	6
		3 層					2		1			2			5
表採			2	2		1						3	1		9
合計			2	3	1	1	4	1	3	2	1	14	2	1	35

第 20 表　瓦質土器観察一覧

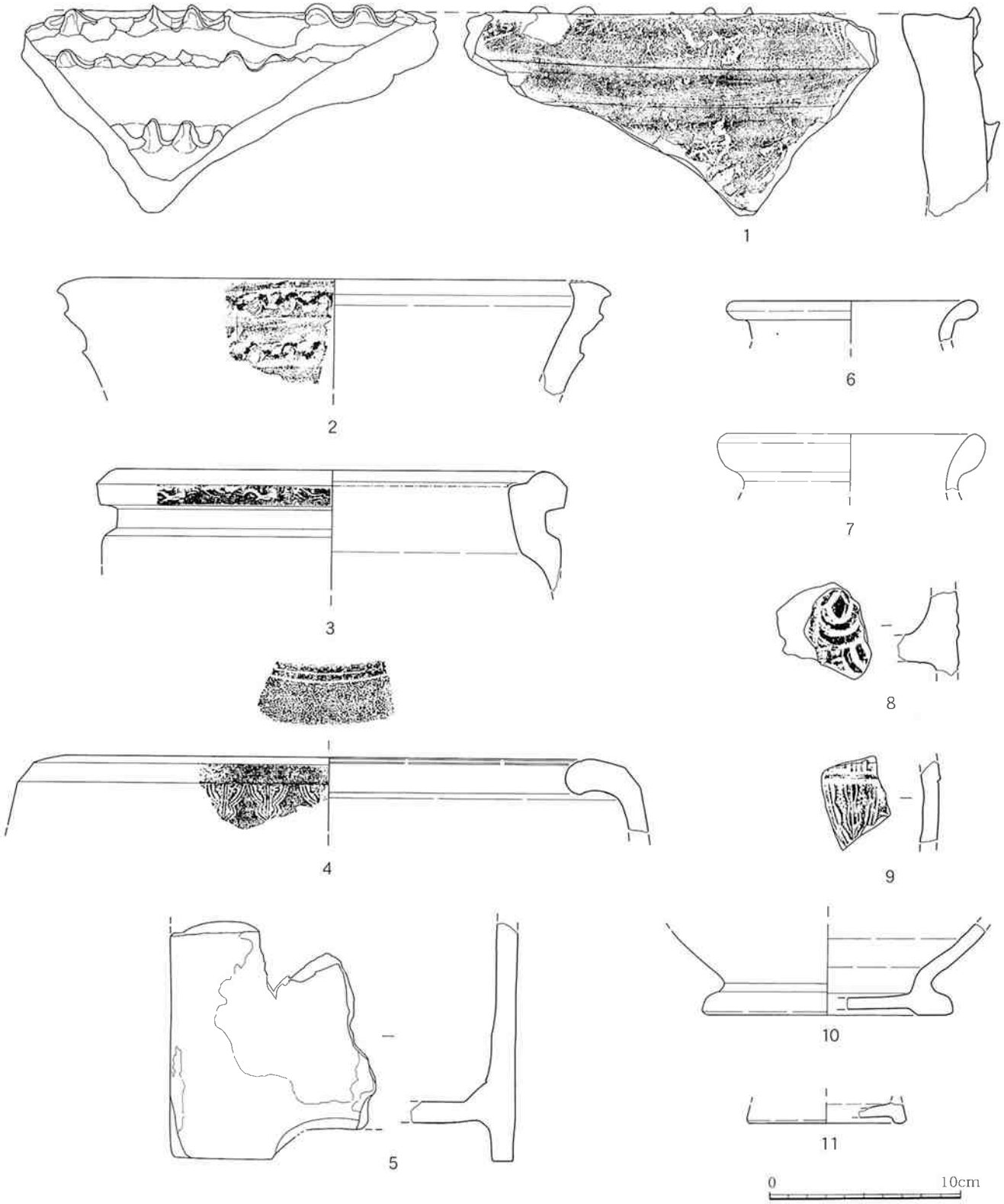
単位：cm

図	番号	器種	部位	口径 器高 底径	特徴	器色	混入物	出土地
第33図（図版24）	1	植木鉢	口縁	－ － －	口唇：平ら。 文様：波状凸帯文。	両面：黒褐色 素地：暗灰色	白色粒、赤色粒	表採
	2		口縁	29.0 － －	口唇：平ら（内側に肥厚する）。 文様：波状凸帯文。	両面：暗灰色 素地：灰色	白色粒、黒色粒 赤色粒	表採
	3	鉢	口縁	24.6 － －	口唇：丸い。口縁：外側に折れて丁寧な頸部をつくる。 文様：口縁部と胴部に線刻を刻む。 その他：本土産の可能性あり。	外面：黒褐色 内面：黄灰色 素地：白灰色	白色粒、黒色粒 赤色粒	Ⅲ地区 1 層
	4	火鉢	口縁	30.8 － －	口唇：丸い。 口縁：内反する。 破損箇所：二次的に火を受けた痕跡がある。	外面：黒褐色 内面：暗白灰色 素地：白灰色	白色粒、黒色粒 赤色粒	Ⅱ地区 遺物だまり
	5	角鉢	底	－ － －	器面：磨き？（つるつるする）。 ：泥釉薬？が塗られている。 その他：本土産の可能性あり。	外面：黒褐色 内面：黄灰色 素地：灰色	白色粒、黒色粒 赤色粒、雲母	Ⅲ地区 西トレンチ 3 層
	6	壺	口縁	13.2 － －	口唇：丸く外側に肥厚する。 口縁：強く外反する。	両面：暗灰色 素地：灰色	白色粒、黒色粒 赤色粒、雲母	Ⅲ地区 西トレンチ 1 層
	7		口縁	14.0 － －	口唇：丸く外側に肥厚する。 口縁：緩やかに外反する。	外面：暗灰色 内面：黄灰色 素地：灰色	白色粒、赤色粒	Ⅲ地区 1 層
	8	不明	胴	－ － －	文様：浮文に朱が塗られている。	外面：黒色 内面：暗黒色 素地：黄灰色	黒色粒、赤色粒 白砂、石英 雲母	表採
	9		胴	－ － －	胴部：外面にたたき目　裏面に指圧。	両面：灰色 素地：灰白色	白色粒、赤色粒	Ⅱ地区 遺物だまり
	10	鉢	底	－ － 12.9	底部：くびれて腰部をつくる。	両面：黒褐色 素地：暗灰色	白色粒、黒色粒 赤色粒、雲母	Ⅲ地区 西トレンチ 3 層
	11	不明	底	－ － 8.3	底部：高台をつくる。	外面：黒褐色 内面：暗灰色 素地：黄灰色	白色粒、黒色粒 赤色粒、雲母	Ⅲ地区 西トレンチ 1 層

注：法量の項「－」は測定不可

第 14 節　土器

グスク時代以降の土器片と考えられる資料が４点出土しているが、全て胴部の細片の為、詳細は不明である。図示・観察表も今回は省いた。



第 33 図　瓦質土器　植木鉢（1、2）、火鉢（4）、角鉢（5）、壺（6、7）、鉢（3、10）、不明（8、9、11）

第 15 節　瓦

全ての遺物の中で最も多く出土しているもので、造瓦技術から高麗系瓦・大和系瓦・明朝系瓦の三種類に大別される。時期的にはグスク時代～近代にわたる各時代の資料が得られているが、層位的な出土状況については近年の造成工事等のため判然としない。他の遺物と同様に瓦も全形が窺える資料は少数だが、比較的残存状態の良好なものを図版 25 に示した。以下に高麗系瓦・大和系瓦・明朝系瓦の順に略述する。なお、今回の分類作業は上原 1994 の論考（註 11）と上原 1996 の論考（註 12）を参考にした。

1. 高麗系瓦（1、2）

朝鮮に系譜を持つと考えられる大型の瓦である。今回出土した資料は平瓦のみで、いずれも瓦の凸面に叩き文様が施される。文様の種類は羽状文のみを施すもの（1）と、羽状文と「癸酉年高麗瓦匠造」銘を組み合わせるもの（2）がある。1 は凸面に羽状文を右から左に施し、凹面には布目痕と糸切り痕が明瞭に残り、糸切りはほぼ垂直に走る。色調は灰色を呈する。厚さは 2cm。表採。2 は凹面に布目痕と右斜めからの糸切り痕が明瞭に残る。色調は灰黄色を帯び、素地は灰色を呈する。厚さは 2.2cm。表採。

2. 大和系瓦（3、4）

大和系瓦は日本に系譜を持つとされる瓦で、高麗系瓦に比して薄手で大きさも一回りほど小さい。今回出土した資料は丸瓦のみで、凸面に叩きによる縄目文や羽状文が施されるが、成形時の調整のため判然としない。3 は凸面に羽状文を施すが、大部分はナデ消されている。凹面には布目痕と格子状の紐圧痕が明瞭に残り、その上に右斜めからの糸切り痕がみられる。色調は灰白色を呈する。厚さは 1.6cm。表採。4 は凸面に叩きによる縄目文が施される。凹面には布目痕と格子状の紐圧痕が残り、その上に右斜めからの糸切り痕がみられる。また両面に離型剤と考えられる白砂が散見される。色調は灰黄色を帯び、素地は灰色を呈する。厚さは 1.6cm。表採。

3. 明朝系瓦（5 ～ 10）

三種類の中で最も多く出土している瓦である。平瓦・丸瓦・軒平瓦・軒丸瓦の 4 種類が確認されており、うち丸瓦を除く 3 種類を図示した。平瓦は凸面端部に横位のナデ調整痕が残り、凹面には桶板痕と紐圧痕の上に布目痕がみられる。色調は橙色を呈する。厚さは 1.6cm（5）。軒平瓦は滴水瓦とも呼ばれるもので、倒三角形の瓦当に側視形の花と葉をモチーフにした文様を施す。この文様を上原 1994（註 11）に依拠して分類すると、第Ⅲ文様系 03（花と葉が簡略化され、花芯は無文）に相当するもの（6）と、第Ⅲ文様系 06（葉に葉脈を持ち花芯が上下に分かれ、上に格子文、下に縦位線文を施す）に相当するもの（7）がある。6 は平瓦凹面に布目痕と紐圧痕が残り、また瓦当裏面の接合部位に多量の粘土が使用されている。色調は灰黄色を帯び、素地は灰色を呈する。Ⅲ地区表採。7 は平瓦凹面に布目痕と桶板痕がみられ、瓦当裏面の接合部位には横位のナデ調整痕が明瞭に残る。色調は灰黄色を帯び、瓦当表面に一部漆喰が付着する。Ⅲ地区西トレンチ 3 層出土。軒丸瓦は丸瓦の先端に円形の瓦当を有するもので、瓦当表面には花文を施し、周囲に珠文を巡らせる。これも上原 1994（註 11）に基づいて分類すると、第Ⅲ文様系 08（花弁や葉が簡略化され、花芯に格子文を施す）に相当するもの（8）、第Ⅸ文様系Ｃ 01（花文が俯瞰形で具象的なもの）に相当するもの（9）、第Ⅸ文様系Ｃ 02（Ｃ 01 と同じく俯瞰形で具象的な花文を施すが、花弁の数が少ない）に相当するもの（10）がある。8 は瓦当表面に弁先が二叉状に表現された花文を施し、その周囲に直径約 0.4cm の珠文を 1.8 ～ 2.5cm の間隔で配する。色調は灰黄色で素地は灰色を呈する。表採。9 は瓦当表面に肉厚の花文を施し、その周囲に直径約 0.6cm の珠文を 2.4 ～ 3.2cm の間隔で 9 個？巡らせる。花芯には格子文を施す。色調は橙色を帯びる。表採。10 は瓦当の径が 15cm を測るもので、丸瓦凸面との接合部に横位のナデ調整痕がみられ、凹面全体に布目痕が残る。瓦当表面には花芯に縦位線文を施した肉厚の花文を表現し、その周囲に直径約 0.6cm の珠文を 2.5 ～ 3.2cm の間隔で 9 個巡らせる。平瓦凸面と瓦当裏面の一部に漆喰が付着する。色調は橙色を帯びる。Ⅲ地区 1 層出土。

第 16 節　円盤状製品

本製品は日常生活において使用したものを円形に打割調整した二次利用品である。継世門周辺地区からは、総数にして 597 点出土した。完形品は 410 点で、完形率は 69％である。素材の割合としては沖縄産無釉陶器が最も多く、全体の 40％を占める。以下、瓦が 19％、沖縄施釉陶器が 15％、陶質土器が 10％である。素材の 8 割以上が沖縄産の陶器を利用する傾向がある。大きさと素材については、1cm・2cm 台で沖縄産施柚陶器や磁器類の胴部利用品が占め、3cm・4cm 台で沖縄産無釉陶器、瓦、陶質土器などの大型のものが素材になる。沖縄産無釉陶器、瓦など大振りな器形となる素材が多いためか、やや大きな製品となり、4cm 台を頂点とした 1cm ～ 5cm 台に 1 つのまとまりがみられる。第 34 図 7 は陶質土器の胴部を素材とした製品であるが、打割面を研磨している。類例として湧田古窯跡（Ⅳ）第Ⅴ章第 24 節第 66 図 5 がある。ここでは特徴的なものを図示し、個々の特徴については観察表に提示した。

第 21 表　円盤状製品出土状況

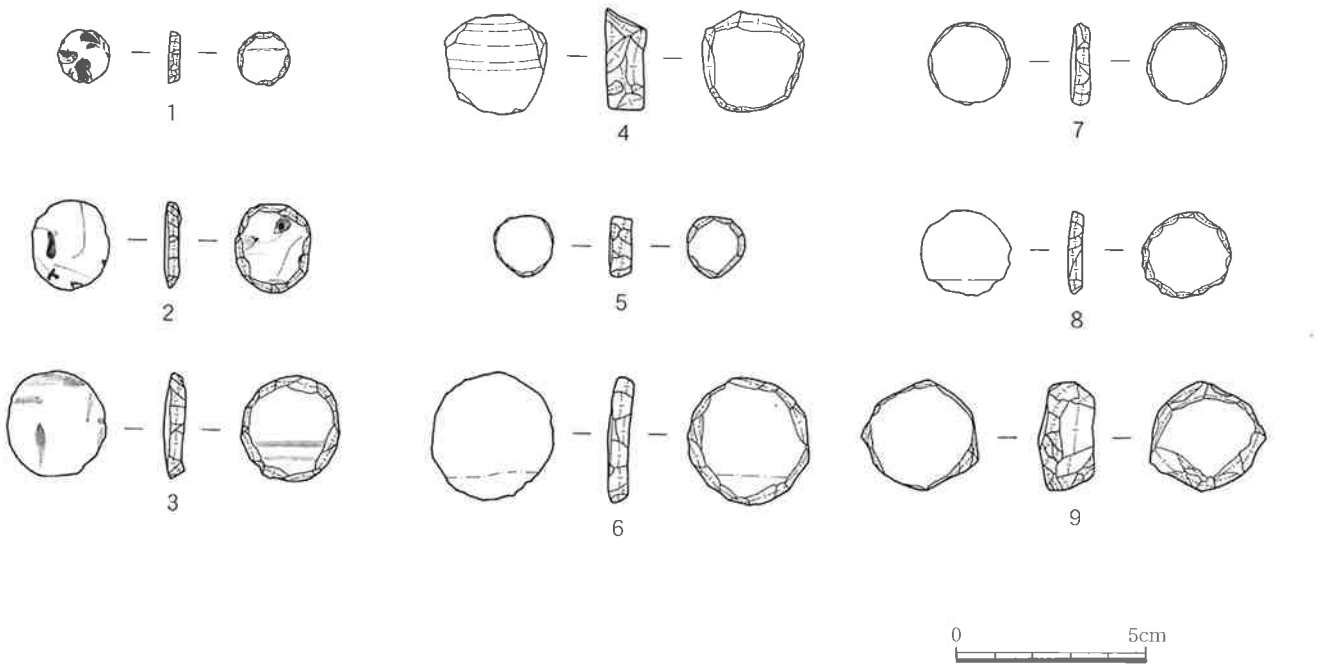
種別＼出土地		Ⅰ地区		Ⅱ地区	Ⅲ地区						表採	不明	合計
		遺物だまり	東T 1-2 層	H－8 遺構内	1 層	2 層	遺構内トレンチ2 層	西トレンチ 1 層	西トレンチ 2 層	西トレンチ 3 層			
青磁	完形										1		1
	破損												0
白磁	完形				4							1	5
	破損												0
染付	完形				8			1		2			11
	破損				1								1
褐釉	完形				7	1			2	1	2		13
	破損												0
天目	完形		2								1		3
	破損				2								2
タイ産褐釉	完形				7								7
	破損				4				1				5
本土産染付	完形				5			3		2			10
	破損				2					1			3
赤絵	完形				1								1
	破損												0
印判染付	完形				3			1		1			5
	破損							1		3			4
銅版転写	完形				2								2
	破損												0
本土産褐釉	完形				2				1				3
	破損				1								1
沖縄産施釉	完形				49	2		9	1	10	2		73
	破損				15			1		1			17
沖縄産無釉	完形	2			57	2		26		33	5		125
	破損	3			72	1	1	12	6	19	1		115
陶質土器	完形	1			25	1	2	6		12			47
	破損			1	6			1		7			15
瓦	完形	1			46	1		18	1	24	1	2	94
	破損				9			5	1	6			21
白磁？	完形				2			2		3			7
	破損							1					1
現代	完形				2	1							3
	破損												0
不明	完形												0
	破損				1					1			2
合計	完形	4	2		220	8	2	66	5	88	12	3	410
	破損	3		1	113	1	1	21	8	38	1		187

※東T 1-2 層：東トレンチ 1-2 層

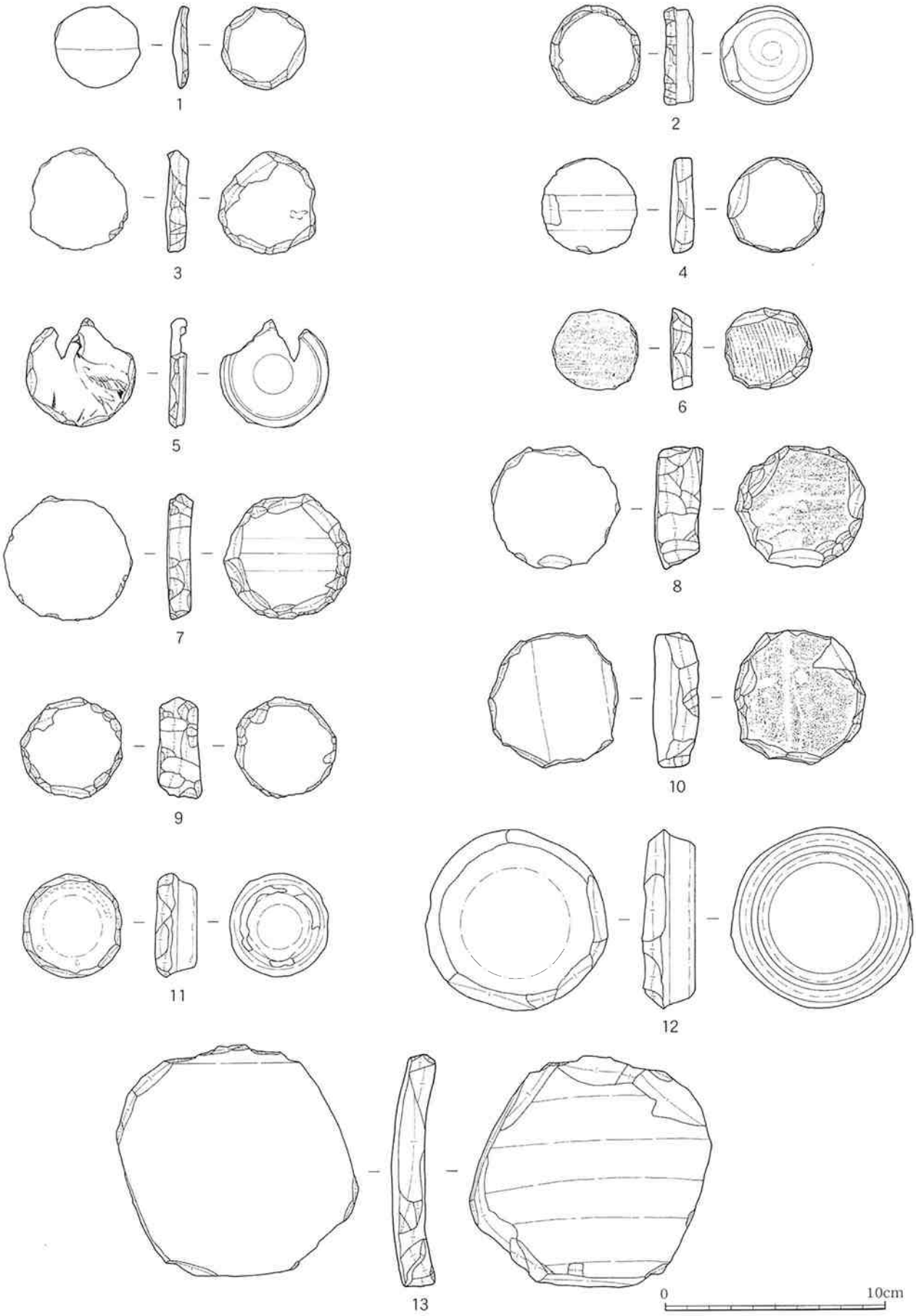
第 22 表　円盤状製品観察一覧

単位：cm

図	番号	素材	長径	短径	厚さ	重さ(g)	使用部位	完 / 破	備　考	出土地
第34図（図版26）	1	印判染付	1.29	1.29	0.22	0.8	碗 / 胴部	完形	肥前系、明治～大正	Ⅲ地区 1 層
	2	本土産染付	2.28	1.95	0.25	2	碗 / 胴部	完形	瀬戸・美濃、明治～	Ⅲ地区西トレンチ 1 層
	3	中国産染付	2.72	2.52	0.4	4.3	碗 / 胴部	完形	福建、18 c	Ⅲ地区 1 層
	4	沖縄産無釉	2.67	2.63	1.06	10.2	壺 / 胴部	完形		Ⅲ地区西トレンチ 3 層
	5	沖縄産施釉	1.52	1.49	0.54	2	瓶 / 胴部	完形	鉄釉、袋物	Ⅲ地区 1 層
	6	沖縄産施釉	3.32	3.14	0.49	7.2	碗 / 胴部	完形	灰釉碗	Ⅲ地区 1 層
	7	陶質土器	2.13	2.1	0.49	2.7	胴部	完形		Ⅲ地区西トレンチ 3 層
	8	陶質土器	2.31	2.16	0.36	2	胴部	完形		Ⅲ地区西トレンチ 3 層
	9	瓦	2.96	2.75	1.38	13.3	平瓦	完形		Ⅲ地区西トレンチ 1 層
第35図（図版26）	1	陶質土器	3.78	3.78	0.37	6	胴部	完形		Ⅲ地区 1 層
	2	天目	4.51	4.24	1.05	33.6	碗 / 底部	完形		Ⅰ地区東トレンチ 2 層
	3	本土産陶器	4.65	4.28	0.75	21.6	壺 / 胴部	完形	薩摩・褐釉	Ⅲ地区西トレンチ 2 層
	4	タイ産褐釉	4.44	4.32	0.83	21.5	壺 / 胴部	完形		Ⅲ地区 1 層
	5	本土産陶器	5.01	4.94	0.4	15.4	皿？ / 底部	破損	産地不明、17 c 後～ 18 c 前	Ⅲ地区 1 層
	6	沖縄産無釉	3.9	3.64	0.91	18	擂鉢 / 胴部	完形	擂り目は密	Ⅲ地区 1 層
	7	沖縄産無釉	5.69	5.44	1.1	52.2	胴部	完形		Ⅲ地区西トレンチ 3 層
	8	瓦	5.94	5.82	1.43	70.7	平瓦	完形		Ⅲ地区 1 層
	9	瓦	4.65	4.48	1.88	42.5	平瓦	完形		Ⅲ地区不明
	10	瓦	5.85	5.43	2	75.3	丸瓦	完形		Ⅲ地区西トレンチ 3 層
	11	沖縄産施釉	4.17	4.66	0.95	35.8	碗 / 底部	完形	蛇の目剥、白化粧	Ⅲ地区西トレンチ 3 層
	12	沖縄産施釉	8.25	8.25	1	103.5	碗 / 底部	完形	蛇の目剥、白化粧	Ⅲ地区西トレンチ 3 層
	13	沖縄産無釉	11.07	9.98	1.46	244.3	胴部	完形		Ⅲ地区西トレンチ 1 層



第 34 図　円盤状製品 1



第 35 図　円盤状製品 2

第 17 節　銭貨

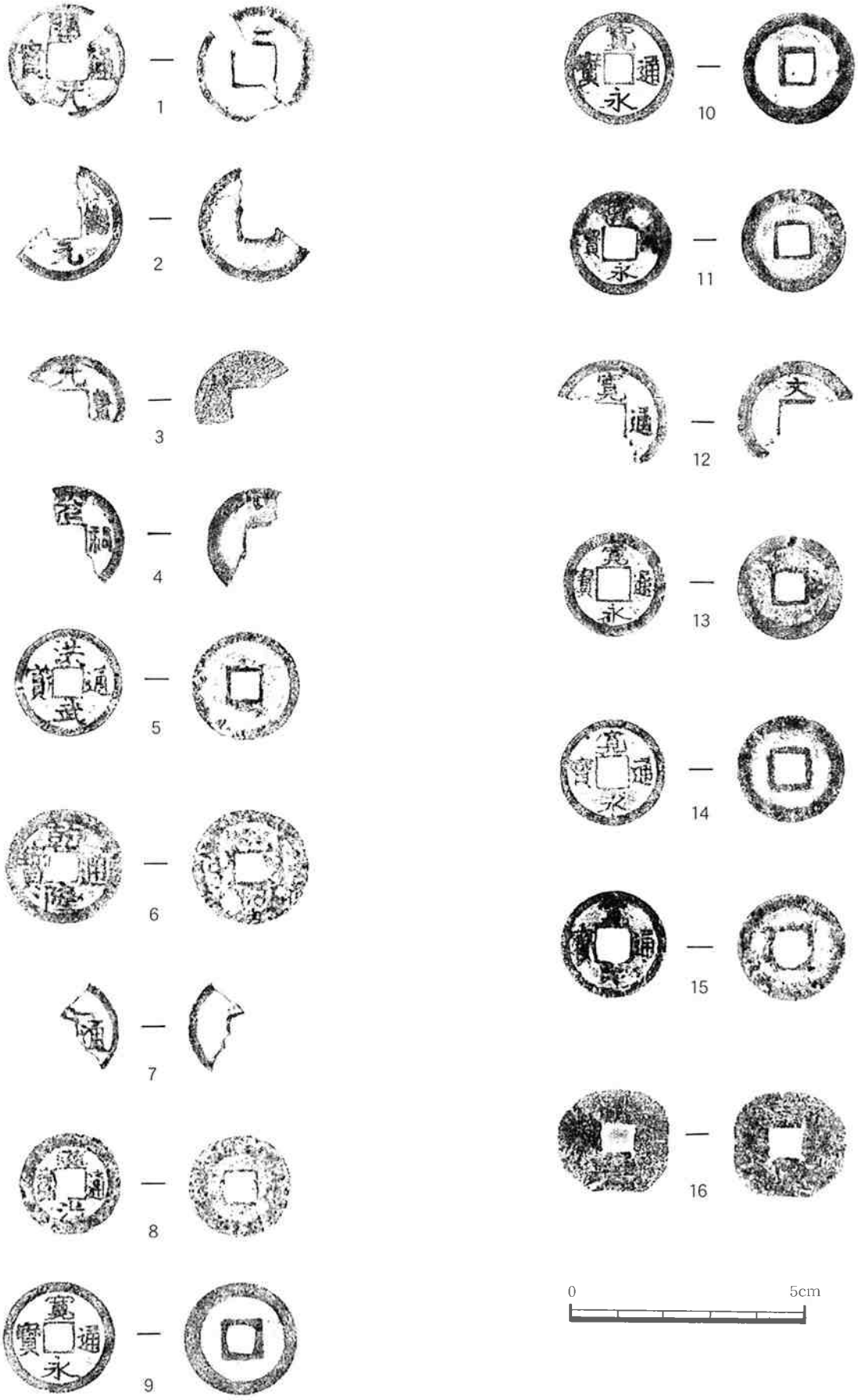
銭貨は中国銭 8 種類 9 点、日本銭 5 種類 24 点、香港銭 1 点、不明 6 点の合計 40 点出土している。中国銭は開元通寶（初鋳年 621 年）を最も古いものとして道光通寶（初鋳年 1821 年）まで 8 種確認できる。日本銭は銭種が判読できるものは近代・現代銭を除くと寛永通寶（初鋳年 1626 年）のみで 20 点と大部分を占める。その中でも「寛」、「寶」の違いにより古寛永と新寛永に分類できる。また、背に「文」がある文銭（第 36 図 12）が検出されている。その他、近代・現代銭として香港銭の香港一千、日本銭の一銭、10 円がある。出土状況としては、Ⅲ地区の 1 層及び西トレンチ 3 層に集中している。

第 23 表　銭貨出土状況

出土地＼銭種		中国								不明	日本	不明	中国	日本			合計
		開元通寶	元豊通寶	元祐通寶	洪武通寶	乾隆通寶	道光通寶	景徳元寶	永楽通寶	不明	寛永通寶	無文銭	香港一千	半銭	一銭	10 円	
Ⅲ地区	1 層			1		1	1			4	9	2			2		20
	2 層													1			1
	西トレンチ 1 層								1		2						3
	西トレンチ 3 層	2									6		1				9
	表採										1						1
	不明		1								2					1	4
表採					1			1									2
合計		2	1	1	1	1	1	1	1	4	20	2	1	1	2	1	40

第 24 表　銭貨観察一覧

図	番号	銭文	銭種	残存状況	背文字	初鋳年	書体	外縁外径 (㎜) a/b		外縁内径 (㎜) a/b		孔径 (㎜) 縦 / 横		厚み (㎜) 外 / 内		重量 (g)	観察事項	出土地
第 36 図（図版 27）	1	開□□寶	開元通寶	1/2	背上月	621 年	真書	−	−	−	−	7	−	0.8	0.4	1.4	背面上部に月文。	Ⅲ地区 西トレンチ 3 層
		□元通□	開元通寶	1/2	−	621 年	真書	−	−	−	−	−	−	0.9	0.3	1.1		Ⅲ地区 西トレンチ 3 層
	2	□徳？元寶	景徳元寶	1/2	−	1004 年	真書	−	−	−	−	6	7	1.4	0.3	2.1	「徳」が潰れ不明瞭であるが、「元」より判断。背の外郭は不明瞭。	表採
	3	元豊□□	元豊通寶	1/2	−	1078 年	隷書	−	−	−	−	−	−	0.7	0.2	0.9	「豊」潰れ、背の外郭不明瞭、作りは薄い。	不明
	4	元祐□□	元祐通寶	1/2	−	1086 年	篆書	−	−	−	−	−	−	1.3	0.4	1.5	背の外郭はやや不明瞭。	Ⅲ地区 1 層
	5	洪武通寶	洪武通寶	1/1	無	1368 年	楷書	23.1	23.2	19.2	19.2	5.4	5.5	1.5	1	3.8	背に鋳溜りがある、湾曲がみられる。	表採
	6	乾隆通寶	乾隆通寶	1/1	満州文字	1736 年	−	24.9	25.1	18.8	19.1	6.2	5.8	0.9	0.8	2.6	面は摩滅が著しく、背は錆により不明瞭である。	Ⅲ地区 1 層
	7	□□通□	永楽通寶	1/4	−	1408 年	楷書	−	−	−	−	−	−	0.6	0.2	0.6	面・背ともに浅彫、薄く作られている。	Ⅲ地区 西トレンチ 1 層
	8	道？光通寶	道光通寶	1/1	不明	1821 年	−	21.5	21.9	15.4	15.2	5.4	5.9	1.1	0.8	2.6	「道」が不明瞭であるが、その他の背文により判断。	Ⅲ地区 1 層
	9	寛永通寶	寛永通寶	1/1	無	1636 年	楷書	23.8	23.8	19.7	19.4	5.6	5.6	1	0.8	3.1	外郭・内郭とも面より背が広い。古寛永。	Ⅲ地区 1 層
	10	寛永通寶	寛永通寶	1/1	無	1636 年	楷書	24	23.8	19.4	18.5	5.7	5.6	1.2	0.8	3.4	面・背ともに深彫である。背の外郭は均一でない。古寛永。	Ⅲ地区 1 層
	11	□永通寶	寛永通寶	1/1	無	1636 年	楷書	22	22.2	16.8	16.7	6	6.6	0.9	0.8	1.9	面・背ともに気泡跡のようなブツブツがみられる。	Ⅲ地区 西トレンチ 3 層
	12	寛□通□	寛永通寶	1/1	背上「文」	1668 年	楷書	−	−	−	−	−	−	1.3	0.5	2	面・背の外郭に気泡跡のようなものがある。面の「寛」、背の「文」の表裏で「寛文」を表す文銭。	Ⅲ地区 1 層
	13	寛永通寶	寛永通寶	1/1	元	1697 年	楷書	22.3	22.4	16.8	16.8	6.2	6.2	0.9	0.8	2.2	面・背ともに全体的に気泡跡のようなブツブツがみられる。	不明
	14	寛永通寶	寛永通寶	1/1	無	1697 年	楷書	23.1	23	18.5	18.1	6.6	6.2	0.8	0.7	2.4	面より背の内郭が広く、背の外郭は不明瞭である。	Ⅲ地区 西トレンチ 1 層
	15	寛永通寶	寛永通寶	1/1	無	1697 年	楷書	22.7	22.8	18.1	18.4	7.2	6.8	0.9	0.8	2.2	孔の一角が丸味をもつ。表は拓本では分からないが、銭文に凹凸がある。背の整形は雑で平坦である。	Ⅲ地区 西トレンチ 1 層
	16	無	無文銭	1/1	無	不明	−	24	22.1	−	−	6.1	7.1	0.4	−	1.5	銭文、外郭がない。孔は約 7㎜ の道具によって穿れたものである。	Ⅲ地区 1 層



第 36 図　銭貨

第 18 節　金属製品

本遺跡から出土した金属製品の種類は鉄製品で釘、青銅製品で簪、釘、球状製品などである。ここでは特徴的なものを図示した。簪は個々の特徴を観察表に提示した。

1. 鉄製品

釘（第 37 図 8 ～ 9）

総数にして 26 点出土した。腐食がかなり進行しており、原形をとどめているものは皆無である。9 は長さ 7.3cm、頭部は 2.0cm、8 は長さ 5.2cm、頭部は 1.0cm の角釘である。

2. 青銅製品

簪（第 37 図 1 ～ 7）

簪は総数にして 10 点出土した。頭部の形状によりおたま状のものを 1 類、耳掻き状のものを 2 類、花弁状の頭部を有するものを 3 類に分類した。タイプ別の内訳は 1 類が 6 点、2 類は 2 点、3 類が 2 点である。更に 1・2 類は長さ、首部と竿部の交差面が明瞭か否かで下記のとおり細分した。

A　12cm 以上のもの ┬ あ　ムディ部が不明瞭なもの。（首部から竿部までストレートなもの）
B　〃　未満のもの ┴ い　ムディ部が明瞭なもの

第 25 表　簪観察一覧

単位：cm・g

図	番号	分　類	長さ	幅	厚さ	重さ	完／破	備　考	出土地
第37図（図版28）	1	1－A－あ	14.5	0.3	0.3	9.5	完形	首から竿がストレート。首から竿に擦痕。竿部円形。	Ⅲ地区 1 層
	2	1－B－い	10.3	0.25	0.20	3.6	完形	首裏面に擦痕。首部・竿部 6 角形。	Ⅲ地区 西トレンチ 3 層
	3	1－B－い	10.6	0.42	0.40	10.7	完形	竿先端に擦痕。カブの湾曲が大きい。首部・竿部 6 角形。	Ⅰ地区 東トレンチ 2 層
	4	2－B－あ	－	0.2	0.2	－	破損	首から竿がストレート。竿部円形。	Ⅲ地区 トレンチ 1 層
	5	2－A	－	0.3	0.3	－	破損	首部から竿はストレート？竿部円形。	Ⅲ地区 西トレンチ 1 層
	6	3	－	0.4	0.4	－	破損	ムディに捻れがはいる。首部 6 角形、竿部 4 角形。	Ⅲ地区 西トレンチ 1 層
	7	3	－	2.3	0.5	－	破損	花弁の末端部は鋭角。合板造り。	Ⅲ地区 西トレンチ 1 層

注：法量の項「－」は測定不可

釘（第 37 図 10）

10 は長さ 3.5cm、頭部 0.5cm の角釘である。Ⅲ地区 1 層より出土した。

球状製品（第 37 図 11）

11 は用途不明の製品として球状製品である。大きさは 1.9 × 1.8cm で重さは 27.5 g で、一部に 0.7 × 0.3cm の U 字状のきずがある。Ⅱ地区から表採した。

第 19 節　煙管

煙管は 8 点出土し、うち 5 点を第 37 図 12 ～ 16 に図示した。素材は金属製と陶製、部位は雁首と吸口がある。詳細は観察表に示し、計測方法は『首里城跡－下之御庭跡ほか－』（註 13）に従った。

第 37 図 12・13 は雁首である。同図 12 は「L」字状をなすもので、陶製である。火皿の部分が破損し、接続部の断面形は 8 角形をなす。同図 13 は金属製で、全体的にひしゃげている。火皿の部分は欠失する。

同図 14 ～ 16 は吸口である。14 は陶製で雫形の器形をなし、外面に瑠璃色の釉を施す。接続部は破損する。15・16 は金属製の吸口で細長い器形である。16 は内部に羅宇が残存している。

第 26 表　煙管計測一覧

単位：cm

図番号		部位	計測値									出土地
			c	c'	d	e	f	f'	g	g'	h	
第 37 図版 28	12	雁首	1.6	0.9	1.7	4.1	－	－	－	－	－	Ⅲ地区 1 層
	13	雁首	1.1	1.1	1.0	6.3	－	－	－	－	－	Ⅲ地区西トレンチ 1 層
	14	吸口	－	－	－	－	2.8	2.2	－	－	－	Ⅲ地区西トレンチ 1 層
	15	吸口	－	－	－	－	1.1	1.0	0.5	0.3	5.3	Ⅲ地区 1 層
	16	吸口	－	－	－	－	0.9	0.8	0.7	0.3	5.8	Ⅲ地区 1 層

注：法量の項「－」は測定不可

第 20 節　坩堝

坩堝は 2 点出土し、うち 1 点を第 37 図 17 に図示した。底部資料で、底部は四角い突起状をなしており、底部から口縁部にかけて「ハ」の字状に開く。内外に金属の溶着がみられ、内側には厚く付着している。外面は被熱により白化している。坩堝はこれまでの首里城跡発掘調査でも得られており、底部が四角い突起状を呈するタイプと尖底状を呈するタイプがあり、今回得られたのは前者のタイプである。

第 21 節　玉

第 37 図 18、19 は玉である。いずれもガラス製で、18 は緑色、19 は淡青色を呈する。形状はいずれも真円で、サイズは、18 は直径 0.65cm、重さ 0.43 g、19 は直径 0.55cm、重さ 0.3 g である。出土はいずれもⅢ地区 1 層。

第 22 節　硯・石製品

硯は 8 点出土したが完形品は得られていない。うち 4 点を第 38 図 1 ～ 4 に図示した。詳細は観察表に示し、部位名称などは『首里城跡－下之御庭跡ほか－』（註 13）に従った。また、硯以外の石製品は一括して扱った。

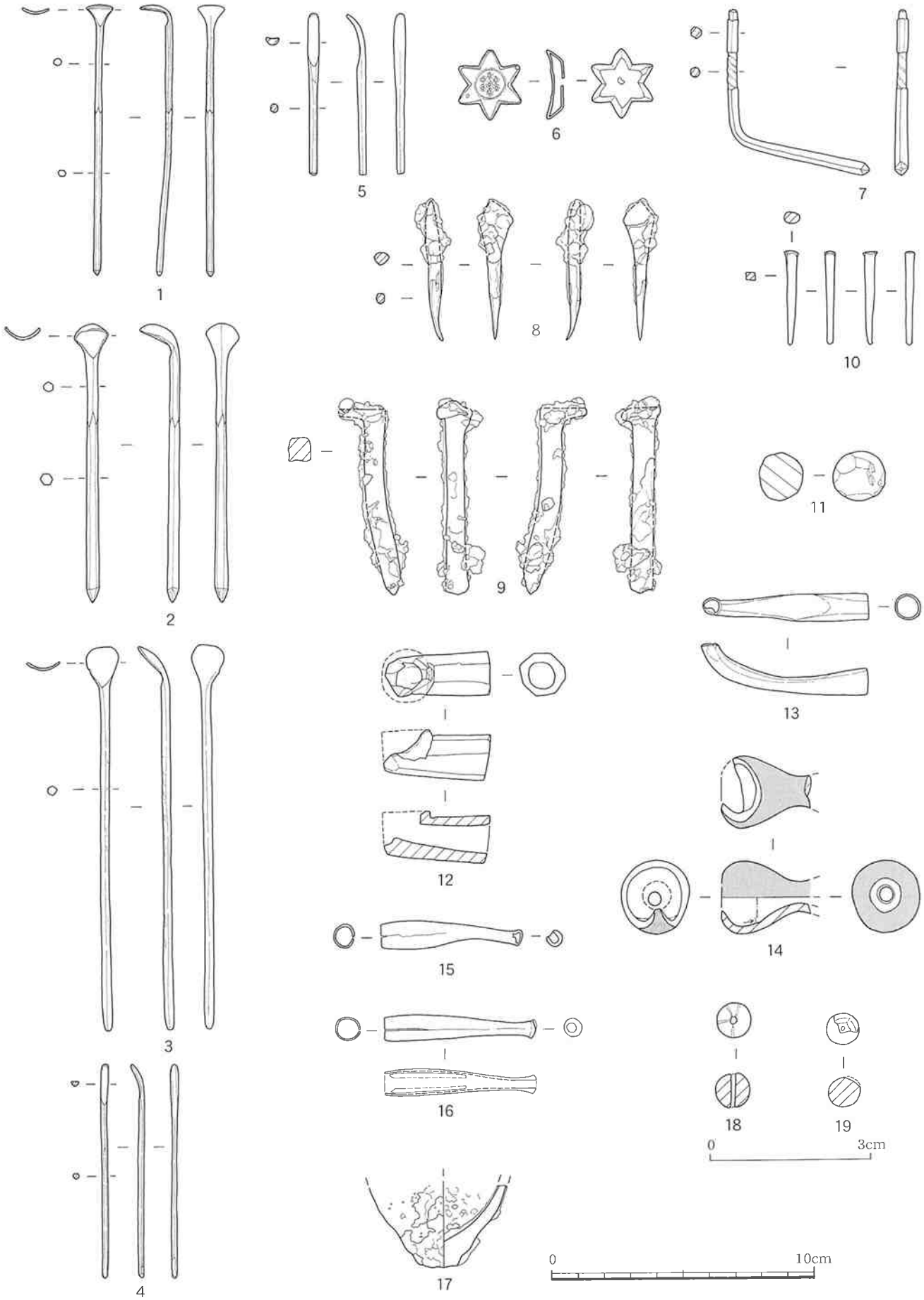
第 38 図 1 は硯池が破損し、硯唇も剥離している。おおよそ縦横の比が 3:1 の長方形をなすものと思われる。また、硯背を楕円形に浅く窪ませ「嵩山関／平光榮作」の文字と落款が刻まれている。同図 2 は上半部が欠失し、同図 3・4 は硯側の破片である。

第 38 図 5 ～ 9 は石製品である。同図 5 は高欄片で文様などはみられない。同図 6 は砥石片で大型の砥石になるものと思われる。同図 7・8 は石球である。7 は大型のタイプで、敲打によって仕上げている。3 分の 1 が破損し、一部に煤が付着している。8 は小型のタイプで、敲打により仕上げる。一部が破損する。同図 9 は用途不明のスレート状製品で、西表島慶来慶田城遺跡（註 14）などから得られている。

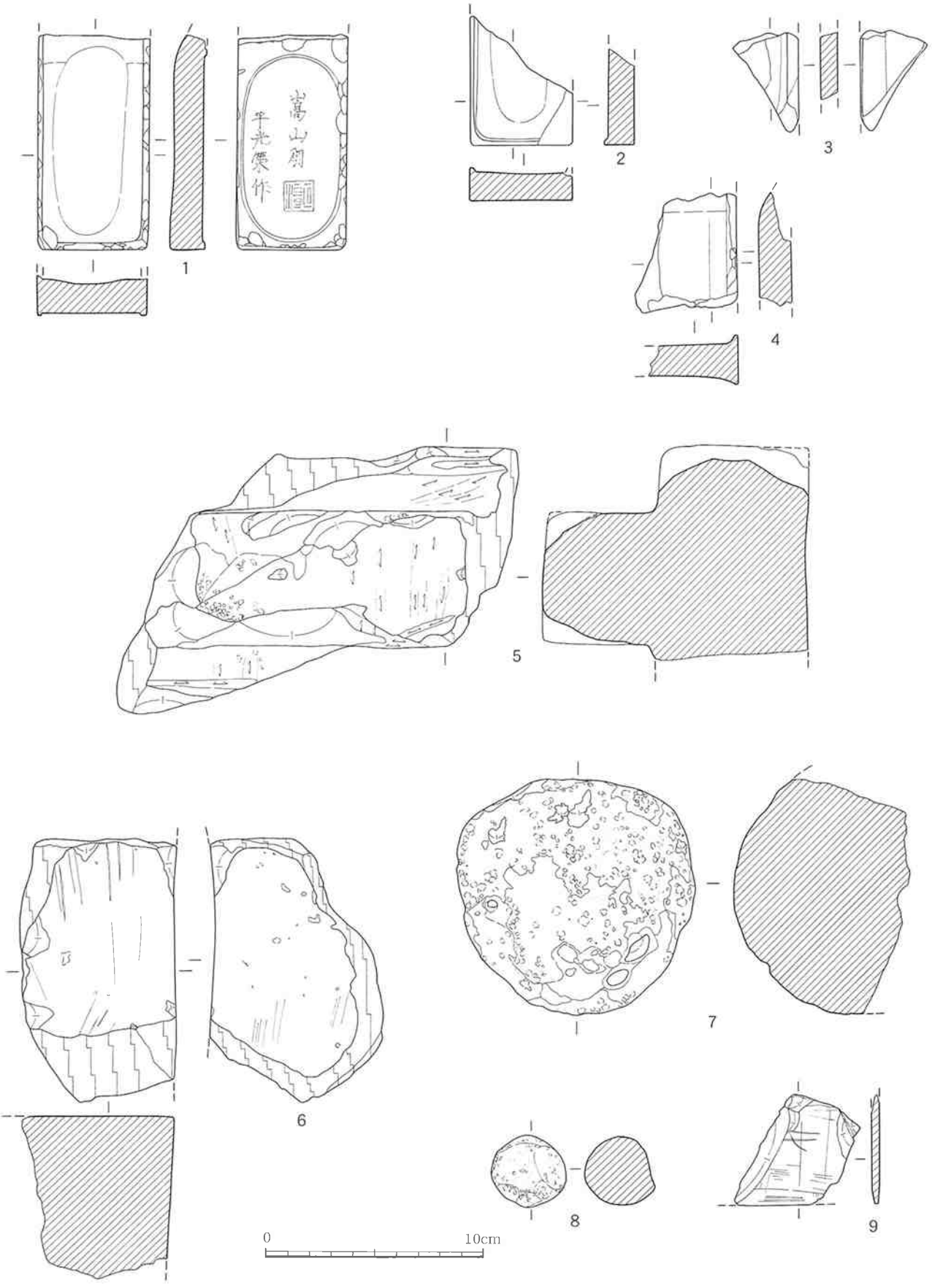
第 27 表　硯・石製品計測一覧

図番号		種別	計測値	出土地
第 38 図（図版 29）	1	硯	幅：5.0cm 厚さ：1.8cm 重さ：(170g)	Ⅲ地区 西トレンチ 3 層
	2		幅：4.7cm 厚さ：1.5cm	Ⅲ地区 西トレンチ 3 層
	3		厚さ：0.8cm	Ⅲ地区 西トレンチ 2 層
	4		厚さ：2.2cm	Ⅲ地区 西トレンチ 3 層
	5	高欄	厚さ：12.1cm 重さ：(2,840g)	Ⅲ地区 1 層
	6	砥石	重さ：(790g)	表採
	7	石球	重さ：(980g)	表採
	8		重さ：(42g)	Ⅲ地区 1 層
	9	不明	厚さ：0.4cm	Ⅲ地区 1 層

（注）計測値の（ ）書きは残存値である。



第 37 図　金属製品（1 ～ 11）、煙管（12 ～ 16）、坩堝（17）、玉（18、19）



第 38 図　硯（1 ～ 4）、石製品（5 ～ 9）

第 23 節　貝製品

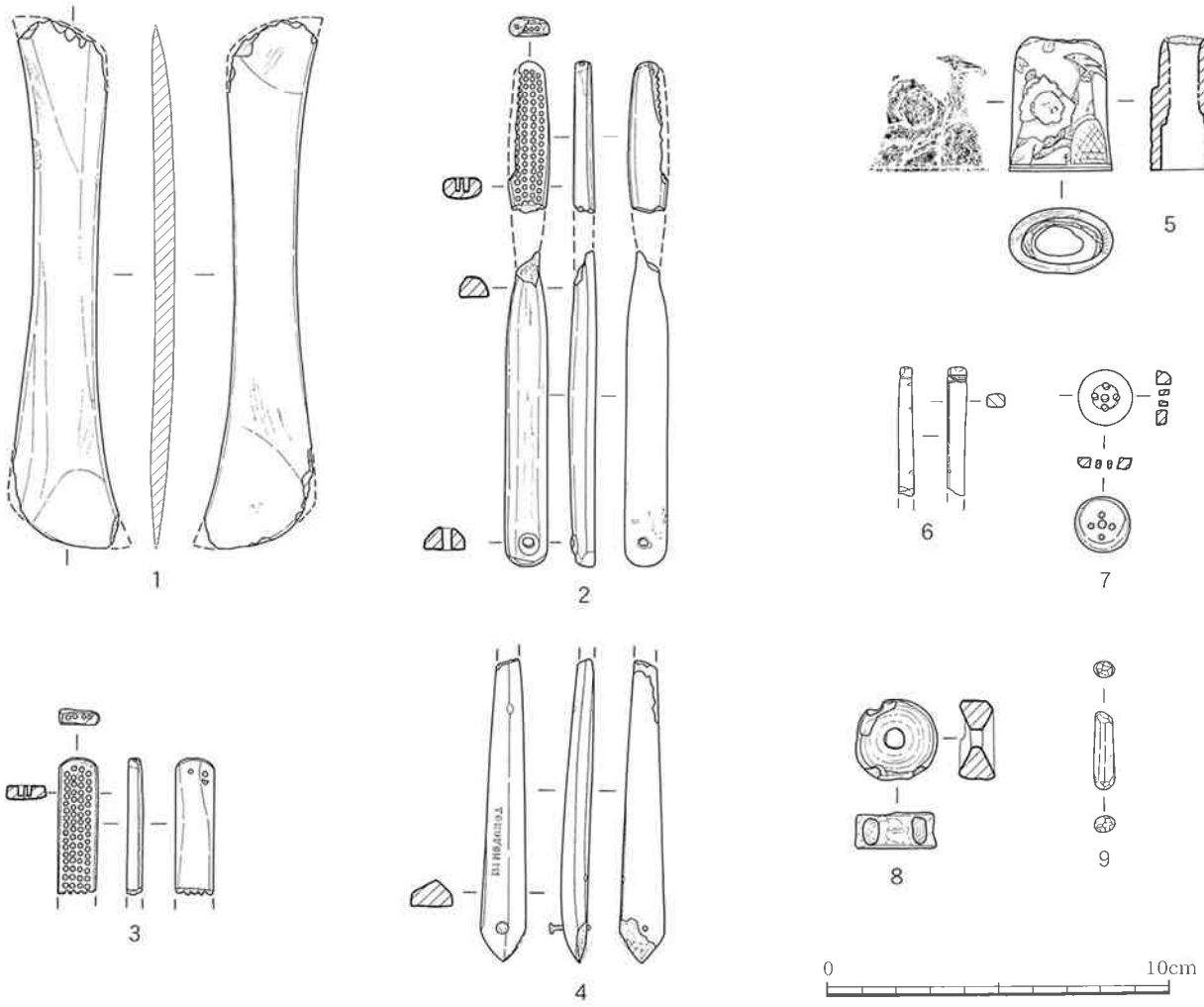
貝製品は第 39 図 9 で、棒状製品が 1 点出土している。長さ 2.3cm、最大幅 0.6cm、重さ 1.1 g の小型の製品で、研磨によって仕上げている。貝種は不明。Ⅲ地区西トレンチ 1 層出土。類例が湧田古窯跡（註 15）にある。

第 24 節　骨製品

骨製品は第 39 図 1 ～ 8 で、裁縫用の篦などが出土している。多くは近世以降に属するものと思われるが、棒状製品と有孔製品の所属年代は不明である。

同図 1 は裁縫用の篦で、先端部は若干破損する。推定の長さは 15.5cm である。現在用いられているタイプに準ずる形態である。Ⅲ地区西トレンチ 1 層出土。同図 2 ～ 4 はハブラシである。同図 2 は別個体の可能性はあるが、組み合わせて図示した。表に環状の金具がついている。Ⅲ地区 1 層出土。同図 3 は頭、同図 4 は柄の部分で、後者は金属製の掛け具が残っており「TOKUYOHIN」の印刻を記している。前者はⅢ地区西トレンチ 3 層出土、後者は同 1 層出土。同図 5 は用途不明の製品で、一側面に人物文などが陽刻されている。何らかの付属品と思われる。高さ 3.9cm、幅（下）2.0cm × 1.9cm の楕円形、重さ 14.8 g。Ⅲ地区西トレンチ 2 層出土。同図 7 はボタンで、孔を 5 つ穿つ。直径 1.6cm、重さ 0.8 g。Ⅲ地区西トレンチ 2 層出土。

同図 6 は棒状の製品で一端は破損している。研磨により仕上げており、一端に抉り状の沈線を巡らせる。断面形は 0.4cm × 0.5cm の四角形をなす。残存の重さは 1.4 g。Ⅲ地区 1 層出土。同図 8 はメジロザメの椎骨を利用した有孔製品である。直径は 2.3cm、孔の径は 0.6cm、重さ 2.1 g。地区不明表採。縄文時代遺跡から比較的多く得られている製品で、古我地原貝塚（註 16）からは 10 点出土している。



第 39 図　貝製品（9）、骨製品（1 ～ 8）

第 25 節　貝類遺存体

本遺跡の出土状況を第 28 表に巻貝、第 29 表に二枚貝を示した。巻貝 20 科 36 種（蓋、不明を除く）、二枚貝 14 科 25 種（イタヤガイの一種、不明を除く）の最小個体数 643 個体が出土した。個体数の把握は巻貝においては完形及び殻頂が残っているものを一個体とし、二枚貝においては完形のものを左右それぞれで集計し、多い方を最小個体数とした。海産貝ではチョウセンサザエ・ヤコウガイ・ウラキツキガイ・アラスジケマンガイが比較的多く、陸産貝ではオキナワヤマタニシ・シュリマイマイが多い。貝種別ではヤコウガイがⅢ地区の 1 層及びⅢ地区西トレンチの 3 層から破片ではあるが多く、オキナワヤマタニシは幅広く出土している。

貝類生息地分類一覧

Ⅰ：外洋・サンゴ礁域
- 1：潮間帯中・下部
- 2：亜潮間帯上縁部
- 3：干瀬
- 4：礁斜面及びその下部
  - a：岩板
  - b：転石
  - c：岩礫底、砂泥底、砂底

Ⅱ：内湾・転石地域
- 1：潮間帯中・下部
- 2：亜潮間帯上縁部
  - a：岩板
  - b：転石
  - c：岩礫底、砂泥底、砂底

Ⅲ：河口干潟・マングローブ域
- 0：潮間帯上部
- 1：潮間帯中・下部
  - c：岩礫底、砂泥底、砂底

Ⅳ：淡水域
- 6：流水
  - a：岩板

Ⅴ：陸域

第 26 節　脊椎動物遺体

本地区から出土した動物遺存体は、軟骨魚綱 2 目 1 科・硬骨魚綱 1 目 4 科 2 種・鳥綱 1 目 1 科 1 種・哺乳綱 3 目 5 科 6 種が検出されている。以下に各々の出土遺存体の種名リストを示す。

脊椎動物遺体種名一覧

1. 軟骨魚綱　Class Chondrichthyes
  - サメ目　Order Lamniformes
    - メジロザメ科　Family Carcharhinidae
      - 属・種不明　Gen.et.sp.Indet
  - エイ目　Order　Rajiformes
    - 科・属不明　Fem.et.gen.Indet
2. 硬骨魚綱　Class Osteichthyes
  - スズキ目　Order Perciformes
    - タイ科　Family Sparidae
      - 属・種不明　Gen.et.sp.Indet
    - フエフキダイ科　Family Lethrinidae
      - ハマフエフキ　*Lethrinus nebulosus*
    - ベラ科　Family Labridae
      - コブダイ　*Semicossyphus reticulatus*
    - ハタ科　Family Serranidae
      - 属・種不明　Gen.et.sp.Indet
3. 鳥綱　Class Aves
  - キジ目　Order Galliformes
    - キジ科　Family Phasianidae
      - ニワトリ　*Gallus gallus var. domesticus*
4. 哺乳綱　Class Mammalia
  - 食肉目　Order Canivora
    - イヌ科　Family Canidae
      - イヌ　*Canis familiaris*
    - ネコ科　Family Felidae
      - ネコ　*Felis catus*
  - 奇蹄目　Order Perissodactyla
    - ウマ科　Family Equidae
      - ウマ　*Equus caballus*
  - 偶蹄目　Order Artiodactyla
    - イノシシ科　Family Suidae
      - ブタ　*Sus scrofa var. domesticus*
    - ウシ科　Family Bovidae
      - ウシ　*Bas taurus*
      - ヤギ　*Capura hirucus*

第 28 表　貝類出土状況（巻貝）

番号	科名	種名	生息地	Ⅰ地区 東トレンチ 4層 完	殻	破	Ⅰ地区 西トレンチ1 3層 完	殻	破	Ⅰ地区 西トレンチ1 4層 完	殻	破	Ⅰ地区 西トレンチ2 1層 完	殻	破	Ⅰ地区 西トレンチ2 2層 完	殻	破
1	ﾆｼｷｳｽﾞ科	ﾆｼｷｳｽﾞ	Ⅰ-2-a															
2		ｻﾗｻﾊﾞﾃｲﾗ	Ⅰ-4-a															
3	ﾘｭｳﾃﾝ科	ﾁｮｳｾﾝｻｻﾞｴ	Ⅰ-3-a															
4		ﾁｮｳｾﾝｻｻﾞｴの蓋	Ⅰ-3-a															
5		ｶﾝｷﾞｸ	Ⅱ-1-b													1		
6		ﾔｺｳｶﾞｲ	Ⅰ-4-a												1			
7		ﾔｺｳｶﾞｲの蓋	Ⅰ-4-a															
8		ｺｼﾀﾞｶｻｻﾞｴ	Ⅰ-2-a															
9	ｱﾏｵﾌﾞﾈ科	ｱﾏｵﾌﾞﾈ	Ⅰ-1-b															
10		ｲｼﾏｷｶﾞｲ	Ⅳ-6-a							1								
11	ｵﾆﾉﾂﾉｶﾞｲ科	ｵﾆﾉﾂﾉｶﾞｲ	Ⅰ-2-c															
12		ｳﾐﾆﾅｶﾆﾓﾘ	Ⅰ-1-c															
13		ｸﾜﾉﾐｶﾆﾓﾘ	Ⅰ-1-a															
14	ｳﾐﾆﾅ科	ｶﾜｱｲ	Ⅲ-1-c															
15		ｾﾝﾆﾝｶﾞｲ	Ⅲ-1-c															
16	ｿﾃﾞﾎﾞﾗ科	ｵﾊｸﾞﾛｶﾞｲ	Ⅱ-2-c															
17		ﾏｶﾞｷｶﾞｲ	Ⅰ-2-c															
18		ｽｲｼﾞｶﾞｲ	Ⅰ-1-c															
19	ﾀｶﾗｶﾞｲ科	ﾔｸｼﾏﾀﾞｶﾗ	Ⅰ-2-a															
20		ﾋﾒﾎｼﾀﾞｶﾗ	Ⅰ-3-a															
21		ﾊﾅﾏﾙﾕｷ	Ⅰ-3-a															
22		ﾊﾅﾋﾞﾗﾀﾞｶﾗ	Ⅰ-1-a															
23		ﾎｼﾀﾞｶﾗ	Ⅰ-3-a															
24	ｱﾔﾎﾞﾗ科	ﾎﾗｶﾞｲ	Ⅰ-4-a															
25	ｵｷﾆｼ科	ｵｷﾆｼ	Ⅰ-1-a															
26	ｱｯｷｶﾞｲ科	ﾂﾉﾚｲｼｶﾞｲ	Ⅰ-1-a															
27		ｶﾞﾝｾﾞｷﾎﾞﾗ	Ⅰ-1-a															
28	ｵﾘｲﾚﾖﾌﾊﾞｲ科	ﾋﾒｵﾘｲﾚﾑｼﾛ	Ⅱ-1-c															
29	ｲﾄﾏｷﾎﾞﾗ科	ｲﾄﾏｷﾎﾞﾗ	Ⅰ-2-a															
30	ﾌﾃﾞｶﾞｲ科	ﾐﾉﾑｼｶﾞｲ	Ⅱ-1-c															
31	ｲﾓｶﾞｲ科	ﾈｽﾞﾐｲﾓ	Ⅰ-1-a															
32		ｱｼﾞﾛｲﾓ	Ⅱ-2-c															
33		不明																
34	ﾀｹﾉｺｶﾞｲ科	不明																
35	ｷｾﾙｶﾞｲ科	ﾂﾔｷﾞｾﾙ	Ⅴ			1				1		4						
36	ﾔﾏﾀﾆｼ科	ｵｷﾅﾜﾔﾏﾀﾆｼ	Ⅴ-7	14	1	18	4		4	82	4	32				37	1	4
37	ｱﾌﾘｶﾏｲﾏｲ科	ｱﾌﾘｶﾏｲﾏｲ	Ⅴ															
38	ﾏｲﾏｲ科	ﾊﾞﾝﾀﾞﾅﾏｲﾏｲ	Ⅴ															
39	ﾅﾝﾊﾞﾝﾏｲﾏｲ科	ｼｭﾘﾏｲﾏｲ	Ⅴ-7				1									7		
40		ｶｸﾚﾝﾏｲﾏｲ	Ⅴ							1								
合計				14	1	19	5	0	4	85	4	36	0	0	1	45	1	4
個体数				15			5			89			0			46		

番号	Ⅱ地区 T.P.1 1層 完	殻	破	Ⅱ地区 T.P.3 2層 完	殻	破	Ⅱ地区 H-8 1層 完	殻	破	Ⅱ地区 H-8 2層 完	殻	破	Ⅱ地区 H-8 遺構内 完	殻	破	Ⅱ地区 1層 完	殻	破	Ⅱ地区 遺物だまり 完	殻	破
1																					
2																					5
3																				1	
4																					
5																					
6															1					1	5
7																	1				1
8																					
9																					
10																					
11																					
12																			1		
13																					
14					1																
15																					
16																					
17																			1		
18																					
19																					
20																					
21																					
22																					
23																					
24																					
25																			1		
26																					
27																					
28																					
29																					
30																					
31																					
32																					
33																					
34																					
35							1			1									1		
36	1						6		2	2											
37																					
38									1												
39							1			1											
40																					
合計	1	0	0	0	1	0	8	0	3	4	0	0	0	0	1	0	1	0	4	2	11
個体数	1			1			8			4			0			1			6		

番号	Ⅲ地区 1層 完	殻	破	Ⅲ地区 2層 完	殻	破	Ⅲ地区 遺構内トレンチ 1層 完	殻	破	Ⅲ地区 西トレンチ 1層 完	殻	破	Ⅲ地区 西トレンチ 2層 完	殻	破	Ⅲ地区 西トレンチ 3層 完	殻	破	Ⅲ地区 不明 完	殻	破	表採 完	殻	破	不明 完	殻	破	合計 完	殻	破	個体数
1										1														1				1	0	1	1
2		2	9						1									2		2	3	2		2				2	4	22	6
3	4	22	20								6	3		2	2	5	4	4	6		3	6	5	1				21	40	33	61
4	11															1			1			4						17	0	0	17
5																												1	0	0	1
6		3	115								2	32			3		1	36		1	27		5	44				0	13	264	13
7	3	16	65									11			1	1	2	20	2	3	7	2	5	12				8	27	117	35
8	1																											1	0	0	1
9	2																											2	0	0	2
10																												1	0	0	1
11		1	1									1					1											0	2	2	2
12	6																					2						9	0	0	9
13	1																											1	0	0	1
14	3		2							1		1						2					1					4	2	5	6
15	1																	1			1			1				1	0	3	1
16	4	4	5			1						1				5		1				12	2					21	6	8	27
17	5	5	4									1		1		1		1		2	1	1						8	8	7	16
18			1																									0	0	1	0
19			2																									0	0	2	0
20																								1				0	0	1	0
21			1																					1				0	0	2	0
22	1																					4						5	0	0	5
23			1																					1				0	0	2	0
24						1																		1				0	0	2	0
25																												1	0	0	1
26																						1						1	0	0	1
27			1																									0	0	1	0
28																						1						1	0	0	1
29		3	2							1	1							1	2	1	1	1		3				4	5	7	9
30																								1				0	0	1	0
31																						1						1	0	0	1
32		1																	1									1	1	0	2
33																						1						1	0	0	1
34																								1				0	0	1	0
35																												3	0	5	3
36	45	1	11							10	1	2				2			2			1		1	1			207	8	74	215
37	17	2	1							5									5									27	2	1	29
38										1																		2	0	1	2
39	10	4	7							16		12				2			3									41	4	19	45
40												1																1	0	1	1
合計	114	64	248	0	0	2	0	0	1	35	10	65	0	3	6	17	8	68	22	9	43	39	18	71	1	0	0	394	122	583	516
個体数	178			0			0			45			3			25			31			57			1			516			

※完＝完形　殻＝殻頂　破＝破片

第 29 表　貝類出土状況（二枚貝）

番号	科名	種名	生息地	Ⅰ地区 東トレンチ 2層 完形 L	完形 R	殻頂 L	殻頂 R	破片	Ⅰ地区 西トレンチ1 4層 完形 L	完形 R	殻頂 L	殻頂 R	破片	Ⅰ地区 西トレンチ2 1層 完形 L	完形 R	殻頂 L	殻頂 R	破片	Ⅰ地区 西トレンチ2 2層 完形 L	完形 R	殻頂 L	殻頂 R	破片
1	ﾌﾈｶﾞｲ科	ﾘｭｳｷｭｳｻﾙﾎﾞｳ	Ⅱ-2-c																				
2	ｲﾀﾔｶﾞｲ科	ｲﾀﾔｶﾞｲの一種																					
3	ｳﾐｷﾞｸ科	ﾒﾝｶﾞｲ	Ⅰ-2-a																				
4		ｶﾊﾞﾄｹﾞｳﾐｷﾞｸｶﾞｲ	Ⅰ-2-a																				
5	ｲﾀﾎﾞｶﾞｷ科	ﾏｶﾞｷ	Ⅱ-1-a																				
6	ﾂｷｶﾞｲ科	ｳﾗｷﾂｷｶﾞｲ	Ⅱ-2-c																				
7	ｷｸｻﾞﾙ科	ｼﾛｻﾞﾙ	Ⅰ-2-a																				
8		ｶｷﾂｸｻﾞﾙｶﾞｲ	Ⅰ-1-a																				
9	ｻﾞﾙｶﾞｲ科	ﾘｭｳｷｭｳｻﾞﾙｶﾞｲ	Ⅱ-2-c												1								
10		ｶﾜﾗｶﾞｲ	Ⅱ-2-c																				
11	ｼｬｺｶﾞｲ科	ｼｬｺﾞｳ	Ⅰ-2-c																				
12		ﾋﾚｼﾞｬｺ	Ⅰ-2-c																				
13		ﾋﾒｼﾞｬｺ	Ⅰ-2-a																				
14		不明																					
15	ﾊﾞｶｶﾞｲ科	ﾘｭｳｷｭｳﾊﾞｶｶﾞｲ	Ⅲ-1-c																				
16	ﾁﾄﾞﾘﾏｽｵｶﾞｲ科	ｲｿﾊﾏｸﾞﾘ	Ⅰ-1-c																				
17	ﾆｯｺｳｶﾞｲ科	ｻﾒｻﾞﾗ	Ⅰ-2-c																				
18	ｼｵｻｻﾞﾅﾐ科	ﾘｭｳｷｭｳﾏｽｵｶﾞｲ	Ⅱ-1-c																				
19	ｼｼﾞﾐ科	ｼﾚﾅｼｼﾞﾐ	Ⅲ-0-c																				
20	ﾏﾙｽﾀﾞﾚ科	ｽﾉﾒｶﾞｲ	Ⅱ-1-c		1																		
21		ﾎｿｽｼﾞｲﾅﾐｶﾞｲ	Ⅱ-1-c																				
22		ｱﾗｽｼﾞｹﾏﾝｶﾞｲ	Ⅲ-1-c								1								1	1			
23		ﾊﾏｸﾞﾘ	Ⅱ-2-c																				
24		ｵｲﾉｶｶﾞﾐ	Ⅱ-1-c																				
25		ｱｻﾘ	Ⅱ-2-c																				
26		ｵｷｼｼﾞﾐ	Ⅲ-1-c																				
27		ﾁｮｳｾﾝﾊﾏｸﾞﾘ	Ⅰ-1-c																				
合計				0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	1	1	0	0	0

番号	Ⅱ地区 H-8 1層 完形 L	完形 R	殻頂 L	殻頂 R	破片	Ⅱ地区 1層 完形 L	完形 R	殻頂 L	殻頂 R	破片	Ⅱ地区 遺物だまり 完形 L	完形 R	殻頂 L	殻頂 R	破片	Ⅲ地区 1層 完形 L	完形 R	殻頂 L	殻頂 R	破片	Ⅲ地区 2層 完形 L	完形 R	殻頂 L	殻頂 R	破片
1																									
2																									
3																1				1					
4																									
5																									
6																17	23			3					
7																									
8																1									
9																1	1								
10																		2							
11																									
12															2			1	1	17					1
13																				3					
14																				1					
15																									
16																	1	1							
17																			1						
18																				2					
19																		2	2	2					
20												1													
21																1									
22													2	1		8	8	1	1	3					
23																1	2	6	2	5					
24	1																								
25																2	3	1		1					
26																1		1	1						
27								1						1	1										
合計	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	2	2	3	33	38	15	8	38	0	0	0	0	1

番号	Ⅲ地区 西トレンチ 1層 完形 L	完形 R	殻頂 L	殻頂 R	破片	Ⅲ地区 西トレンチ 2層 完形 L	完形 R	殻頂 L	殻頂 R	破片	Ⅲ地区 西トレンチ 3層 完形 L	完形 R	殻頂 L	殻頂 R	破片	Ⅲ地区 不明 完形 L	完形 R	殻頂 L	殻頂 R	破片	表採 完形 L	完形 R	殻頂 L	殻頂 R	破片	合計 完形 L	完形 R	殻頂 L	殻頂 R	破片
1	1																								1	1	0	0	0	1
2					1																					0	0	0	0	1
3																									1	1	0	0	0	2
4											1															1	0	0	0	0
5																									1	0	0	0	0	1
6	5	9				1					8	11			1						4	9				35	53	0	0	4
7		1																								0	1	0	0	0
8																						1				1	1	0	0	0
9																						1				1	2	0	0	0
10			1		1																				1	0	0	3	0	2
11															1								1		1	0	0	1	0	2
12					4										3			1						3	2	0	0	2	4	29
13					1										2		1	1		3						0	1	1	0	9
14																										0	0	0	0	1
15														1												0	0	0	1	0
16																						2				0	3	1	0	0
17																										0	0	0	1	0
18																1	1									1	1	0	0	2
19																									1	0	0	2	2	3
20																							1			0	1	1	0	0
21																					1					2	0	0	0	0
22		2										1				2	1			1	18	13	1	1		29	26	6	3	4
23	4	2	1	2	1					1	1	1	1	1	1	1										7	5	8	5	8
24																						1				0	1	0	0	0
25																										2	3	1	0	1
26										1		1	1													1	1	2	1	1
27																								1		0	0	0	2	1
合計	10	14	2	2	8	1	0	0	0	2	10	14	1	2	8	4	3	2	0	4	23	27	3	5	8	82	99	28	19	72

第 30 表　魚類出土量

部位 ＼ 出土地					Ⅲ地区			表採	不明	合計
					1層	西トレンチ 1層	西トレンチ 3層			
サメ目	メジロザメ科	メジロザメ	脊椎骨		5	5	9			19
エイ目	科不明	エイ	脊椎骨				1			1
スズキ目	タイ科	種不明	臀鰭血管間棘				1			1
	フエフキダイ科	ハマフエフキ	顎骨	R			1			0 1
				L						0 0
	ベラ科	コブダイ	咽頭	R						0 0
				L			1			1
	ハタ類	種不明	方骨	R			1			1 0
			角骨	R			1			1 0
			前頭骨	R			1			1 0
			前頭骨	L						
種不明			脊椎骨		1			6	1	8
			背鰭棘		1		1			2
			尾椎					1		1
			不明破片		4	2	2			8
合計					11	7	19	7	1	45

第 31 表　鳥類出土一覧

部位			出土地	個数
脛骨	近位部	不明	Ⅲ地区 1 層	1
大腿骨	近位部	不明	Ⅲ地区 1 層	1
不明	破片	不明	Ⅲ地区 1 層	5

第 34 表　イヌ歯・牙出土一覧

部位			出土地	個数
下顎骨	左	P 4	Ⅰ地区 1 層	1
		M 1	Ⅰ地区 1 層	1
		M 2	Ⅰ地区 1 層	1

第 32 表　ニワトリ出土一覧

部位			出土地	個数
胸骨			Ⅲ地区 1 層	1
仙骨			Ⅲ地区 1 層	1
鎖骨	破片	不明	Ⅲ地区 1 層	1
肩甲骨	骨体	左	Ⅲ地区 1 層	1
上腕骨	近位端～遠位部	左	Ⅲ地区 1 層	1
烏口骨	骨体～遠位端	右	Ⅲ地区 1 層	1
	近位端～遠位部	左	Ⅲ地区 1 層	1
寛骨	破片	不明	Ⅲ地区 1 層	5
大腿骨	完存	左	Ⅲ地区 1 層	(2)
		右	Ⅲ地区 1 層	(1)
	骨体～遠位端	右	Ⅲ地区 1 層	1
橈骨	近位端～遠位部	右	Ⅲ地区 1 層	1
尺骨	完存	右	Ⅲ地区 1 層	1
脛骨	近位端	左	Ⅲ地区 1 層	1
		左	Ⅲ地区西トレンチ 3 層	1
	遠位端	右	Ⅲ地区 1 層	1
		左	Ⅲ地区 1 層	2
中足骨♀	近位端～骨体	左	Ⅲ地区 1 層	1
	遠位部	右	Ⅲ地区西トレンチ 3 層	1

凡例：（ ）解体痕

第 33 表　イヌ出土一覧

部位			出土地	個数
頭蓋骨	破片		Ⅰ地区西トレンチ 2　1 層	1
腰椎			Ⅲ地区西トレンチ 1 層	1
橈骨	骨体	右	Ⅱ地区H－8　1 層	1
		左	Ⅲ地区 2 層	1
中手骨	Ⅱ	右	Ⅲ地区西トレンチ 1 層	1
中手・中足骨	破片	不明	Ⅰ地区西トレンチ 2　1 層	1
大腿骨	近位骨端はずれ	右	Ⅰ地区西トレンチ 2　1 層	1
	骨体～遠位部	左	Ⅱ地区H－8　1 層	1
脛骨	近位部	右	Ⅰ地区西トレンチ 2　1 層	1
距骨	破片	右	Ⅰ地区西トレンチ 2　2 層	1

第 35 表　ネコ出土一覧

部位			出土地	個数
腰椎			Ⅲ地区 1 層	1
肋骨		不明	Ⅲ地区 1 層	1
上腕骨	近位端	右	Ⅲ地区 1 層	1
	遠位端	右	Ⅲ地区 1 層	1
橈骨	近位端～骨体	右	Ⅲ地区 1 層	1
尺骨	近位端～骨体	右	Ⅲ地区 1 層	1
中手骨	完存	右	Ⅲ地区 1 層	1
大腿骨	近位端～遠位部	左	Ⅲ地区西トレンチ 1 層	1
脛骨骨	完存	右	Ⅲ地区西トレンチ 1 層	1
中足骨	Ⅲ	左	Ⅲ地区西トレンチ 3 層	1

第 36 表　ウシ出土一覧

部位			出土地	個数
側頭骨	鼓室部	左	表採	1
舌骨			Ⅲ地区西トレンチ 1 層	1
肋骨		不明	表採	3
上腕骨	遠位端	右	Ⅲ地区 1 層	①
		右	Ⅲ地区西トレンチ 3 層	①
中手骨	遠位部	不明	Ⅲ地区 1 層	1 ①
中足骨	近位部	右	Ⅲ地区西トレンチ 2 層	①
頭骨		左	Ⅲ地区西トレンチ 1 層	1
	近位骨端はずれ	右	表採	1
不明		不明	Ⅲ地区 1 層	③
		不明	Ⅲ地区西トレンチ 1 層	⑤

凡例：○破片

第 37 表　ウシ歯・牙出土一覧

部位			出土地	個数
上顎骨	右	P 4	Ⅲ地区西トレンチ 3 層	1
	右	M 2	Ⅲ地区 1 層	1
不明	破片		Ⅲ地区 1 層	1

第 38 表　ウシ・ウマ出土一覧

部位			出土地	個数
肋骨	破片	不明	Ⅲ地区 1 層	1

第 39 表　ウマ歯・牙出土一覧

部位			出土地	個数
上顎骨	左	M 2	Ⅱ地区H－8　1 層	1

第 40 表　ブタ出土量

部位 ＼ 出土地		Ⅱ地区 1層 右	Ⅱ地区 1層 左	Ⅱ地区 1層 不明	Ⅱ地区 H－8 遺構内 1層 右	Ⅱ地区 H－8 遺構内 1層 左	Ⅱ地区 H－8 遺構内 1層 不明	Ⅱ地区 遺物だまり 1層 右	Ⅱ地区 遺物だまり 1層 左	Ⅱ地区 遺物だまり 1層 不明	Ⅲ地区 1層 右	Ⅲ地区 1層 左	Ⅲ地区 1層 不明	Ⅲ地区 2層 右	Ⅲ地区 2層 左	Ⅲ地区 2層 不明	Ⅲ地区 西トレンチ 1層 右	Ⅲ地区 西トレンチ 1層 左	Ⅲ地区 西トレンチ 1層 不明	Ⅲ地区 西トレンチ 2層 右	Ⅲ地区 西トレンチ 2層 左	Ⅲ地区 西トレンチ 2層 不明	Ⅲ地区 西トレンチ 3層 右	Ⅲ地区 西トレンチ 3層 左	Ⅲ地区 西トレンチ 3層 不明	表採 右	表採 左	表採 不明	合計 右	合計 左	合計 不明
頭頂骨															1									①				0	1	0
前頭骨																		1										0	1	0
頭骨片																								2				0	0	2
下顎体																							1	1				1	1	0
下顎角																	1											1	0	0
環椎																					1							0	0	1
腰椎																								1				0	0	1
突起破片															1													0	0	1
肋骨											1		5			1	1		4				2	1	9				4	1	19
肩甲骨	遠位部										1																		1	0	0
	破片																1												1	0	0
上腕骨	近位骨端のみ											1																	0	1	0
	近位部																						1						1	0	0
	骨体破片										1																		1	0	0
	遠位部										2	1											1①	1					3①	2	0
橈骨	肘骨端はずれ																							1					0	1	0
	近位端～骨体										1																		1	0	0
	近位部～遠位部																	1											0	1	0
	近位骨端はずれ																1												1	0	0
	骨体																	1											0	1	0
	遠位骨端はずれ																1												1	0	0
尺骨	骨体										1	1																	1	1	0
中手骨	Ⅱ近位端～遠位骨端はずれ											1																	0	1	0
	Ⅲ近位端											1																	0	1	0
中手・中足骨	破片												1																0	0	1
寛骨	臼部																						1	1					1	1	0
	腸骨																	1											0	1	0
	破片																							1					0	0	1
大腿骨	近位部										1																		1	0	0
	骨体	1			①			①			1(2)						①						1						2③②	①	0
	遠位部											1											1						1	1	0
脛骨	近位部																							1					0	1	0
	近位部～骨体																												0	1	0
	近位部～遠位端																						(1)						(1)	0	0
	近位骨端はずれ																						(1)						(1)	0	0
	骨体										1	4						1					(1)	1					2(1)	5	0
	遠位部																							①					0	①	0
	遠位骨端はずれ																						1						1	0	0
踵骨	破片										1																		1	0	0
中足骨	完存Ⅳ											1																	0	1	0
	近位端Ⅳ																						1						1	0	0
	近位端～遠位骨端はずれ																(1)						1						1(1)	0	0
	近位端～骨体Ⅴ										(1)																		(1)	0	0
腓骨	骨体																											1	0	0	1
	近位部										1																		1	0	0
基節骨	完存											1																	0	1	0
合計		1	0	0	① 0	0	0	0	0	① 0	⑶ 12	12	6	0	1	2	①(1) 6	4	4	0	0	1	①③ 10	② 7	① 14	0	1	0	③(7) 29	② 25	② 27

凡例：○破片　（　）解体痕

第 41 表　ブタ歯・牙出土量

出土地 ＼ 部位			右 i1	右 C / c	右 m3	右 m4	右 P3	右 M1	右 M3	左 i1	左 I2 / i2	左 I3 / i3	左 C / c	左 m3	左 m4	左 P2	左 P3	左 M1	左 M2	左 M3	切歯骨	合計
上顎骨	Ⅲ地区	1層							(1)	1								①				3
															①							1
		西トレンチ 3層										1						2				3
																						0
	計		0	0	0	0	0	0	(1)	1	0	1	0	0	0	0	0	3	0	0	0	6
			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
下顎骨	Ⅲ地区	1層	1	♀1			1						♂1								2	6
														1								1
		西トレンチ 1層	1										♂1									2
																						0
		西トレンチ 3層		♀1				1					♂1			(1)	1(1)	1①	③	(1)		12
					1	1					2				1							5
	計		2	2	0	0	1	1	0	0	0	0	3	0	0	1	2	2	3	1	2	20
			0	0	1	1	0	0	0	0	2	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	6

凡例：〈　〉未萌出　○欠損　♂オス　♀メス

第 42 表　ヤギ出土一覧

部位			出土地	個数
下顎体		右	Ⅲ地区 1 層	1
肩甲骨		左	Ⅲ地区西トレンチ 3 層	1
	破片	右	Ⅲ地区 1 層	1
	遠位部	右	Ⅲ地区 1 層	1
上腕骨	骨体～遠位部	右	Ⅲ地区 1 層	1
		左	Ⅲ地区西トレンチ 1 層	1
橈骨	骨体	右	Ⅲ地区 1 層	1
	近位部	右	Ⅱ地区 1 層	1
		左	Ⅲ地区西トレンチ 1 層	1
中手骨		左	Ⅲ地区 1 層	1

第 43 表　ヤギ歯・牙出土量

出土地 ＼ 部位			右 P3	右 P4	右 M1	右 M2	右 M3	左 M1	左 M2	合計
上顎骨	Ⅲ地区	1層				1			1	2
		表採						1		1
	計		0	0	0	1	0	1	1	3
下顎骨	Ⅲ地区	1層				1	1	1		3
		西トレンチ 3層	1	1	1					3
	計		1	1	1	1	1	1	0	6

第Ⅵ章　総括

以上、平成10年度と平成12年度に実施した首里城跡継世門周辺地区の発掘調査について報告した。本章では今一度それらを整理するとともに、若干の考察と今後の課題点について述べたい。

今回の調査区は継世門を含む周辺地域で、平成10年度に東のアザナから寒水川樋川までの地域、平成12年度に継世門前の階段部分をそれぞれ調査した。第Ⅲ章でも述べたが、継世門は1546年に首里城東南側外郭の城門として創建されたもので、頭上に木造の櫓を戴き石造でアーチを描く姿は、かつては首里城の中で最も美しい門と称えられた。しかしその継世門も昭和初期に櫓を失した後に、沖縄戦や戦後の琉球大学建設等により、旧地形を止めない状態にまで改変されてしまった。そのため一部で遺構が検出されたのみで、プライマリーな遺物包含層を確認するには至らなかった。

検出された遺構にはⅡ地区の方形石組遺構とⅢ地区の石階段がある。方形石組遺構は一面は城壁をそのまま利用する形で石を積み上げるもので、今回初めて城外から検出された。類例や機能面など不明な点は多いが、今後検討が必要と考えられる。石階段は継世門磴道の6～11段に当たる部分が検出された。石階段は平成9年度に城門の基礎及び階段の一部が検出されているが、特筆すべきはその保存状態であり、現在までに首里城及び周辺地区で確認された遺構と比較しても非常に良好である。そのため、今後予定されている首里城及び周辺地区での調査についても、非常に有意義な情報となると考えられる。

調査により出土した遺物は中国陶磁器・タイ産陶磁器・ベトナム産陶器・朝鮮産陶磁器・本土産陶磁器・沖縄産陶器・陶質土器・瓦質土器・土器・瓦・円盤状製品・銭貨・金属製品・煙管・坩堝・玉・硯・石製品・貝製品・骨製品・自然遺物など多種に及んでいる。ただし、調査区の大半で土層の撹乱がみられることから、層序的に時期を把握するには困難な状況であった。よって、時期判断の目安となる陶磁器類を中心に遺物の概要を説明する。中国陶磁器では概ね15世紀～16世紀頃に収まる資料が多く得られ、これに18世紀頃に比定される染付が加わるなど、若干の時代幅が確認された。本土産陶磁器では、17世紀～18世紀頃に相当する肥前系の製品が散見されるが、型紙印判や沖縄産陶器など近代以降に位置付けられるものが多数を占める。これは首里城がグスク時代から近世はもとより、近・現代に至るまで連綿と利用されたことによるものと思われる。

注目される遺物としては、初期鍋島の変形皿（第16図15）やベトナム産染付の型物（第15図12）が挙げられる。初期鍋島の出土は県内では管理用道路地区（註17）に次いで2例目であり、しかも管理用道路地区出土資料と同様の器形及び文様意匠を示すため、双方とも同一個体である可能性が高い。ベトナム産染付の型物は、類似する資料が京の内跡（註18）から出土している。また京の内跡出土資料と同様に被熱の跡が認められることから、本資料は京の内跡に由来する可能性も考えられる。いずれにしても、初期鍋島やベトナム産染付といった城内に由来する可能性の高い遺物の存在は、近年の造成によりかなりの土量が移動したことの証明ともいえよう。

ちなみに、平成10年度調査区である東のアザナから寒水川樋川周辺については、昨年度で整備が終了している。今後は平成12年度調査区の整備が予定されているため、今回の調査成果がその一助となれば幸いである。

引用文献

註 1．上地克哉・上原静　1993：「首里城城郭検出の「刻印石」」『文化課紀要』第 9 号　沖縄県教育庁文化課
註 2．沖縄県教育委員会（編）　1995：『龍潭・ハンタン山』　沖縄県教育委員会
註 3．沖縄県教育委員会（編）　1998：『首里城跡－御庭跡・奉神門跡の遺構調査報告－』　沖縄県教育委員会
註 4．文化財建造物保存技術協会（編）　1996：『名勝識名園環境整備報告書』　那覇市教育委員会
註 5．福岡市美術館（編）　1992：『ベトナムの陶磁』　福岡市美術館
註 6．沖縄大百科事典刊行事務局（編）　1983：『沖縄大百科事典　上』　沖縄タイムス社
註 7．沖縄県教育委員会（編）　1999：『喜友名貝塚・喜友名グスク』　沖縄県教育委員会
註 8．那覇市教育委員会（編）　1992：『壺屋古窯群Ⅰ』　那覇市教育委員会
註 9．沖縄県立埋蔵文化財センター（編）　2001：『天界寺跡（Ⅰ）』　沖縄県立埋蔵文化財センター
註 10．沖縄県教育委員会（編）　1993：『湧田古窯跡（Ⅰ）』　沖縄県教育委員会
註 11．上原静　1994：「首里城跡西のアザナ地区出土の明朝系瓦とその推移」『南島考古』第 14 号　沖縄考古学会
註 12．上原静　1996：「首里城跡の高麗系瓦と大和系瓦－西のアザナ地区の資料－」『文化課紀要』第12号　沖縄県教育庁文化課
註 13．沖縄県立埋蔵文化財センター（編）　2001：『首里城跡－下之御庭跡・用物座跡・瑞泉門跡・漏刻門跡・廣福門跡・木曳門跡発掘調査報告書－』　沖縄県立埋蔵文化財センター
註 14．沖縄県教育委員会（編）　1997：『慶来慶田城遺跡』　沖縄県教育委員会
註 15．沖縄県教育委員会（編）　1999：『湧田古窯跡（Ⅳ）』　沖縄県教育委員会
註 16．沖縄県教育委員会（編）　1987：『古我知原貝塚』　沖縄県教育委員会
註 17．沖縄県立埋蔵文化財センター（編）　2001：『首里城跡－管理用道路地区発掘調査報告書－』　沖縄県立埋蔵文化財センター
註 18．沖縄県教育委員会（編）　1998：『首里城跡－京の内跡発掘調査報告書（Ⅰ）－』　沖縄県教育委員会

参考文献

1．上原静　1986：「県内出土の円盤状製品について」『読谷村立歴史民俗資料館紀要』第 10 号　読谷村立歴史民俗資料館
2．那覇市教育委員会文化課（編）　1986：『那覇市歴史地図－文化遺産悉皆調査報告書－』那覇市教育委員会
3．沖縄県編集委員会（編）　1986：『角川日本地名大辞典　47　沖縄県』　角川書店
4．福島駿介　1987：『沖縄の石造文化』　沖縄出版
5．沖縄県教育委員会（編）　1987：『古我知原貝塚』　沖縄県教育委員会
6．沖縄県土木建築部（編）　1988：『首里城公園基本設計』　沖縄県土木建築部
7．首里城研究グループ（編）　1989：『首里城入門－その建築と歴史－』　ひるぎ社
8．沖縄県教育委員会（編）　1993：『湧田古窯跡（Ⅰ）』　沖縄県教育委員会
9．大橋康二　1994：『古伊万里の文様－初期肥前磁器を中心に－』　理工学社
10．矢部倉吉　1995：『改訂版　古銭と紙幣』　金園社
11．沖縄県教育委員会（編）　1995：『首里城跡－南殿・北殿跡の遺構調査報告－』　沖縄県教育委員会
12．沖縄県教育委員会（編）　1997：『慶来慶田城遺跡』　沖縄県教育委員会
13．佐賀県立九州陶磁文化館（編）　1998：『沖縄のやきもの－南海からの香り－』　佐賀県立九州陶磁文化館
14．三杉隆敏・榊原昭二　1998：『新装版　陶磁器染付文様事典』　柏書房
15．陳建中　1999：『徳化民窯青花』　文物出版社
16．沖縄県教育委員会（編）　1999：『湧田古窯跡（Ⅳ）』　沖縄県教育委員会
17．平良市教育委員会（編）　1999：『住屋遺跡（Ⅰ）』　平良市教育委員会
18．九州近世陶磁学会（編）　2000：『九州陶磁の編年－九州近世陶磁学会 10 周年記念－』　九州近世陶磁学会
19．都立学校遺跡調査会（編）　2000：『菅谷遺跡』　都立学校遺跡調査会
20．那覇市教育委員会（編）　2000：『天界寺跡』　那覇市教育委員会
21．沖縄県立埋蔵文化財センター（編）　2001：『首里城跡－管理用道路地区発掘調査報告書－』　沖縄県立埋蔵文化財センター
22．沖縄県立埋蔵文化財センター（編）　2001：『天界寺跡（Ⅰ）』　沖縄県立埋蔵文化財センター
23．沖縄県立埋蔵文化財センター（編）　2001：『首里城跡－下之御庭跡・用物座跡・瑞泉門跡・漏刻門跡・廣福門跡・木曳門跡発掘調査報告書－』　沖縄県立埋蔵文化財センター
24．日本貨幣商協同組合（編）　2001：『日本貨幣カタログ　2002 年度版』　日本貨幣商協同組合

図　　版

図版 1　Ⅰ地区・Ⅱ地区　1. Ⅰ地区近景（着手前）　2. 表土除去作業　3. 調査光景　4. 完掘状況
5. Ⅱ地区近景（着手前）　6. 表土除去作業　7. 調査光景　8. 遺構検出状況

図版２　III地区１　1. 2. 調査区近景（着手前）　3. 表土除去作業　4. 調査光景
5. 西トレンチ北壁　6. 同西壁　7. 遺構内トレンチ１東壁　8. 同南壁

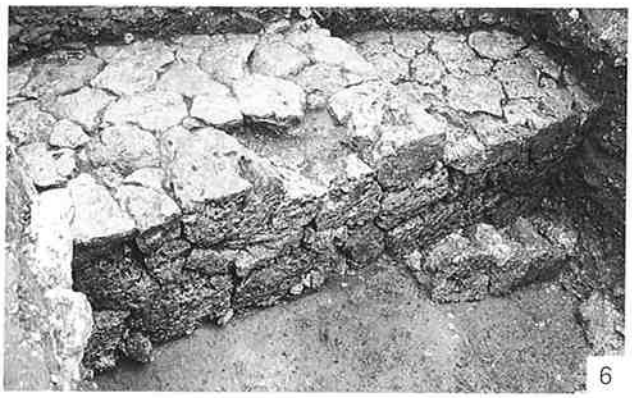
1

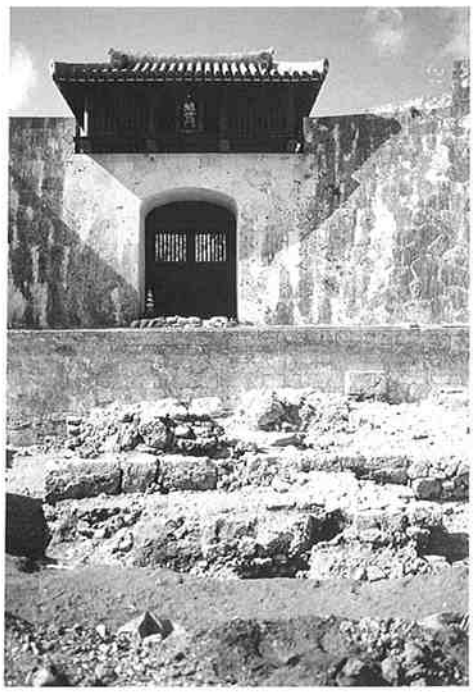
2

3

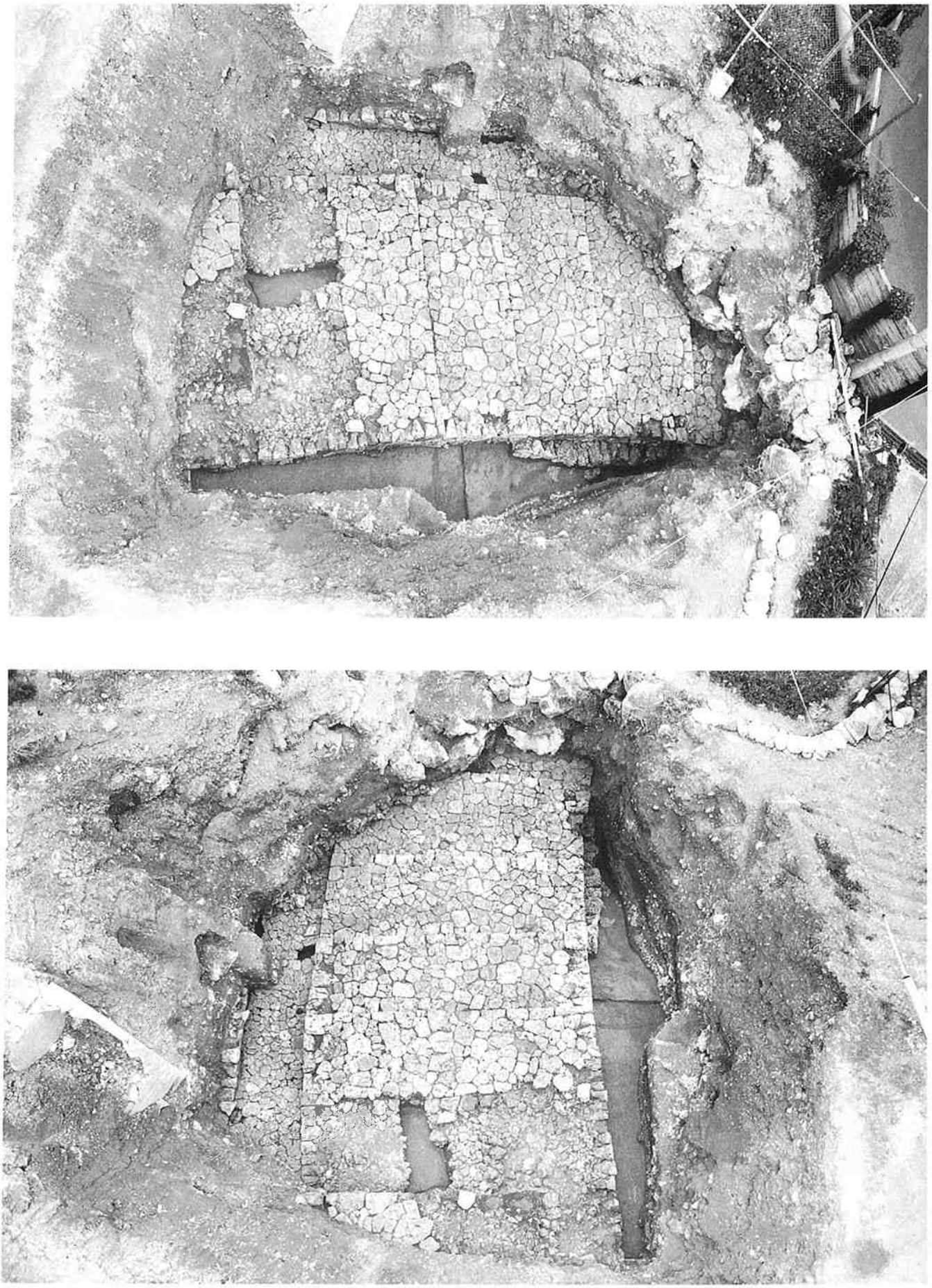
4

5

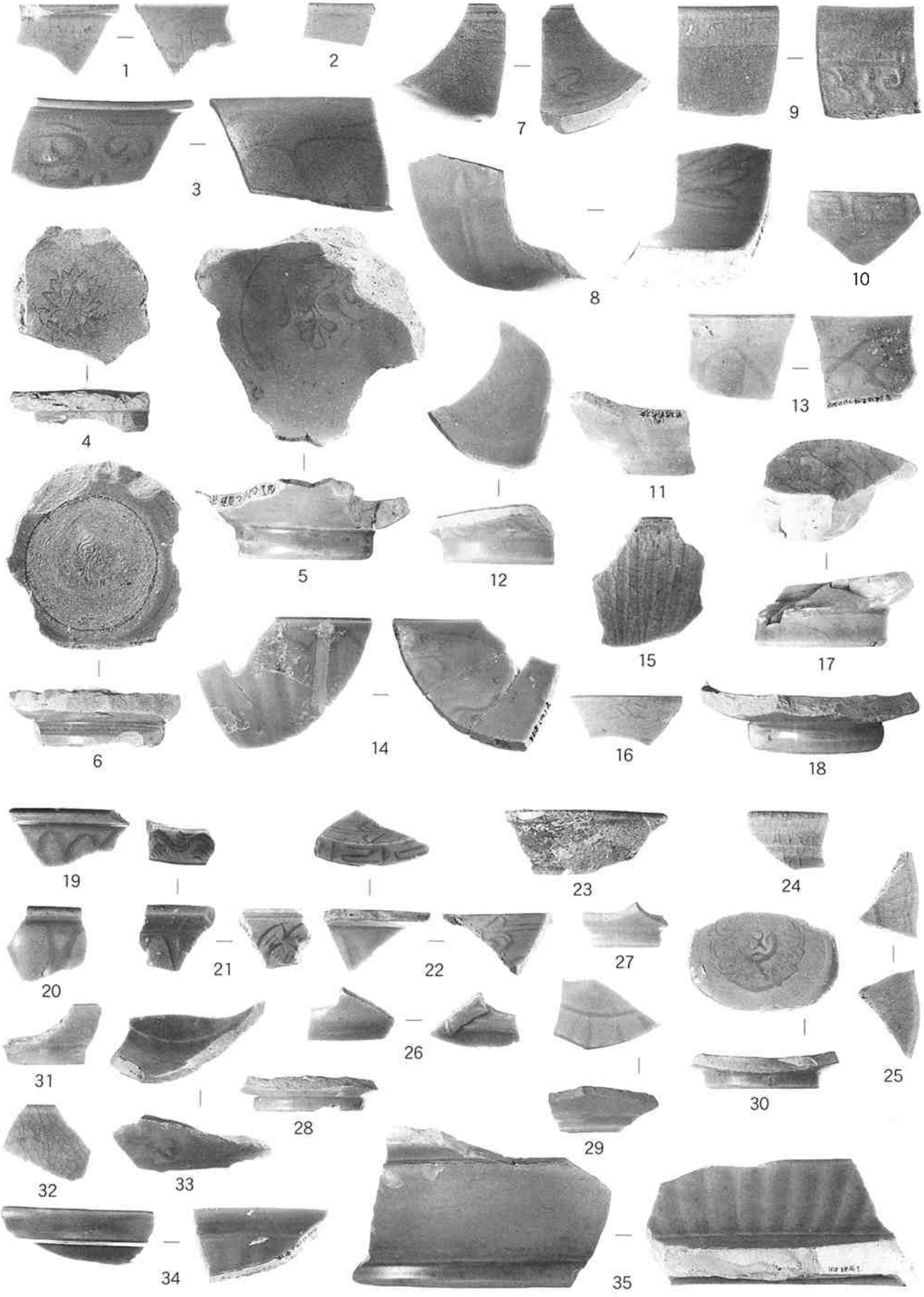

6


7

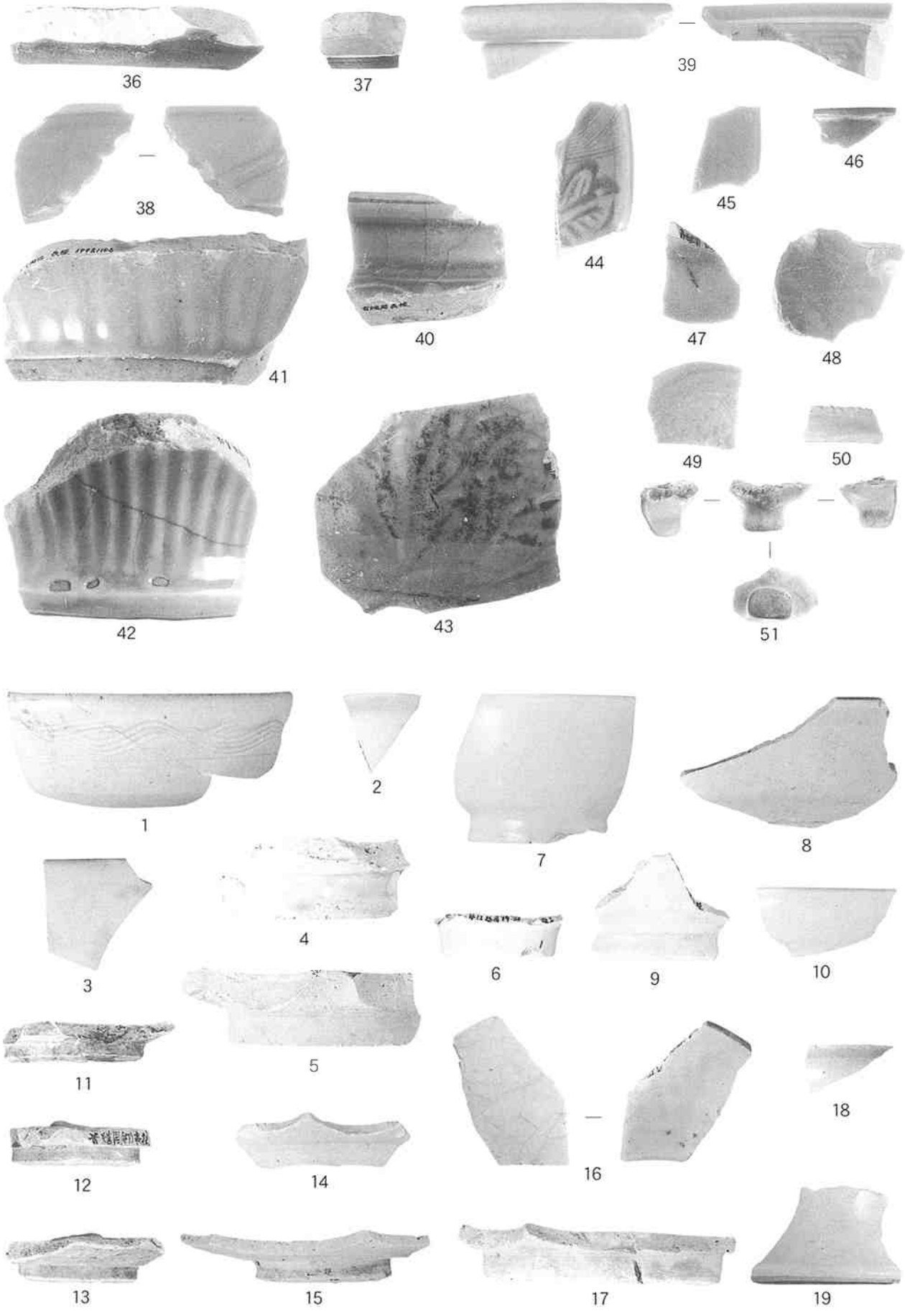
図版３　III地区２　１～６．遺構検出状況　７．遺構検出状況（平成９年度調査区）



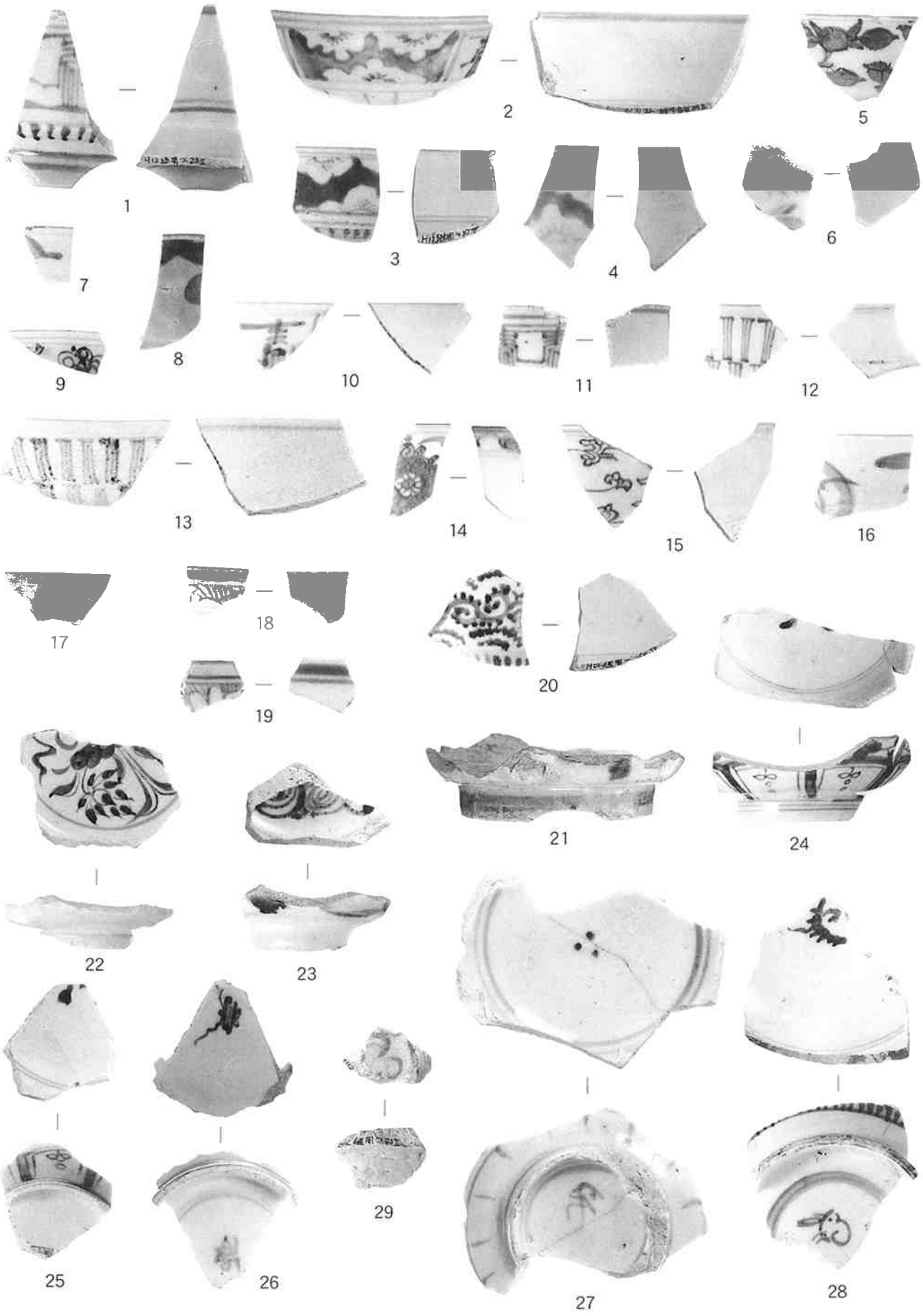
図版４　Ⅲ地区３　上：完掘状況（西側より撮影）　下：完掘状況（北側より撮影）



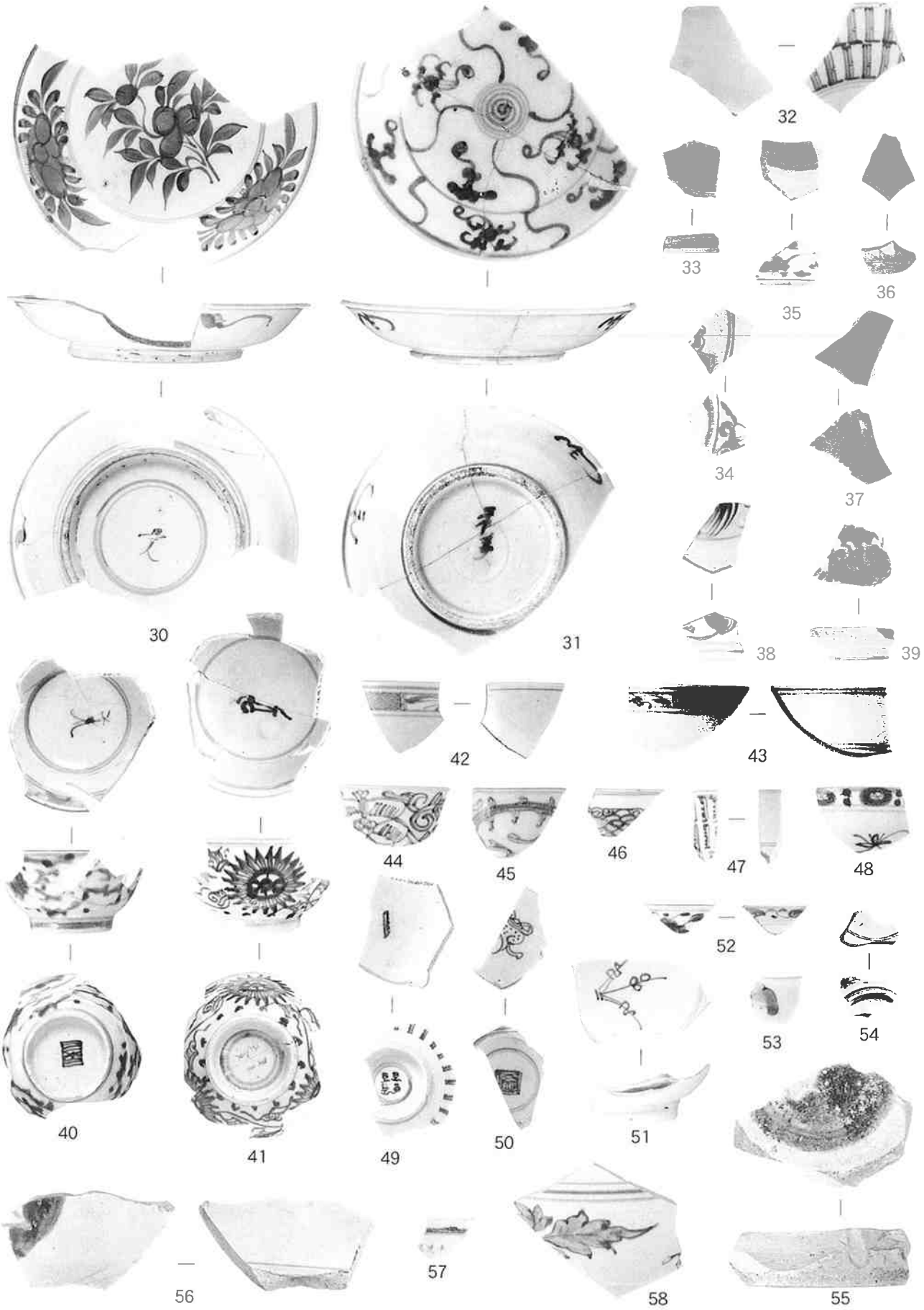
図版５　上：青磁１　下：青磁２


36
37
39
38
46
45
44
40
47
48
41
49
50
42
43
51
1
2
7
8
4
3
6
9
10
5
11
18
12
14
16
13
15
17
19

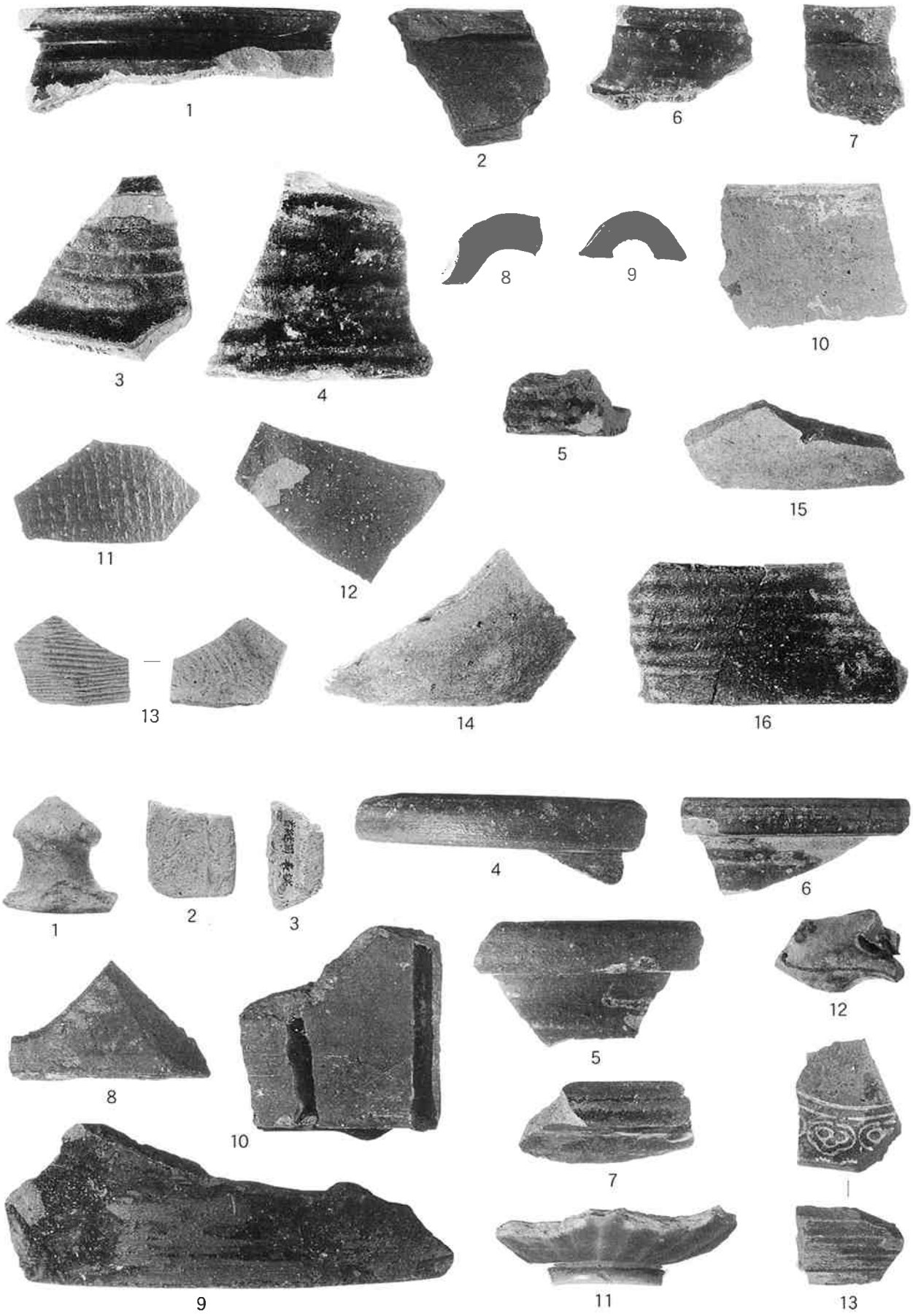
図版6　上：青磁3　下：白磁



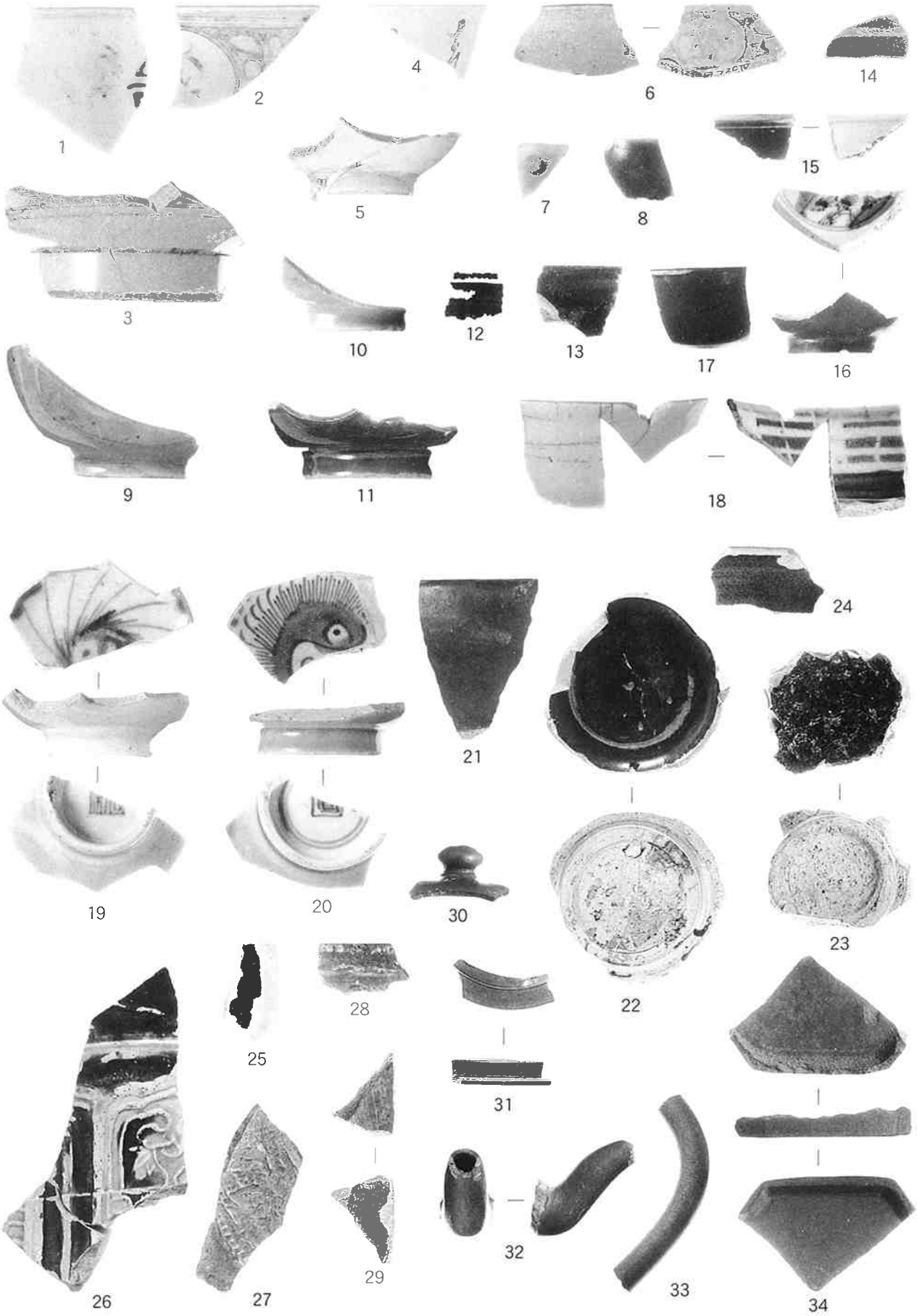
図版 7　染付 1


30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
41
42
43
44
45
46
47
48
49
50
51
52
53
54
55
56
57
58

図版 8　染付 2



図版９　上：褐釉陶器　下：タイ産陶磁器・ベトナム産陶磁器・高麗青磁

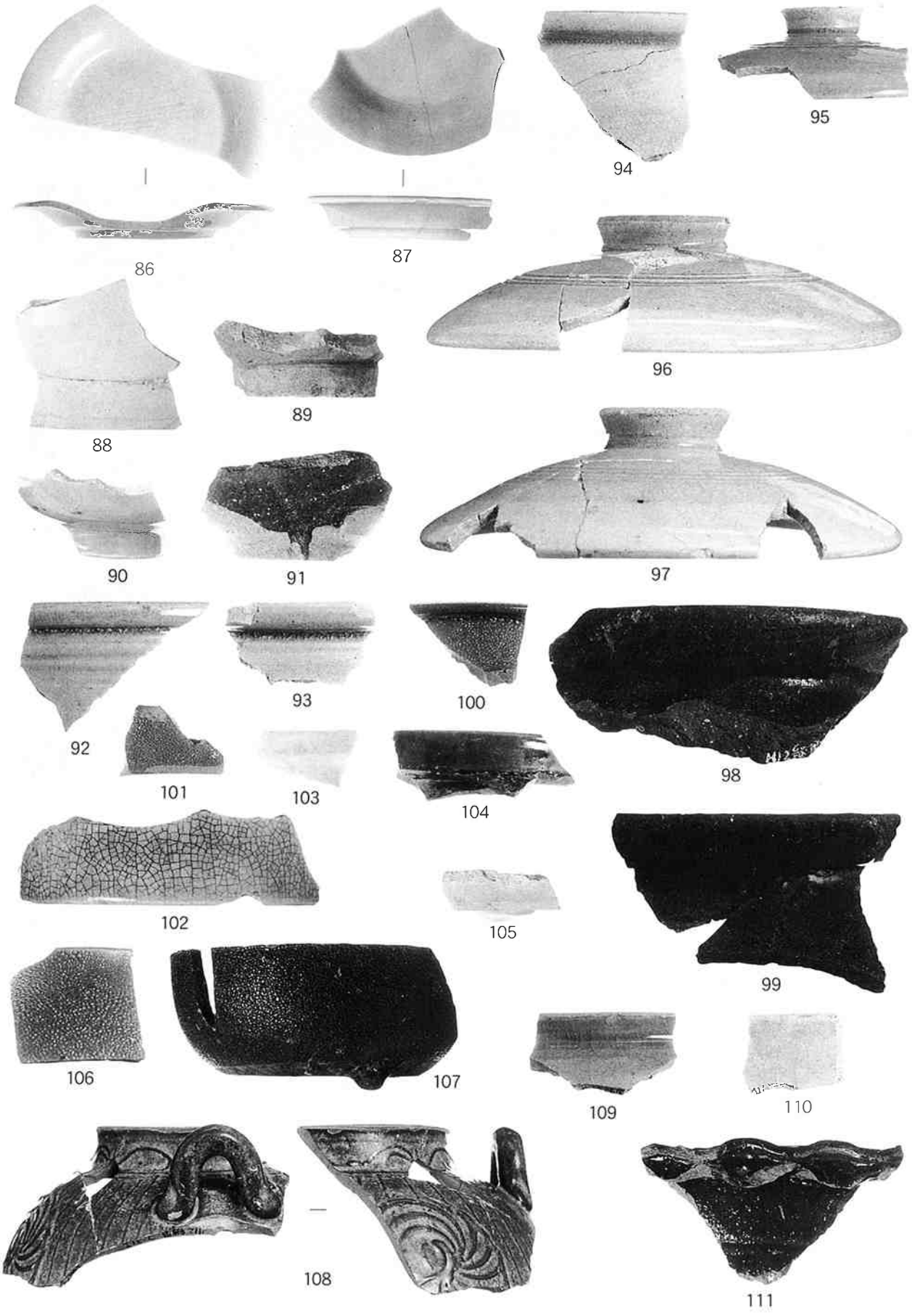


図版 10　その他の中国産陶磁器

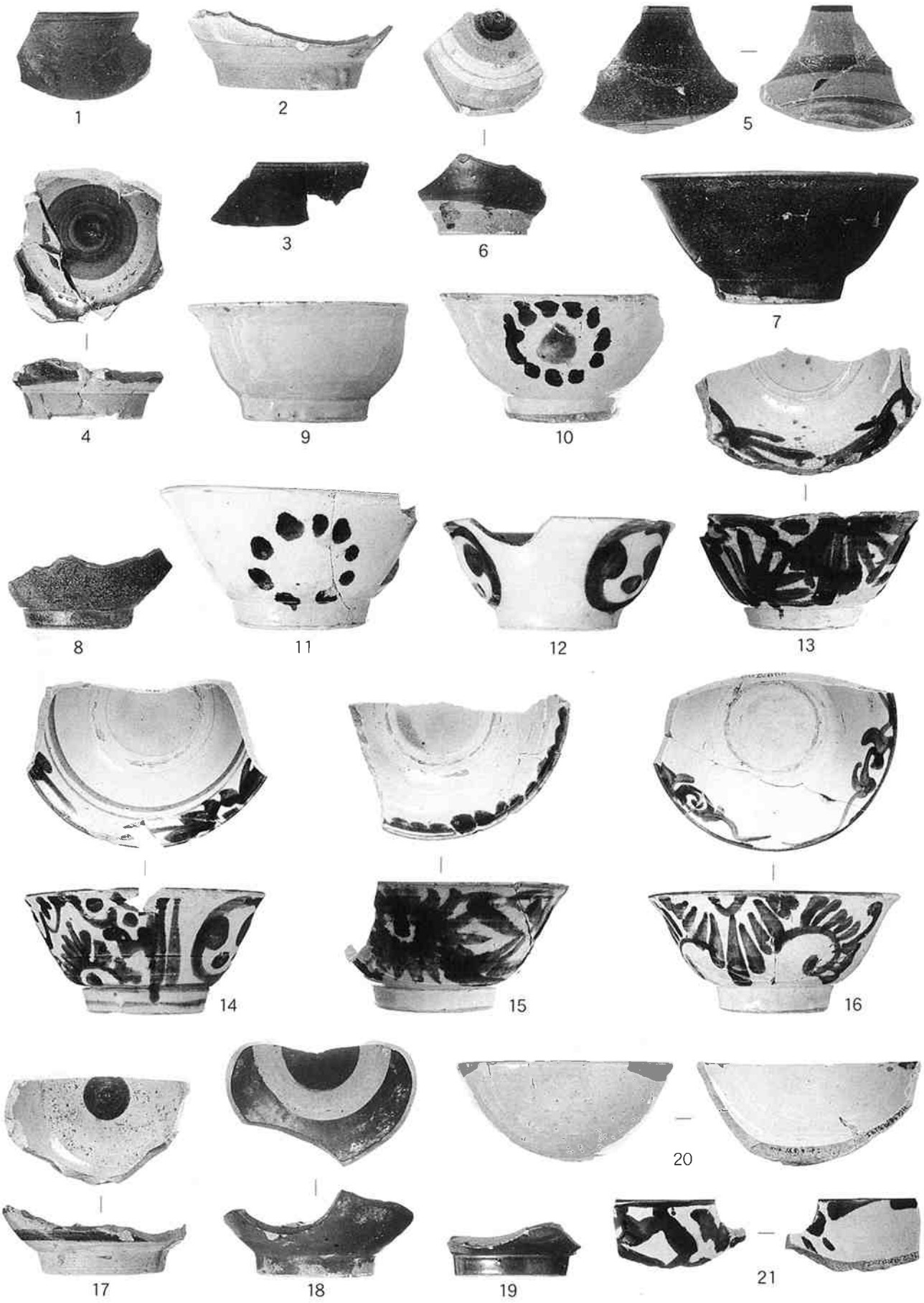
図版 11　本土産陶磁器 1

図版 12　本土産陶磁器 2

図版 13　本土産陶磁器 3



図版 14　本土産陶磁器 4

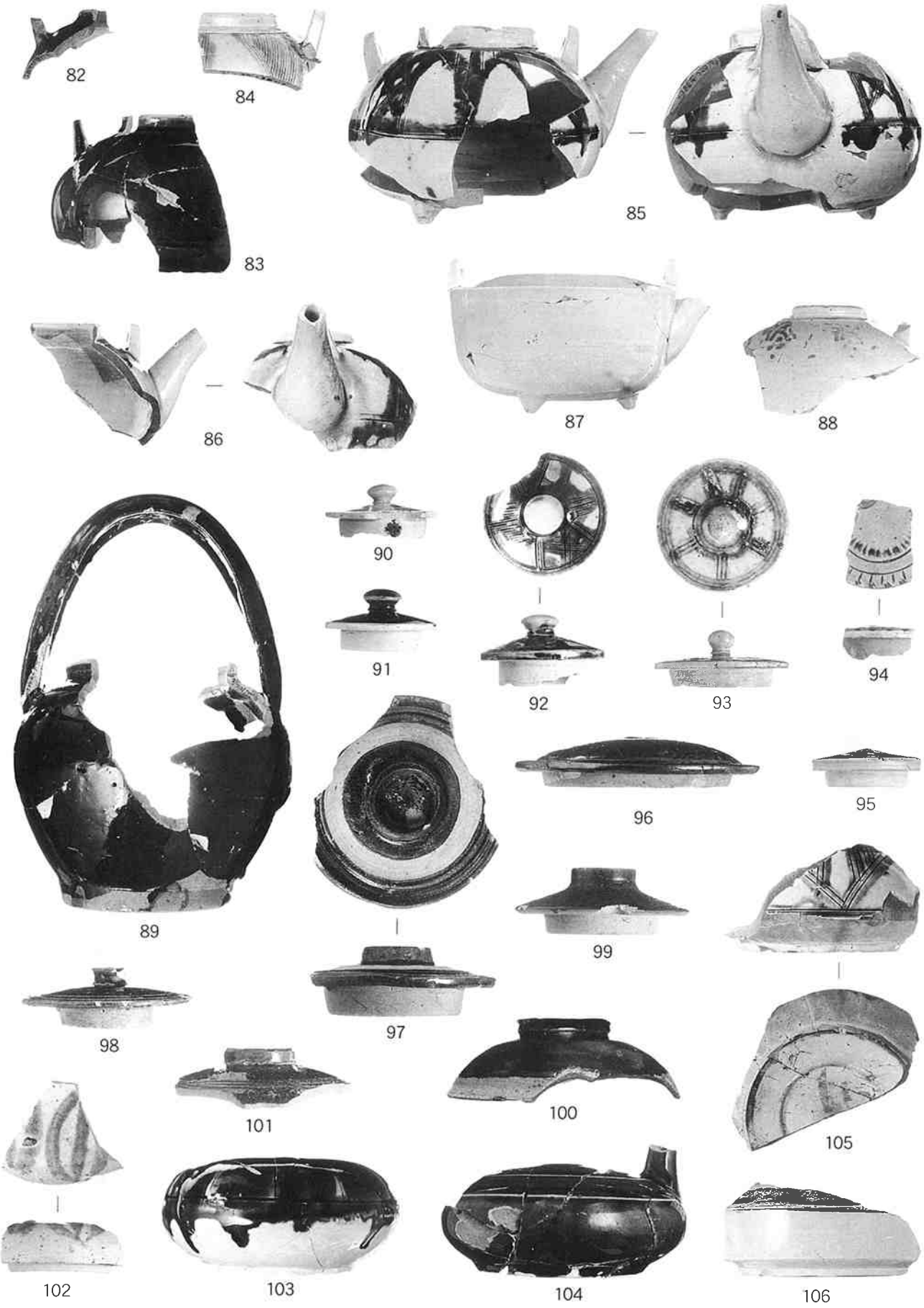


図版 15　沖縄産施釉陶器 1

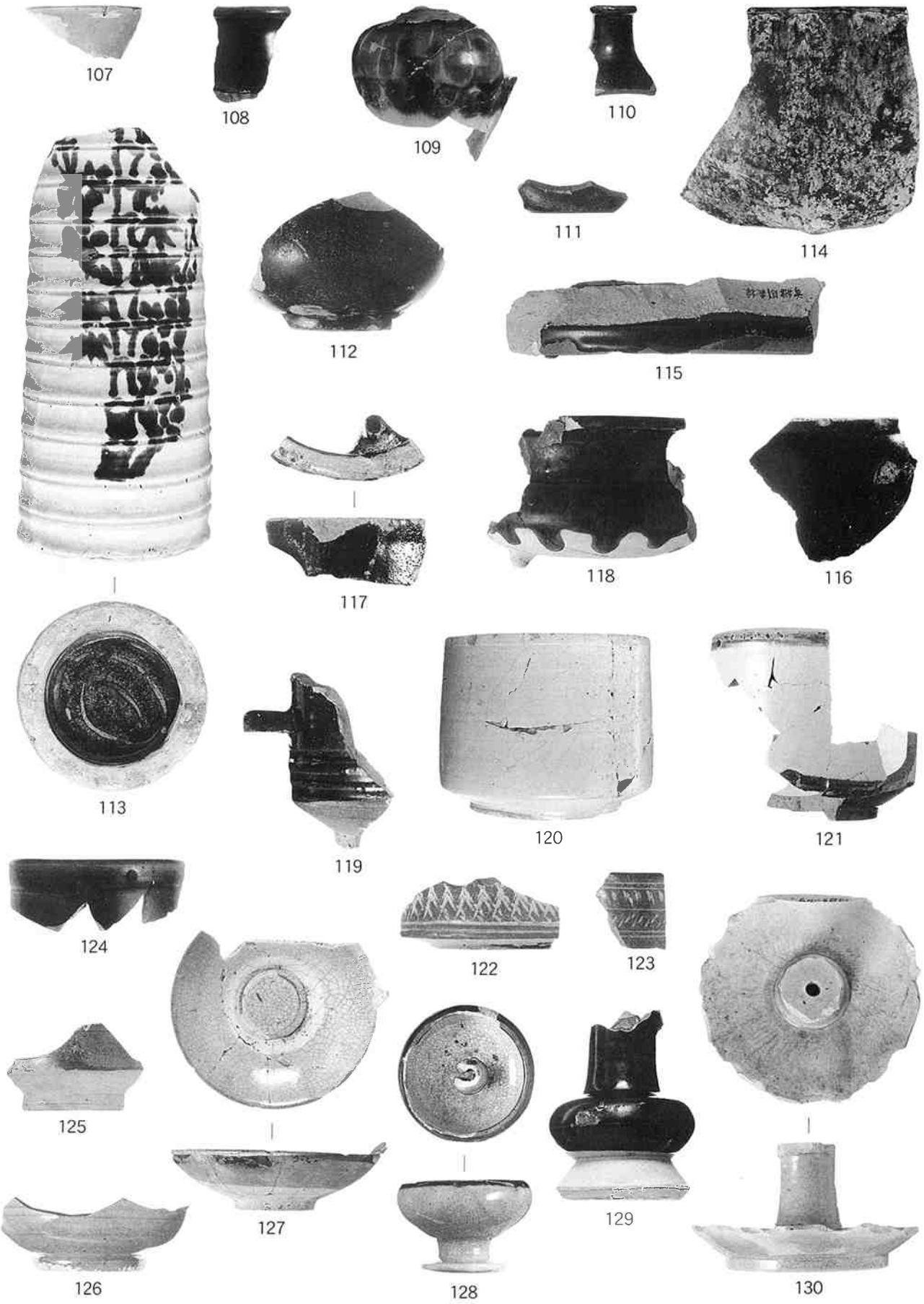
図版 16　沖縄産施釉陶器 2

図版 17　沖縄産施釉陶器 3

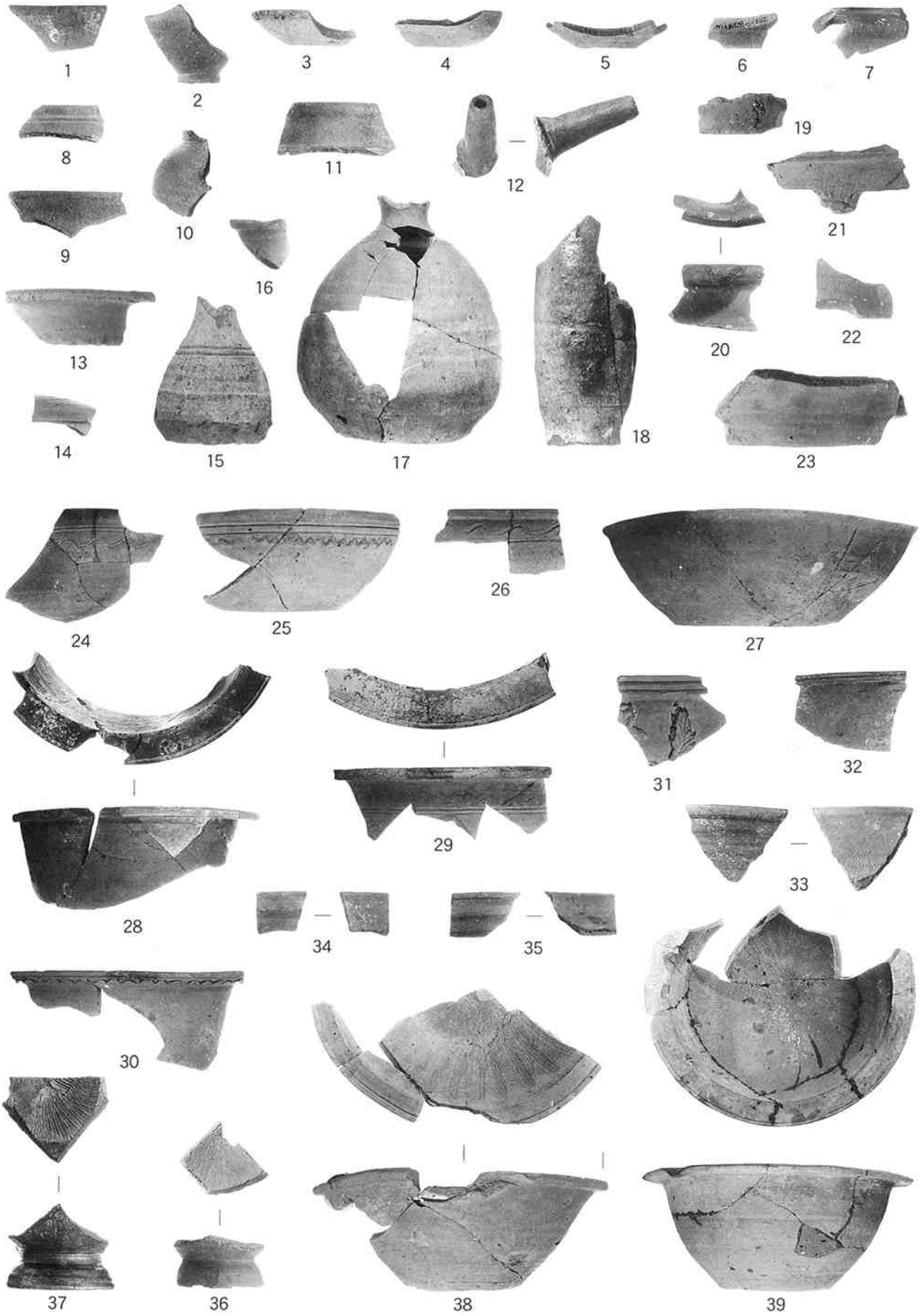
図版 18　沖縄産施釉陶器 4



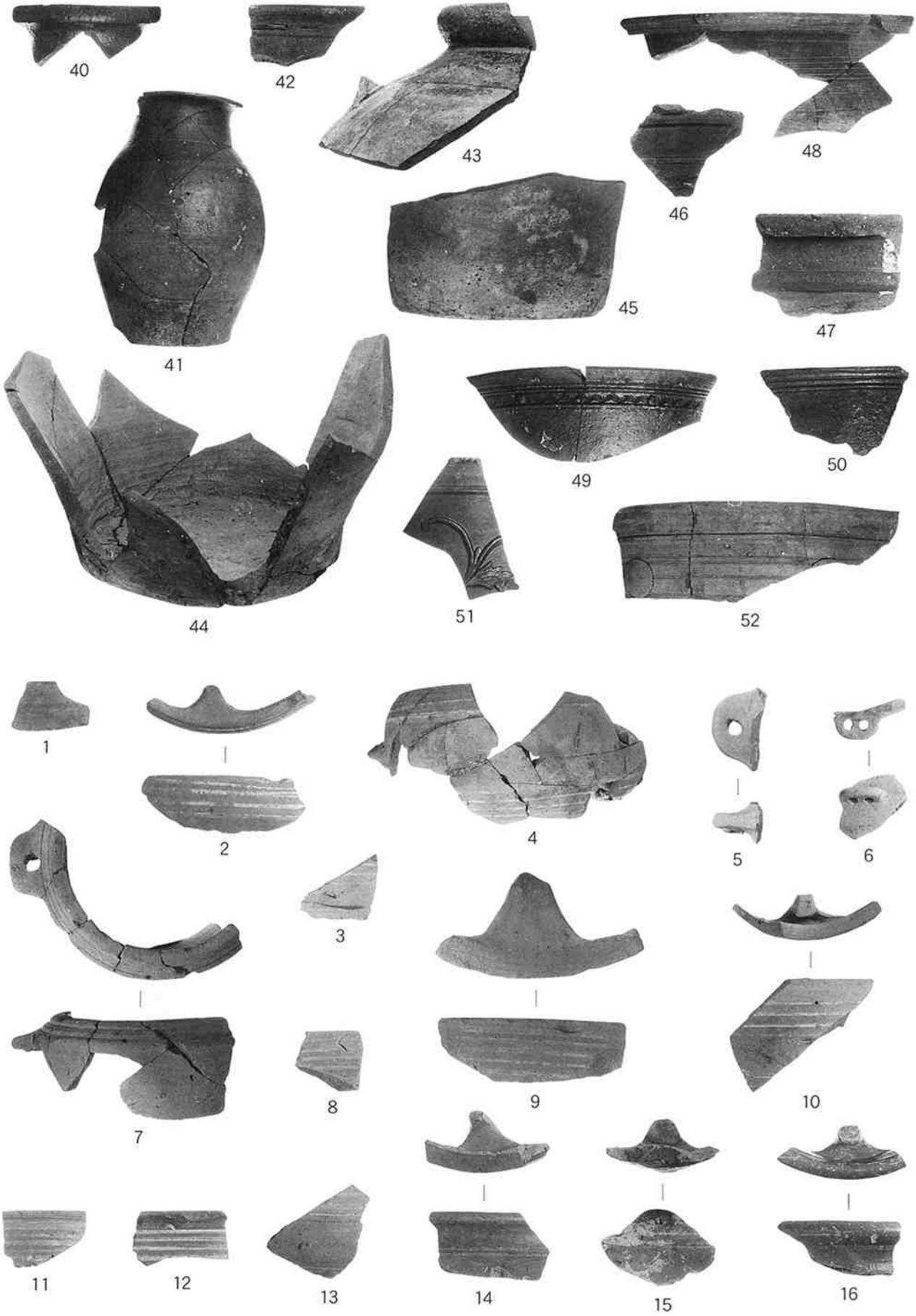
図版 19　沖縄産施釉陶器 5



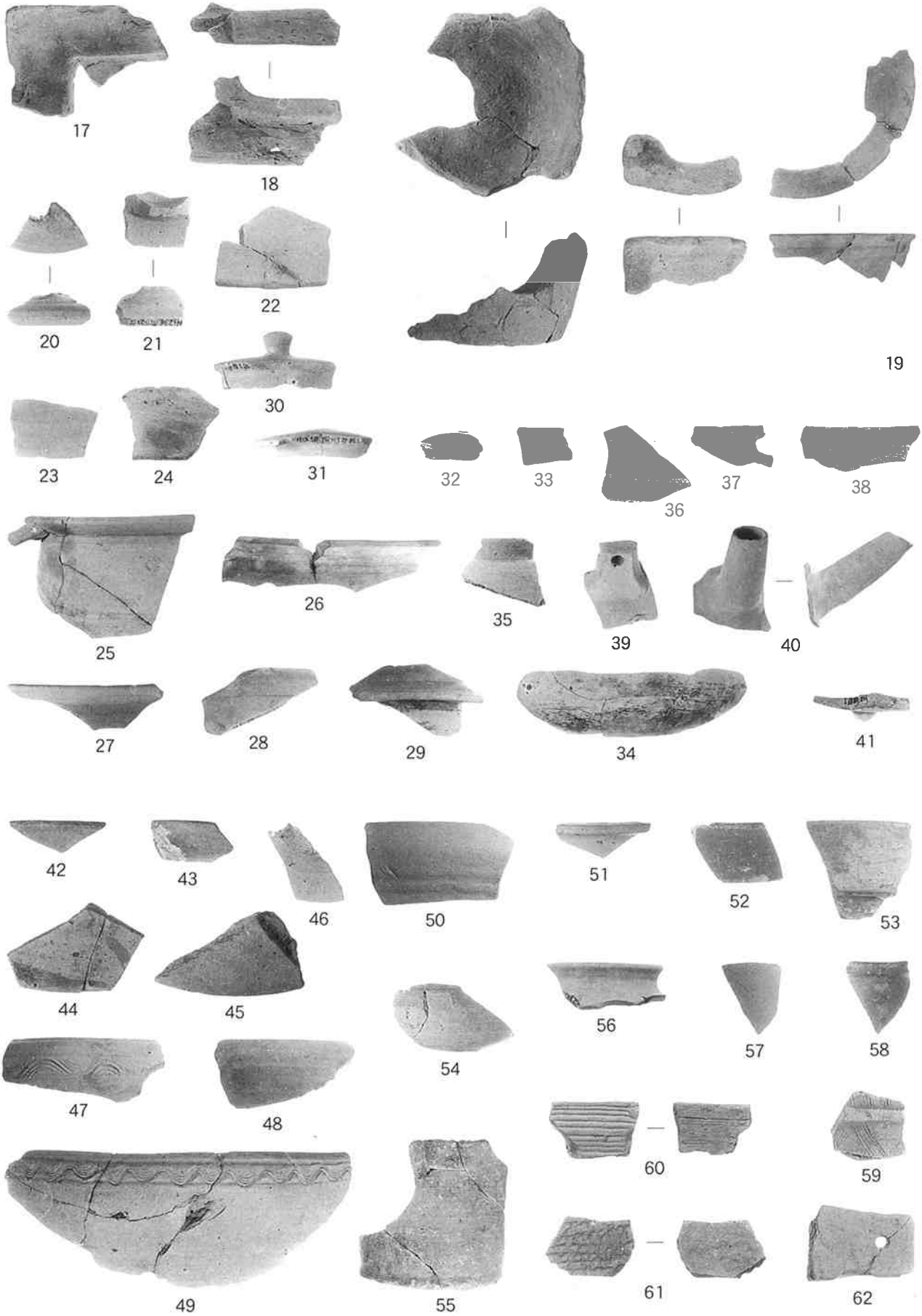
図版 20　沖縄産施釉陶器 6



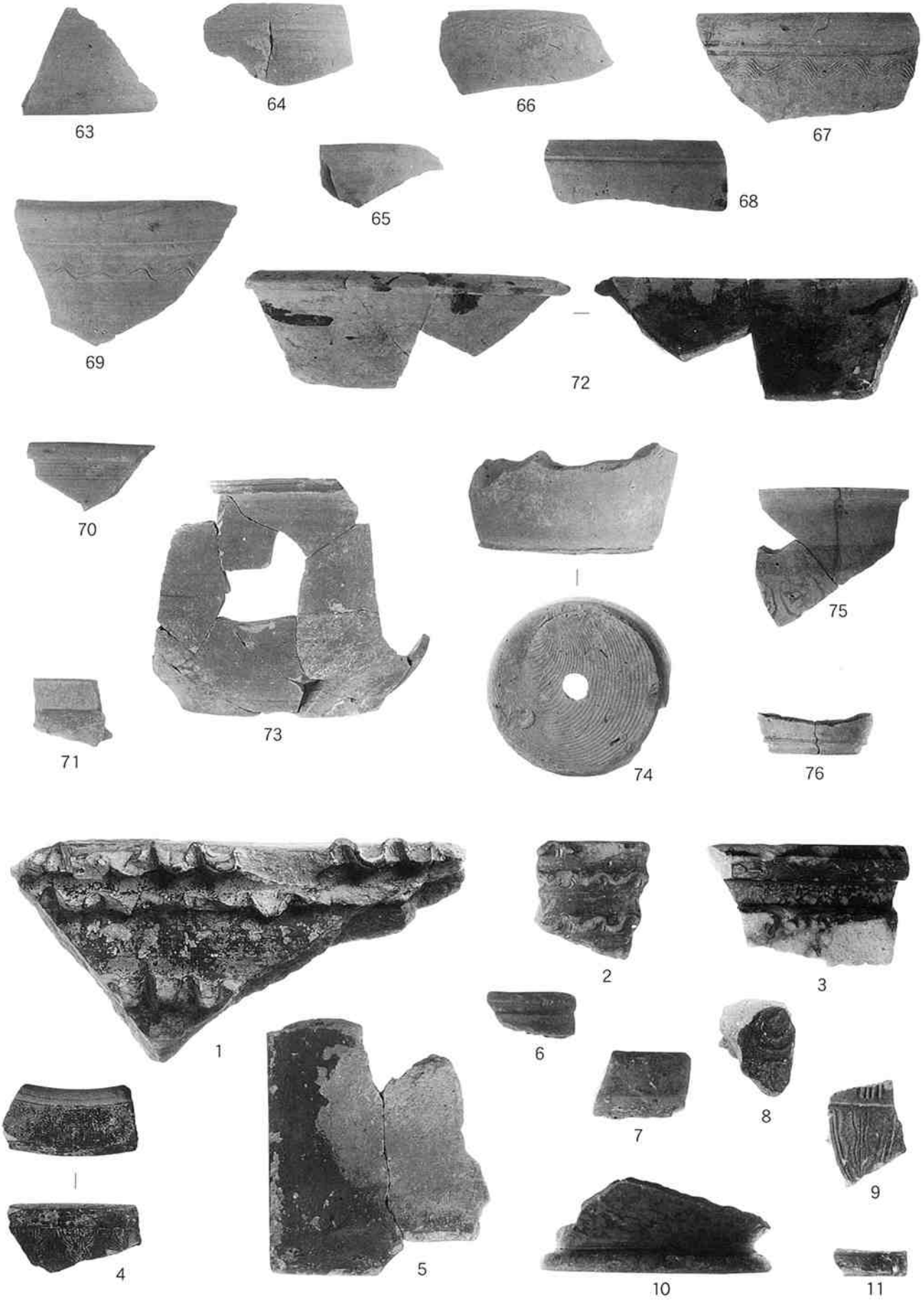
図版 21　上：沖縄産無釉陶器 1　下：沖縄産無釉陶器 2



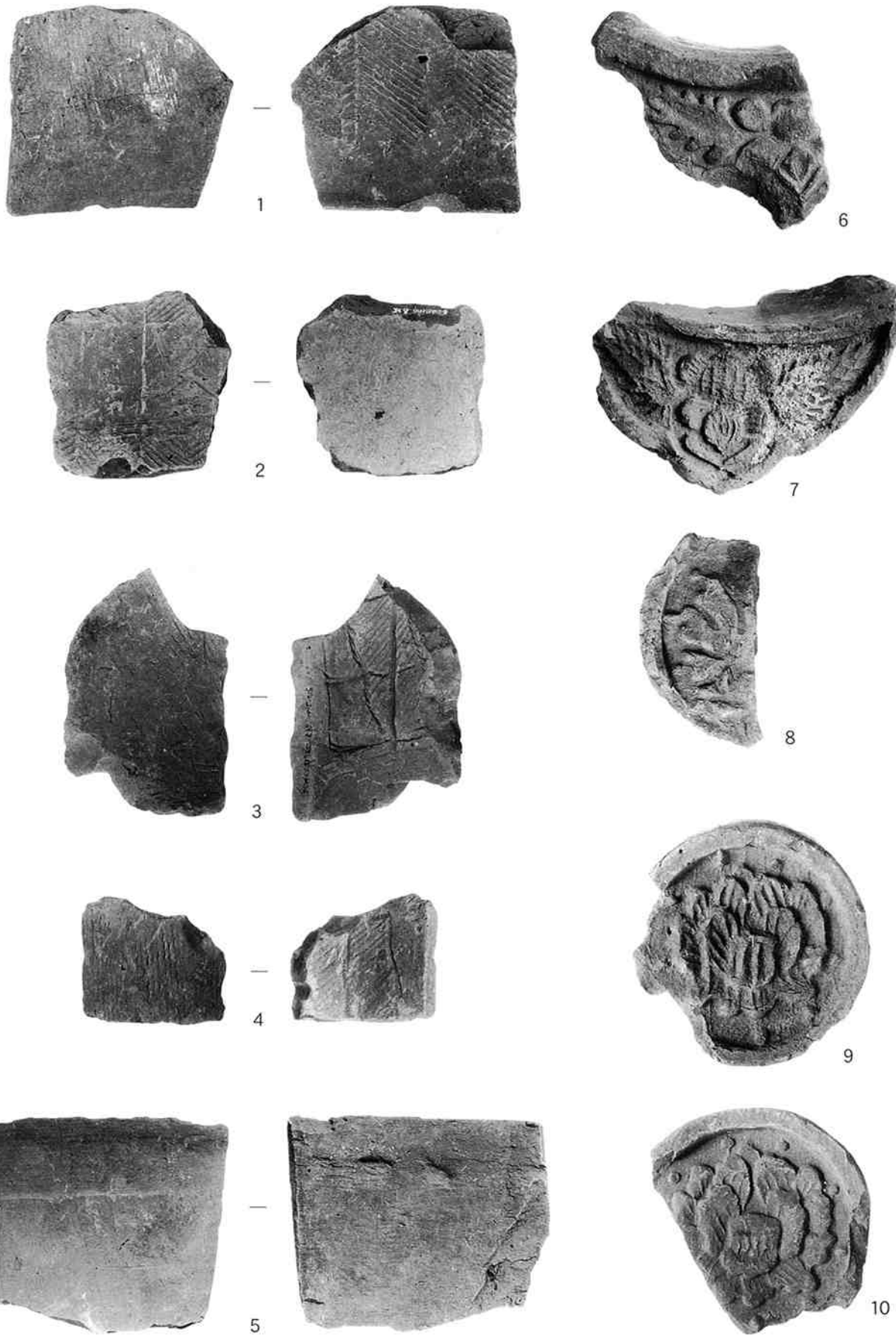
図版 22　上：沖縄産無釉陶器 3　下：陶質土器 1



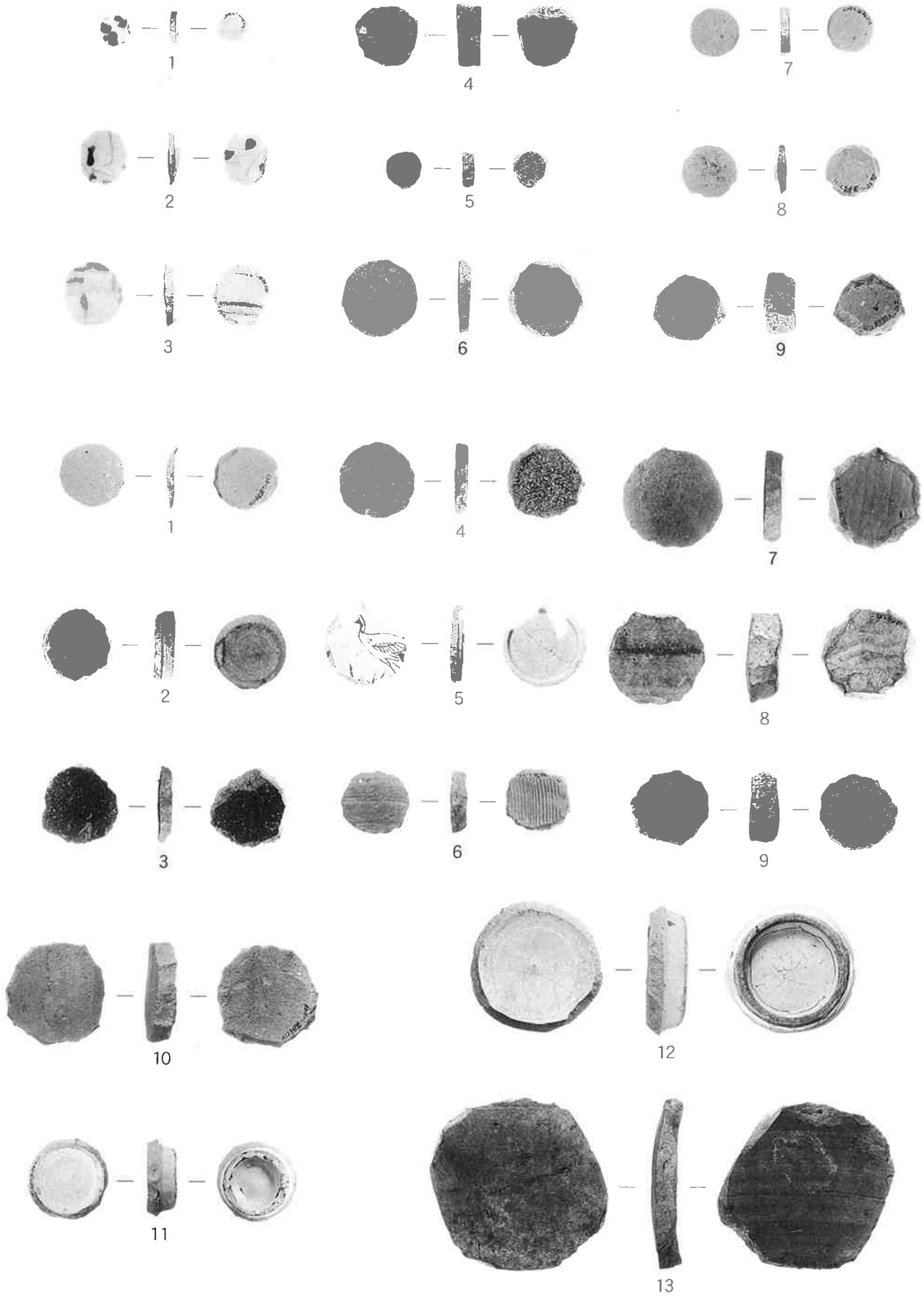
図版 23　上：陶質土器 2　下：陶質土器 3



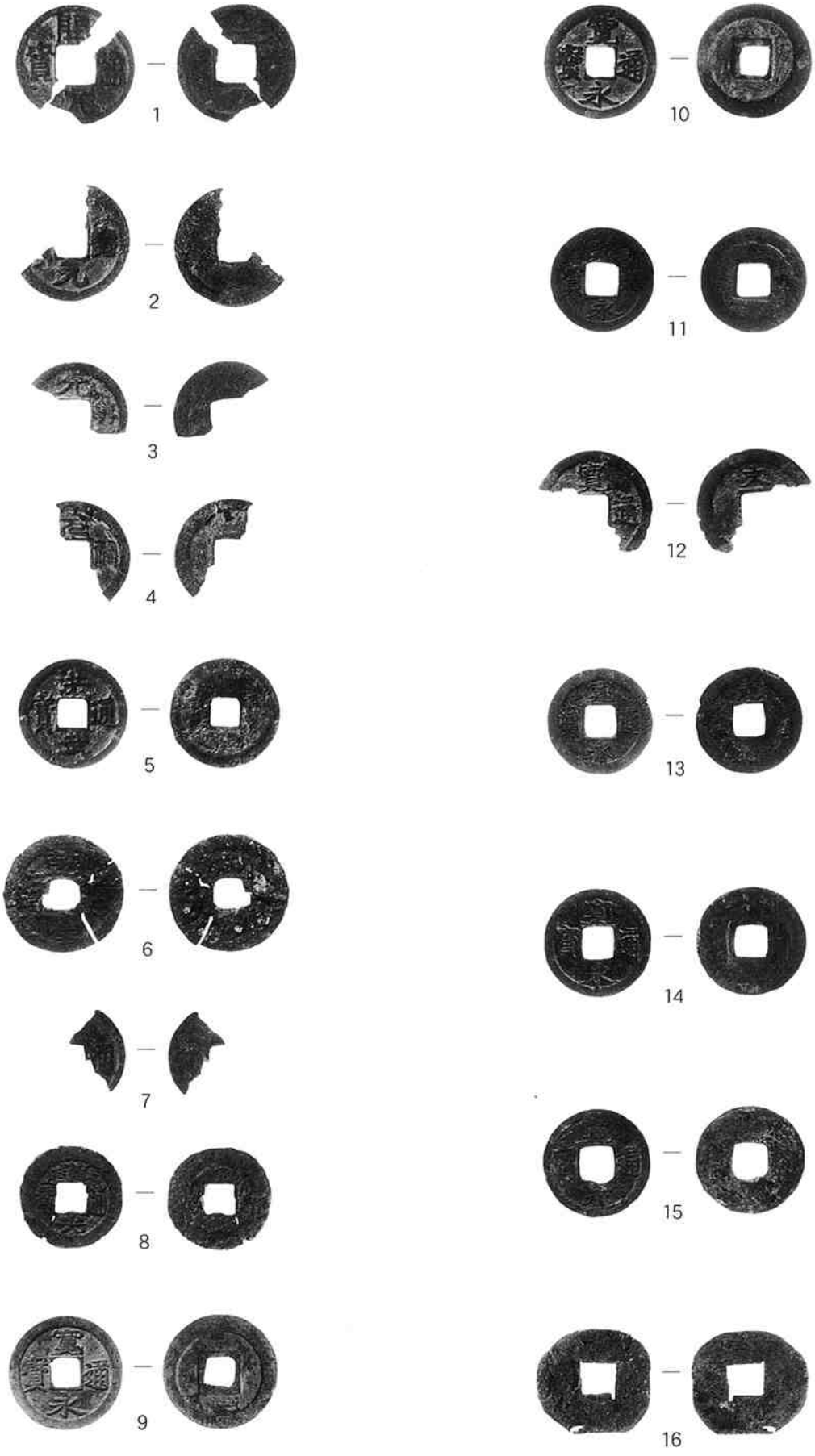
図版 24　上：陶質土器 4　下：瓦質土器



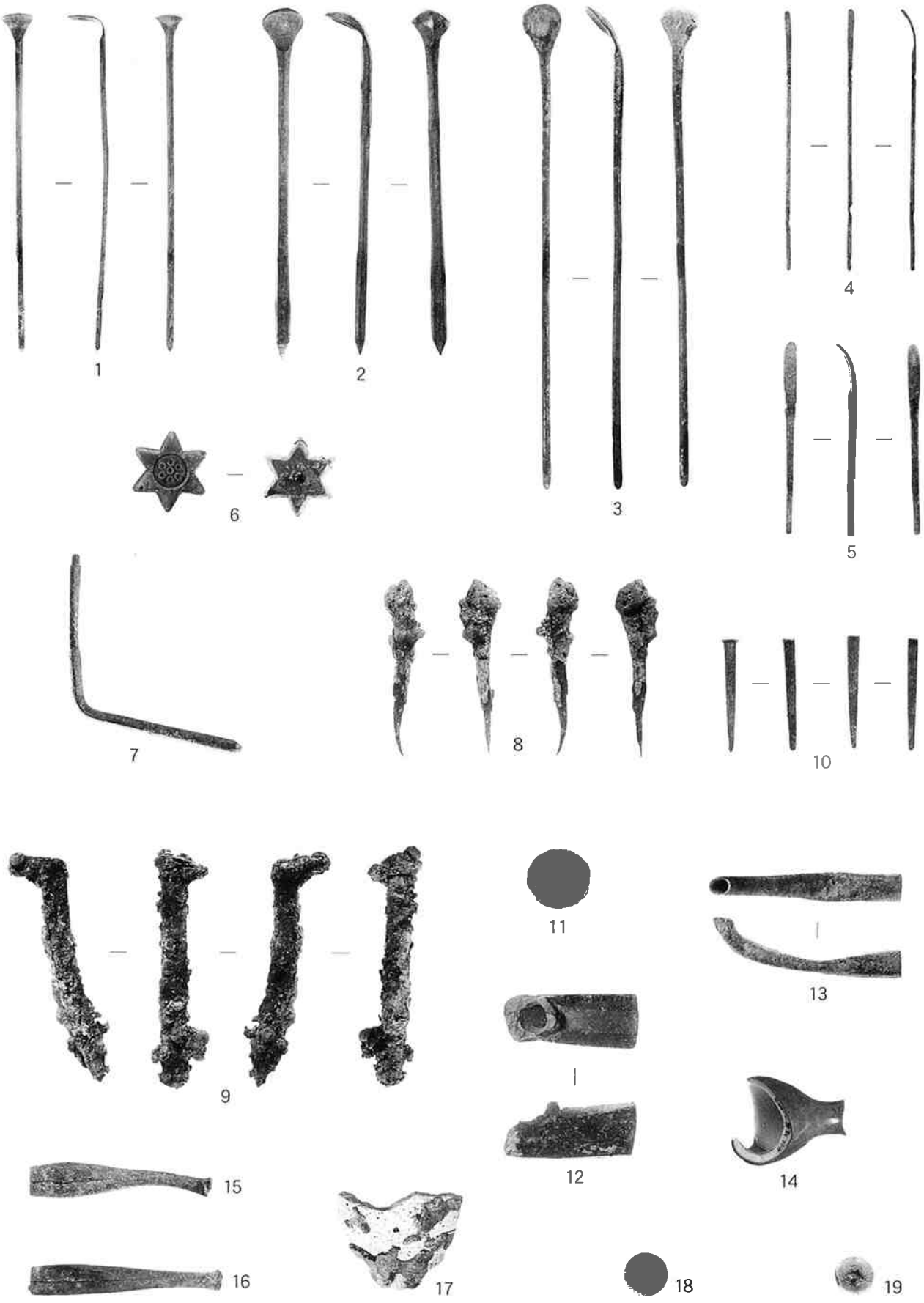
図版 25　瓦



図版 26　上：円盤状製品 1　下：円盤状製品 2



図版 27　銭貨



図版 28　金属製品・煙管・坩堝・玉

図版 29　上：硯・石製品　下：貝製品・骨製品

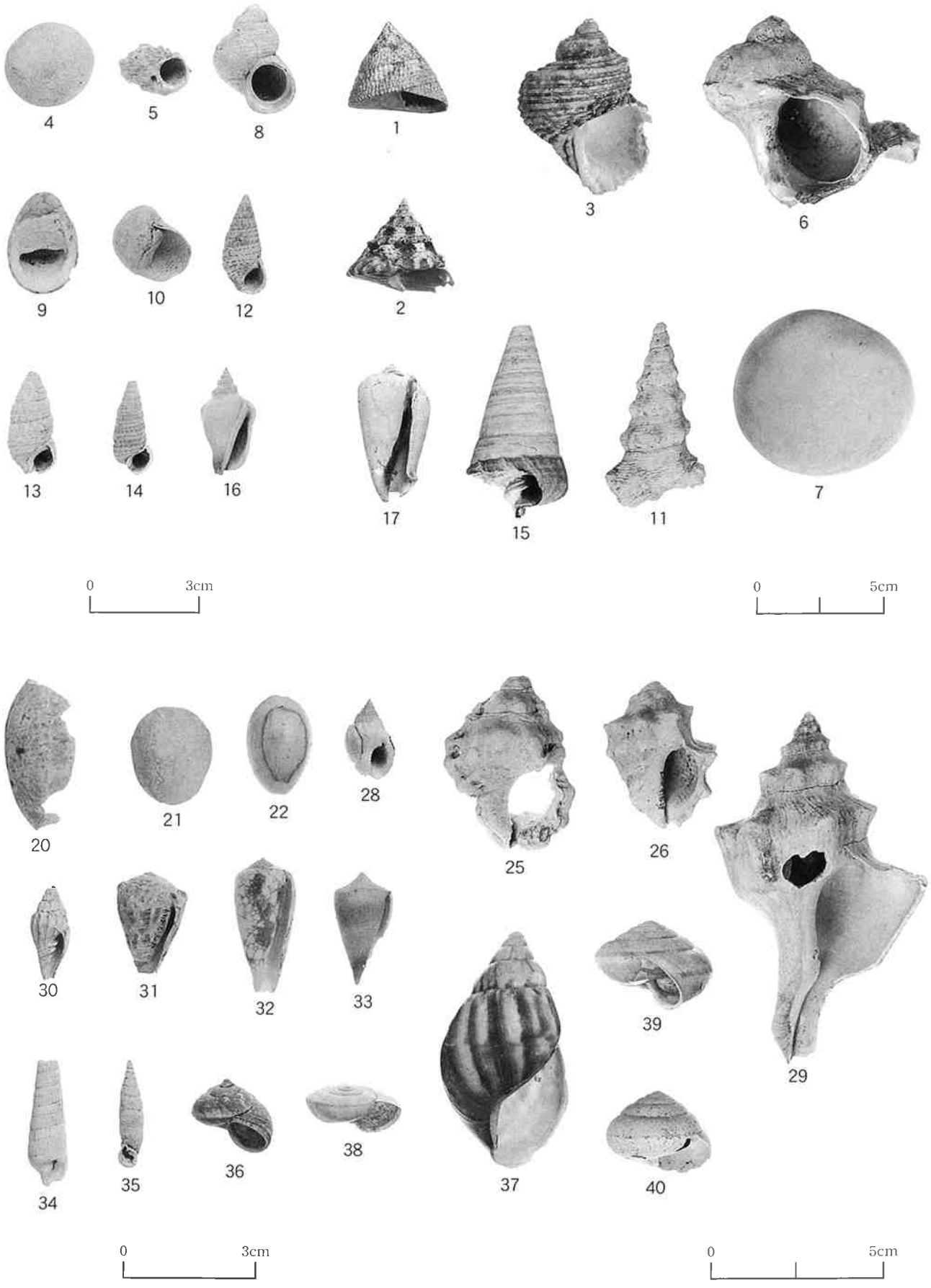
図版 30　貝 1（巻貝）

上

1．ニシキウズ
2．サラサバテイラ
3．チョウセンサザエ
4．チョウセンサザエの蓋
5．カンギク
6．ヤコウガイ
7．ヤコウガイの蓋
8．コシダカサザエ
9．アマオブネ
10．イシマキガイ
11．オニノツノガイ
12．ウミニナカニモリ
13．クワノミカニモリ
14．カワアイ
15．センニンガイ
16．オハグロガイ
17．マガキガイ

下

20．ヒメホシダカラ
21．ハナマルユキ
22．ハナビラダカラ
25．オキニシ
26．ツノレイシガイ
28．ヒメオリイレムシロ
29．イトマキボラ
30．ミノムシガイ
31．マダライモ
32．アジロイモ
33．イモガイ科不明
34．タケノコガイ科不明
35．ツヤギセル
36．オキナワヤマタニシ
37．アフリカマイマイ
38．パンダナマイマイ
39．シュリマイマイ
40．カツレンマイマイ


4
5
8
1
3
6
9
10
12
2
13
14
16
17
15
11
7
0
3cm
0
5cm
20
21
22
28
25
26
29
30
31
32
33
39
34
35
36
38
37
40
0
3cm
0
5cm

図版 30　貝 1（巻貝）

図版31　上：貝2（二枚貝）　下：骨1（サカナ・ニワトリ）

上：貝2（二枚貝）

1．リュウキュウサルボウ
3．メンガイ
4．カバトゲウミギクガイ
5．マガキ
6．ウラキツキガイ
7．シロザル
8．カネツケザルガイ
9．リュウキュウザルガイ
10．カワラガイ
11．シャゴウ
12．ヒレジャコ
13．ヒメジャコ
15．リュウキュウバカガイ
16．イソハマグリ
18．リュウキュウマスオガイ
19．シレナシジミ
20．ヌノメガイ
21．ホソスジイナミガイ
22．アラスジケマンガイ
23．ハマグリ
24．オイノカガミ
25．アサリ
26．オキシジミ

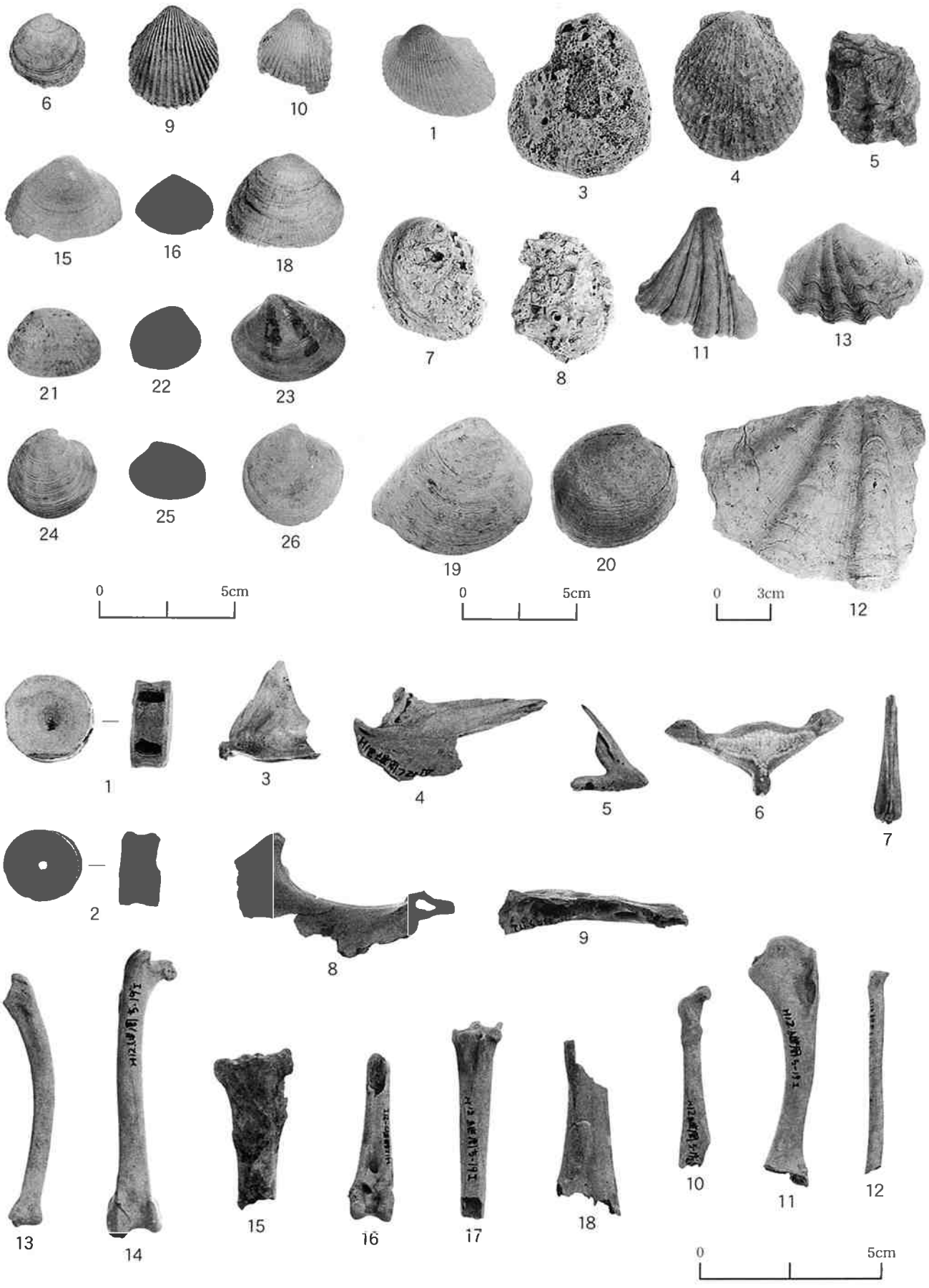
下：骨1

サカナ

1．メジロザメ　脊椎骨
2．エイ　脊椎骨
3．ハタ類　左　方骨
4．ハタ類　右　角骨
5．フエフキダイ科　ハマフエフキ　左　前上顎骨
6．ベラ科　コブダイ　下咽頭骨
7．タイ科　臀鰭血管間棘

ニワトリ

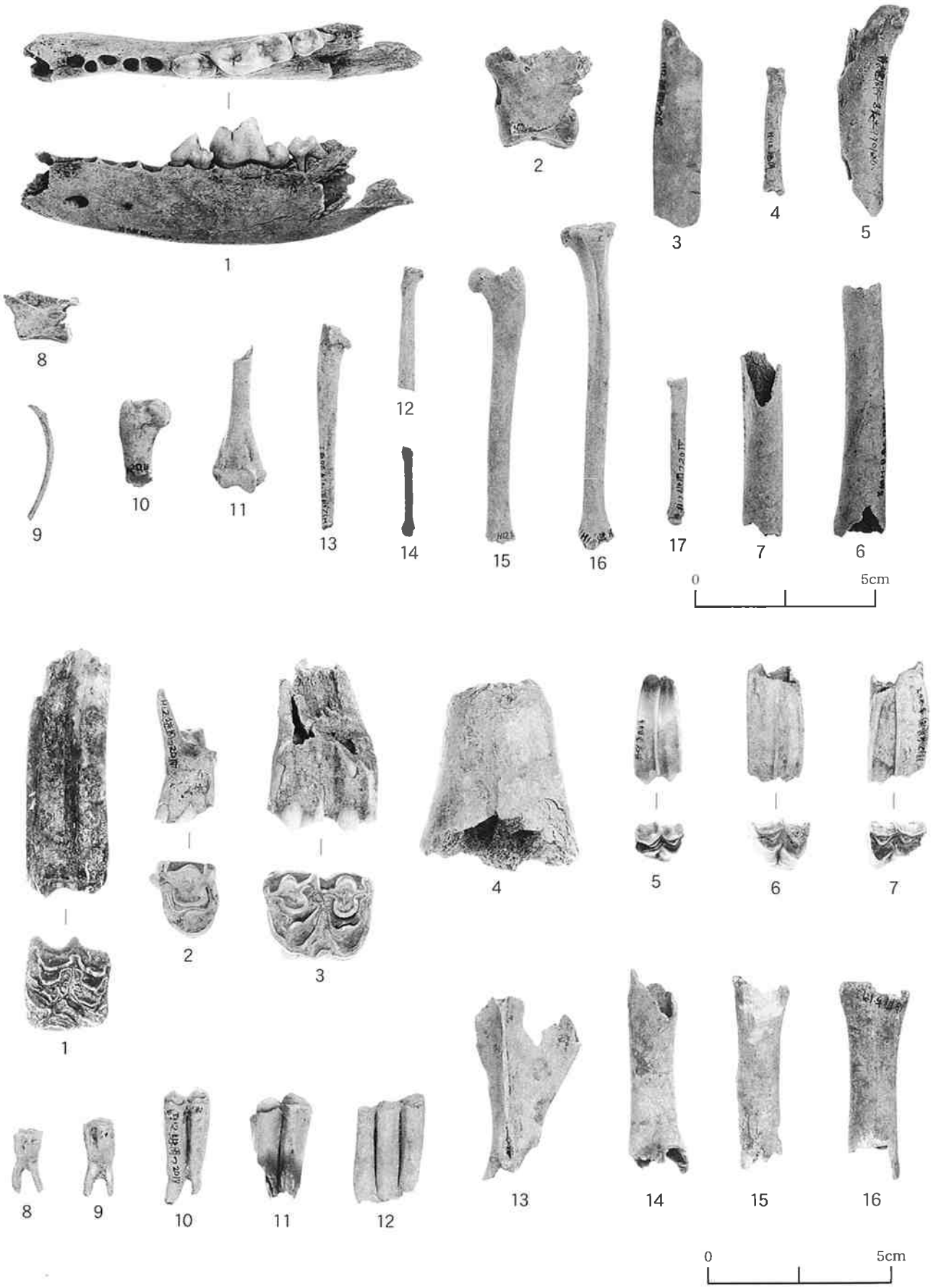
8．胸骨
9．仙骨
10．左　鳥口骨　近位端～遠位部
11．左　上腕骨　近位端～遠位部
12．右　橈骨　近位端～遠位部
13．右　尺骨　完存
14．右　大腿骨　完存　キズ有り
15．左　脛骨　近位端
16．左　脛骨　遠位端
17．左　中足骨♀　近位端～骨体
18．右　中足骨♀　遠位部



図版 31　上：貝 2（二枚貝）　下：骨 1

図版32　骨2（イヌ・ネコ・ウシ・ウマ・ヤギ）
上：イヌ・ネコ
イヌ
1．左　下顎骨（P_4　$M_{1,2}$）
2．腰椎
3．左　橈骨　キズ有り
4．右　中手骨Ⅱ
5．右　大腿骨　近位骨端はずれ
6．左　大腿骨　骨体～遠位部
7．右　脛骨　近位部
ネコ
8．腰椎
9．肋骨
10．右　上腕骨　近位端
11．右　上腕骨　遠位端
12．右　橈骨　近位端～骨体
13．右　尺骨　近位端～骨体
14．右　中手骨　完存
15．左　大腿骨　近位端～遠位部
16．右　脛骨　完存
17．左　中足骨Ⅲ

下：ウマ・ウシ・ヤギ
ウマ
1．左　上顎骨　M^2
ウシ
2．右　上顎骨　P^4
3．右　上顎骨　M^2
4．左　中手骨　遠位部
ヤギ
5．右　上顎骨　M^1
6．右　上顎骨　M^2
7．左　上顎骨　M^2
8．右　下顎骨　P_3
9．右　下顎骨　P_4
10．右　下顎骨　M_1
11．右　下顎骨　M_2
12．右　下顎骨　M_3
13．左　肩甲骨
14．左　上腕骨　骨体～遠位部
15．左　橈骨　近位部
16．左　中手骨　近位部


1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
0
5cm
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
0
5cm

図版 32　骨 2

図版33　骨3（ブタ）

ブタ

1．左　頭頂骨
2．左　前頭骨
3．左　上顎骨　M^1
4．右　上顎骨　$M^{(3)}$
5．左　下顎骨　犬歯♂
6．右　下顎骨　犬歯♀
7．右　下顎骨（$dm_{3,4}$　M_1）
8．左　下顎骨（$P_{(2,3)}$　$M_{1,2}$）
9．環椎
10．腰椎
11．左　肋骨
12．右　肋骨
13．右　肩甲骨　遠位部
14．右　上腕骨　近位部
15．左　上腕骨　遠位部
16．左　橈骨　両端はずれ
17．右　橈骨　近位端～骨体
18．左　尺骨　骨体
19．右　尺骨　骨体
20．左　中手骨Ⅱ　近位端～遠位骨体はずれ
21．左　中手骨Ⅲ　近位端
22．右　寛骨　臼部
23．右　大腿骨　近位部
24．右　大腿骨　骨体　キズ有り
25．右　大腿骨　遠位部　キズ有り
26．右　脛骨　近位部～遠位部キズ有り
27．腓骨　骨体
28．右　中足骨Ⅲ　近位端～遠位骨端はずれ
29．左　中足骨Ⅳ　完存
30．右　中足骨Ⅴ　近位端～骨体　キズ有り
31．左　基節骨　完存

1
2
9
10
14
3
4
5
6
11
12
15
7
13
16
17
18
19
8
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
0
5cm

図版 33　骨 3

沖縄県立埋蔵文化財センター調査報告書　第9集

首　里　城　跡

－継世門周辺地区発掘調査報告書－

発行年　平成14年（2002年）3月
発　行　沖縄県立埋蔵文化財センター
編　集　沖縄県立埋蔵文化財センター
〒901-0125　沖縄県中頭郡西原町字上原193-7
TEL　098（835）8751
印　刷　糸満印刷
〒901-0361　沖縄県糸満市糸満2082番地
TEL　098（992）2950

©沖縄県立埋蔵文化財センター　2002 Printed in Japan
許可なく本書の無断複製、転載、複写を禁ずる。